目　　次

第１号（３月５日）

告　　示 …… 1
応招議員 …… 1
議事日程 …… 3
本日の会議に付した事件 …… 6
出席議員 …… 9
欠席議員 …… 9
事務局職員出席者 …… 9
説明のため出席した者の職氏名 …… 9
開　　会 …… 9
会議録署名議員の指名 …… １１
会期の決定 …… １２
諸般の報告 …… １２
町長提出第６号議案 …… １４
町長提出第７号議案 …… １４
町長提出第８号議案 …… １４
町長提出第９号議案 …… １９
町長提出第１０号議案 …… １９
町長提出第１１号議案 …… １９
町長提出第１２号議案 …… １９
町長提出第１３号議案 …… １９
町長提出第１４号議案 …… １９
町長提出第１５号議案 …… １９
町長提出第１６号議案 …… １９
町長提出第１７号議案 …… １９
町長提出第１８号議案 …… １９
町長提出第１９号議案 …… １９
町長提出第２０号議案 …… １９
町長提出第２１号議案 …… １９
町長提出第２２号議案 …… ２９
町長提出第２３号議案 …… ２９
町長提出第２４号議案 …… ２９
町長提出第２５号議案 …… ２９
町長提出第２６号議案 …… ２９
町長提出第２７号議案 …… ２９

町長提出第２８号議案 …… ３３
町長提出第２９号議案 …… ３４
町長提出第３０号議案 …… ３４
町長提出第３１号議案 …… ３４
町長提出第３２号議案 …… ３４
町長提出第３３号議案 …… ３４
町長提出第３４号議案 …… ３４
町長提出第３５号議案 …… ３４
町長提出第３６号議案 …… ３４
町長提出第３７号議案 …… ３５
町長提出第３８号議案 …… ３５
町長提出第３９号議案 …… ３５
町長施政方針 …… ５６
町長提出第４０号議案 …… ８３
町長提出第４１号議案 …… ８３
町長提出第４２号議案 …… ８３
町長提出第４３号議案 …… ８３
町長提出第４４号議案 …… ８３
町長提出第４５号議案 …… ８３
町長提出第４６号議案 …… ８３
町長提出第４７号議案 …… ８３
町長提出第４８号議案 …… ８３
町長提出第４９号議案 …… ８３
町長提出第５０号議案 …… ８３
町長提出報告第１号 …… ８９
散　　会 …… ９０
署　　名 …… ９１

第２号（３月９日）

議事日程 …… ９３
本日の会議に付した事件 …… ９５
出席議員 …… ９７
欠席議員 …… ９８
事務局職員出席者 …… ９８
説明のため出席した者の職氏名 …… ９８
開　　議 …… ９８

会議録署名議員の指名 …… ９９
町長提出第６号議案 …… ９９
町長提出第７号議案 …… １０５
町長提出第８号議案 …… １０８
町長提出第９号議案 …… １１７
町長提出第１０号議案 …… １１７
町長提出第１１号議案 …… １１８
町長提出第１２号議案 …… １１９
町長提出第１３号議案 …… １２３
町長提出第１４号議案 …… １２４
町長提出第１５号議案 …… １２４
町長提出第１６号議案 …… １２５
町長提出第１７号議案 …… １２６
町長提出第１８号議案 …… １２６
町長提出第１９号議案 …… １２７
町長提出第２０号議案 …… １２８
町長提出第２１号議案 …… １２９
町長提出第２２号議案 …… １３０
町長提出第２３号議案 …… １３０
町長提出第２４号議案 …… １３１
町長提出第２５号議案 …… １３１
町長提出第２６号議案 …… １３３
町長提出第２７号議案 …… １３３
町長提出第２８号議案 …… １３４
町長提出第２９号議案 …… １３５
町長提出第３０号議案 …… １４１
町長提出第３１号議案 …… １４２
町長提出第３２号議案 …… １４２
町長提出第３３号議案 …… １４３
町長提出第３４号議案 …… １４４
町長提出第３５号議案 …… １４４
町長提出第３６号議案 …… １４５
町長提出第３７号議案 …… １４５
町長提出第３８号議案 …… １４６
町長提出第３９号議案 …… １４８
散　　会 …… １４９

署　　名 …… １５０

第３号（３月１６日）

議事日程 …… １５１
本日の会議に付した事件 …… １５１
出席議員 …… １５１
欠席議員 …… １５１
事務局職員出席者 …… １５１
説明のため出席した者の職氏名 …… １５２
開　　議 …… １５２
　会議録署名議員の指名 …… １５２
　一般質問 …… １５２
　　４番　道信　俊昭君 …… １５２
　　９番　寺戸　昌子君 …… １７０
　　３番　川田　　剛君 …… １８８
　　６番　丁　　泰仁君 …… ２０８
　　５番　板垣　敬司君 …… ２２９
散　　会 …… ２４８
署　　名 …… ２４９

第４号（３月１７日）

議事日程 …… ２５１
本日の会議に付した事件 …… ２５１
出席議員 …… ２５１
欠席議員 …… ２５１
事務局職員出席者 …… ２５１
説明のため出席した者の職氏名 …… ２５２
開　　議 …… ２５２
　会議録署名議員の指名 …… ２５２
　一般質問 …… ２５２
　　８番　三浦　英治君 …… ２５２
　１１番　岡田　克也君 …… ２７０
　１０番　後山　幸次君 …… ２８９
　　１番　草田　吉丸君 …… ３０１
　　７番　御手洗　剛君 …… ３２２
散　　会 …… ３４０

署　　名 …… ３４１

第５号（３月２３日）

議事日程 …… ３４３
本日の会議に付した事件 …… ３４４
出席議員 …… ３４５
欠席議員 …… ３４６
事務局職員出席者 …… ３４６
説明のため出席した者の職氏名 …… ３４６
開　　議 …… ３４６
　会議録署名議員の指名 …… ３４７
　町長提出第５１号議案 …… ３４７
　町長提出第５２号議案 …… ３５１
　町長提出第５３号議案 …… ３５９
　町長提出第５４号議案 …… ３５９
　町長提出第５５号議案 …… ３５９
　町長提出第５６号議案 …… ３６０
　町長提出第５７号議案 …… ３６０
　町長提出第４０号議案 …… ３７３
　町長提出第４１号議案 …… ３７３
　町長提出第４２号議案 …… ３７３
　町長提出第４３号議案 …… ３７３
　町長提出第４４号議案 …… ３７３
　町長提出第４５号議案 …… ３７３
　町長提出第４６号議案 …… ３７３
　町長提出第４７号議案 …… ３７３
　町長提出第４８号議案 …… ３７３
　町長提出第４９号議案 …… ３７３
　町長提出第５０号議案 …… ３７３
　発委第１号 …… ３８２
　請願第７号 …… ３８４
　請願第１号 …… ３８５
　総務経済常任委員会の所管事務調査報告について …… ３８８
　文教民生常任委員会の所管事務調査報告について …… ３９４
　議員派遣の件 …… ３９６
　各委員会からの閉会中の継続調査の申出について …… ３９６

発議第１号 …… ３９７
閉　　会 …… ３９９
署　　名 …… ４００

津和野町告示第 16 号

令和３年３回津和野町議会定例会を次のとおり招集する

令和３年２月 22 日

津和野町長　下森　博之

１　期　日　　令和３年３月５日

２　場　所　　津和野町役場日原第２庁舎議場

○開会日に応招した議員

草田　吉丸君	米澤　宏文君
川田　　剛君	道信　俊昭君
板垣　敬司君	丁　　泰仁君
御手洗　剛君	三浦　英治君
寺戸　昌子君	後山　幸次君
岡田　克也君	沖田　　守君

○３月９日に応招した議員

○３月 16 日に応招した議員

○３月 17 日に応招した議員

○３月 23 日に応招した議員

○応招しなかった議員

令和３年　第３回（定例）津　和　野　町　議　会　会　議　録（第１日）

令和３年３月５日（金曜日）

議事日程（第１号）

令和３年３月５日　午前９時00分開会

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　諸般の報告

日程第４　町長提出第６号議案　平成３１年度町道日原市街線旭橋耐震補強工事（第２期）請負変更契約の締結について

日程第５　町長提出第７号議案　令和２年度津和野町役場本庁舎（元日原診療所）改修工事請負変更契約の締結について

日程第６　町長提出第８号議案　物品売買契約（安野光雅作品原画）の締結について

日程第７　町長提出第９号議案　旧日原町ふるさと創生基金の設置、管理及び処分に関する条例の廃止について

日程第８　町長提出第10号議案　津和野町木材処理加工施設の設置及び管理に関する条例の廃止について

日程第９　町長提出第11号議案　津和野町議会議員及び津和野町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について

日程第10　町長提出第12号議案　津和野町学校給食費徴収条例の制定について

日程第11　町長提出第13号議案　津和野町課設置条例の一部改正について

日程第12　町長提出第14号議案　津和野町お試し暮らし住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第13　町長提出第15号議案　津和野町借上賃貸住宅管理条例の一部改正について

日程第14　町長提出第16号議案　津和野町職員の特殊勤務手当の支給に関する条例の一部改正について

日程第15　町長提出第17号議案　ふるさと津和野基金条例の一部改正について

日程第16　町長提出第18号議案　津和野町介護保険条例の一部改正について

日程第17　町長提出第19号議案　津和野町保健、福祉及び医療対策審議会設置条例の一部改正について

日程第18　町長提出第20号議案　津和野町看護学生修学資金貸与条例の一部改正について

日程第19　町長提出第21号議案　津和野町駐車場条例の一部改正について

日程第 20　町長提出第 22 号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町野中高齢者作業施設）

日程第 21　町長提出第 23 号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町空家活用定住住宅野口団地４号）

日程第 22　町長提出第 24 号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）

日程第 23　町長提出第 25 号議案　公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）

日程第 24　町長提出第 26 号議案　公の施設の指定管理者の指定について（下左鐙地区広場緑地等利用施設）

日程第 25　町長提出第 27 号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町水辺施設「オシドリ観察小屋」）

日程第 26　町長提出第 28 号議案　町道石西社支線の路線認定について

日程第 27　町長提出第 29 号議案　令和２年度津和野町一般会計補正予算(第１４号)

日程第 28　町長提出第 30 号議案　令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第 29　町長提出第 31 号議案　令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第４号）

日程第 30　町長提出第 32 号議案　令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）

日程第 31　町長提出第 33 号議案　令和２年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第４号）

日程第 32　町長提出第 34 号議案　令和２年度津和野町農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）

日程第 33　町長提出第 35 号議案　令和２年度津和野町奨学基金特別会計補正予算（第１号）

日程第 34　町長提出第 36 号議案　令和２年度津和野町診療所特別会計補正予算（第２号）

日程第 35　町長提出第 37 号議案　令和２年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第２号）

日程第 36　町長提出第 38 号議案　令和２年度津和野町病院事業会計補正予算（第４号）

日程第 37　町長提出第 39 号議案　令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第４号）

日程第 38　町長施政方針

日程第 39　町長提出第 40 号議案　令和３年度津和野町一般会計予算

日程第 40　町長提出第 41 号議案　令和３年度津和野町国民健康保険特別会計予算
日程第 41　町長提出第 42 号議案　令和３年度津和野町介護保険特別会計予算
日程第 42　町長提出第 43 号議案　令和３年度津和野町後期高齢者医療特別会計予算
日程第 43　町長提出第 44 号議案　令和３年度津和野町下水道事業特別会計予算
日程第 44　町長提出第 45 号議案　令和３年度津和野町農業集落排水事業特別会計予算
日程第 45　町長提出第 46 号議案　令和３年度津和野町奨学基金特別会計予算
日程第 46　町長提出第 47 号議案　令和３年度津和野町診療所特別会計予算
日程第 47　町長提出第 48 号議案　令和３年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計予算
日程第 48　町長提出第 49 号議案　令和３年度津和野町病院事業会計予算
日程第 49　町長提出第 50 号議案　令和３年度津和野町水道事業会計予算
日程第 50　町長提出報告第１号　債権放棄について

本日の会議に付した事件
日程第１　会議録署名議員の指名
日程第２　会期の決定
日程第３　諸般の報告
日程第４　町長提出第６号議案　平成３１年度町道日原市街線旭橋耐震補強工事（第２期）請負変更契約の締結について
日程第５　町長提出第７号議案　令和２年度津和野町役場本庁舎（元日原診療所）改修工事請負変更契約の締結について
日程第６　町長提出第８号議案　物品売買契約（安野光雅作品原画）の締結について
日程第７　町長提出第９号議案　旧日原町ふるさと創生基金の設置、管理及び処分に関する条例の廃止について
日程第８　町長提出第 10 号議案　津和野町木材処理加工施設の設置及び管理に関する条例の廃止について
日程第９　町長提出第 11 号議案　津和野町議会議員及び津和野町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について
日程第 10　町長提出第 12 号議案　津和野町学校給食費徴収条例の制定について
日程第 11　町長提出第 13 号議案　津和野町課設置条例の一部改正について
日程第 12　町長提出第 14 号議案　津和野町お試し暮らし住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について
日程第 13　町長提出第 15 号議案　津和野町借上賃貸住宅管理条例の一部改正について

日程第14　町長提出第16号議案　津和野町職員の特殊勤務手当の支給に関する条例の一部改正について

日程第15　町長提出第17号議案　ふるさと津和野基金条例の一部改正について

日程第16　町長提出第18号議案　津和野町介護保険条例の一部改正について

日程第17　町長提出第19号議案　津和野町保健、福祉及び医療対策審議会設置条例の一部改正について

日程第18　町長提出第20号議案　津和野町看護学生修学資金貸与条例の一部改正について

日程第19　町長提出第21号議案　津和野町駐車場条例の一部改正について

日程第20　町長提出第22号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町野中高齢者作業施設）

日程第21　町長提出第23号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町空家活用定住住宅野口団地４号）

日程第22　町長提出第24号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）

日程第23　町長提出第25号議案　公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）

日程第24　町長提出第26号議案　公の施設の指定管理者の指定について（下左鐙地区広場緑地等利用施設）

日程第25　町長提出第27号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町水辺施設「オシドリ観察小屋」）

日程第26　町長提出第28号議案　町道石西社支線の路線認定について

日程第27　町長提出第29号議案　令和２年度津和野町一般会計補正予算(第１４号)

日程第28　町長提出第30号議案　令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第29　町長提出第31号議案　令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第４号）

日程第30　町長提出第32号議案　令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）

日程第31　町長提出第33号議案　令和２年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第４号）

日程第32　町長提出第34号議案　令和２年度津和野町農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）

日程第33　町長提出第35号議案　令和２年度津和野町奨学基金特別会計補正予算（第１号）

日程第34　町長提出第36号議案　令和２年度津和野町診療所特別会計補正予算（第２号）
日程第35　町長提出第37号議案　令和２年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第２号）
日程第36　町長提出第38号議案　令和２年度津和野町病院事業会計補正予算（第４号）
日程第37　町長提出第39号議案　令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第４号）
日程第38　町長施政方針
日程第39　町長提出第40号議案　令和３年度津和野町一般会計予算
日程第40　町長提出第41号議案　令和３年度津和野町国民健康保険特別会計予算
日程第41　町長提出第42号議案　令和３年度津和野町介護保険特別会計予算
日程第42　町長提出第43号議案　令和３年度津和野町後期高齢者医療特別会計予算
日程第43　町長提出第44号議案　令和３年度津和野町下水道事業特別会計予算
日程第44　町長提出第45号議案　令和３年度津和野町農業集落排水事業特別会計予算
日程第45　町長提出第46号議案　令和３年度津和野町奨学基金特別会計予算
日程第46　町長提出第47号議案　令和３年度津和野町診療所特別会計予算
日程第47　町長提出第48号議案　令和３年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計予算
日程第48　町長提出第49号議案　令和３年度津和野町病院事業会計予算
日程第49　町長提出第50号議案　令和３年度津和野町水道事業会計予算
日程第50　町長提出報告第１号　債権放棄について

出席議員（12名）

１番　草田　吉丸君	２番　米澤　宏文君
３番　川田　　剛君	４番　道信　俊昭君
５番　板垣　敬司君	６番　丁　　泰仁君
７番　御手洗　剛君	８番　三浦　英治君
９番　寺戸　昌子君	10番　後山　幸次君
11番　岡田　克也君	12番　沖田　　守君

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名
局長　福田　浩文君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	下森　博之君	副町長 ……	島田　賢司君
教育長 ……	世良　清美君	総務財政課長 ……	岩本　要二君
税務住民課長 ……	山本　慎吾君		
つわの暮らし推進課長 ……			宮内　秀和君
健康福祉課長 ……	土井　泰一君	医療対策課長 ……	下森　　定君
農林課長 ……	桑原　正勝君	商工観光課長 ……	藤山　　宏君
環境生活課長 ……	清水　浩志君	建設課長 ……	益井　仁志君
教育次長 ……	齋藤　道夫君		

午前９時 00 分開会
○議長（沖田　　守君）　おはようございます。
　新型コロナウイルスの感染状況がなかなか終息を見ない。今、１都３県の緊急事態宣言が発令されておりますが、多分今日、菅総理は再延長の宣言をされるんであろうと、こういうニュースが流れております。
　首都圏はもちろんでありますが、地方も、本県の丸山知事が発言しておられますように、人口密度の問題もあるとは思いますが、一生懸命に感染防止に努めて、そして感染者が非常に少ない、そういう地方にも国の支援の在り方は均衡ある支援でなくてはならないというふうな発言もされて、まさに我々を代表して勇気ある発言をしていただいたということで、新聞あるいはテレビ等で賛辞の声や、いささか批判的な声も若干は見受けられますが、本県を代表して、ああして一生懸命に中央に発していただいております。
　本町も人ごとではありません。非常に町中は、それでなくても人口減少、過疎化で本当に経済が疲弊しておる中で、このコロナの中でありますから、観光業、飲食業を中心として大変な打撃を受けておる、こういう状況下であります。
　これは、ひとえに事業者のみならず、そこに関連する卸業者あるいは末端の生産者にまで大変な経済打撃でありますので、１日も早いコロナの収束を願って、そして経済が円滑に回っていくようなことを切に願うところであります。
　今日から３月定例会が招集されて始まるわけでありますが、我々も合併以来、この議場で約１６年少々慣れ親しんだ議場の定例会は、今３月定例会が最後の定例会と相成ります。６月議会からは、新しい庁舎の中にある議場の中で開催されることになるわけでありますが、もろもろ今日も、町長の施政方針等をお聞きをしたりして、新しい年度の取組について慎重審議をぜひとも願って、このコロナ禍の中ではありますが、津和野町

は津和野町として何か先の見える、町民に新しい夢を与えられるような、そういうような議会にぜひしていただきたいと、かように思うところであります。

ただいま申し上げましたように、令和３年第３回津和野町議会定例会が招集されて、こうして議員各位全員おそろいで出席をいただきました。誠にありがとうございました。

ただいまの出席議員数は、全員の１２名であります。定足数に達しておりますので、令和３年第３回定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（沖田　　守君）　日程第１、会議録署名議員の指名。

会議録署名議員は、会議規則第１２６条の規定により、８番、三浦英治君、９番、寺戸昌子君を指名します。

それでは、先日、議会運営委員会を開催しまして、本定例会の会期及び議事日程等について協議しておりますので、その結果について委員長の報告を求めます。１０番、後山幸次君。

○議員（１０番　後山　幸次君）　皆さん、おはようございます。

先日、議会運営委員会を開催いたしましたので報告をいたします。

議会運営委員会協議報告書。

議会運営委員会を令和３年３月１日に開催し、今定例会の議会運営について協議いたしましたので、その結果を津和野町議会会議規則第７７条の規定により報告をいたします。

今定例会の会期は、本日３月５日から３月２３日までの１９日間としたいと思います。

初日の５日金曜は、諸般の報告後、町長提出議案の説明を受けます。令和３年度予算に係る議案については、町長の施政方針後に説明を受けます。その後、予算審査特別委員会を設置し、新年度予算議案を付託し、散会いたします。

なお、散会後、直ちに予算審査特別委員会を開催し、審査日程等の調整を行っていただきたいと思います。

６日土曜から８日月曜までは休会といたします。

一般質問の通告締め切りは、８日の月曜の正午であります。

９日火曜に本会議を再開し、条例案件、補正予算等の質疑、討論、表決を行います。

１０日水曜から１５日月曜までは、休会といたします。

休会中に、予算審査特別委員会で議案の審査をしていただきたいと思います。

１６日の火曜に本会議を再開し、１６日火曜、１７日水曜で一般質問を行います。

１８日木曜から２３日月曜は、休会といたします。

２３日火曜に本会議を再開し、予算審査特別委員会委員長の審査報告を受けた後、新年度予算について討論、表決を行い、請願等の所定の処理及び各委員会の報告を受けて、全日程を終了したいと思います。

以上、議会運営委員会の協議結果を報告いたします。

令和３年３月５日、津和野町議会議長、沖田守様、議会運営委員会委員長、後山幸次。

以上であります。

○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２．会期の決定

○議長（沖田　　守君）　日程第２、会期の決定を議題とします。

お諮りをいたします。本定例会の会期は、議会運営委員長報告のとおり、本日から３月２３日までの１９日間といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　御異議なしと認めます。したがって、会期は本日から３月２３日までの１９日間と決定いたしました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３．諸般の報告

○議長（沖田　　守君）　日程第３、諸般の報告をします。

１２月定例会招集日以降における議会行事及び各報告事項につきましては、お手元に配付のとおりであります。

諸般の報告

【１２月定例会以降】

１２月	１１日（金）	全員協議会
		広報広聴常任委員会所管事務調査　委員、議長
	１４日（月）	吉賀町名誉町民澄川喜一先生文化勲章受章祝賀式
		（吉賀町）　　議長
１２月	１６日（水）	全員協議会
		文教民生常任委員会所管事務調査
		総務経済常任委員会所管事務調査
	２３日（水）	広報広聴常任委員会
１月	５日（水）	広報広聴常任委員会
	７日（木）	広報広聴常任委員会
	１２日（火）	第１回臨時議会
		全員協議会
		文教民生常任委員会請願審査　委員、議長、紹介議員
	２０日（水）	鹿足郡町村議会議員研修会

（津和野コミュニティセンター）　　全議員
２２日（金）　総務経済常任委員会所管事務調査
２８日（木）　畑迫小さな拠点事業に係る意見交換会（畑迫公民館）
全議員
２９日（金）　文教民生常任委員会請願審査・所管事務調査
（津和野庁舎）委員、議長
２月　１日（月）　小学生議会学習会（木部小学校）　全議員
２日（火）　小学生議会学習会（津和野小学校）　全議員
３日（水）　小学生議会学習会（日原小学校）　全議員
４日（木）　小学生議会学習会（青原小学校）　全議員
１５～１６日（月～火）　鹿足郡町村議会議長会臨時会　（松江市）　正副議長
島根県町村議会議長会定例総会　（松江市）　正副議長
１７日（水）　第２回臨時議会
教育魅力化コーディネーター活動報告会（本庁舎）
全議員
総務経済常任委員会所管事務調査
１９日（金）　益田地区広域市町村圏事務組合議会定例会（益田市）
３月　１日（月）　議会運営委員会
３月　２日（火）　農林業問題研究集会（ＪＡしまね　津和野経済センター）
総務経済常任委員会正副委員長
４日（木）　鹿足郡事務組合議会定例会（クリーンパルにちはら）
鹿足郡不燃物処理組合議会定例会（吉賀町）
鹿足郡養護老人ホーム組合議会定例会（吉賀町）

【表　彰】
２月１６日（火）島根県町村議会議長会長自治功労者表彰（議員在職２５年以上）
沖田　守
２月１６日（火）島根県町村議会議長会長自治功労者表彰（議長在職６年以上）
沖田　守

１月２８日及び２月１５、１６日の議員派遣につきましては、緊急を要したため、津和野町議会会議規則第１２８条の規定により、議長において決定しましたので報告します。

益田地区広域市町村圏事務組合の議会報告、及び令和２年度財政援助団体等監査の報告につきましては、お手元に配付のとおりであります。

鹿足郡事務組合、鹿足郡不燃物処理組合及び鹿足郡養護老人ホーム組合の各議会報告につきましては、後ほど会期内においてお手元に配付いたしますので御確認をいただきたいと思います。

なお、関係書類は事務局に保管しておりますので、必要の向きはごらんをいただきたいと思います。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第４．議案第６号

日程第５．議案第７号

日程第６．議案第８号

○議長（沖田　　守君）　日程第４、議案第６号平成３１年度町道日原市街線旭橋耐震補強工事（第２期）請負変更契約の締結についてより、日程第６、議案第８号物品売買契約（安野光雅作品原画）の締結についてまで、以上３案件につきましては、会議規則第３７条の規定により一括議題とします。

執行部より、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、皆さん、おはようございます。本日は、３月定例議会の招集をお願いいたしましたところ、おそろいで御出席を賜りましてありがとうございます。

今、定例会に提案をいたします案件は、契約案件３件、条例案件１３件、指定管理者指定案件６件、町道認定案件１件、一般会計をはじめ各会計補正予算案件１１件、一般会計ほか令和３年度各会計予算１１件、報告案件１件の合計４６案件でございます。いずれも重要な案件でございますので、慎重審議を賜り、それぞれ可決賜りますようお願いを申し上げます。

議案第６号でございますが、平成３１年度町道日原市街線旭橋耐震補強工事（第２期）請負変更契約の締結について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第７号でございますが、令和２年度津和野町役場本庁舎（元日原診療所）改修工事請負変更契約の締結について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明申し上げます。

議案第８号、物品売買契約（安野光雅作品原画）の締結について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、教育次長から御説明を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○議長（沖田　　守君）　建設課長。

○建設課長（益井　仁志君）　それでは、議案第６号について御説明申し上げます。

契約の目的は、平成３１年度町道日原市街線旭橋耐震補強工事（第２期）でございます。

契約の方法は、随意契約でございます。

契約の金額ですが、変更の金額が１億４，６３１万５，４００円でありまして、変更前の金額が１億１，３３０万円で、変更額は３，３０１万５，４００円の増額でございます。

契約の工期につきましては、変更前完成期日が令和３年３月１９日でありまして、変更後完成期日を令和３年６月３０日にさせていただくものであります。

契約の相手方は、住所、鹿足郡津和野町枕瀬５７５番地９。氏名は、堀建設株式会社代表取締役、堀大地であります。

裏面に資料としまして、工事請負変更仮契約書を添付しておりますので御確認いただきたいというふうに思います。

次のページに参考資料１をつけております。参考資料１の中で、１か所訂正をお願いいたします。

下段２の変更の概要の、変更理由の１行目の中に、「右岸橋台（Ａ１）」とありますけれども、「（Ａ２）」の誤りでございます。大変申し訳ございませんでした。訂正をお願いいたします。

１の当初契約の概要につきましては、御覧のとおりであります。

２、変更の概要の変更の主な理由についてでございますが、工事実施にあたりまして、Ｐ２橋脚及びＡ２右岸側橋台の支承部において構造変更の必要が認められたことから、水平力分担装置の追加及び落橋防止装置の変更が必要となったためでございます。

また、その水平力分担装置や落橋防止装置などに使用する部材が受注生産でございまして、コロナ禍の影響により、やむを得ず納期が延びることから、工期の延期が必要となったためでございます。

裏面には、別紙としまして工事の概要をつけておりますので、御確認いただければというふうに思います。

それから、参考資料２から４で工事図面をつけております。

参考資料２、一番最初の図面を御覧ください。図面は、上流側から下流側に向かって書かれております。向かって右側が中国信金側でございまして、左側がＪＡ側というふうになります。変更となりました水平力分担装置及び落橋防止装置の位置を朱書きで示しております。

あわせまして、参考資料３及び参考資料４で、それらの詳細図面を添付しておりますので、また御覧ください。

また、本工事の仮契約は、津和野町議会の議決を得たとき、何らかの手続をすることなく本契約となるものでございます。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　それでは、議案第７号を御説明いたします。

契約の目的でございますが、令和２年度津和野町役場本庁舎（元日原診療所）改修工事でございます。

契約の方法でございますが、随意契約でございます。

変更の金額ですが、変更前の金額６億２，７００万円に対しまして、変更額２，１９２万５，２００円、変更後の金額６億４，８９２万５，２００円でございます。

契約の相手方は、島根県鹿足郡津和野町枕瀬５７５番地９、堀建設株式会社代表取締役、堀大地でございます。

１枚めくっていただきまして、資料といたしまして、令和３年２月２４日付で取り交わしました工事請負変更仮契約書の写しを添付しております。

続いて、次ページになりますが、変更内容について御説明いたします。

変更理由というところに書いてございますが、変更内容の主なものでございますけども、参考資料の①を見ていただけたらと思います。

２の変更の概要の変更理由ですが、１の外壁改修工事ですが、調査の結果、ひび割れ部等の数量が設計の見込み数量より減となったため、その処分が減少をしております。

２の床改修工事ですが、既存床撤去改修部の増加及び１階、２階の議会の以外のところにかけての新床材張りを追加をしております。

３のアルミ建具改修工事ですが、県関係機関との協議によりまして、排煙設備の変更に伴い、アルミ建具の取替えを取りやめております。

４の鋼製建具改修工事ですが、２階の議場周辺の排煙区画再検討によりまして、木製建具を鋼製建具に変更し、防煙たれ壁の仕様、数量を変更しております。

５のシャッター下地鉄骨工事ですが、防煙たれ壁の仕様をシャッター式から固定式への変更に伴い、防煙たれ壁の鉄骨下地を取りやめております。

６の換気設備ですが、防火ダンパー及び差圧ダンパーの仕様を変更、追加しております。

また、その他におきまして、すみません、これは変更理由にはありませんけれども、駐車場整備工事としてシルク交流館の別館解体をしております。その関係で側溝改修等の変更をしているところでございます。

次に、参考資料の２を見ていただきたいと思います。

１階の平面図になります。入り口にエントランスホールを設け、右側の西中国信用金庫津和野支店日原出張所を設け、正面に税務住民課、左側の元診療室については出納室、つわの暮らし推進課及び総務財政課を設けております。その並びに副町長室、廊下を挟んで町長室を設けております。

図面上段には、建設課、そして組合事務所を配置をしているところでございます。

１ページめくっていただきまして、２階の平面図になります。主に議場等の議会関係と防災及び電算室を配置しているところでございます。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　教育次長。

○教育次長（齋藤　道夫君）　それでは、議案第８号について御説明いたします。

この物品売買契約は、令和２年９月議会におきまして御承認をいただきました債務負担行為に基づきまして、昨年の１０月１日付で安野光雅先生と交わした覚書にのっとって、株式会社ＮＨＫ出版と締結したものでございます。

１つ目に、品名、数量でございますが、安野光雅作品原画１４７点でございます。この中には、絵本「平家物語」の下絵３０点も含まれております。

２つ目に、契約の金額でございますが、税込み６，５４０万円でございます。

３つ目に、納入期限でございますが、令和１３年３月２０日でございます。

４つ目に、契約の相手方でございますが、住所、東京都渋谷区宇田川町４１番地１。氏名、株式会社ＮＨＫ出版代表取締役、森永公紀でございます。

１枚めくっていただきまして、裏面から資料といたしまして、物品売買仮契約書のほうを添付しておりますので御覧いただきたいと思います。

この資料の２ページ目には、今年度から令和１２年度までの購入金額、支払限度額を記載しております。また、資料の５ページ目より、令和１２年度までに購入する作品の一覧表をつけております。

なお、この物品売買仮契約書は、津和野町議会の議決を得たとき、何らの手続をすることなく本契約となるものでございます。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第７．議案第９号
日程第８．議案第１０号
日程第９．議案第１１号
日程第１０．議案第１２号
日程第１１．議案第１３号
日程第１２．議案第１４号
日程第１３．議案第１５号
日程第１４．議案第１６号
日程第１５．議案第１７号
日程第１６．議案第１８号
日程第１７．議案第１９号
日程第１８．議案第２０号
日程第１９．議案第２１号

○議長（沖田　　守君）　日程第７、議案第９号旧日原町ふるさと創生基金の設置、管理及び処分に関する条例の廃止についてより、日程第１９、議案第２１号津和野町駐車場条例の一部改正についてまで、以上１３案件につきましては、会議規則第３７条の規定により一括議題とします。

執行部より、提案理由の説明を求めます。町長。
○町長（下森　博之君）　それでは、議案第９号でございますが、旧日原町ふるさと創生基金の設置、管理及び処分に関する条例の廃止について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。
議案第１０号でございますが、津和野町木材処理加工施設の設置及び管理に関する条例の廃止について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。
議案第１１号でございますが、津和野町議会議員及び津和野町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。
議案第１２号でございますが、津和野町学校給食費徴収条例の制定について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、教育次長から御説明を申し上げます。
議案第１３号でございますが、津和野町課設置条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。
議案第１４号でございますが、津和野町お試し暮らし住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。
議案第１５号でございますが、津和野町借上賃貸住宅管理条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。
議案第１６号でございますが、津和野町職員の特殊勤務手当の支給に関する条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。
議案第１７号でございますが、ふるさと津和野基金条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。
議案第１８号でございますが、津和野町介護保険条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明申し上げます。
議案第１９号でございますが、津和野町保健、福祉及び医療対策審議会設置条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。
議案第２０号でございますが、津和野町看護学生修学資金貸与条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第２１号でございますが、津和野町駐車場条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　それでは、議案第９号を御説明いたします。

旧日原町ふるさと創生基金につきましては、旧日原町において、ふるさと創生に関する事業――特色ある地域づくり事業でございますけれども――の財源に充てることを目的に設置をした基金でございますけども、令和２年度において基金の設置目的による事業に基金及び運用益金を全額充当処理したことに伴い、廃止とするものでございます。

附則といたしまして、この条例は令和３年４月１日から施行するものでございます。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　農林課長。

○農林課長（桑原　正勝君）　続きまして、議案第１０号津和野町木材処理加工施設の設置及び管理に関する条例の廃止について、御説明をいたします。

この条例につきましては、施設が津和野町冨田イの４６３番地２にございます、津和野町木材処理加工施設でございます。

この施設につきましては、平成９年度に完成をしまして、コンピューターによりますプレカットができる施設として、町内の建設業者さん、個人の大工の方々に御利用いただいておりましたが、既にコンピューターをはじめとしてプレカットの機械の多くが故障して、既に廃棄となってあります。そして、現在稼働しておるものにつきましては、柱、板材の表面にかんなをかける３種類のかんな板があるもの、また集じんの施設、天井のクレーンといったものが残っておりますが、現在、これにつきましては指定管理という形での高津川森林組合が運営を担っておるものでございますが、高津川森林組合のほうから、この施設についての撤退の申出が先般あったところでございます。

町が管理しております町有地のところに建っております製材所につきましては、既に高津川森林組合のほうから佐々木馬一商店さんのほうに経営が移譲をされている状況でありますが、隣にあります処理施設につきましては、３月末までのところで整理をしたいということで、高津川森林組合のほうからの申出があったものでございます。

したがいまして、現在は行政財産としての使用という形で行っておりますが、４月以降につきましては利用の状況がございませんので、普通財産という位置づけにさせていただいて、貸付けを行っていきたいという形で本条例を提案させていただくものでございます。

なお、附則といたしましては、この条例につきましては公布の日から施行するという形にさせていただいております。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　それでは、議案第１１号を御説明申し上げます。

この条例は、公職選挙法の一部改正により、町村議会議員選挙及び町村長選挙における公費負担について必要な事項を定める条例でございます。

第１条を御覧ください。公職選挙法に基づき、町村議会議員選挙及び町村長選挙における選挙運動の公費負担に関し、必要事項を定める旨の趣旨を定めております。

第２条では、選挙運動用自動車の使用の公費負担について定めております。１日につき６万４，５００円を上限として、告示日から選挙期日の前日までの日数を乗じて得た金額の範囲内において無料で使用できる旨を定めております。また、ただし書で供託物が没収となった場合は公費負担の対象にならない旨も定めております。

第３条では、選挙運動用自動車の使用に関し、有償契約を締結した場合は選挙管理委員会に届け出なければならない旨、定められております。

第４条では、公費負担額については有償契約を締結した事業者に支払うことが定められており、１号といたしまして、ハイヤー契約の場合、車代、運転手代、燃料代を含む契約の場合ということでございますが、この場合は１台の選挙運動用自動車に対して、選挙運動用として使用した日数に応じて支払うべき金額、１日の上限額６万４，５００円を定めております。

２号のアでは、これはレンタカー契約について定めております。１台の選挙運動用自動車に対して、選挙運動用として使用した日数に応じて支払うべき金額、１日の上限額が１万５，８００円を定めております。

２号のイでは、燃料代について定めております。燃料代について、１台の選挙運動用自動車に対して、選挙運動用として使用した日数に応じて支払うべき金額、１日の単価が７，５６０円掛ける日数というところを定めております。

２号のウでは、運転手の雇用契約について、１日１人の運転手に対して運転業務に従事した日数に応じて支払うべき金額――１日の上限額が１万２，５００円でありますが――を定めております。

第５条では、選挙運動用自動車について、ハイヤー契約とレンタカー契約のいずれも締結をしているというときは、候補者が指定する１契約が公費負担の対象になる旨、定められております。

第６条から第８条については、ビラ作成に係る公費負担について、第９条から第１１条については、選挙運動用ポスターの公費負担について定めております。

第１２条では、条例施行に関し、必要な事項は選挙管理委員会に委任する旨が定められております。

附則といたしまして、この条例は公布の日から施行する。

適用区分といたしまして、この条例の適用は、施行日以後の告示される選挙から適用し、施行日前日までに告示された選挙については従前の例による旨が定められております。

以上でございます。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　それでは、議案第１２号について御説明いたします。
津和野町学校給食費徴収条例を制定するものでございます。
この条例の制定は、令和元年７月３１日付で文部科学省初等中等教育局長より通知のありました、学校給食費等の徴収に関する公会計化の推進についてに基づきまして制定するものでございます。
この中では、学校給食費や教材費、修学旅行費等の学校徴収金については、先進的な地方公共団体の取組を踏まえれば、未収金の督促等を含めたその他の徴収、管理について、基本的には学校、教師の本来的な業務ではなく、学校以外が担うべき業務であると定められておりますので、地方公共団体が担っていくべきものであるとされております。
それでは、条例について御説明いたします。
第１条を御覧ください。ここでは、本町が教育事業の一環として実施する学校給食につきまして、保護者等が負担すべき給食費の徴収に関し、必要な事項を定めるものとしております。
第２条を御覧ください。第２条では、学校給食法に基づき、津和野町立の小中学校に在学する全ての児童生徒に学校給食を実施するとしております。
第３条を御覧ください。第３条では、学校給食を受ける児童及び生徒の保護者等は、学校給食費のうち保護者等が負担すべき経費の範囲内で定める金額を給食費として徴収するとしております。この保護者等が負担すべき経費の範囲につきましては、学校給食法第１１条第１項で学校給食の実施に必要な施設及び設備に要する経費、並びに学校給食の運営に要する経費で、政令で定めるものは、設置者の負担とするということになっておりますので、これを除いた、具体的には学校給食に従事する職員の給与等の人件費と給食センター等の設備、施設の修繕費等を除いたものとなります。したがいまして、保護者等が負担すべき経費とは、学校給食の実施にあたって必要な主食、副食及び牛乳の購入にあたる経費となります。
第４条では、給食費の納付について、第５条では、給食費の減免について規定をしております。
附則としまして、この条例は令和３年４月１日から施行するものでございます。
以上でございます。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　それでは、議案第１３号について御説明いたします。
津和野町課設置条例第２条各課の事務分掌について、一部を改正するものであります。
議案をめくっていただきまして、新旧対照表を御覧ください。

改正内容につきましては、第２条中健康福祉課、介護保険に関することを医療対策課の事務分掌として改正するものであります。

附則といたしまして、この条例は令和３年４月１日から施行するものであります。

続きまして、議案第１４号について御説明いたします。

津和野町お試し暮らし住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正するものであります。

議案をめくっていただきまして、新旧対照表を御覧ください。

改正内容につきましては、第３条の表並びに別表に、現在、左鐙地域において改修中でありますお試し暮らし推進住宅を新たに追加するものであります。

附則としまして、この条例は令和３年４月１日から施行するものであります。

以上です。

○議長（沖田　　守君）　建設課長。

○建設課長（益井　仁志君）　それでは、議案第１５号につきまして御説明申し上げます。

津和野町借上賃貸住宅管理条例の一部改正についてでございます。

借上げ賃貸住宅とは、民間が借上げ住宅を建設し、これを町が借上げをいたしまして、Ｕ・Ｉターン者や若者等に賃貸するための住宅でございます。

この住宅は、建設後に町が借上げをしまして、１０年間住宅の募集、入居、退去及び家賃の徴収等管理をするものでございます。

１枚めくっていただきまして、新旧対照表の別表１を御覧ください。

今回の条例改正では、現在町で管理していますグリーンハイツ１号館、２号館及びヒワダハイツ１号館、２号館に加え、４月１日から新たにヒワダハイツ３号館を追加するものでございます。

ヒワダハイツは、津和野町枕瀬１８９の１７、元石西社跡地に建設されており、昨年度建設されました１号館、２号館と隣接した場所に３号館の建物を建設予定でございます。

構造は、木造瓦葺２階建て、間取りとしましては、１号館、２号館同様で、３号館につきましても２ＤＫが２戸、３ＤＫが２戸となっております。

また、このヒワダハイツ３号館の管理期間につきましては、令和３年４月１日から令和１３年３月３１日までの１０年間としております。

続きまして、別表２を御覧ください。

使用料でございますが、３号館につきましても、１号館、２号館と同様、２ＤＫは月額５万円、３ＤＫは月額５万５，０００円と設定させていただいております。

この条例は令和３年４月１日から施行させていただきます。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　それでは、議案第１６号を御説明いたします。
　今回の一部改正につきましては、人事院規則の改正により、国家公務員の特殊勤務手当について、新型コロナウイルス感染症対策業務に関し、緊急に行われた措置以外の防疫等作業手当の特例が新たに規定されたことに伴い、津和野町職員の特殊勤務手当の支給に関する条例を一部改正するものでございます。
　１枚めくっていただきまして、新旧対照表を御覧ください。アンダーラインの部分が改正内容になります。
　改正内容といたしまして、附則の３として、前段のところで新型コロナウイルス感染症防疫作業について、緊急に行われた措置に係る作業について支給対象とすることが定められておりましたが、次に掲げる作業に改正をされております。
　１号で、緊急に行われた措置に係る作業ということでございますが、武漢からの政府チャーター機内部あるいはダイヤモンドプリンセス号の内部というようなところの防疫作業について緊急に行われた措置に係る作業というところで規定がされております。
　２号では、緊急に行われた措置以外ということで、上記以外での防疫作業ということになりますけども、その防疫作業について定められております。
　４については、感染症防疫作業手当の額について、１号では緊急に行われた措置に係る作業に従事した日、１日につき３，０００円、新型コロナウイルス感染症の患者等の体に接触し、またはこれらの者に長時間にわたり接して行う作業、その他町長がこれに準ずると認める作業に従事した場合は、１日につき４，０００円とすることが定められております。
　２号では、緊急に行われた措置以外の防疫作業に従事した日、１日につき１，０００円、新型コロナウイルス感染症の患者等の体に接触して行う作業に長時間にわたり従事した場合は、１日につき１，５００円とすることが定められております。
　附則といたしまして、この条例は公布の日から施行し、令和２年４月３日から適用するものでございます。
　以上でございます。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　続いて、議案第１７号ふるさと津和野基金条例の一部改正について、御説明いたします。
　議案をめくっていただきまして、新旧対照表を御覧ください。
　改正内容につきましては、第２条５の教育または文化の振興に関する事業を、（５）文化の振興に関する事業と、（６）教育または人づくりの充実に関する事業の２つに分けるものであります。
　これは、改正理由としまして、これまでガバメントクラウドファンディングにて、津和野高校魅力化プロジェクト等に関し、寄付の募集を行っておりましたが、今後は主に

０歳児からの人づくり事業などを実施する際の財源としてふるさと納税制度を活用し、恒常的に寄付を募る体制整備を図りたいためのものであります。

なお、附則としまして、この条例は公布の日から施行するものであります。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　それでは、議案第１８号津和野町介護保険条例の一部改正について、御説明いたします。

この条例改正につきましては、令和３年度から第８期計画として改訂される、津和野町老人福祉介護事業計画に合わせ、介護保険料が軽減される年度の記載を改正するものであります。

１ページめくっていただき、新旧対照表を御覧ください。

第２条第１項において、「平成３０年度から令和２年度までの期間」を、「令和３年度から令和５年度までの期間」に改めること。同条第２項から第４項において、「令和２年度における」を「令和３年度から令和５年度における期間」に改めることとしています。

なお、この条例の施行期日につきましては、令和３年４月１日からとし、経過措置として、この条例による改正後の津和野町介護保険条例第２条の規定は、令和３年度分の保険料から適用し、令和２年度以前の年度分の保険料についてはなお従前の例によるものであります。

続きまして、議案第１９号津和野町保健、福祉及び医療対策審議会設置条例の一部改正について、御説明いたします。

この条例改正につきましては、令和３年４月１日より、介護保険の分掌事務が健康福祉課から医療対策課に移ることによる改正であります。

１ページめくっていただき、新旧対照表を御覧ください。

第６条におきまして、審議会の処分をつかさどる課を健康福祉課から医療対策課へ改めるものであります。

なお、この条例の施行期日につきましては、令和３年４月１日からであります。

以上であります。

○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。

○医療対策課長（下森　　定君）　議案第２０号について御説明いたします。

津和野町看護学生修学資金貸与条例に関する条例の一部改正についてであります。

今回の条例改正は、医療従事者確保対策に伴う条例改正でございます。

改正内容につきましては、ページをめくっていただきまして、新旧対照表を御覧ください。

第４条の表を御覧ください。区分１、保健師養成施設、助産師養成施設または看護師養成施設に在学する者の修学資金の額、月額４万円を月額８万円に改めるものでございます。

附則といたしまして、この条例は令和３年４月１日から施行するものでございます。

経過措置として、この条例による改正後の津和野町看護学生修学資金貸与条例の規定は、令和３年４月１日以降の貸与の決定について適用し、同日前の貸与の決定については、なお従前の例によるものでございます。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。

○商工観光課長（藤山　　宏君）　それでは、議案第２１号について御説明をさせていただきます。

内容につきましては、津和野町駐車場条例の番地変更に伴う一部改正でございます。

１枚はぐっていただきまして、裏面の資料、新旧対照表を御覧ください。

津和野町歴史的風致維持向上計画に基づきまして、津和野駅周辺整備事業として、駐車場移転整備を行ったところでございます。

この際に、新たな駐車場敷地については、従前の駐車場の一部であり、場所的には変更はございませんが、同条例の代表地番がロータリー予定地箇所となったため、第２条表中の地番を津和野町後田イ４６番７から津和野町後田イ３４番地９ほかに改めるものでございます。

附則としまして、この条例は公布の日から施行し、令和２年４月１日から適用とさせていただきます。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２０．議案第２２号
日程第２１．議案第２３号
日程第２２．議案第２４号
日程第２３．議案第２５号
日程第２４．議案第２６号
日程第２５．議案第２７号

○議長（沖田　　守君）　日程第２０、議案第２２号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町野中高齢者作業施設）より、日程第２５、議案第２７号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町水辺施設「オシドリ観察小屋」）まで、以上６案件につきましては、会議規則第３７条の規定により一括議題とします。

執行部より、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、議案第２２号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野町野中高齢者作業施設）の議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第２３号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野町空家活用定住住宅野口団地４号）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明申し上げます。

議案第２４号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明申し上げます。

議案第２５号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第２６号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（下左鐙地区広場緑地等利用施設）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第２７号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野町水辺施設「オシドリ観察小屋」）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

よろしくお願いいたします。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　それでは、議案第２２号について御説明いたします。

公の施設の指定管理について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、津和野町野中高齢者作業施設でございます。

指定管理者となる団体の名称は、野中里山倶楽部でございます。

指定期間は、令和３年４月１日より令和６年３月３１日まででございます。

公の施設の概要については、裏面資料を御覧ください。

当該施設の指定管理者制度につきましては、平成１８年９月１日から非公募により導入したもので、現在の指定期間が令和３年３月３１日に満了となることから、令和３年２月１８日に開催した津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を３年とし、現在の指定管理者である野中里山倶楽部を引き続き指定管理者に指定するものであります。

続きまして、議案第２３号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものであります。

公の施設の名称は、津和野町空家活用定住住宅野口団地４号であります。

指定管理者となる団体の名称は、株式会社高津川暮らしの研究所であります。

指定期間は、令和３年４月１日より令和１２年３月３１日であります。

公の施設の概要については、裏面資料を御覧ください。

津和野町空家活用定住住宅野口団地４号につきましては、定住推進対策として、令和２年３月に整備した津和野町空家活用定住住宅野口団地１号から３号に隣接する空家１棟を改修し、整備するものであり、令和３年３月に竣工するものであります。

指定管理者制度導入に関しましては、非公募により導入するもので、令和３年２月１８日に開催した津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を令和３年４月１日より令和１２年３月３１日の９年として、同事業野口団地１号から３号の指定管理者である株式会社高津川暮らしの研究所を指定管理者に指定するものであります。

続きまして、議案第２４号について御説明いたします。

公の施設の名称は、津和野町町営塾日原でございます。

指定管理者となる団体の名称は、一般財団法人つわの学びみらいでございます。

指定期間は、令和３年４月１日より令和６年３月３１日までございます。

公の施設の概要につきましては、裏面資料を御覧ください。

津和野町町営塾日原につきましては、令和２年４月１日から島根県立津和野高等学校後援会が指定管理者として指定されておりましたが、令和３年４月から島根県立津和野高等学校後援会の町営塾運営事業が一般財団法人つわの学びみらいへ継承されることになったため、島根県立津和野高等学校後援会から指定管理業務が継続できないとの申出を受け、島根県立津和野高等学校後援会に対して、令和３年４月１日付で津和野町町営塾日原に係る指定管理者の指定を取り消すことを決定しております。

指定管理者制度導入に関しましては、非公募により導入するもので、令和３年２月１８日に開催した津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を令和３年４月１日より令和６年３月３１日までの３年として、現在の指定管理者である島根県立津和野高等学校後援会から町営塾運営事業を継承する一般財団法人つわの学びみらいを指定管理者に指定するものであります。

なお、指定期間につきましては、類似施設の指定期間満了日に合わせるため、初回に限り３年とするものであります。

続きまして、議案第２５号について御説明いたします。

公の施設の名称は、寺田納骨堂でございます。

指定管理者となる団体の名称は、寺田納骨堂利用者の会でございます。

指定期間は、令和３年４月１日より令和６年３月３１日であります。

公の施設の概要については、裏面資料を御覧ください。

当該施設の指定管理者制度につきましては、平成１８年９月１日から非公募により導入したもので、現在の指定期間が令和３年３月３１日に満了となることから、令和３年２月１８日に開催した津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間

を３年として、現在の指定管理者である寺田納骨堂利用者の会を引き続き指定管理者に指定するものであります。

続きまして、議案第２６号について御説明いたします。

公の施設の名称は、下左鐙地区広場緑地等利用施設でございます。

指定管理者となる団体の名称は、下左鐙自治会施設管理組合でございます。

指定期間は、令和３年４月１日より令和６年３月３１日であります。

公の施設の概要については、裏面資料を御覧ください。

当該施設の指定管理者制度につきましては、平成１８年９月１日から非公募により導入したもので、現在の指定期間が令和３年３月３１日に満了となることから、令和３年２月１８日に開催した津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を３年とし、現在の指定管理者である下左鐙自治会施設管理組合を引き続き指定管理者に指定するものであります。

続きまして、議案第２７号について御説明いたします。

公の施設の名称は、津和野町水辺施設「オシドリ観察小屋」でございます。

指定管理者となる団体の名称は、日原オシドリの会であります。

指定期間は、令和３年４月１日より令和６年３月３１日でございます。

公の施設の概要については、裏面資料を御覧ください。

当該施設の指定管理者制度につきましては、平成１８年９月１日から非公募により導入したもので、現在の指定期間が令和３年３月３１日に満了となることから、令和３年２月１８日に開催した津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を３年として、現在の指定管理者である日原オシドリの会を引き続き指定管理者に指定するものでございます。

以上であります。

○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。

以上で、提案理由の説明を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２６．議案第２８号

○議長（沖田　　守君）　日程第２６、議案第２８号町道石西社支線の路線認定についてを議題といたします。

執行部より、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、議案第２８号でございますが、町道石西社支線の路線認定について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

○議長（沖田　　守君）　建設課長。

○建設課長（益井　仁志君）　それでは、議案第２８号について御説明いたします。

町道石西社支線の路線認定でございます。

路線名は、石西社支線でございます。
路線の場所でございますが、議案書の裏面を御覧ください。
大変すみません、ちょっと分かりにくい図でございますが、左側の四角い大きい建物が日原診療所でございます。その日原診療所の左側になります。元石西社跡地で、現在ヒワダハイツが建設されております場所でございます。
当該路線は、町道通岩土井敷線から分岐する路線でもありますが、沿線住民の生活道路として利用されていることから、町道として編入するものでございます。
路線の起点は、枕瀬２１８番地２６先から、終点は、枕瀬１８９番地１８先までございます。
延長は、６４．７メートル、道路幅員は３．６メートルから８．９メートルでございます。
以上でございます。
○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。
以上で、提案理由の説明を終わり、１０時１０分まで休憩といたします。
午前９時 59 分休憩
……
午前 10 時 10 分再開
○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、会議を再開します。
――――――――――――・――――・――――――――――

日程第２７．議案第２９号
日程第２８．議案第３０号
日程第２９．議案第３１号
日程第３０．議案第３２号
日程第３１．議案第３３号
日程第３２．議案第３４号
日程第３３．議案第３５号
日程第３４．議案第３６号
日程第３５．議案第３７号
日程第３６．議案第３８号
日程第３７．議案第３９号

○議長（沖田　　守君）　日程第２７、議案第２９号令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１４号）より、日程第３７、議案第３９号令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第４号）まで、以上１１案件につきましては、会議規則第３７条の規定により一括議題とします。
執行部より、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、議案第２９号でございますが、令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１４号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ１億２，０７０万３，０００円を減額し、歳入歳出予算総額それぞれ１１７億４，９２２万５，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第３０号でございますが、令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ５７２万７，０００円を減額し、歳入歳出予算総額それぞれ１０億７，５３２万４，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第３１号でございますが、令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第４号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ５，１４９万１，０００円を減額し、歳入歳出予算総額それぞれ１３億７，００２万５，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第３２号でございますが、令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ２５８万円を減額し、歳入歳出予算総額それぞれ３億１，６０６万１，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第３３号でございますが、令和２年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第４号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ１，０６２万１，０００円を減額し、歳入歳出予算総額それぞれ３億８，６９８万６，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第３４号でございますが、令和２年度津和野町農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ７７万円を追加し、歳入歳出予算総額それぞれ４５９万２，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第３５号でございますが、令和２年度津和野町奨学基金特別会計補正予算（第１号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ１５万４，０００円を追加し、歳入歳出予算総額それぞれ１，３５９万９，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、教育次長から御説明を申し上げます。

議案第３６号でございますが、令和２年度津和野町診療所特別会計補正予算（第２号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ２０万６，０００円を追加し、歳入歳出予算総額それぞれ５，５８７万６，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第３７号でございますが、令和２年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第２号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ２，１７８万３，０００円を減額し、歳入歳出予算総額それぞれ２億８，２４６万５，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第３８号でございますが、令和２年度津和野町病院事業会計補正予算（第４号）についてでございます。

収益的収入を７，０６１万２，０００円追加し、予算総額８億９，３６３万９，０００円、収益的支出を７，０６１万２，０００円追加し、予算総額８億８，５６７万８，０００円に、資本的収入を２０万円減額し、予算総額５，５５３万９，０００円、資本的支出を１９万７，０００円減額し、予算総額７，３６２万１，０００円にするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第３９号でございますが、令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第４号）についてでございます。

収益的収入を６０６万６，０００円減額し、予算総額３億５，７００万８，０００円、収益的支出を６０６万６，０００円減額し、予算総額３億２，５７７万２，０００円にするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

よろしくお願いいたします。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　議案説明の前におわびを申し上げます。

５ページの第２表、繰越明許費でございますが、表の下から２段目にあります１１の災害復旧費でございます。事業名が、現年農地農業用施設災となっておりますが、現年農地農業用施設災害復旧費が正しい事業名でございますので、訂正のほうをよろしくお願いいたします。大変申し訳ございませんでした。

それでは、議案第２９号を御説明いたします。

先ほどの５ページをお開きください。繰越明許費でございます。

民生費の日原保育園建設工事実施設計業務でございますが、日原山村開発センター解体による残土量が解体後でなければ見込まれず、これに伴う不測の日数を要したため、９０２万円を繰り越すものです。終期は、３年５月末を予定しております。

農林水産費の農業水路等長寿命化防災減災事業でございますが、資材搬入道路の確保に、土地所有者等の調整に不測の日数を要したため、１，８６３万８，０００円を繰り越すものです。終期は、３年１２月末を予定しております。

林業新設改良事業でございますが、工事施工にあたり、地元から設計変更の要望があり、その調整に不測の日数を要したため、１，８０１万８，０００円を繰り越すものです。終期は、３年１１月末を予定しております。

土木費の地籍調査ミニ国事業でございますが、一筆調査実施区域内及び隣接地の境界調整に不測の日数を要したため、１５８万円を繰り越すものです。終期は、４年３月末を予定しております。

稲成丁線水路修繕工事でございますが、工事着手後、当初想定していた土質と異なることが判明し、詳細調査及び工法の検討選択に不測の日数を要したため、５８９万円を繰り越すものです。終期は、３年６月末を予定しております。

津和野城山渓流流末整備事業でございますが、文化財協議や土地所有者及び関係者との設計協議に不測の日数を要したため、４１４万９，０００円を繰り越すものです。終期は、３年７月末を予定しております。

緊急自然災害防止事業でございますが、流路工計画において事業地内の土地所有者、関係者との協議に不測の日数を要したため、１，２５９万円を繰り越すものです。終期は、３年８月末を予定しております。

町道新設改良事業、商人線ほか９路線でございますが、工事期間中の道路通行規制及び迂回路の調整に不測の日数を要したため、６，８６４万４，０００円を繰り越し、ほか９路線と合わせて２億８，４２３万４，０００円を繰り越すものでございます。終期は、３年９月末を予定しております。

道路長寿命化対策事業でございますが、通行規制での地元調整及び冬季施工での関係機関調整に不測の日数を要したため、１億６，６７７万４，０００円を繰り越すものです。終期は、４年３月末を予定しております。

教育費では、ボルダリング設備整備事業でございますが、新型コロナウイルス感染症の影響で資材調達に不測の日数を要したため、１，３５８万５，０００円を繰り越すものです。終期は、３年１２月末を予定しております。

津和野・小川体育館照明器具ＬＥＤ化事業でございますが、ＬＥＤ器具の調達に不測の日数を要したため、２，５８１万７，０００円を繰り越すものです。終期は、４年３月末を予定しております。

津和野城山復旧事業でございますが、復旧事業とトイレ等施設整備事業との施工調整に不測の日数を要したため、１，８９１万９，０００円を繰り越すものです。終期は、３年９月末を予定しております。

災害復旧費の現年農地農業用施設災害復旧費でございますが、令和３年１月に入札が不調となり、年度内完成が見込めなくなったため、２，１７８万円を繰り越すものです。終期は、３年１１月末を予定しております。

現年公共土木施設災害復旧費でございますが、通行規制期間等に一部沿線住民との調整に不測の日数を要したため、４５０万８，０００円を繰り越すものです。終期は、３年８月末を予定しております。

続いて、１枚めくっていただきまして、第３表、地方債補正の追加と変更でございます。

総額で１，７２０万円の増額補正をしております。詳細につきましては、事項別明細書の中で御説明をいたします。

それでは、歳出の主なものから御説明いたしますので、３６ページをお開きください。また、お手元に補正予算の概要資料を用意いたしておりますので、併せて御覧いただけたらと思います。

全体を通しまして、人件費の関連費目につきましては、一般職の給与額や、年度中に変更が生じた諸手当の確定、共済組合追加費用及び退職手当組合特別納付金の確定によるものなどを計上しております。

総務費の財産管理費では、委託料といたしまして、本庁舎への移転に伴い、総合行政システム等移設業務委託料２２３万８，０００円を増額。青野山荘等のＰＣＢ処理に伴い、産業廃棄物処理業務委託料５８７万４，０００円を増額。工事請負費といたしまして、合併浄化槽等解体工事に伴い、本庁舎改修関連工事３７７万１，０００円を増額。積立金として、森林整備基金積立金等８９２万８，０００円を増額しております。

企画費の委託料といたしまして、コロナ禍の影響により地域留学推進事業委託料２５３万４，０００円を減額しております。

４０ページをお開きください。

定住対策費の負担金補助及び交付金として、空き家再生整備事業等の実績見込みに伴い、定住支援体制強化補助金３６４万４，０００円を減額。東京２３区からの移住実績に伴い、わくわく津和野生活実現支援事業移住支援金２００万円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、道の駅管理費のなごみの里管理費では、負担金補助及び交付金として、温浴施設照明器具取替等の修繕に伴い、なごみの里修繕工事負担金１７０万円を増額。シルクウェイにちはら管理費の負担金補助及び交付金として、空調設備改修工事の入札減等によるシルクウェイにちはら修繕工事負担金１２５万９，０００円を減額しております。

地方創生推進事業費のつわの暮らし推進課分では、委託料として公営塾業務委託料３００万円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、新型コロナウイルス感染症対応地方創生推進事業費のつわの暮らし推進課分では、借上料として津和野高校生徒分散生活用借上料３６９万６，０００円を減額。

１枚めくっていただきまして、医療対策課分では、繰出金として津和野共存病院の空調設備等施設改修に伴い、津和野町病院事業会計繰出金３，７９４万６，０００円を増額しております。

続いて、５６ページをお開きください。

民生費の社会福祉総務費では、繰出金として、国保、介護保険特別会計繰出金１，６０６万８，０００円を減額しております。

障がい者福祉費の扶助費として、実績見込みに伴い、障害者自立支援給付事業７５９万８，０００円を増額、１枚めくっていただきまして、自立支援医療給付事業１４６万６，０００円を増額、障がい児給付事業４３９万２，０００円を増額しております。

１枚めくっていただきまして、児童福祉総務費の負担金補助及び交付金として、実績見込みに伴い、施設型給付費等負担金８６７万円を増額、地域型保育給付費負担金１，５７１万６，０００円を増額しております。

１枚めくっていただきまして、児童措置費の扶助費として、実績見込みに伴い、児童手当４３２万円を減額しております。

続いて、６８ページをお開きください。

生活保護費の扶助費として、実績見込みに伴い、医療扶助等１，２３２万２，０００円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、衛生費の保健衛生総務費では、繰出金として水道事業会計への繰出金１８３万円を減額しております。

予防費の委託料として、実績見込みに伴い、予防接種委託料１６５万６，０００円を増額しております。

１枚めくっていただきまして、医療対策費の貸付金として、実績見込みに伴い、津和野町看護学生修学資金１０８万円を減額、繰出金として介護老人保健施設事業特別会計繰出金２，０８３万４，０００円を減額しております。

７６ページをお開きください。

塵芥処理費の負担金補助及び交付金として、基幹改修工事の入札減による鹿足郡不燃物処理組合負担金２３９万５，０００円を減額しております。

続いて、８２ページをお開きください。

農林水産業費の農業振興費では、負担金補助及び交付金として、実績見込みに伴い、新規就農者整備支援事業補助金１９７万６，０００円を減額しております。

農地費の負担金補助及び交付金として実績見込みに伴い、中山、長福地区及び堤田地区県営農業競争力基盤整備事業負担金１，９０４万７，０００円を減額しております。

続いて、８６ページをお開きください。

林業振興費の委託料として、森林所有者意向調査事業委託料１１０万円を減額、負担金補助及び交付金として、実績見込みに伴い、森林山村多面的機能発揮対策交付金１８９万５，０００円を減額、産業後継者育成基金交付金１２０万円を減額、津和野型森林作業道開設事業補助金６００万円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、有害鳥獣駆除等事業の負担金補助及び交付金として、実績見込みに伴い、有害鳥獣捕獲奨励事業費補助金１２７万４，０００円を増額しております。

１枚めくっていただきまして、商工費の商工振興費では、役務費として、実績見込みに伴い、誘客多角化事業情報発信、プロモーション広告料３９４万円を減額、委託料として、誘客多角化事業の実績見込みに伴い、観光イベントの実施、観光資源の磨き上げ事業委託料２６０万円を増額、１枚めくっていただきまして、負担金補助及び交付金として、コロナ禍の影響による事業未実施のため、夏まつり実行委員会補助金４５９万８，０００円を減額、創業予定変更による地域商業活性化支援補助金６００万円を減額しております。

観光費の負担金補助及び交付金として、コロナ禍の影響による事業未実施のため、観光協会補助金１１７万７，０００円を減額しております。

続いて、９６ページをお開きください。

土木費の土木総務費では、委託料として青原橋竣工式典の延期に伴い、会場設営委託料１０９万７，０００円を減額、繰出金として、津和野町下水道事業特別会計繰出金８７８万円を減額しております。

１００ページをお開きください。

道路維持の需用費として、車両修繕等に伴い修繕料１４１万９，０００円を増額、委託料として、除雪作業委託料３，４８２万３，０００円を増額、工事請負費として町道稲成丁線水路修繕工事５８９万円を増額しております。

道路新設改良費の笹ケ谷線ほか８路線では、工事請負費として道路改良工事費２１０万３，０００円を増額、１枚めくっていただきまして、補償、補填及び賠償金１１１万１，０００円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、道路長寿命化対策事業費の委託料として、実績見込みに伴い、長寿命化対策設計業務委託料１７４万９，０００円を減額、工事請負費として、旭橋長寿命化対策工事費等１，４１４万９，０００円を増額、負担金補助及び交付金として、実績見込みに伴い、唐人屋トンネル修繕負担金１，０００万円を減額しております。

続いて、１１０ページをお開きください。

住宅管理費の需用費として、給湯機器等の修繕料１２６万５，０００を増額、委託料として、実績見込みに伴い、小川団地ストック改善事業設計監理委託料１５７万円を減額、工事請負費として、実績見込みに伴い、小川団地ストック改善工事１，２６１万円

を減額、負担金補助及び交付金として、ヒワダハイツ３号館事業費確定に伴い、民間賃貸住宅建設支援事業補助金５７７万２，０００円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、消防費の災害対策費では、需用費として防災行政無線操作卓基盤交換等修繕料１０９万９，０００円を増額しております。

１枚めくっていただきまして、広域市町村圏事務組合消防費の負担金補助及び交付金として、精算に伴い、広域市町村圏事務組合消防費負担金５２８万３，０００円を減額しております。

１３６ページをお開きください。

教育費の安野光雅美術館費では、需用費といたしまして、学習棟エアコン等修繕料１１５万５，０００円を増額しております。

１４４ページをお開きください。

津和野城跡整備事業費の工事請負費として、実績見込みに伴い、城山整備工事費１，８４５万円を減額をしております。

続いて、１５０ページをお開きください。

災害復旧費の現年農地農業用施設災害復旧費では、工事請負費として事業費確定に伴い、畑迫地区、木部地区での災害復旧工事費５３６万８，０００円を減額しております。

１５４ページをお開きください。

公債費の利子では、償還金利子及び割引料として、償還額の確定に伴い、長期債利子６２０万円を減額をしております。

それでは、歳入の主なものを御説明いたしますので、１２ページにお戻りください。

地方交付税では、普通交付税を１億２４６万８，０００円計上しております。

分担金及び負担金は、農林水産業費分担金として、中山、長福、堤田地区の県営農業競争力基盤整備事業地元分担金９４０万８，０００円を減額、災害復旧費分担金として、畑迫、木部地区での災害復旧工事費の国庫負担金の増額に伴い、農地農業用施設災害復旧費分担金２０３万２，０００円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、使用料及び手数料では、衛生手数料として、ごみ袋販売等３１９万８，０００円を減額しております。

国庫支出金の民生費国庫負担金では、障害者自立支援給付費の実績見込みに伴い、障害者自立支援給付費国庫負担金２０７万１，０００円を増額、生活保護費の実績見込みに伴い、生活保護費負担金９２４万４，０００円を減額、児童手当の実績見込みに伴い、児童手当負担金３４９万５，０００円を減額、障害児給付費の実績見込みに伴い、障害児給付費国庫負担金１４１万円を増額、１枚めくっていただきまして、各保育園の施設型給付事業等の実績見込みに伴い、子どものための教育・保育給付費負担金２，１９５万９，０００円を増額しております。

災害復旧費国庫負担金では、事業費確定による畑迫地区、木部地区での災害復旧工事に伴い、災害復旧費負担金３５７万２，０００円を増額しております。

国庫補助金の総務費国庫補助金では、公営塾等の事業費の実績見込みに伴い、地方創生推進交付金２１１万５，０００円を減額、地域留学推進事業費の実績見込みに伴い、地方創生支援事業費補助金２５４万９，０００円を減額しております。

土木費国庫補助金では、実績見込みに伴い、小川団地ストック改善事業４５７万７，０００円を減額、橋梁修繕事業等の道路メンテナンス事業費補助金への組替えによる社会資本整備総合交付金１億３，５１２万１，０００円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、教育費国庫補助金では、実績見込みに伴い、城跡石垣修理工事費補助金１，０４２万２，０００円を減額、商工費国庫補助金では、実績見込みによる誘客多角化コンテンツ造成実証事業費補助金５１２万円を減額しております。

県支出金の民生費県負担金では、障害者自立給付費の実績見込みに伴い、障害者自立支援給付費負担金１０３万６，０００円を増額、各保育園の施設型給付事業等の実績見込みに伴い、子どものための教育・保育給付費負担金４７４万９，０００円を増額しております。

県補助金の総務費県補助金では、交付決定による新地方バス運行対策費交付金２３６万８，０００円を増額、１枚めくっていただきまして、空き家再生整備事業等の実績見込みに伴い、しまね定住推進住宅整備支援事業補助金５４２万２，０００円を減額、わくわく津和野生活実現支援事業の実績見込みに伴い、わくわく島根生活実現支援事業費補助金１５０万円を減額しております。

民生費県補助金では、実績見込みに伴い、重度訪問介護等の利用促進にかかる市町村支援事業費補助金１８２万２，０００円を減額しております。

農林水産業費県補助金では、農業委員の活動実績分による農業委員会交付金１３３万円を減額、実績見込みに伴い、新規就農者整備支援事業費補助金１９７万６，０００円を減額しております。

商工費県補助金では、創業予定変更による地域商業活性化支援事業補助金３００万円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、土木費県補助金では、ヒワダハイツ３号館事業費確定に伴い、しまね定住推進住宅整備支援事業費補助金４３２万９，０００円を減額しております。

教育費県補助金では、実績見込みに伴い、城跡石垣修理工事費補助金３４７万４，０００円を減額しております。

繰入金では、財政調整基金繰入金１億８，２００万円を減額、津和野町観光振興基金繰入金１３５万円を減額、地域医療推進基金繰入金２，２７３万１，０００円を減額、１枚めくっていただきまして、津和野町まちづくり基金繰入金１００万円を減額しております。

諸収入の雑入では、健康福祉課分として過年度分障害者自立支援給付費国庫負担金２０１万円を増額しております。

町債では、総務債の一般単独事業債として、本庁舎改修関連工事等に伴い、合併特例２９０万円を増額、過疎対策事業債としてお試し暮らし住宅、左鐙になりますけれども、事業費の確定に伴い、定住促進団地整備事業２７０万円を減額、町営バス購入に伴い、自動車・雪上車４９０万円を減額しております。

衛生費の過疎対策事業債として、廃棄物処理施設整備事業の入札減に伴い、廃棄物処理施設整備事業２４０万円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、農林業債の辺地対策事業債として、中山、長福地区県営農業競争力基盤整備事業の実績見込みに伴い、農林漁業経営近代化施設整備事業６７０万円を減額、過疎対策事業債として、津和野ブランド農産物推進事業の実績見込みに伴い、過疎地域自立促進特別事業１００万円を減額、堤田地区県営農業競争力基盤整備事業の実績見込みに伴い、農林漁業経営近代化施設整備事業３３０万円を減額しております。

商工債の過疎対策事業債として、商工業活性化支援事業の実績見込みに伴い、過疎地域自立促進特別事業１３０万円を減額しております。

土木債の公営住宅建設事業債として、小川団地ストック改善工事等の実績見込みに伴い、公営住宅建設事業１，０４０万円を減額、一般単独事業債として、町道稲成丁線水路修繕工事に伴い合併特例６１０万円を増額、過疎対策事業債として、橋梁修繕事業等の道路メンテナンス事業への組替えに伴い、道路橋梁整備事業３９０万円を増額しております。

消防債の緊急防災減災事業債では、消防積載車の入札減に伴い、消防施設整備事業１７０万円を減額しております。

教育債の過疎対策事業債として、津和野城跡整備事業費の実績見込みに伴い、地域文化振興事業６９０万円を減額、ＩＣＴ機器整備事業基金積立てに伴い、過疎地域自立促進特別事業４９０万円を増額しております。

災害復旧債の農林水産業施設災害復旧債として、事業費確定に伴い、畑迫地区、木部地区での農林水産施設災害復旧事業６１０万円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、徴収猶予特例債として、新型コロナウイルス感染症の影響による地方税法の改正に伴い、徴収猶予特例債３，５３０万円を新たに計上しております。

減収補填債として、新型コロナウイルス感染症の影響による減収に伴い、減収補填債１，３２０万円を新たに計上しております。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　それでは、議案第３０号令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）について御説明をいたします。

歳出より御説明いたしますので、１２ページを御覧ください。

諸支出金の償還金４４万円増は、過年度分国保保健事業等の確定による返還金であります。

続いて、歳入について御説明いたしますので、８ページを御覧ください。

一般会計繰入金の保険基盤安定繰入金６９万２，０００円減。財政安定化支援事業繰入金５３２万２，０００円減。その他一般会計繰入金８５万７，０００円減は、確定によるものであります。

その下、雑入の第三者納付金１１４万４，０００円増は、確定によるものであります。

以上であります。

続きまして、議案第３１号令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第４号）について御説明をいたします。

歳出より御説明をいたします。１２ページを御覧ください。

総務費の一般管理費７３万４，０００円減は、実績見込みによる旅費の１０万４，０００円減、需用費の３万６，０００円減、委託料の５９万４，０００円減によるもの。１枚めくりまして、認定調査費２０６万５，０００円減は、委託料の実績見込みによる１８６万円減、負担金の確定２０万５，０００円減によるものであります。

１枚めくりまして、保険給付費の居宅介護サービス給付費１２０万円増、地域密着型介護サービス給付費５００万円増、施設介護サービス給付費３，６００万円減、居宅介護福祉用具購入費２６万円増。１枚めくりまして、居宅介護住宅改修費４１万円減。１枚めくりまして、介護予防サービス給付費６５万円増、介護予防福祉用具購入費１５万円減、介護予防住宅改修費２２０万円減。１枚めくりまして、高額介護サービス等費１００万円減。１枚めくりまして、高額医療合算介護サービス費１００万円減は、それぞれ実績見込みによるものであります。

１枚めくりまして、介護給付費準備基金積立金１，０００円増は、基金の利息によるものであります。

１枚めくりまして、地域支援事業費の介護予防生活支援サービス事業費２００万円増は、実績見込みによるものであります。

１枚めくりまして、一般介護予防事業費１０３万円減は、実績見込みによる報償費３万３，０００円減、旅費２６万１，０００円減、委託料７３万６，０００円減によるものであります。

１枚めくりまして、包括的・継続的ケアマネジメント事業費２１５万円減は、実績見込みによる職員手当等３３万９，０００円減、旅費３６万５，０００円減、委託料１４４万６，０００円減によるもの。その下、任意事業費４万７，０００円減は、実績見込みによる役務費５万３，０００円増、負担金補助及び交付金１０万円減によるもの、その下、認知症総合支援事業費３７万３，０００円減は、実績見込みによる報償費３２万円減、委託料５万３，０００円減によるもの。１枚めくりまして、地域ケア会議推進事業費２７万円減は、実績見込みによる報償費の減額によるものであります。

１枚めくりまして、諸支出金の第１号被保険者保険料還付金１万８，０００円増は、新型コロナウイルス感染症の影響による減免額の過年度還付金によるものであります。

続いて、歳入に移りますので、８ページを御覧ください。

第１号被保険者介護保険料１１５万６，０００円増は、実績見込みによるものであります。

その下、国庫支出金の介護給付費負担金８３６万１，０００円減、国庫補助金の調整交付金７８万８，０００円増、介護予防日常生活支援総合事業交付金２４万３，０００円増、包括的支援事業任意事業交付金１７８万７，０００円減、保険者機能強化推進交付金２２９万９，０００円増、介護保険保険者努力支援交付金２２６万２，０００円増。その下、支払基金交付金の介護給付費交付金１，８４３万６，０００円減。介護予防日常生活支援総合事業交付金２６万２，０００円増。その下、県支出金の介護給付費負担金５１５万円減、介護予防日常生活支援総合事業交付金１２万２，０００円増。１枚めくりまして、包括的支援事業・任意事業交付金８９万４，０００円減は、それぞれ確定、もしくは確定見込みによるものであります。

その下、財産収入の利子及び配当金２，０００円増は、基金の利息によるもの。

その下、繰入金の一般会計繰入金９１９万７，０００円減は、確定見込みによるものであります。

その下、介護保険準備基金繰入金１，４８０万円減は、実績見込みによるものであります。

以上であります。

それでは、続きまして議案第３２号令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）について御説明いたします。

歳出より説明いたしますので、１０ページを御覧ください。

後期高齢者医療広域連合納付金２８０万２，０００円減は、保険料の実績見込みによるものであります。

１枚めくりまして、諸支出金の他会計繰出金２２万２，０００円増は、後期高齢者健康診査負担金の実績見込みによるものであります。

続いて、歳入に移りますので、８ページを御覧ください。

後期高齢者医療保険料２８０万２，０００円減、その下、諸収入の衛生費受託事業収入２２万２，０００円増は、それぞれ実績見込みによるものであります。

以上であります。

○議長（沖田　　守君）　環境生活課長。

○環境生活課長（清水　浩志君）　それでは、議案第３３号を御説明いたします。令和２年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第４号）でございます。

４ページを御覧ください。第２表、繰越明許費でございます。

下水道事業費の営業費でございますが、処理場沈殿池の修繕にあたり、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、緊急事態宣言の適用地域からの事業者来庁を控えていただいたため、着工までに不測の日数を要したことから、年度内完了が困難となり、６３０万３，０００円を繰り越すものでございます。終期は、令和３年９月末を予定しております。

また、施設整備費でございますが、下水道管布設工事発注にあたり、工事区域内で狭小箇所が多く、工事車両通行ルートの検討及びＪＲ近接部があるため、工事施工計画作成後にＪＲと協議を実施する必要があり、不測の日数を要したことから、年度内完了が困難となり、９，２７１万３，０００円を繰り越すものでございます。終期は、令和３年１１月末を予定しております。

続きまして、５ページを御覧ください。

第３表、地方債補正の変更でございます。４４０万円の減額補正を行っております。なお、詳細につきましては、後ほど事項別明細書の中で御説明をいたします。

続きまして、予算書１２ページの歳出を御覧ください。

営業費の業務費でございます。給料、職員手当等共済費の人件費につきましては、職員数の減に伴い、合計２２７万円を減額しております。

旅費につきましては、実績に伴い２０万円を減額しております。

続きまして、管渠費でございます。需用費につきましては、光熱水費、修繕費について実績に伴い７６万円を減額しております。

委託料につきましては、管路点検調査業務の入札減に伴い１０２万円を減額しております。

続きまして、処理場費でございます。需用費につきましては、光熱水費、修繕料について、実績に伴い９０万円を減額しております。

委託料につきましては、汚泥処理業務委託料、汚泥の発生量が減少したため１００万円を減額、施設管理業務委託料は、緊急対応等の実績に伴い、２３万７，０００円を増額、委託料全体で７６万３，０００円を減額しております。

１ページめくっていただきまして、施設整備費でございます。旅費につきましては、実績に伴い１０万８，０００円を減額しております。

需用費につきましては、公用車の燃料費について、実績に伴い１０万円を減額しております。

委託料につきましては、業務範囲の増加に伴い、下水道詳細設計業務委託料４４１万７，０００円を増額、入札減に伴い、現場技術業務委託料１４３万円を減額、委託料全体で２９８万７，０００円を増額しております。

工事請負費につきましては、町単独工事であります公共ますの設置工事の入札減に伴い、１０万円を減額、津和野処理区管渠工事の入札減に伴い２９８万７，０００円の減額、工事請負費全体で３０８万７，０００円を減額しております。

補償、補填及び賠償金につきましては、水道管の移設に伴う管渠工事を翌年度工事としたため、水道管の移設補償費４００万円を減額しております。

１ページめくっていただきまして、公債費の利子でございます。

償還金利子及び割引料につきまして、償還金利子の確定に伴い、４０万円を減額しております。

戻りまして、１０ページの歳入を御覧ください。

分担金、負担金の受益者負担金につきまして、加入者の増が見込まれますので、７０万５，０００円を増額しております。

下水道使用料につきまして、収益の増が見込まれますので、１８５万４，０００円を増額しております。

一般会計繰入金につきましては、８７８万円を減額しております。

土木債につきましては、事業費の減に伴い、４４０万円を減額しております。

以上でございます。

続きまして、議案第３４号を御説明いたします。令和２年度津和野町農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）でございます。

予算書１０ページの歳出を御覧ください。

営業費の業務費でございます。需用費につきまして、修繕料としてブロワー故障による交換修繕のため７７万円を増額しております。

戻りまして、８ページの歳入を御覧ください。

農業集落排水使用料につきましては、収益の増が見込まれますので、４万２，０００円を増額しております。

一般会計繰入金につきましては、営業費の増額に伴い、７２万８，０００円を増額しております。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　教育次長。

○教育次長（齋藤　道夫君）　それでは、議案第３５号について御説明いたします。令和２年度津和野町奨学基金特別会計補正予算（第１号）でございます。

それでは、歳出のほうから御説明いたしますので、１０ページを御覧ください。

津和野町育英奨学基金の貸付金につきましては、当初新規貸付けについて６名分を、大学生の限度額予算措置をしておりましたが、うち２名分が高校生への貸付けとなったため、その差額として２４万円を減額するものでございます。

また、積立金の３９万４，０００円の増額につきましては、繰上げ償還に伴うものでございます。

次に、歳入を御説明しますので、８ページにお戻りください。

繰入金の奨学基金繰入金の２４万円の減額は、貸付金の減額に伴うものでございます。

続いて、諸収入の貸付金元利収入の３９万４，０００円につきましては、歳出で御説明しましたとおり、繰上げ償還に伴うものでございます。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。

○医療対策課長（下森　　定君）　議案第３６号令和２年度津和野町診療所特別会計補正予算（第２号）を御説明いたします。

歳出の１０ページ、１１ページを御覧ください。

総務費、一般管理費、負担金補助及び交付金１２０万円の減額分は、医薬品等の削減によるものでございます。

戻っていただきまして、歳入の説明を申し上げます。８ページ、９ページを御覧ください。

外来収入においては、１日当たり患者数２８人、単価６，９２５円の実績見込みとして、２８９万円の減額となります。

保健予防活動収入３４６万５，０００円の増額分は、インフルエンザ予防接種増によるものであります。

主治医意見書、診断書、その他収入として４１万２，０００円を減額しております。

雑入の１８万２，０００円の減額分は、日原地域の住宅使用料によるものであります。

県補助金としまして、２２万５，０００円の増額分は、訪問診療支援費事業費補助金であります。

以上でございます。

続きまして、議案第３７号令和２年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第２号）について説明をいたします。

歳出の１０ページ、１１ページを御覧ください。

介護老人保健施設事業費の負担金補助及び交付金９９６万８，０００円の減額分は、人件費によるものが主な要因であります。

ページをめくっていただきまして、１２、１３ページをお開きください。

訪問看護事業費４９５万円の減額は、人件費削減によるものであります。

戻っていただきまして、歳入の説明を申し上げます。８ページ、９ページを御覧ください。

介護老人保健施設事業費収入については、実績見込みによる金額をそれぞれ計上しております。

入所者療養費収入においては３０．１人の実績で、当初計画より２．１人増、短期入所者療養費収入は、１１．７人の実績で計画より２．３人の減となりました。

通所者療養収入においては、通所介護１３．６人の実績で計画より０．３人の減、通所予防は、月４６人の実績で、計画より７人の増となりました。

室料収入４７万1，０００円食材料費収入１４２万円、その他収入３７万7，０００円の増加区分の要因は、入所者数の増加によるものであります。

訪問看護収入の４９５万5，０００円の減額分についても、利用者減少に伴う実績見込みを計上しております。

地域医療推進基金繰入金として、２，０８３万4，０００円を減額しております。

県補助金５０万円の増額分は、訪問看護ステーション支援費補助金であります。

以上でございます。

続きまして、議案第３８号令和２年度津和野町病院事業会計補正予算（第４号）について御説明をいたします。

予算書の２ページをお開きください。

企業債の変更で、３，７５０万円の限度額となり、２０万円の減額となります。詳細においては、資本的予算において御説明をいたします。

ページ、めくっていただきまして、５ページを御覧ください。

下段の収益的支出の医業費用の経費の交付金７，０６１万2，０００円は、実績見込みによる増額分であります。空調改修費増額分、新型コロナウイルス従事者交付金等によるものであります。

上の段の収益的収入を御覧ください。医業収益の入院収益、外来収益、その他医業収益は、それぞれ実績見込額によるものであります。入院収益においては、当初計画では１日当たり３８．５人、単価３万2，０００円を見込んでおりましたが、見込みでは、１日当たり３８．６人、単価３万3，０９２円の単価となりました。常勤医師２名の赴任に伴って、入院患者が増加した結果、１，４１９万3，０００円の増額計上となりました。

外来収益は、１日当たり７７人の計画でありましたが、現実には６８．１人となり、１，６７２万6，０００円の減収となりました。

その他医業収益２６１万5，０００円の増額は、公衆衛生活動収益のインフルエンザ予防接種によるものです。

医業外収益の負担金・交付金３，７９２万2，０００円の増額は、空調設備、陰圧式空気清浄機購入等の増額によるものであります。

その他医業外収益６６万円の増額は、診断書、主治医意見書、おむつ代等によるものであります。

補助金３，１９４万8，０００円の増額分は、コロナ従事者慰労交付金、医療介護相互確保促進基金事業補助金等の実績見込みによるものであります。

ページをめくっていただきまして、６ページの資本的支出を御覧ください。

資本的支出の建設改良費１９万7，０００円の減額分は、機械購入の非常用発電機等の入札による減額分であります。

資本的支出の企業債２０万の減額は、機器購入に伴うものであります。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　環境生活課長。
○環境生活課長（清水　浩志君）　それでは、議案第３９号を御説明いたします。令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第４号）でございます。
　８ページ下段、収益的収入及び支出の支出を御覧ください。
　水道事業費用、営業費用の原水及び浄水費でございます。燃料費につきましては、実績に伴い１０万円を減額しております。修繕費につきましては、浄水場濁度計修繕費４４万円を増額しております。
　続きまして、排水及び給水費でございます。燃料費につきましては、実績に伴い１０万円を減額しております。修繕費につきましては、漏水修理露地配水池発信機修繕等により、２４８万５，０００円を増額しております。
　工事請負費につきましては、公共下水道工事に伴う配水管移設工事の施工年度変更に伴う減額、青原橋架け替え工事に伴う配水管移設工事、青原橋配水管国道側接続工事、曽庭橋橋梁添架水道管架け替え工事等の額の確定により、工事請負費全体で８６４万２，０００円を減額しております。
　続きまして、総掛費でございます。使用料につきましては、発電機のリース料給水タンクの賃借料として１３万７，０００円を増額しております。
　負担金につきましては、広域化に向けた事業の中止に伴い、１０万円を減額しております。
　営業外費用の支払利息及び企業債取扱い諸費でございます。
　企業債利息として、今年度分の利子確定により、１８万６，０００円を減額しております。
　上段の収入を御覧ください。営業収益、その他営業収益につきましては、新規加入が増加したことにより、上水道への加入分担金１６万５，０００円を増額しております。
　営業外収益の一般会計補助金につきましては、営業費用の減額に伴い、１８３万円を減額しております。
　その他雑収益につきましては、公共下水道工事に伴う配水管移設補償費等４４０万円を減額しております。
　特別利益、その他特別利益につきましては、電柱敷地使用料１，０００円を減額しております。
　以上でございます。
○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。
　以上で提案理由の説明を終わります。
　ここで、１１時１５分まで休憩といたします。
午前 11 時 09 分休憩
……
午前 11 時 15 分再開

○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、会議を再開します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３８．町長施政方針

○議長（沖田　　守君）　日程第３８、ただいまから町長の施政方針をいただきたいと思います。

町長。

○町長（下森　博之君）　令和３年第３回津和野町議会定例会の開会に当たり、令和３年度予算案をはじめとする諸議案の説明に先立ちまして、町政運営の基本的な考え方と主要施策についてその概要を申し述べ、町議会をはじめとする町民の皆様方の深い御理解と温かい御支援をお願いする次第であります。

世界的な流行となった新型コロナウイルス感染症への対応を迫られて以来、１年以上が経過しようとしておりますが、いまだ収束の兆しが見えません。この間、感染症対策として町民の皆様には活動の自粛をはじめ、様々なお願いをしてまいりましたが、現時点において町内で感染者が発生していない事実は、皆様の深い御理解と御協力のおかげであり、まずもってこの場にて心から感謝を申し上げます。こうした中で、いよいよワクチンの接種が開始されますが、混乱が生じることなく、適正に実施するよう緊張感を持って対処してまいります。また、感染症が町内経済に与える影響は深刻なものとなっており、しばらくこの状況は続くと見込んでおります。今後においても、国や県との連携を図りながら、出来得る限りの経済支援策を講じてまいりたいと考えております。

毎年のように全国で頻発する災害でありますが、昨年も県内江の川流域が深刻な豪雨被害を受けております。防災・減災対策は我々行政としての最重要の使命として、その強化に取り組んでいかなければなりません。防災拠点となる本庁舎は改修移転を行い、本年５月より業務を開始する予定であり、津和野庁舎については、災害時の防災機能強化の観点を十分に取り入れながら、早期完成に向け進めてまいります。

同時に、国においては、防災・減災・国土強靭化のための５か年加速化対策として１５兆円の予算措置をしていただくとともに、コロナウイルス禍において、心配しておりました令和３年度の地方交付税総額についても前年度を０．９兆円上回る１７．４兆円を確保していただき、ひとまず安堵しているところであります。こうした財源を活用し、本町の国土強靭化にかかわるハード整備を確実に進めるとともに、現在、準備を進めている国土地理院との連携協定をはじめ、ソフト対策についても強化を図り、町民の皆様の生命、財産を守ることに直結する防災・減災対策を進めてまいりたいと思います。

一方で、本町は平成１７年の合併以来、徹底した行財政改革と財政の健全化に取り組んでまいり、主要な財政指標のうち実質公債費比率は引き続き改善するなど着実にその成果を見るに至っておりますが、今後も第３次津和野町行財政改革大綱実施計画に基づいた更なる改革に努めるとともに、地方交付税や過疎債の確保に取り組み、財政の健全化とまちづくりのバランスの取れた行政運営を進めてまいります。

そして、資源の効率的、効果的な配分を意識しながら、少子高齢化に対応した福祉施策、病院問題などの保健医療対策、地域活力を生み出す源となる商工観光や農林業の振興、津和野ならではの特色ある教育、文化の保存・活用、さらには道路や上下水道をはじめとする社会基盤整備など、本町が抱える諸課題の解決と地域振興に取り組んでまいりたいと考えております。

以上のような展望の下に、令和３年度における本町の主要な施策等について申し述べさせていただきます。

本町の財政状況についてであります。

平成３１年度一般会計の歳入歳出差引額は８，９２４万円、実質収支は６，４７１万円の黒字でありました。経常収支比率は９１．８％と対前年度比０．９ポイントの増となり、依然として高い状況が続いております。また、主要財政指標である実質公債費比率につきましては９．８％と対前年度比０．４ポイントの減となりましたが、全国的にみますと、依然として高い水準であります。

地方債につきましては、有利な地方債を活用するとともに新規抑制に努めてきたところですが、前年度比２，１７３万５，０００円の増となり、平成３１年度末には１２８億４，７８４万３，０００円となりました。

基金につきましては、財政調整基金及び減債基金とで前年度比１，２２５万９，０００円の減となり、平成３１年度末には１７億１，４３７万１，０００円となったところであります。

自主財源である税収につきましては、新型コロナウイルスの影響による減額が見込まれ、町税全体では前年度比１，４４９万２，０００円、約２．３％の減額を見込んでおります。

また、本町は歳入の約４６．３％を占める地方交付税をはじめとする依存財源に大きく左右される状況にあります。令和２年度をもって平成の市町村合併による普通交付税における合併特例加算分の段階的な縮減措置が終了を迎えるなど、今後も厳しい状況が続くものと予想されます。本町の均衡ある発展のためにも、自主財源である町税をはじめとする歳入の確保に努力してまいります。

一方、歳出については、他会計への繰出金が減少いたしましたが、少子高齢化の進展による社会保障費の増大、公共施設等の長寿命化、文化財整備等の投資的経費が増加するなど、昨年に引き続き財源不足分を基金で充当する結果となりました。さらなる行財政改革を進め、限られた財源の有効活用に努めつつ、事業の緊急性や必要性などを勘案し、優先順位づけをした中で事業を展開してまいりたいと考えております。

本年度予算の基本的編成方針についてでございます。

令和３年度当初予算編成におきましては、自主財源の根幹をなす町税等では、新型コロナウイルスの影響による減収など、一般財源そのものの増収が見込めないことから、

引き続き対前年度比マイナスシーリングの一般財源枠配分方式を採用した予算編成といたしました。

なお、配分枠予算を堅持しつつ重点施策を具現化するために、事業費や事務量の増減要因を十分に検証するとともに、さらなる経費の節減に努め、後年度負担にも配慮しながら基金や町債を効果的に活用するなど、限られた財源の中でより効率的な行政執行と財政運営の確立に徹する予算編成を基本的な考え方としたところであります。

こうして予算編成を進めた結果、令和３年度の一般会計予算額は８４億２，１００万円で、前年度当初予算額９１億７，７００万円に対し７億５，６００万円の減額、率にして約８．２％減、一般財源総額では５５億１，６６７万２，０００円となり、前年度一般財源総額５２億９，６９９万２，０００円に対し２億１，９６８万円の増額、率にして約４．１％の増となっております。

行財政改革の推進についてでございます。

本町の行財再改革につきましては、令和３年度より第４次津和野町行財政改革大綱実施計画に基づき、町税等の収納率の向上など行財政基盤の強化と効率的な行政経営に努めてまいります。

令和２年度は、ふるさと納税寄附額が過去最高となる６，０００万円を超えました。令和２年度においては、地域おこし企業人２名を迎え、情報発信及び地域資源の魅力化を進めることでふるさと納税制度の体制強化を図り、津和野高校魅力化及び文京区こども宅食支援の取り組みをガバメントクラウドファンディングで行うなど、積極的なふるさと納税制度の活用に努めてまいりました。令和３年度においても、引き続き積極的にふるさと納税制度の活用を図ってまいります。

行政評価制度については庁内で実行委員会を組織し、第２次津和野町総合振興計画の進捗管理等事業の検証を推進してまいります。

住民協働のまちづくりの推進についてであります。

住民協働のまちづくりの推進につきましては、１２地域で組織されているまちづくり委員会との協働により、地域課題解決のための取り組みを進めております。まちづくり委員会の発足から９年を経て、令和３年度に１０年目を迎えます。令和３年度につきましても、それぞれの地域の特性を生かした活動や課題解決に向けた活動により、引き続き安心して住み続けられるまちづくりを住民の皆様と協働して推進してまいります。

また、平成３０年１１月から津和野町買い物支援センターを拠点に取り組んでおります高齢者等見守り及び買い物支援サービスにつきましては、令和３年度も引き続き地域課題解決に向けた取り組みとして、関係部署と連携を図りながら町民ニーズを踏まえたサービスの向上に努めてまいりたいと考えております。

男女共同参画社会の実現につきましては、平成３０年度に策定した第２次津和野町男女共同参画計画に基づき、数値目標に対する進捗状況の検証を行い、目標達成を目指します。また、引き続き島根県男女共同参画サポーターと連携し、地域や若い世代への啓

発活動を充実させ、男性も女性も共に対等なパートナーとして互いの人権を尊重し、個性と能力を発揮することができる社会の実現を目指します。

税収対策についてであります。

令和３年度当初予算では町税６億２，７８４万４，０００円を計上いたしております。その内訳は、市町村民税１億９，９８１万６，０００円、固定資産税３億６，７５９万３，０００円、軽自動車税ほかは６，０４３万５，０００円であります。

令和２年度当初予算と比較すると、市町村民税については新型コロナウイルス感染症等の影響による事業収益減により２，２７６万３，０００円、１０．２％の減額を見込んでいます。

固定資産税については、新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度徴収猶予を行った３，２２１万６，０００円が今年度納付される見込みであり、１，２３６万２，０００円、３．５％の増額となっております。

軽自動車ほかについては、新型コロナウイルス感染症等の影響等もあり、昨年より４０９万１，０００円、６．３％の減額を見込んでおります。

町税の賦課、徴収につきましては、適正な課税、厳格な徴収に努めてまいります。また、滞納整理につきましては、公正・公平な税務行政を図るためにも法的な措置も含めて真摯な姿勢で取り組み、貴重な財源である町税の収納率の向上を図ってまいりたいと考えております。

住民保護行政についてであります。

社会環境の変化に伴い、日常生活の利便性が向上している一方で、悪質商法や詐欺の被害が後を絶ちません。近年、消費者を狙う悪質商法の手口は複雑かつ巧妙化しております。こうした状況を受けて、町民の方々が被害者とならないよう、的確な情報提供することにより消費者意識の向上を図るとともに、安全で安心した消費生活が送れるよう、消費者の権利の尊重と自立の支援に努めてまいります。

同和問題をはじめとする人権問題は、人類普遍の原理である人間の自由と平等に関する問題であり、憲法によって保障された基本的人権にかかわる重要な問題です。差別の現実に学び、同和問題をはじめとするあらゆる人権課題の根絶を目指し、それぞれの人格や個性の違いを尊重し合い、真に一人一人の人権が尊重される差別のない心豊かで住みよいまちづくりに努めます。

そのためには、関係諸団体との連携を深め、人権感覚を高めるための啓発活動を中心に、総合的、継続的な取り組みを行い、知識から認識へ、そして、行動できる人材の育成に努めてまいります。

広域行政の推進についてでございます。

広域行政につきましては、圏域内において、いずれの自治体も人口減少問題が喫緊の課題となっており、ますます多様化する住民ニーズに的確に対応する必要があります。今後も各組織の業務の円滑な運営と効率化が図られるよう、益田圏域及び山口県央連携

都市圏域の関係市町と意思疎通を図りながら、一層の推進に努めてまいりたいと考えております。

また、平成３０年夏から秋にかけて益田圏域を舞台として撮影が行われた映画「高津川」は、令和２年４月から東京、名古屋、大阪で全国公開が予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により延期となっております。改めて公開日が決まった折には、この地域の自然や人々の暮らし、これまで培われてきた郷土の文化などが全国の皆様に注目される機会となることから、全国公開に向け、益田圏域一体となって取り組んでまいります。

また、令和３年度から２年間、石見観光振興協議会に本町より職員を１名派遣し、広域的な観光振興を図るとともに、人材育成にも取り組んでまいります。

総合的なまちづくり施策の展開についてでございます。

本町のまちづくり施策に関しましては、第２次津和野町総合振興計画にのっとり、人と自然に育まれ、温もりのある交流のまちづくりを実現するため、引き続き町民の一体感醸成を図りながら、住民参加の協働のまちづくり体制を整備し、諸施策に取り組んでまいりたいと考えております。

なお、令和３年度におきましては、第２次津和野町総合振興計画における前期基本計画の計画期間が終了することから、令和８年度までの５年間の後期基本計画を策定することとしております。

また、平成３１年度に策定をした第２期まち・ひと・しごと創生津和野町総合戦略に基づき、引き続き人口減少問題に対応した施策の展開を図ってまいりたいと考えております。

昨年は国勢調査が行われております。その結果がまだ判明しておりませんが、これまでの人口動態の状況を見る限り、人口減少の改善については厳しい数値が出るものと予測しております。一方で、第１期の総合戦略に基づいて取り組んできた津和野高校魅力化は、全国から注目をいただくほどに重要な成果が出てきております。現在、その成果をさらに発展させるべく、０歳児からのひとづくり事業として、幼児期から小中高までの連携したふるさと教育を第２期の総合戦略の柱の一つとして掲げ、財団法人の設立とコンソーシアムの構築等に取り組んでいるところであります。

今後は、つわの暮らし推進課内に０歳児からのひとづくり推進室を設置し、一層の取り組みの強化を図りながら、津和野で学ぼうをテーマに、Ｕターンや教育移住を推進してまいります。本町の人口減少のペースを鑑みれば、その対策は喫緊の課題と認識しながらも、教育の町・津和野といわれた歴史に照らし合わせて、本町が取り組むにふさわしい特色ある定住対策の柱と信じており、信念を持って着実の成果を出してまいりたいと考えておりますので、御理解をいただきますようよろしくお願いいたします。

以下、第２次津和野町総合振興計画に準じて、施政方針や具体的施策等について述べさせていただきます。

まず、基本目標１、ふるさとの自然を愛し住みよい環境をつくるまちづくり。

自然環境についてでございます。

自然環境を守り、自然と共生した生活を営むことは津和野町の魅力を高め、重要な定住要件となるとともに、後世にすばらしい財産を残す観点からも重要であり、継続的な活動が大切であります。令和３年度におきましても、引き続き再生可能エネルギーの利用促進等を図りたいと考えております。

地球温暖化対策につきましては、二酸化炭素削減に向けて事業所や住宅における日々の電気や燃料消費量の節減、４Ｒ、リフューズ、リデュース、リユース、リサイクルの取り組みによるごみの減量化や資源化が重要であります。そのため、二酸化炭素排出実質ゼロを長期目標とし、目標達成のため、より一層の取り組みを推進してまいりたいと考えております。また、津和野町環境パートナーシップ会議を中心として、町民の皆様に行動の輪が広がり、実践していただけるよう推進してまいります。

まち並みの整備についてであります。

歴史的風致維持向上事業につきましては、津和野城下町を中心とした重点区域内において、ＪＲ津和野駅周辺整備事業を進めるため、駅前ロータリーの整備工事を継続し、デジタルサイネージによる情報案内機能も附属した津和野駅舎改修工事、展望スペースつきバリアフリートイレ設置工事に着手いたします。

また、稲成丁については、河川広場整備に次ぎ、下水道、水路補修の竣工を待ち、舗装の美装化を進め、殿町から続く表参道のイメージを強化いたします。

本年度、実証実験を行ったシェアサイクルについては、その結果を踏まえ、電動アシスト自転車の充電機能を持ったステーションを城下町地区に複数ポイント整備いたします。

一方、見晴らし広場整備事業として、国道９号線沿いのホテル跡廃屋の除去について実施設計を進め、解体工事に着手します。

城山整備事業については、各課を横断する城山整備プロジェクトチームにおいて、広葉樹植栽周辺の下刈り、現在進行中であるトイレ新設工事を新年度早々に終え、事業全体の竣工を迎える予定です。

景観保全・景観づくりにおきましては、引き続き町景観計画に基づき、町内各地域の特性を反映した景観の保全・継承や身近な景観づくりを推進いたします。

環境衛生についてであります。

益田圏域共通の大きな財産であり観光資源でもある高津川が、２０１９年の一級河川水質調査結果で６年ぶりに水質日本一に輝いたことは、水質浄化に取り組まれておられる流域住民や自治体にとっては誠に喜ばしいことであり、励みになっているところでもあります。高津川流域の河川をより一層きれいで親しみを持ってもいただける川として未来の人々に伝えていくため、流域全体で水質浄化やごみの不法投棄に対して、住民の皆様と連携して取り組みを進めてまいります。

その方策として津和野地区においては、下水道整備事業による供用開始区域の拡張、下水道認可区域外地区においては、合併処理浄化槽設置に対する補助事業の推進、また、水質浄化活動や環境保全に取り組んでおられる住民、団体への支援を行ってまいります。

しかしながら、津和野地区の下水道への接続率は県内自治体と比べて低く、下水道効果の向上と健全な事業運営を行うためには接続率の向上が重要な課題となっております。下水道は言うまでもなく水質浄化や住環境の改善に大きな役割を果たすものであり、何とぞ御理解、御協力をいただき早期加入をいただきますよう、この場をお借りし、よろしくお願い申し上げます。

また、環境に深刻な影響を与えておりますごみ処理問題は、大量生産、大量消費により大量の廃棄物を生んでおります。限りある資源を有効に活用するため、ごみの減量化やリサイクル化など環境への負荷の少ない循環型社会の形成に向けた４Ｒ運動推進への理解を深めていただけるよう普及啓発に努めてまいります。

道路と交通についてでございます。

町内の道路の整備や維持管理につきましては、効率的、計画的に実施し、町民の皆様の日常生活や経済活動が円滑に行われるように引き続き努めてまいります。

県道等の整備につきましては、令和３年度も継続の改良工事５路線（須川谷日原線、匹見左鐙線、青原停車場線、津和野田万川線、津和野須佐線）が予定されており、事業推進に当たり県に協力をしてまいります。懸案であります県道編入１路線（町道森野坂線）についても、引き続き要望していきたいと考えております。

また、県営林道開設事業２路線（耕田内美線、三子山線）が継続で予定されており、このことに対しての負担金を計上しております。

その他、町負担金を伴わない交通安全施設整備事業等について、県に要望していきたいと考えております。

町道の改良工事に関しまして、令和３年度は道路新設改良工事では８路線（笹ケ谷線、木毛線、日原添谷線、砥石線、商人線、滝谷１号線、木部地域の福谷線、畑線・石楠山線）、落石対策工事では、左鐙地域の福谷線、一の谷線、また、交通安全対策事業としまして、日原青原線１号をそれぞれ実施してまいります。

また、日原市街線旭橋の橋梁の耐震化補強工事に平成３０年度から着手しているところでありますが、令和３年度は、今年度に引き続き上部工に着手することとしております。

道路施設の長寿命対策では、２６年度から始まった５年サイクルの道路点検業務が一巡し、平成３１年度から２巡目に入っているところですが、計画的に点検業務を引き続き実施してまいります。

交通対策につきましては、民間交通事業者と町営バスが連携し、利用者の利便性向上に向けた新たな交通体系の構築を検討するとともに、山口線利用促進協議会と連携し、ＪＲ山口線の利用促進に努めてまいります。

萩・石見空港で運行中の東京線は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う運休等、大きな影響を受けている状況にあります。令和３年度においては、萩・石見空港利用拡大促進協議会において、全日本空輸株式会社より職員を１名受け入れることとしており、全日本空輸株式会社との連携強化を図るとともに、さらなる空港の利用促進策を推進してまいりたいと考えております。

住宅についてでございます。

住宅政策は定住の重要な要件となるものであり、所得や年齢層、立地条件等、様々な角度から検討し、整備を進めていかなければなりません。

令和２年３月に策定した町住宅マスタープランと公営住宅等長寿命化計画の中間見直しに伴い、計画的に公営住宅建て替え事業等を実施してまいります。

令和３年度につきましては、高齢者や障がい者にも配慮した町営住宅中座団地の平屋建て部分の建て替え事業に着手してまいります。

生活用水についてであります。

継続して安心で安全な水道水を供給していくため、施設の改善や適切な管理運営に努めるとともに、令和２年３月に改訂を行いました津和野町新水道ビジョンに基づき、水道事業を継続していくために必要な施策のうち、早急に取り組まなければならない課題に対する施策を計画的に推進してまいります。

消防・防災についてでございます。

本町におきましては、平成２５年豪雨災害や東日本大震災を教訓として、災害に強い安心、安全で住みよいまちづくりを進めているところです。

風水害や地震等の自然災害は、発生そのものを止めることは不可能であり、被害を低減させる減災の視点が大切です。そのためには、自助、共助及び公助の３つの要素を強化するとともに、住民と行政が連携して災害に備える防災体制の強化に積極的に取り組んでまいります。

新年度におきましても、自主防災組織の結成や防災士資格の取得促進、地域提案型助成事業補助金及びまちづくり組織交付金の活用などを通じて、地域防災力の向上に努めてまいります。

避難勧告等に関する国のガイドラインでは、住民等が避難に関する情報の意味を直感的に理解できるよう、防災情報を５段階の警戒レベルにより提供し、住民等の避難行動等を支援する取り組みが行われております。本町におきましても、防災行政無線の機能を最大限に活用し、自然災害が発生またはその恐れがある際は早めの避難行動につながるよう、迅速かつ充実した避難情報等の防災情報の発信に努めてまいります。

避難勧告等の避難情報に応じた迅速な避難行動をとるためには、平時から防災意識を高め訓練することが重要ですので、地域と一体となった防災訓練や防災学習の実施に努めてまいります。

水害リスク情報や急傾斜地の崩壊及び土砂災害等の危険な箇所の情報を掲載したハザードマップ等を活用し、町内各所での自主防災組織の結成や避難計画作成の支援に取り組み、住民の安全確保に取り組んでまいります。

ハード整備については、平成２５年豪雨により土石流災害が発生した渓流を中心に、緊急治山事業や地すべり防止事業、緊急砂防事業等により整備を図ってきましたが、これ以外にも土石流が発生する可能性のある渓流が本町には数多く存在しており、引き続き県に対して施設整備の要望を行ってまいります。

令和３年度の県事業としまして、治山事業は、名賀川地区、長野地区及び木の口地区が、砂防事業では、継続の上寺田川、鳴谷川、下山川、急傾斜地崩壊対策では、継続で扇町地区、山根町地区が予定されており、町としても着実な事業推進が図られるように協力をしてまいります。

冒頭に申し上げましたように、このたび切望しておりました防災・減災・国土強靭化５か年加速化対策事業が大幅な予算の拡充の下、措置されたことは、今後の整備が促進されていく上で非常に重要なことと喜んでおります。合わせて、このたび国直轄補助事業の地方負担について、引き続き防災・減災・国土強靭化緊急対策事業債等により措置されることや、防災重点農業用ため池の防災工事に係る地方財政措置が拡充されるとともに、緊急浚渫推進事業費の対象施設に追加されることなど、制度の継続、拡充もなされております。

今後も、引き続き国に対して県町村会等を通じ、制度の改善等、より詳細な要望も行いながら、一層の整備促進を図ってまいりたいと考えております。

消防につきましては、広域消防及び消防団との緊密な連携の下、火災予防の徹底を図るとともに、消防団を中核とした地域防災力の充実強化の観点から、多様化するあらゆる災害に対処するため、水防工法や救助資機材を使った訓練等も実施し、団員の災害出動時の技量向上を図ってまいります。また、引き続き消防設備や安全装備品の整備を進める必要があると考えており、第３次消防団総合整備計画に基づく整備を図ってまいります。

地籍調査についてでございます。

高齢化や木材価格の低迷により、山林の管理が放置され、今後、境界を知るものが少なくなっていくことから、引き続き地籍調査事業や山林境界保全事業により、境界の調査、確認を行っていくこととしております。

令和３年度は、一筆地調査３地区、このうち現地調査が瀧谷①、冨田イ①、中川②、それから、閲覧および認証請求予定５として、相撲ケ原Ⅶ、冨田ハⅣ、内美⑥、内美⑦、笹山⑥、測量業務１０地区といたしまして、相撲ケ原Ⅶ、相撲ケ原Ⅷ、冨田ハⅣ、冨田ハⅤ、内美⑥、内美⑦、中川①、笹山⑥、直地①、直地②を予定しております。

このほか、島根県による主要地方道津和野田万川線道路改良事業に伴い、高峯、鷲原地内で令和２年度から実施しております地籍調査事業（ミニ国調、田二穂工区①）は、改良促進に協力していくため、今年度は測量業務、閲覧、認証請求を予定しております。

情報通信についてでございます。

ケーブルテレビ事業につきましては、平成３１年度で全町におけるＦＴＴＨ化を果たし、超高速通信整備網が達成されました。令和２年度においても、旧施設の撤去工事も全て完了したところです。引き続き鹿足郡事務組合を中心に、ケーブルテレビ及び高速通信サービスの安定的な提供と充実に努めるとともに、ＩＣＴを活用した本町が有する諸課題の解決につなげてまいります。

次に、基本目標２、学ぶ心を育て薫り高い文化のまちづくりでございます。

学習指導要領が改定されたことに伴い、小学校では２０２０年度から、中学校では２０２１年度から新学習指導要領による学びが始まります。

新学習指導要領では、子供たちの生きる力を育み、学びに向かう力や人間性、働く知識や技能、思考力・判断力・表現力の３つの力をバランスよく育むために、主体的・対話的で深い学びのアクティブ・ラーニングを重視するとともに、カリキュラムマネジメントの確立による教育活動の質の向上を目指しています。

小中学校の体験活動や外国語教育の充実、ＧＩＧＡスクール構想によるＩＣＴ教育の推進など、教育を取り巻く環境は大きな変革の時期を迎えていますが、本町においても、国の示す方針に沿いながらも、豊かな自然や文化を生かした津和野町ならではの教育の推進に努めます。

また、国が学校ごとに設置努力を課しているコミュニティスクールについて、本町においても、令和３年度中の設置を目指して取り組みを進めていきたいと考えております。

さらに、平成２４年度に策定した津和野町教育ビジョンや平成２８年度に策定しました津和野町スポーツ推進計画につきましても見直しの時期を迎えますので、新たなビジョンや計画の策定に向けて準備に入りたいと考えております。

２０３０年、島根県では第８４回国民スポーツ大会が開催されることが決定しております。既に実行委員会が結成され、大会成功に向けた準備が始まっておりますが、県内全市町村に協力が要請されており、本町においても、少なくとも１つの協議開催を分担する責任があると認めております。１９８２年に開催された第３７回国民体育大会（くにびき国体）では、安蔵寺山山系を会場に山岳競技が開催されました。こうした経緯や、現在、この山岳競技はクライミング人工壁を使用したリード競技とボルダリング競技が実施されており、本町は第８４回国民スポーツ大会の会場として、このスポーツクライミングの誘致に取り組みたいと考えております。どうか、皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

学校教育についてでございます。

学校教育につきましては、小中学校で身につける基礎的・基本的な知識や技能の習得はもとより、何のために学ぶのかという学習の意義を共有しながら、思考力・表現力・判断力の育成を重視してまいります。

そのために、０歳児からのひとづくり事業として、教育委員会、健康福祉課、つわの暮らし推進課を中心に各課が有機的に連携し、１８歳までに育ってほしい姿を目標に取り組みを進めるとともに、保育園や津和野高等学校との連携を一層深め、保・小・中から高校につながる一貫したキャリア教育、ふるさと教育の推進に取り組みたいと考えます。

さらに、芸術士の派遣や新たに設立された財団法人つわの学びみらいへの業務委託を予定している教育魅力化コーディネーターなどを通して津和野町の教育の魅力化を推進し、保育園から高校までのタテのつながりと学校と地域のヨコのつながりを強化するとともに、定住施策にもつながる取り組みにしていきたいと考えます。

学力向上対策としては、引き続きＩＣＴ教育の利活用や協調学習の取組等、新学習指導要領でも示されたアクティブ・ラーニング型の学習を一層強化することにより、教員の授業力の向上に取り組むとともに、児童生徒の言語活動の充実を図りながら、学ぶことへの意欲を高める取り組みを展開していきたいと考えます。

中でも、ＩＣＴ危機については、令和２年度にＧＩＧＡスクール構想の実現に関する補助事業により実施した各校への高速大容量の通信ネットワークと１人１台端末の配備が実現します。こうした環境を最大限に活用し、多様な子供たちを誰１人取り残すことのないよう、一人一人に応じた個別最適化学習の実現に努めます。

さらに、特別支援教育の推進・充実に努めるとともに、いじめや不登校等の問題を抱える児童生徒に対しては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用により、引き続き適切な対応を取ってまいります。

学校給食につきましては、令和元年７月に文部科学省が学校給食費等の徴収に関する公会計化の推進についての中で、学校給食費徴収・管理に関するガイドラインを示しております。本町におきましても、令和３年度より学校給食費につきましては町の予算に編入し、公会計化を図ります。

また、懸案となっておりました給食センターの建設につきましては、現在ある２つの施設を統合して、津和野中学校のプール跡地に新たな給食センターを建設する計画です。令和３年度でプールの解体を完了し、建設工事に着手して令和４年の２学期からの運用開始を予定しております。

社会教育についてでございます。

社会教育につきましては、学校教育と連携・融合した取り組みとして、ふるさとを愛し、誇ることのできる津和野人の育成を目指すため、引き続き学びの協働推進事業に取り組みます。本事業の実践を通じて、学校・家庭・地域の連携を強め、単に学校支援に

とどまらず、ふるさとは大きな家族のスローガンの下、地域ぐるみの子育てを推進し、地域の教育力の向上を図ります。

また、０歳児からの人づくりプログラムに基づき、今後、求められる非認知能力を育むためにも、子ども社会で学んできた縦横の人間関係や遊びの中での工夫など、キャリア教育につながる取り組みを実施します。放課後子ども教室を通じて、ふるさとを肌で感じることができるような体験活動の充実を図るとともに、安全に活動できる居場所づくりや環境づくりへの取り組みを行っていきたいと考えています。

このような人づくり、地域づくりの中心となるのが公民館です。地域住民のよりどころであり、身近な学習・交流活動の場、地域課題を解決していく場でもあります。今後も地域の拠点として、また、学校と地域をつなぐ核として、各地域のまちづくり委員会とも協力をしながら公民館活動の充実を図ります。

近年、青少年の体力・運動能力の全体的な低下と二極化の傾向がみられ、青少年の体力・運動能力の向上は大きな課題でもあります。町としても、青少年をはじめとした町民の体力向上を図るため、特色あるスポーツの振興として、ボルダリングの振興に取り組みたいと考えており、その普及のための施設整備を進めてまいります。併せて、未就学児への運動遊びを継続しつつ、子供の体力向上に重点を置いた取り組みを行いたいと考えております。

図書館事業につきましては、津和野図書館、日原図書館の２館と学校図書館との連携を図りながら、情緒豊かな子供の育成を目指します。また、読書好きな子供たちを育てる取り組みとして、昨年に引き続きブックトークと子供たちが読みたい本を自ら選ぶ選書会を開催するとともに、乳児検診等での絵本の読み聞かせ事業等、乳幼児期から本に親しむ機会を多く提供していきたいと考えております。

文化の振興につい手でございます。

文化財行政につきましては、新たに策定する文化財保存活用地域計画に基づき、貴重な文化財の保存・継承に努めてまいりたいと考えております。また、文化庁より認定を受けた日本遺産の多くの構成要素について、引き続きその顕彰と保存・活用を図っていきたいと考えます。

史跡津和野城跡につきましては、損壊した史跡の復旧工事及び出丸の整備工事の早期完了を目指すとともに、本城の石垣修理工事に向けての仮設作業に着手したいと考えております。

名勝旧堀氏庭園につきましては、ＮＰＯ法人、旧堀氏庭園を守り活かす会と連携・協力し、名勝の活用に取り組んでまいります。

そのほか、国の天然記念物及び名勝に指定された青野山の保存活用計画の策定に着手するとともに、国の重要無形民俗文化財でもある津和野弥栄神社の鷺舞が風流踊の一団体としてユネスコの無形文化遺産に登録されるよう引き続き支援します。その他の指定文化財や民俗芸能につきましても、保存・活用・継承に努めてまいります。

本町には森鴎外記念館や安野光雅美術館、郷土館、日原天文台等、多くの文化施設があります。

安野光雅美術館については、開館２０周年を迎えましたが、昨年、安野光雅氏が逝去されました。この２０周年に改めて安野先生とその仕事を偲びながら、作品世界を顕彰したいと考えます。安野先生が残した多彩な作品を通じて豊かな感性に触れていただけるような作品展示を行い、入館者の増加に努めてまいります。

森鴎外記念館では、来年度迎える鴎外没後１００年、生誕１６０周年でもありますが、これを見据え、鴎外研究の成果を発表すべく刊行物や特別展等に向けて、引き続き調査・研究活動を進めてまいります。また、鴎外の魅力を伝えるため、様々な切り口での企画展等を開催し、入館者の増加に努めます。

また、島根県立大学との西周に関する学術協定によって進めている西周賞や西周全集の発刊に関連する取り組みなど、さらに充実したいと考えております。

次に、基本目標３、働くことを喜びとし豊かな産業を育てるまちづくり。

まず、観光についてでございます。

令和２年の年間観光客入込数は約９３万９，０００人、年間宿泊者数は１万２，０００人に対して、平成３１年の年間観光客入込数は約１１９万４，０００人、年間宿泊者数約２万９，０００人と、入込数は約２１．４％減少、宿泊者数は５６．４％減少となりました。また、インバウンド関連の宿泊者数についても、平成３１年の宿泊者数１，２４７人に対し、令和２年は宿泊者数１０６人、９１．５％減少と非常に厳しい状況となっております。

入り込みについては、一昨年から昨年２月まで１６か月連続で前年を上回っていたものの、昨年３月、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、急ブレーキがかかりました。特に昨年５月は、入込客約２万４，０００人と、前年比１９．４％という状況でしたが、年間平均では前年比約２割減と予想より持ち直した感はあります。

宿泊者数については、休業や廃業により宿泊可能総量が減少している上に、コロナウイルス感染症の深刻な影響を受けております。

インバウンド関連については、宿泊者１０６人のうち、４月から１２月の宿泊はわずか６人という危機的な状況でございます。

この非常事態において、今後ともコロナウイルス感染症緊急経済対策を継続しながら、ウイズコロナ、アフターコロナ下における観光の在り方について、見定めていく必要があると考えております。

具体的には、開放されたオープンエア空間、また、小グループによる観光行動に移行することが想定されます。引き続き広島市でインバウンド客を中心にサイクリングガイドツアーの実績のある事業者と連携し、前述のシェアサイクルシステムも併せ、電動アシスト自転車と体験プログラムを連動したサービス提供を構築してまいります。これは、将来的にはインバウンド観光客の回復後も視野に入れたものです。

イベントについては、引き続き経済３団体が連携し、コロナウイルスの状況を見極めながら感染症対策にも注意し、可能な範囲から実施してまいりたいと思います。なお、新年度が本番となる山口県央連携事業、山口ゆめ回廊博覧会は、既存イベントの魅力化を向上させ、オープンエアにおける博覧会という趣旨で実施する予定です。また、県内及び隣接県等を対象としたミニマムツーリズムを意識した誘客からスタートするため、タウン情報誌を使った情報発信を年間を通じて継続的に行います。

次に、都市交流事業、津和野町東京事務所の業務については、萩・石見空港利用拡大促進協議会との連携を強化し、同協議会が雇用したスタッフが同事務所をベースに活動する空港関係人口窓口として位置づけることとします。これにより、広域的な観光ＰＲ、誘客セールス、定住対策も併せて互いに協力しながら機能を果たしてまいります。また、町内メンバーが中心に活動する写真同好会と連携し、津和野町の美しい風景を活かしたオリジナルカレンダーを制作、ＰＲ、販売を行う予定です。

商工業についてでございます。

令和２年度に引き続き、国のコロナウイルス感染症対策の臨時交付金を活用しながら、商工業全般にも配慮したきめ細やかで多層的な経済対策を継続してまいります。

中小企業・小規模企業振興基本条例を理念とし、その趣旨に則り、引き続き各条例制度に基づいた固定資産税の減免による投資支援、事業承継を促し、廃業等の防止、起業促進に努めます。

また、利子補給や信用保証料補給など既存の金融支援施策を的確に実施し、様々な経営支援により、利用率の高い津和野町個別商業包括的支援事業も実施します。島根県地域商業活性化支援事業を活用した空き店舗活用支援は、既に複数の申請予定があり、空き店舗活用のネックとなっていた所有者居住分との分離改修等を補助する空き店舗活用基盤整備補助金制度の活用も促します。これにより、今後とも商店街の維持継続も進めてまいる所存です。

特産品等市場開拓については、全国的にコロナ禍のネット販売が活況を呈しております。これに対応し、整備済みのレトルト食品製造機等を活用した新商品の開発を引き続き支援するとともに、町観光協会とも協調し、町内各事業者が運営する個別のオンラインショップをまとめてＰＲできる仮想空間の商店街を構築し、各ショップの露出機会を増やすことを、検討、具体化していきたいと思います。その上で、日本三大芋煮に関する取組等、様々な手法で販路拡大、ＰＲを目指し、少量であっても本町の素材の魅力を十分に消費者に伝え、津和野ブランドの拡大とイメージアップにつなげてまいります。

農林水産業についてでございます。

農家の高齢化や担い手対策、耕作放棄地の防止等のために農地の流動化を図り、農業施設の維持・管理労力や生産経費の削減等を行い、地域間競争力の向上を目指すことを目的として、平成２９年度から２地区（中山・長福地区、堤田地区）において農地の大

区画化の圃場整備を行う県営農業競争力強化基盤整備事業を進めておりますが、令和２年補正予算により事業費の増がなされ、現在、その進捗の加速化が見られております。

また、新たに令和３年度から暗渠排水工事をするための農地耕作条件改善事業にも着手することとしており、町としましても、引き続きこれらの事業の早期完成に向け取り組んでいく所存であります。新たに申請予定の山下地区につきまして、令和４年度事業採択に向け、今年度は実施計画の策定をするなど申請の準備を引き続き進めてまいります。

本町では、水稲栽培を主体とした農事組合法人組織の取り組みが盛んに行われ、農業生産に取り組んでおりますが、今後、農業従事者の高齢化が進む状況下において、新たな後継者となる担い手の確保は急務となっており、集落ごとに人・農地プランの見直しが必要となっていることから、これを進めてまいります。

また、日本型直接支払制度などを活用しながら、地域の農地を守り、耕作放棄地の発生抑制に努めてまいります。

近年、日本人のコメ離れが進み、米の消費量が減少する中で、水田園芸への取り組みが求められています。本町では、平成２７年度より国の政策で家畜用の飼料用米やＷＣＳの栽培、地域の振興作物である山菜、わさび、里芋などに対して補助金を交付しており、これらの栽培面積が拡大しつつあります。これにより、主食用水稲の栽培抑制につながるとともに、主食用水稲は希望どおりの作付けができる状態となっております。

今後も水田を活用した高収益作物への転換を進めていく必要があり、さらに山菜やわさび、栗などの栽培を推し進めてまいります。令和３年度には県単補助事業の産地創生事業を活用した取り組みを予定しておりますが、その他の作物についても、積極的な取り組みに対して、町はできる限り協力をしていく所存でございます。

数年前よりＵＩターンで農業を目指す方々が増え、つわの百姓塾の活動をはじめ、町内農業者に新規就農者への営農指導やバックアップなどをしていただいたおかげで、２０名以上の新規就農者が移住、定着されてきました。現在、コロナ禍の状況でありますが、この勢いを止めることなく移住者を呼び込むことが農地を守る担い手確保につながると信じ、新規就農者確保に力を入れてまいります。

地産地消の取り組みでは、３年前から順次、町内の２つの道の駅において販売所をリニューアルして、地元産野菜などの販売強化を推進しています。これに併せて、農産物処理加工施設やＣＡＳ冷凍施設を活用した野菜等の加工や地産都消の取り組みにもチャレンジしており、クオリティーの高い農産物の生産技術についても啓発活動をしてまいります。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、生産・販売や担い手確保など低迷してきたところでもありますが、今後も着実に成果を出していけるように努めてまいります。

有害鳥獣対策においては、昨年１０月にはツキノワグマによる人身事故が発生するとともに、イノシシや猿などによる被害も拡大している状況から、集落支援制度を活用して職員体制の強化を行うとともに、イノシシについては、狩猟期においても捕獲奨励金を交付する改善を行うことにより、里山周辺での捕獲に重点を置いて被害の抑制を図りたいと考えております。

林業においては、平成３１年度から創設された森林環境譲与税の交付金を活用し、森林所有者の境界確認や県営の林業専用道開設事業、自伐型林業実践者の育成事業などを行い、町の約９割を占める森林資源の活用を推進したいと考えております。

これらの事業を推進するため、引き続き航空レーザ測量で得られたデータから、詳細の森林解析や地表面の凹凸が鮮明にわかる赤色立体地図などを使用して、関係者が集会所等において机上で山林協会を確認する事業をさらに進め、まずは山林が活用できる環境整備を進めていきます。

本町の地域おこし協力隊による自伐型林業の取り組みは先駆的なものとして評価されつつあり、これまでにＩターンで１９人が転入しました。このうち残念ながら４名は転出をしてしまいましたが、３年間の期間を満了した９名は、全員が自伐型林業に関係する仕事などで定住されており、現役生６名も活動中であります。また、４月からは新たに３名の協力隊を採用する計画となっておりますので、農業と合わせて町の定住対策の大きな柱となっております。

平成２５年度から調査研究を重ねてまいりました木質バイオマスガス化発電所につきましては、来年４月からの売電を目指して津和野フォレストエナジー合同会社により運営が開始されます。この発電システムにおいて原料となるチップを安定供給するために、付帯施設である原木・チップヤード等の建設準備を進めておりますが、施設完成後は町内の森林整備が加速し、さらなる地域振興につながることを期待しております。

水産業においては、昨年秋、江津市に完成したアユ種苗生産センターを活用した事業が開始されることとなります。この施設は、江川漁業協同組合が事業主体となり、国の補助金をはじめ、県や関係市町からの補助金等を活用し、２か年をかけて建設されたものです。年間４００万匹の稚魚を生産することができるものですので、今春からは県内河川での放流数が増加することが予想されます。清流日本一に返り咲いた高津川においても、高津川漁業協同組合が放流数を増加させるとのことですので、アユの漁獲量が増加するとともに、鮎かけの人々も増加して地域振興へつながることを期待しております。

企業誘致についてであります。

企業誘致につきましては、積極的にＩＴ系企業の誘致に取り組んでまいります。令和２年度において、株式会社アドレス、株式会社ＦｏｕｎｄｉｎｇＢａｓｅの２社が本町にサテライトオフィスを整備し、令和３年度より事業を開始いたします。令和３年度においては、引き続き島根県の中山間地域等専門系事務職場誘致促進事業を活用し、コロ

ナ禍でも企業誘致の取り組みが実施できる手法を検討し、より効果的な取り組みに努めてまいります。

次に、基本目標４、助け合う心を大切にし明るい家庭や地域をつくるまちづくり。

まず、定住施策の推進についてであります。

平成３１年度に策定した第２期まち・ひと・しごと創生津和野町総合戦略に基づき、引き続き若い女性が住みたいまちづくりを基本視点として、津和野に回帰する人の流れをつくることや若い世代の結婚・出産・子育ての夢をかなえるなど、５つの柱からなる基本目標に向けた移住・定住施策を推進してまいります。

今後におきましても、空き家情報バンク事業の推進や移住定住者へのサポート、妊産婦通院サポート事業や広域連携等による出会い創出事業などに取り組んでまいります。また、令和３年度は民間賃貸住宅建設支援事業を新たに創設し、さらなる支援体制の充実に努めてまいりたいと考えております。

さらに、平成２８年１１月に設置しました津和野町女性会議におきましては、令和２年度からの第３期女性会議において、５名の委員により、若い女性が住みたいまちづくりの実現に向けた具体的な活動を促進します。

次に、高齢者の皆様が本町で安心して健康に暮らしていただくことも重要な定住対策と認めております。平成２４年度より実施しているまちづくり委員会の設置と地域提案型助成事業の活用は、地域で住民を支えあうことのできる活力あるコミュニティに形成を目的の一つとしたものでもあり、令和３年度においても、事業内容の改善を図り、高齢者の方々積極的に活動に参加していただける場づくりを推進してまいりたいと考えております。

津和野高校支援では、津和野高校と連携し、地域の人や資源を教育に取り込み、開かれた学校づくりと子供たちの深い学びによる教育魅力化推進した結果、津和野高校の志願者が増加する傾向にあります。０歳児からのひとづくりプログラムを基に、保・小・中・高の一貫した人づくりを進めているところであり、キャリア教育やふるさと教育の推進によって将来の町を支える人材育成を進めてまいります。

さらに、津和野高校をはじめとする町内の小中学校や保育所等の教育機関と地域の事業体や個人をつなぎ、人づくりやまちづくりのコンソーシアムを構築することで持続可能で魅力あるまちづくりを進め、教育移住の推進やＵターン、関係人口の増加に取り組んでまいります。

保健・医療についてでございます。

昨年より新型コロナウイルス感染症が全国に拡大していく中で、国は２月より始まったワクチン接種を感染対策の決め手の一つと位置づけていますが、これまでに例のない大規模な予防接種事業であり、町としましても遅延することなく、町民の皆様が安心して接種ができる計画を策定し、実施していきたいと思います。

健康づくりについては、ＡＩを活用した勧奨通知により特定健診やがん検診等の受診率向上に努め、健康増進を図ります。また、健康で生きがいのある町づくり会議や各地区の健康を守る会等の関係機関と連携し、健康意識の向上を図ります。

少子化が進む昨今において、子育て世代包括支援センター来る未を中心に、産後母子デイケア事業等により妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援を実施し、安心して出産、育児に取り組める環境を整えます。

地域医療については、引き続き指定管理者である医療法人橘井堂が津和野共存病院・介護老人保健施設せせらぎ、日原診療所・訪問看護ステーションせきせいの運営に当たっていただいています。施設の集中と効率化を経て、令和元年度より自治医科大学卒業医師の派遣、さらに、令和２年度から島根県のキャリア形成プログラムによる医師１名、津和野町奨学金貸与医師１名がそれぞれ赴任されております。また、病気休養後からの復帰プログラム中であった須山医師、飯島医師もそれぞれ週４日の勤務となり、常勤の放射線科医師と合わせて、三輪理事長以下７名の法人体制となっております。

また、引き続き益田赤十字病院木谷院長に、津和野町医療・介護統括管理者を委嘱し、圏域における津和野町の医療・介護の在り方を再検証し、機能分担と病病連携の強化を目指します。さらに、本年度においては、医療・介護統括管理者の提言を実務的に遂行するため、医療・介護統括管理者を補佐する人材を委嘱したいと考えております。

津和野共存病院においては、当直を含めて診療体制の見直しを行い、総合診療体制を強化し、圏域での入退院連携の推進、宅直の導入による医師負担軽減とともに、院外研修による学びの確保等を行います。

日原診療所については、呉屋院長が令和２年９月末で退職されましたが、１０月より須山医師が院長として赴任され、法人全体の医局として、飯島副院長をはじめ３名の医師が外来応援を行っております。また、４月以降は、益田赤十字病院木谷院長の月２回の午後診療及び外部医師による週１回の外来診療が予定されており、医局体制の強化が図られております。

介護老人保健施設せせらぎにおいても、圏域における病病連携の推進に伴い、津和野町民利用者を中心に捉えながらの圏域における介護老人保健施設の役割として利用稼働を上げていきます。

訪問看護ステーションせきせいについては、本所を日原地域に移転し、在宅療養を支えるべく努力してまいります。

今後の医師確保については、引き続き島根県をはじめ関係する大学への派遣要請や地域枠入学者、奨学生などとの意見交換会やオンラインでの面会など努力をしてまいります。津和野町だからこそ経験できる地域医療を、ぜひ次世代を担う医師に経験していただきたいと思っています。

また、医師のみならず、深刻な医療、福祉従事者不足は引き続き大きな課題でありますので、大学、専門学校などの養成施設等の訪問による津和野町の地域包括ケアの説明

や人材確保等にさらに力を入れるとともに、津和野町の人口推移、要介護人口や生産人口などを分析し、将来にわたって必要かつ確保できる施設や人員を明確にし、現状を検証してまいりたいと考えております。

令和３年度は日原地域の医療を守り、町民が安心して生活できる環境を整えるため、診療所の機能を充実させる必要があると考えております。

日原診療所は平成３０年に民間の医療機関が閉院して以降、日原地域唯一の診療機関として医療を提供してまいりました。しかし、１２月の議会全員協議会でもお示ししたように、検査機器やレントゲン装置を持たないため、診断に時間を要し、検査のために津和野共存病院で受診する必要があるなど、医師や利用者に負担がかかっておりました。また、東棟に改修移転いたしましたが、現在の２階の診療所は、１階の介護施設との動線も重なり、入り口がわかりにくいことなど利用者にとって不便であるとのお声をいただいておりました。このままだと、今後、地域の高齢化と人口減少及び交通手段の縮小化に伴い、ますます受診困難となり、適正な医療の提供ができなくなる可能性があります。従来、通所リハビリテーションを併設するため、同一建物外での診療が許可されず、皆様には御不便をおかけしておりましたが、今般、町道を挟んで同一敷地内であり、同一管理者であるということで、発熱外来への移転が許可されました。簡易な検査機器の設置やレントゲン撮影装置を導入するとともに、訪問看護ステーションも同診療所内に設置することで、日原地域における医療拠点となりうると考えています。また、将来において、津和野、日原両医療機関を拠点とした巡回診療や遠隔診療を視野に入れることを考えております。

本年は、日原診療所の電子カルテにおいては、津和野共存病院との共有システム、島根県が推進しているしまね医療情報ネットワーク、通称まめネットを最大限活用しての広域情報共有システムの活用など、県の補助金を活用して、より有効性の高いシステム構築を目指し、町民の皆様が安心して医療を受けることができるよう努力いたします。

医療と介護の両立を必要とする状態の高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、在宅医療と介護の一体的な提供が求められております。このため、介護保険の地域支援事業として、在宅医療・介護連携推進事業が位置づけられ事業を展開しています。昨年度に引き続き、ＡＣＰ（アドバンスケアプランニング）の普及啓発を行いますが、新たな取り組みとして、６０歳からのセカンドライフプランの講演会を実施することにより、親の介護、自身の第２の人生設計を切り口とした若年層への啓発を計画しております。

また、昨年度より啓発・登録に力を入れているまめネットにおいては、登録者数９９３名と県内市町村でも５番目に多い登録となり、引き続きの推進を図る一方で、住民の日常の健康管理にも役立つ活用を検討する中で、遠隔医療健康相談や日々の健康管理データがＩＴで自動処理され、医療現場での活用ができるモニター事業・実証実験を継続的に行っていく予定としております。

健康寿命の延伸につきましては、６０歳以上で健康で働くシルバー人材センターの趣旨と社会とのつながり、役割を持って活動することが介護予防においても重要であることから、島根大学・シルバー人材センター健康づくり事業を協働して実施します。島根大学人間科学部の調査研究に基づき、官民連携の介護予防を進めていきたいと考えております。

福祉等生活支援対策についてでございます。

本町における生活保護の被保護者数等につきましては、令和３年１月末現在で世帯数２６世帯、受給者数３０人、申請件数は２件、廃止件数は３件となっております。

申請件数が少ない要因としては、平成２７年度より社会福祉協議会に委託している生活困窮者自立相談支援事業により、生活保護に至る前の支援を強化していることの成果であると考えられ、廃止件数につきましては、辞退、施設入所、転出が要因であり、結果として保護受給世帯の減少傾向が続いている状況にあります。

そのほか、毎年開催する生活困窮者対策庁内連絡会議により、窓口対応を行う職員等から提供される生活困窮者と思われる者の情報を関係者間で共有し、適切な窓口につなぐ取り組みも実施しております。

また、令和３年１月から生活習慣病予防を目的とした被保護者健康管理支援事業が創設されたため、対象世帯を選定し、医療機関等との連携により支援をしてまいります。

高齢者福祉についてでございます。

本町の令和３年１月末現在の高齢化率は４８．９％となっており、前年同期に比べて０．５ポイント上昇しております。また、高齢独居世帯も増加しており、高齢者生活支援は本町福祉施策の中でも最も重要な課題のひとつと考えております。

本町の高齢者福祉事業につきましては、第２期津和野町地域福祉計画、令和３年度が改定年である第８期老人保健福祉・介護事業計画に基づき各種施策を進めていますが、地域包括ケアシステム構築のため、町民や地域、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会等が協働して地域福祉の推進に取り組んでまいります。

高齢者福祉施策につきましては、地域お達者サロンサービス事業や高齢者等配食サービス事業を引き続き取り組むことにより、高齢者の社会参加及び社会貢献の推進、健康増進や見守り等につないでいきます。

また、高齢独居世帯においては、緊急通報装置設置事業の活用により、地域で安心して生活を営むことができるよう取り組むとともに、民生委員をはじめとする高齢者の見守り活動を推進してまいります。

障がい者福祉についてでございます。

近年、障がいの多様化、障がい者やその家族の高齢化、地域移行の推進等により、障がい者のニーズも多様化しております。こうした状況を踏まえ、障がい者が住み慣れた地域で自分らしく生活し続けられるよう、自立支援協議会及び平成３１年度から設置さ

れた同会の専門部会を中心に、令和３年度が改定年である第６期津和野町障がい者福祉計画に基づいた事業を推進してまいります。

また、町内において障がい福祉サービス事業を行っている社会福祉法人つわの清流会と連携して、障がい児の支援及び障がい者の自立に向けて取り組んでまいります。

児童福祉についてであります。

全ての家庭において、子供たちが健やかに育ち、保護者が安心して子育てできる環境の整備や相談支援体制を充実させ、子ども家庭総合支援拠点、要保護児童対策地域協議会及び子育て世代包括支援センター等、相互連携しながら、妊娠期から子どもの社会的自立に至るまでの包括的、継続的な支援を進めていきます。

また、令和２年度から新たに取り組んでおります幼児教育コーディネーターを町内各保育園に派遣することにより、保育の質の向上等、総合的な支援を継続するほか、満１８歳に達した年度末までの子どもの医療費の無償化により、子育て家庭への支援の充実及び定住促進につなげていきます。

人権・同和教育についてであります。

人権・同和問題の解決は行政の責務であります。２１世紀が人権の世紀と言われながら、今なお多くの課題が残されています。今後も津和野町人権・同和行政基本指針を元にあらゆる差別の解消に向け、積極的な啓発活動を行い、差別のない明るい町づくりを推進します。

基本目標５、多くの人々と交流し開かれたまちづくり。

国際交流の促進についてでございます。

国際交流の促進につきましては、コロナウイルス感染予防の観点から、新たな国際交流員の招聘が国全体で中断されている状況です。この状況を鑑み、津和野町国際交流協会とも協議の上、現在、活動中の国際交流員の任期後については、当面１年間、新たな国際交流員の招聘は差し控えたいと考えます。この上は、現国際交流員の活動等を通し、可能な範囲で観光施策とも連動したインバウンド観光の回復を見通した準備、情報発信を行い、多文化共生を目指した国際交流を行ってまいります。

特別会計についてでございます。

特別会計につきましては、各会計ともに人口減少や高齢化などにより厳しい運営を強いられておりますが、特別会計設置の本来の目的に沿い、適正かつ効率的な事業運営を図り、健全な財政運営に努めてまいります。

以上、町政運営に関する私の所信の一端と主要課題等の取り組みについて申し上げました。新型コロナウイルス感染症への対応は引き続き余儀なくされると覚悟しております。また、買い物支援をはじめ、人口減少等に伴う様々な難問を解決課題として数多く抱えております。そして、今後、本町の財政状況はより一層厳しさを増すものと予想されますが、現実を直視し、常に社会経済情勢の変化や新たなニーズに柔軟に対応し、事態を好転させる改革に意欲を持って取り組んでいく責任を痛感しております。町民の皆

様の声に謙虚に耳を傾け、町民と行政が一体となって事業を進める協働のまちづくりを推進し、本町の新たな発展のために最大限の努力を傾注してまいる所存でございます。

町議会をはじめ、町民の皆様方の御理解と御協力をお願い申し上げ、令和３年度の施政方針といたします。

○議長（沖田　　守君）　以上で、町長の施政方針を終わります。

ここで１３時半まで休憩といたします。

午後０時37分休憩

……

午後１時26分再開

○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、会議を再開します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３９．議案第４０号
日程第４０．議案第４１号
日程第４１．議案第４２号
日程第４２．議案第４３号
日程第４３．議案第４４号
日程第４４．議案第４５号
日程第４５．議案第４６号
日程第４６．議案第４７号
日程第４７．議案第４８号
日程第４８．議案第４９号
日程第４９．議案第５０号

○議長（沖田　　守君）　日程第３９、議案第４０号令和３年度津和野町一般会計予算より、日程第４９、議案第５０号令和３年度津和野町水道事業会計予算まで、以上１１案件につきましては、会議規則第３７条の規定により一括議題とします。

執行部より説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、議案第４０号でございますが、令和３年度津和野町一般会計予算についてでございます。

歳入歳出予算の総額をそれぞれ８４億２，１００万円とするものでございます。

歳出の主なものは、津和野町庁舎増築工事等総額２億２，９６１万２，０００円、地方創生推進事業総額７，７９０万４，０００円、定住支援体制強化事業５，０４０万円、乳幼児等医療費助成金２，７３０万円、新型コロナウイルスワクチン接種事業総額５，９２４万４，０００円、診療施設整備事業６，３３２万７，０００円、中山間地域等直接支払制度事業総額５，５７８万５，０００円、町行造林事業総額２，３９１万３，０００円、歴史的風致維持向上事業総額３億５，０７１万４，０００円、地籍調査事業総額１億１２５万２，０００円、町道１２路線改良事業総額２億８，９３３万１，０００円、道路長寿命

化対策事業総額６，７５０万円、津和野城跡整備事業総額４，４５５万６，０００円、伝統的建造物群保存事業２，９１６万５，０００円でございます。

歳入の主なものは、町税６億２，７８４万４，０００円、地方消費税交付金１億７００万円、地方交付税３８億９，５００万円、国庫支出金８億７，９６２万３，０００円、県支出金５億４，５４４万６，０００円、寄付金５，０００万５，０００円、繰入金６億１，８４８万８，０００円、町債１１億５，６６０万円でございます。

続いて議案第４１号でございますが、令和３年度津和野町国民健康保険特別会計予算についてでございます。

歳入歳出予算の総額をそれぞれ１１億２００万３，０００円とするものでございます。

歳出の主なものは、保険給付費８億４，７３１万８，０００円、国民健康保険事業費納付金２億１，０６５万５，０００円、保険事業費２，１１０万２，０００円でございます。

歳入の主なものは、国民健康保険税１億３，８７２万３，０００円、県支出金８億６，９８０万８，０００円、繰入金９，３３５万７，０００円でございます。

議案第４２号でございますが、令和３年度津和野町介護保険特別会計予算についてでございます。

歳入歳出予算の総額をそれぞれ１３億５，１７７万４，０００円とするものでございます。

歳出の主なものは、総務費３，７８５万５，０００円、保険給付費１２億１，８３２万９，０００円、地域支援事業費９，２６３万４，０００円でございます。

歳入の主なものは、介護保険料１億９，９２０万円、国庫支出金３億６，９４７万４，０００円、支払い基金交付金３億４，１９１万１，０００円、県支出金１億９，５５８万９，０００円、サービス収入１，０６２万円、繰入金２億３，４９０万１，０００円でございます。

議案第４３号でございますが、令和３年度津和野町後期高齢者医療特別会計予算についてでございます。

歳入歳出予算の総額をそれぞれ３億１，８１１万７，０００円とするものでございます。

歳出の主なものは、総務費２６８万６，０００円、後期高齢者医療広域連合納付金３億１，２６１万円、諸支出金２８０万円でございます。

歳入の主なものは、後期高齢者医療保険料９，９２４万４，０００円、繰入金２億１，５７８万６，０００円、諸収入３０６万９，０００円でございます。

議案第４４号でございますが、令和３年度津和野町下水道事業特別会計予算についてでございます。

歳入歳出予算の総額をそれぞれ３億２，７８２万９，０００円とするものでございます。

歳出の主なものは、下水道事業費１億３，８２６万５，０００円、公債費１億８，９５６万４，０００円でございます。

歳入の主なものは、使用料及び手数料５，４６６万１，０００円、国庫支出金２，５００万円、繰入金１億６，１７１万５，０００円、町債８，４６０万円でございます。

議案第４５号でございますが、令和３年度津和野町農業集落排水事業特別会計予算についてでございます。

歳入歳出予算の総額をそれぞれ４０７万８，０００円とするものでございます。

歳出の主なものは、農業集落排水事業費１９６万４，０００円、公債費２１１万４，０００円でございます。

歳入の主なものは、使用料及び手数料９２万６，０００円、繰入金３１５万２，０００円でございます。

議案第４６号でございますが、令和３年度津和野町奨学基金特別会計予算についてでございます。

歳入歳出予算の総額をそれぞれ１，３２２万７，０００円とするものでございます。

歳出の主なものは、奨学基金費１，３２２万７，０００円でございます。

歳入の主なものは、繰入金７４４万円、諸収入５７８万円でございます。

議案第４７号でございますが、令和３年度津和野町診療所特別会計予算についてでございます。

歳入歳出予算の総額をそれぞれ６，０７０万円とするものでございます。

歳出の主なものは、総務費６，０６２万３，０００円、予備費７万７，０００円でございます。

歳入の主なものは、診療収入５，８５４万７，０００円、諸収入１４０万円でございます。

議案第４８号でございますが、令和３年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計予算についてでございます。

歳入歳出予算の総額をそれぞれ２億９，１２８万９，０００円とするものでございます。

歳出の主なものは、介護老人保健施設事業費２億７，０７１万８，０００円、訪問看護事業費２，０５２万１，０００円でございます。

歳入の主なものは、介護老人保健施設事業収入２億４，９５５万７，０００円、訪問看護事業収入１，９６５万３，０００円、繰入金２，１８７万９，０００円でございます。

議案第４９号でございますが、令和３年度津和野町病院事業会計予算についてでございます。

収益的収入及び支出予算総額を７億７，９９８万１，０００円とし、資本的収入予算総額を２，５０６万４，０００円、資本的支出予算総額を４，４０８万７，０００円とするも

ので、不足する１，９０２万３，０００円を過年度分損益勘定留保資金で補填するものでございます。

歳出の主なものは、医業費用７億６，９９３万９，０００円、医業外費用１，００４万２，０００円、建設改良費６１６万円、企業債償還金３，７９２万７，０００円でございます。

歳入の主なものは、医業収益６億１，９７２万３，０００円、医業外収益１億６，０２５万８，０００円、企業債６１０万円、負担金１，８９６万４，０００円でございます。

議案第５０号でございますが、令和３年度津和野町水道事業会計予算についてでございます。

収益的収入予算総額３億２，７９１万２，０００円、収益的支出予算総額２億９，４５７万１，０００円とし、資本的収入予算総額３億７，５０９万１，０００円、資本的支出予算総額４億５，１１２万円とするもので、不足する７，６０２万９，０００円を現年度分損益勘定留保資金等で補填するものでございます。

歳出の主なものは、営業費用２億７，０６４万円、営業外費用２，３８３万円、建設改良費３億２５６万３，０００円、企業債償還金１億４，８３８万５，０００円でございます。

歳入の主なものは、営業収益１億６，０７５万５，０００円、営業外収益１億６，７１５万円、企業債２億２，７００万円、補助金６，６００万７，０００円、国庫補助金８，２０８万４，０００円でございます。

何とぞよろしくお願いいたします。

○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。以上で提案理由の説明を終わります。

冒頭、議会運営委員長より報告のありましたとおり、議案第４０号より議案第５０号までの１１案件につきましては、質疑を省略し、予算審査特別委員会を設置し、これに付託して会期中の審査としたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　御異議なしと認めます。したがって、議案第４０号より議案第５０号まで以上１１案件につきましては、予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、会期中の審査とすることに決しました。

お諮りをいたします。ただいま設置された予算審査特別委員会の委員の選任については、委員会条例第７条第４項の規定により、議長を除く議員１１名を指名したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　御異議なしと認めます。したがって、議長を除く議員１１名を予算審査特別委員に選出することに決しました。

予算審査特別委員会の委員長及び副委員長の選任をお願いします。

それでは、ここで暫時休憩といたします。

午後１時39分休憩

……

午後１時40分再開

○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、会議を再開します。

休憩中に予算審査特別委員会の正副委員長の選任をお願いしましたところ、委員長に１番、草田吉丸君、副委員長に５番、板垣敬司君が選任されました。

ここで、予算審査特別委員長より御挨拶をお願いしたいと思います。自席でひとつお願いを申し上げます。

１番、草田吉丸君。

○予算審査特別委員会委員長（草田　吉丸君）　予算審査特別委員会の委員長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議員の皆様には、充実した審議となりますように御協力のほうをどうぞよろしくお願いをいたします。また、執行部におかれましては、資料の提出、そして、説明をお願いするわけですが、どうかよろしくお願いをいたします。

以上です。

○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第５０．報告第１号

○議長（沖田　　守君）　日程第５０、報告第１号債権放棄について、執行部より報告を求めます。

町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、報告第１号でございますが、水道使用料等債権につきまして債権放棄をいたしましたので、津和野町私債権の管理に関する条例第１３条第２項の規定により報告するものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明をさせていただきます。

○議長（沖田　　守君）　環境生活課長。

○環境生活課長（清水　浩志君）　それでは、報告第１号債権放棄について御説明をいたします。

津和野町私債権に関する条例第１３条第２項の規定により議会に報告するものでございます。

権利の内容につきましては、水道使用料等債権でございます。

放棄する債権の金額等につきましては、１件の１０万５，８８５円でございます。

放棄の理由としまして、消滅時効が完成し、かつ債務者がその援用をしたものです。

放棄の時期は、令和２年１１月４日でございます。

裏面のほうを御覧いただきたいと思います。調書をつけております。

条例第１３条第１項第３号の規定により、１件の水道使用料１０万４，８８５円、閉栓手数料１，０００円の合計１０万５，８８５円を債権放棄するものでございます。

水道使用料は私法上の債権であり、時効により消滅するためには公法上の債権と異なり、債権者の時効の援用が必要となっております。本件につきましては、令和２年４月１日以前の給水契約に基づくもので、民法上、消滅時効が２年とされています。消滅時効が成立し、かつ債権者がその援用を行ったことから債権放棄を行うものでございます。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　報告に特に質疑があればこれを許しますが、ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。

なお、本日までに受理をいたしました請願及び要望書は、既に配付のとおりであります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（沖田　　守君）　以上で、本日の日程は全て終了しました。

本日は、これで散会といたします。大変御苦労でありました。

午後１時43分散会

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

年　　月　　日

議　　長

署名議員

署名議員

令和３年　第３回（定例）津　和　野　町　議　会　会　議　録（第２日）

令和３年３月９日（火曜日）

議事日程（第２号）

令和３年３月９日　午前９時 00 分開議

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　町長提出第６号議案　平成３１年度町道日原市街線旭橋耐震補強工事（第２期）請負変更契約の締結について

日程第３　町長提出第７号議案　令和２年度津和野町役場本庁舎（元日原診療所）改修工事請負変更契約の締結について

日程第４　町長提出第８号議案　物品売買契約（安野光雅作品原画）の締結について

日程第５　町長提出第９号議案　旧日原町ふるさと創生基金の設置、管理及び処分に関する条例の廃止について

日程第６　町長提出第 10 号議案　津和野町木材処理加工施設の設置及び管理に関する条例の廃止について

日程第７　町長提出第 11 号議案　津和野町議会議員及び津和野町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について

日程第８　町長提出第 12 号議案　津和野町学校給食費徴収条例の制定について

日程第９　町長提出第 13 号議案　津和野町課設置条例の一部改正について

日程第 10　町長提出第 14 号議案　津和野町お試し暮らし住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第 11　町長提出第 15 号議案　津和野町借上賃貸住宅管理条例の一部改正について

日程第 12　町長提出第 16 号議案　津和野町職員の特殊勤務手当の支給に関する条例の一部改正について

日程第 13　町長提出第 17 号議案　ふるさと津和野基金条例の一部改正について

日程第 14　町長提出第 18 号議案　津和野町介護保険条例の一部改正について

日程第 15　町長提出第 19 号議案　津和野町保健、福祉及び医療対策審議会設置条例の一部改正について

日程第 16　町長提出第 20 号議案　津和野町看護学生修学資金貸与条例の一部改正について

日程第17　町長提出第21号議案　津和野町駐車場条例の一部改正について
日程第18　町長提出第22号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町野中高齢者作業施設）
日程第19　町長提出第23号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町空家活用定住住宅野口団地４号）
日程第20　町長提出第24号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）
日程第21　町長提出第25号議案　公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）
日程第22　町長提出第26号議案　公の施設の指定管理者の指定について（下左鐙地区広場緑地等利用施設）
日程第23　町長提出第27号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町水辺施設「オシドリ観察小屋」）
日程第24　町長提出第28号議案　町道石西社支線の路線認定について
日程第25　町長提出第29号議案　令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１４号）
日程第26　町長提出第30号議案　令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）
日程第27　町長提出第31号議案　令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第４号）
日程第28　町長提出第32号議案　令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）
日程第29　町長提出第33号議案　令和２年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第４号）
日程第30　町長提出第34号議案　令和２年度津和野町農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）
日程第31　町長提出第35号議案　令和２年度津和野町奨学基金特別会計補正予算（第１号）
日程第32　町長提出第36号議案　令和２年度津和野町診療所特別会計補正予算（第２号）
日程第33　町長提出第37号議案　令和２年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第２号）
日程第34　町長提出第38号議案　令和２年度津和野町病院事業会計補正予算（第４号）
日程第35　町長提出第39号議案　令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第４号）

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　町長提出第６号議案　平成３１年度町道日原市街線旭橋耐震補強工事（第２期）請負変更契約の締結について

日程第３　町長提出第７号議案　令和２年度津和野町役場本庁舎（元日原診療所）改修工事請負変更契約の締結について

日程第４　町長提出第８号議案　物品売買契約（安野光雅作品原画）の締結について

日程第５　町長提出第９号議案　旧日原町ふるさと創生基金の設置、管理及び処分に関する条例の廃止について

日程第６　町長提出第 10 号議案　津和野町木材処理加工施設の設置及び管理に関する条例の廃止について

日程第７　町長提出第 11 号議案　津和野町議会議員及び津和野町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について

日程第８　町長提出第 12 号議案　津和野町学校給食費徴収条例の制定について

日程第９　町長提出第 13 号議案　津和野町課設置条例の一部改正について

日程第 10　町長提出第 14 号議案　津和野町お試し暮らし住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第 11　町長提出第 15 号議案　津和野町借上賃貸住宅管理条例の一部改正について

日程第 12　町長提出第 16 号議案　津和野町職員の特殊勤務手当の支給に関する条例の一部改正について

日程第 13　町長提出第 17 号議案　ふるさと津和野基金条例の一部改正について

日程第 14　町長提出第 18 号議案　津和野町介護保険条例の一部改正について

日程第 15　町長提出第 19 号議案　津和野町保健、福祉及び医療対策審議会設置条例の一部改正について

日程第 16　町長提出第 20 号議案　津和野町看護学生修学資金貸与条例の一部改正について

日程第 17　町長提出第 21 号議案　津和野町駐車場条例の一部改正について

日程第 18　町長提出第 22 号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町野中高齢者作業施設）

日程第 19　町長提出第 23 号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町空家活用定住住宅野口団地４号）

日程第 20　町長提出第 24 号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）

日程第 21　町長提出第 25 号議案　公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）

日程第22　町長提出第26号議案　公の施設の指定管理者の指定について（下左鐙地区広場緑地等利用施設）
日程第23　町長提出第27号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町水辺施設「オシドリ観察小屋」）
日程第24　町長提出第28号議案　町道石西社支線の路線認定について
日程第25　町長提出第29号議案　令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１４号）
日程第26　町長提出第30号議案　令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）
日程第27　町長提出第31号議案　令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第４号）
日程第28　町長提出第32号議案　令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）
日程第29　町長提出第33号議案　令和２年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第４号）
日程第30　町長提出第34号議案　令和２年度津和野町農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）
日程第31　町長提出第35号議案　令和２年度津和野町奨学基金特別会計補正予算（第１号）
日程第32　町長提出第36号議案　令和２年度津和野町診療所特別会計補正予算（第２号）
日程第33　町長提出第37号議案　令和２年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第２号）
日程第34　町長提出第38号議案　令和２年度津和野町病院事業会計補正予算（第４号）
日程第35　町長提出第39号議案　令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第４号）

出席議員（12名）

１番　草田　吉丸君	２番　米澤　宏文君
３番　川田　　剛君	４番　道信　俊昭君
５番　板垣　敬司君	６番　丁　　泰仁君
７番　御手洗　剛君	８番　三浦　英治君
９番　寺戸　昌子君	10番　後山　幸次君
11番　岡田　克也君	12番　沖田　　守君

欠席議員（なし）

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

欠　　員（なし）

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

事務局出席職員職氏名
局長　福田　浩文君

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	下森　博之君	副町長 ……	島田　賢司君
教育長 ……	世良　清美君	総務財政課長 ……	岩本　要二君
税務住民課長 ……	山本　慎吾君		
つわの暮らし推進課長 ……			宮内　秀和君
健康福祉課長 ……	土井　泰一君	医療対策課長 ……	下森　　定君
農林課長 ……	桑原　正勝君	商工観光課長 ……	藤山　　宏君
環境生活課長 ……	清水　浩志君	建設課長 ……	益井　仁志君
教育次長 ……	齋藤　道夫君		

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

午前９時00分開議

○議長（沖田　　守君）　おはようございます。引き続きお出かけをいただきまして、ありがとうございます。

　これから２日目の会議を開きます。

　ただいまの出席議員数は、全員の１２名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

―――――――――――――――・―――――・―――――――――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（沖田　　守君）　日程第１、会議録署名議員の指名。

　会議録署名議員は、会議規則第１２６条の規定により、１０番、後山幸次君、１１番、岡田克也君を指名します。

―――――――――――――――・―――――・―――――――――――――――

日程第２．議案第６号

○議長（沖田　　守君）　日程第２、議案第６号平成３１年度町道日原市街線旭橋耐震補強工事（第２期）請負変更契約の締結について、これより質疑に入ります。ありませんか。７番、御手洗剛君。

○議員（７番　御手洗　剛君）　参考までにお聞きをしてみたいと思います。今回の変更金額についてもかなり大きい金額でもございますし、そういったことの中で近年、橋梁等長寿命化の関係で耐震診断なりされておろうかと思います。当初設計の中でこのよ

うなことが想定されなかったのか、また、工事段階でないとこういったことがわからないのか、そういったことについてお聞きします。
○議長（沖田　　守君）　建設課長。
○建設課長（益井　仁志君）　橋梁等の耐震についてですが、今、５年に１回の橋梁の耐震の診断、あるいは調査というのを５年にかけて、津和野町３０８橋あるんですけども、それを５年間かけて今調査をしております。
　今年につきましては、平成３１年度から２巡目に入っておりますので、２年目といったところになるわけでございますが、橋梁のああした修理といいますか、修繕というのはレベル３という、いわゆる健全度が悪いのが出たときには５年以内に修繕をしなさいという決まりがございまして、それにのっとりまして町のほうとしても年次的に今、橋梁の修繕等を行っておるところでございます。
　今年度につきましても幾らか既に終わっておりますけれども、修繕も終えたところでございます。
　この旭橋に関しましては、平成３０年から今ずっと下部工、上部工等を今修繕をしておりますが、こうして川の関係でございますので、どうしても漁協さん、あるいは島根県の河川管理者であられます島根県のほうから、いわゆる水の関係、あるいは河積断面を侵す、例えば、仮設を、足場を立てるのに河積断面を侵すということで、やはり、工事のやる時期が非常に限られてくるといったところで、実際にこうした工事というのはやってみなければわからないといったところもあるんですけれども、そういったことがありまして、当然、やってみて変更が起こったりとかいうことがございます。
　これは金額自体が１億１，０００万ぐらいの工事でございますので、そのうち約３，０００万ぐらいの今回増額ということでありますけれども、やっぱり、ある程度精査をしてみて、あるいは起工測量をしてみてこういったようなことがわかるといったこともございます。なかなか当初設計どおりにうまくいかないというのも現状ではございますけれども、実際やってみて変更が生じるといったところもございます。
　以上です。
○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。１番、草田吉丸君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　今説明がありましたが、この変更内容を見ますと、やはり、取りかかってみなければわからなかったのかといったところでちょっと私感じておるんですけど、表面的に見て調査設計段階でこういうことが本当わからなかったのか、あるいは、ある程度隠れている部分で、工事かかってそこを見たら、いろんな変更が出てきたということはよくある、当然あることなんですが。
　この場合、何か表面的にちゃんと調査すればこういうことは当初からわからんかったんかなという気がするんですいね。その辺はどうか。
　それともう一つ、これ、仕事をするには道路長寿命化対策事業の、国交省事業だろうと思うんですが、こういう大きい変更になると当然、県とか国とかの変更承認、これは

必要になってくるんですよね。そういった変更承認申請等はされて、当然その承認があってからこういった変更をされていると思いますが、そういった経過、そういったときに県とか国とかの何か意見とかはあったのかどうか、その辺についてお聞きをしたいんですが。

○議長（沖田　　守君）　建設課長。

○建設課長（益井　仁志君）　先ほど、まだ当初設計段階でわからなかったのかといったところでございますけれども、設計自体が、これが下部工とかと一緒にやっておりますので、ちょっとごめんなさい。年度は覚えていませんけども、平成２８年とか２７年とかの設計で今発注をしたところでございます。

先ほども申しましたけれども、実際やってみないとわからないというのはよくある話なんですけども、この場合は、今、この耐震というのが正直レベル２という、要は、今で言う耐震レベル２という橋の補強の工事の仕方があるんですけれども、これは、今のこの旭橋についてはレベル２と、いわゆる発生頻度が極めて低いマグニチュード７級の内陸型直下地震にも耐え得る、要は平成７年の関西・淡路大震災、そのときの地震にも耐え得るような設計でやっておるというところではございますが。

先ほど申しましたとおり、なかなか、橋梁の工事というのは場所も狭いというのもあったりして、実際にそれも今の耐震度もクリアせんといかんといったところで今回、水平力の分担装置といった横揺れに強いものを補強しなきゃいけないといったところも変更の一つになっておるわけでございますが、なかなかそこら辺の、やってみないとわからないと言えばそれまでなんですけども、そういったようなものを取付ける必要がでてきたといったところでございます。

それから、変更承認申請といったところでございますが、もちろん、これは県のほうにも当然相談をしながら進めておる事業でございます。交付金事業でございます。耐震の関係は今年から補助金事業に変わったんですけども、今は交付金事業でずっと進めておる事業でございまして、当然、県ともいろいろ相談をしながら進めておる事業でございますので、申請ということはちょっとないのかもわかりませんが、いわゆるこういった事業をこれだけ変更しますよ、あるいは金額を増額しますよというのは、当然相談をしながら進めております。

以上です。

○議長（沖田　　守君）　後山幸次君。

○議員（１０番　後山　幸次君）　今回の耐震補強工事でありますが、これは、落橋防止の装置の設置工が２基ほど減になりましたね。

本来ならば、これは２０基つけにゃならんもんが今回は１０基で、あとの１０基は翌年度へ回すと、次の工事でやるというふうなことでありますが、そうしますと、水平分担装置の設置も本当は１２基要るわけですね、旭橋には。それが今回は６基で、あとの６基はまた次年度へというふうな計画であります。

そして、支承取替えのゴムでありますが、これは、本当は３６基要るんですが、今回は２４基つけておられます。１２基は来年度、来年度ちゅうか、次の工事に回されるわけでありますが、そうしますと、耐震工事の落橋防止装置が２基ほど減であります、今回の変更でね。そして、水平力分担装置の設置工が６基、これが増になっております。

そして、橋梁補修工のひび割れ補修が１．１メートル減、断面修復の工事が２．６平米減、表面保護が２７１平米減、支承取替えは２４基で、これは増減がありませんが、足場工が１４０平米ばかり増になっておりますが、増額の対象工事が水平分担装置６基増えておるだけで、それと、仮設の足場が１４０平米増になっておりますが、３，３００万円の増額金額の積算根拠について伺いたいと思います。

また、各部材が受注生産品でコロナの関係で納期が延びると６月３０日までの工期延期をされておりますが、部材等は受注生産品でありますので、納期の確認と発注者の町はどのような確認をされておりますか。これ以上遅れるようなことはないのか、その点をどのように確認されておるのかお伺いをいたします。

○議長（沖田　　守君）　建設課長。

○建設課長（益井　仁志君）　まず、今回の旭橋の耐震工事の金額の増額の件、積算根拠の件でございますが、まず１点目が、落橋防止装置を本来１２基を見ておったのが変更で１０基に、確かに基数については減といいますか、減っております。

しかしながら、今回、水平力分担装置でいうそういった横揺れに強い装置をつけることが必要になりました関係上２基ほどこれについては減っておるわけですが、ただ、数が減る分だけ耐力をアップする、要はその分、高強度の製品をつけておりますので、２基ほど減っていますけれども、金額自体については、若干、削孔の施工費なんかも変わってはおるんですけれども、実質１，８５０万ぐらいこれについては減ってはおりますけども、額は増えておるといったところでございます。

その理由につきましては、先ほども申しましたとおり、落橋防止の１橋当たりの耐力、あるいは高精度のようなものを、製品のパワーアップをしておりますので、１基当たりの単価が上がっておるということで金額が、数は減っておりますけれども、上がっておるといったところでございます。

それから、先ほど議員も申しましたとおり、水平力分担装置の取りつけにつきましては６基、もともとこれについてはなかったのが６基増額になっております。その分、支承の取替えを、支承を若干構造を変えておる関係上、これにつきましてはプラス・マイナスで約８００万、１，０００万ぐらいの、失礼しました。８００万ぐらいの増額といったところでございます。

それから、足場につきましても、仮設につきましても先ほど増えておるよと、確かに少し増えておるんですけれども、これについては、先ほど申しました水平力分担装置、あるいは特殊の装置をつけることが必要になった関係上、足場を若干広くする必要もあ

ったといったところで４００万ばかし金額については増額といったところが主な要因になります。

ひび割れ補修工とかその他の補修に関しましては、確かに減ってはおるんですけども、金額が僅かな、四、五十万ぐらいの減額でございまして、これについてはおおむね積算根拠、あるいは増えた減ったの根拠につきましては、落橋防止装置、それから、水平力分担装置、それから、支承、それから、仮設といったところが大きな要因になっております。

それから、納期についてでございます。先ほどおっしゃるとおり、これにつきましても受注生産品でございまして、本来ですと１か月、２か月あれば入るものでございますけども、コロナの関係で工場が大変ストップしておったといったところもございまして、もっと納期がかかるというふうに聞いております。

今、業者のほうとうちの担当のほうが話をしまして、今の現在では、６月では確実に間に合うというふうに聞いておりますので、取りつけも込めて６月の工期で間に合うというふうに今の段階では確認をさしていただいております。以上です。

○議長（沖田　　守君）　１０番、後山幸次君。

○議員（１０番　後山　幸次君）　この工事が平成３０年の１０月３１日から第１期工事で始まりまして、今年の３年６月３０日までしますと２年８か月もかかっておるわけであります。このような工事でありますが、これからまだまだ落橋防止装置、水平分担装置、支承取替え等がまだ半分残されておるわけであります。

これがまた今後、今年か来年かにかけて発注されるわけでございますが、この旭橋だけでも３年も４年も日時を要するような状態であります。

町内には数多くの橋梁があり、危険度の多い優先順位のこともあります。いろいろの財源のこともありますが、いろいろ問題はありますが、これからは、この橋梁に対してはもっと迅速に対応をされていかれないと相当な年月がかかるというふうに思っておりますが、どのようなこの構想を持っておられるのか、修復工事について。今後の橋梁がじょうにあるもんですから、それをどのような交渉を持っておられるかお伺いをしたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　建設課長。

○建設課長（益井　仁志君）　この橋梁に関しての修繕、橋梁に限らず道路構造物、いわゆるトンネルも含めてですけれども、先ほども申しましたとおり、今こうして５年にかけて全橋梁を点検をしなさいという国の方針がございまして、この平成３１年度から２巡目に入っておりまして、その中でレベル３という、いわゆる取替えというか、補修が必要だといったような点検結果が出た場合には、町としても年次的に修繕をしていく、長寿命化の関係の予算を使って修繕をしていくという計画を持っております。

まだ、今のところ今年度につきましては、先ほど申しましたとおり２橋か３橋ぐらいは今修繕をする予定でございまして、トンネルにつきましても来年、あるいは再来年かけて今、修繕をする予定で今考えているおるところでございます。

今後、これにつきましては、当然、長寿命化の関係でございますので、橋に限らずトンネル、先ほど申しましたとおり橋、トンネル、その他、長寿命化の計画を持って今後も進めていきたいというふうに思っております。

何せ橋梁の修繕というのは大変お金がかかるものでございまして、国の交付金なくてはできないものでございます。したがいまして、なかなか長いスパンかかってはおりますけれども、年次的に進めていきたい、財政とも相談をしながら進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようでありますので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第６号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第６号平成３１年度町道日原市街線旭橋耐震補強工事（第２期）請負変更契約の締結については、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３．議案第７号

○議長（沖田　　守君）　日程第３、議案第７号令和２年度津和野町役場本庁舎（元日原診療所）改修工事請負変更契約の締結について、これより質疑に入ります。ありませんか。１０番、後山幸次君。

○議員（１０番　後山　幸次君）　一、二点お伺いいたしますが、この変更理由が書いてありますが、この数量について、当初どのぐらいあって、どのぐらいのものが変更になったのか。

今回、変更数量が何ぼでというふうなことはないわけでありますね。２番目の基準のとこの撤去、改修部分の増加、これも数量的なものがわかりません。どの範囲が増加したのか、また、排煙区画の木製建具が今回変更されております。

それと、換気の防火ダンパーの差圧ダンパーの仕様が変更になっておりますが、こういったものは、図面が当初の分も、第１回目の分もそのままで朱塗りも何もしていないけ、いっそどこがどねえなっとるんやら、２階のものか下のものか１階のものか全くわからんのですいね。

じゃけ、ちょっとぐらい赤線を入れて、ここを改修するんだと、このお金でも大方２，２００万増額になるんですから、そのぐらいのサービスをしてもらわんと我々にはわからんのですが、そういったことで、変更数量の内訳がわかったらお聞かせいただきたい。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　まず、修正図面についてでございます。修繕図面につきましては、今、設計士にお願いして、この工事管理等をしておりますけども、設計士と相談した中で修正図面を資料として提出したいというふうなところで進めておりましたけども、何分にも修正箇所が多岐にわたっているというところで、図面にそれを落とし込むと一体どこがどういうふうに修正になったのかというのが非常に分かりづらくなるということでありましたので、今回の資料につきましては、今、後山議員言われましたけども、当初から載しております平面図をつけさせていただいた中で、口頭で場所的なものを表現さしていただいたという、説明の中でそういうふうな部分に触れて説明したと思っておりますので、そういう形で説明をさしていただいたというふうに思っております。

それから、例えば、外壁工事の改修工事、ひび割れの部分の数量減ということで、先ほどから変更があるのかというふうな御質問もありますけども、やはり、設計の段階では、例えばこの外壁一つとっても、足場を組んで全ての外壁を調査するわけではありません。

一部分を見てひび割れがこれぐらいあるから、推測した中で数量をはじいているというふうなことでございますので、実際、現場施工に当たっては、そういった部分の変更はあり得るというふうに思っております。

それから、数量的な部分については、ちょっと今日資料もないですし、具体的な数量をお示ししておりませんけども、今回の主な改修につきましては、床改修工事ということで、１階、２階の廊下部分の改修を行ったということであります。

床材を張り替えたということでございますけども、１階の多機能トイレの既存水管等が勾配が不足しているということが現場施工の際にわかったというふうなこともありまして、そういった床をはつっていったというふうな状況がありましたので、そういったことを含めて今回、床については全面改修をさせていただいたということであります。

それから、排煙設備等につきましても、これも現場で当然建築物になりますので、益田県土整備事務所の建築課と協議をしながら、どういった設備を設けていくかということを協議してまいりました。

そういった中で、当初考えていたよりも簡単で安価なものに変更したり、そういったことをこの改修の中で行っていったということであります。

そして、最終的にマイナス部分、プラス部分ありますけども、直工で１，５００万、工事費にして今、２，１９２万５，０００円ですが、の増額を見たということでありますので、そういった状況の中で今回変更契約を提出させていただいたというところであります。

以上であります。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。いいですか。寺戸昌子君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　今説明をしていただいたんですが、ちょっとわかりにくく、変更理由でここに書き記していただいている中に、アルミ建具の改修が、これは簡単なものに変わったからということで説明は、その辺はわかるんですが、４番の鋼製建具改修工事について、排煙区間再検討により木製建具を鋼製建具に変更し、これは何で変更になったか、検討をされて、どういう理由で変更になったかとか、その辺説明されたのかなとは思うんですが、もう一度変更の理由とかを教えていただいたら。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　４番の鋼製建具の改修工事部分でありますけども、２階の廊下部分の関係になりますが、施設建築物でありますので、排煙区画というものをそれぞれ区画整理をさしていただいております。

そうした中で、２階の議会ゾーンがありますけども、各部屋の出入口等について、木製でのいわゆる建具というところで当初設計をしておりました。設計をしておったんですけども、建築基準法の中で、その高さというのが２メートルなければならないと、２メートルの確保が、いわゆる扉の高さが２メートル必要ですということがあって、さらに、その建具の上に２０センチのいわゆる排煙設備を設けると、簡単な板でもいいんですけども、そういったものを設けなくてはならないというふうなことが建築基準法で決まっているということでありました。

だから、現場でそれを当たっていく中で、どうしても高さが取れるところと取れないところがありますので、そういったところを考慮しながら、高さが取れないところについては木製から鋼製に変えて、そういった建築基準法の法を守っていったという変更でございます。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。いいですか。いいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようであります。これより質疑を終結し、討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
これより、議案第７号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第７号令和２年度津和野町役場本庁舎（元日原診療所）改修工事請負変更契約の締結については、原案のとおり可決されました。
――――――――――――――・――――・――――――――――――

日程第４．議案第８号
○議長（沖田　　守君）　日程第４、議案第８号物品売買契約（安野光雅作品原画）の締結について、これより質疑に入ります。ありませんか。１番、草田吉丸君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　このたび原画を購入ということでありますが、これ、原画を今度、津和野町が所有ということになるわけですが、今、この著作権というのは安野光雅先生になっておると思うんですが、この原画を町が購入したということになると、著作権というのは変わるんですか。これは安野光雅先生のまんまで残るのか、その辺はどうなんでしょうか。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　通常の場合ですと、売買したときに移るのは所有権だけで、著作権については著作者に残るのが通常でありますけども、今回につきましては、御子息の意向がありまして、一部著作権のほうを町のほうに譲渡するということがありますので、全部ではないんですけども、グッズ等を作った場合の、二次利用をした場合のその著作権相当分は御本人というか、御子息のほうに残りますけども、複製権とか、そういった一部のものが美術館のほうに移るという形になります。
○議長（沖田　　守君）　１番、草田吉丸君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　そうすると、一部はまだ著作権が安野さんのほうということでありますけども、それでは、今から、グッズの話も出ましたが、例えば、こういう原画を使って津和野町が本を出版するとか、そうしたときは安野さんのほうにそれが売れた印税を払うとか、そういうこともなく、全て町に入るということなんですか。
それと、もう一つ、今、この今買う原画が、一般のいろんな本屋さんなんかに出ておるんじゃないかと思うんですいね。そうしたところが、またこれを増刷をするとか、そういう場合は、今度、やっぱり町の、どうなるんですかね。町の許可がやっぱり必要になるのか、それでの印税等はどうなるんかということはどうなんでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　先ほどグッズの話をしましたけども、出版、印刷物につきましても、本を出版した場合の著作権料というのは、御子息のほう、向こうのほうに入るようになりますので、先ほど言いましたように一部の著作権が移るというのは、例えば、通常、美術館内で先生の絵を例えば複製をして、例えば拡大をして作品と一緒に展示するということがあった場合には、これまでは全て先生に許可を得てそれをつくらなくてはいけなかったんですけども、そういったものにつきましては美術館の判断で今度はできるということになりますが。
　グッズを作ったそのグッズの著作権料相当分と本の出版、今の増刷も含めますけども、その部分につきましては町のほうは持っておりませんので、先生のほうに行くと、先生というか、御子息のほうに入るという形になります。
○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。１０番、後山幸次君。
○議員（１０番　後山　幸次君）　この問題で私、一般質問をしましたいね。そのときにどういう質問をしたかというと、ＮＨＫ出版やら朝日出版は関係があるかないか、このようにお尋ねをしたんですが、そのときに、仲介者にはＮＨＫ出版も朝日出版も全く関係ないというふうな答弁をされておりますね。ここに私、答弁書を持っておるんですが。
　それが、今度は契約書を見ますと、発注者は当然町長になっておりますが、受注者がＮＨＫになっておりますね。この関係というのはどういうことになるんでしょうか。どの理解をしてええんでしょうか。お尋ねしておきます。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　まず、先生が御存命のときに、先生と交わしたものに、寄贈の契約と、あと、作品の売買の覚書を交わしております。それは町長と先生とで交わしておりまして、それについてはＮＨＫ出版等の他の業者は入らないというふうに前回の一般質問のときにはお答えをしております。
　今回につきましては、その作品売買に関する覚書の中で、先生と交わす中で、売買についてはＮＨＫ出版を、これまでどおりＮＨＫ出版を通して売買をするというふうにうたわれておりますので、それにのっとりまして今回もＮＨＫ出版のほうと契約をしております。ＮＨＫ出版のほうが今度また、今度は先生でなくて、御子息のほうになろうかと思いますけども、そちらのほうと契約をするという形になります。
○議長（沖田　　守君）　１０番、後山君。
○議員（１０番　後山　幸次君）　どうもちょっと理解できんのですが、この前の質問のとき、ＮＨＫ出版になんかは仲介は全然、これについては、安野先生の件については仲介せんのかちゅうたら、仲介はしませんというてはっきり申されましたいね。ここに書いてあるんですけそれは、答弁書があるんじゃけ。

それが、今度こういうふうなＮＨＫとの何をされておるということは、どういうことかちゅうのを聞いておるんですいね。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　同じような回答になりますけども、その先生と交わした作品の寄贈に関する契約と、それから、売買に関する覚書については、ＮＨＫ出版等の業者は関わらないというふうな回答をしたつもりでございます。
また、先ほど言いましたことと重なりますけども、その売買に関する覚書の中で、売買に関してはＮＨＫ出版を通すということがうたわれておりますので、実際の売買契約に関しましてはＮＨＫ出版とやったということでございます。
○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。４番、道信俊昭君。
○議員（４番　道信　俊昭君）　ちょっとわかったような、わからんようなとこなんですけど、具体的にちょっと聞きますけども、お酒のとこに先生のこの絵がシールがこう巻いていますいね。例えば、あれをちょっと手を入れてとか、一つは手を入れるということ、それから、既存のやつ以上に増刷してやるときというふうなときにはどういうふうになるんです。具体的にちょっと知りたいなと思って。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　先生の原画に手を入れるということは、著作権法の中の著作者人格権というのがございまして、この人格権というのは売買できないもので、ずっと御本人といいますか、製作者に残るものなんですけども、作品に手を入れるということは、その作品を変えるということになりますので、基本的にはできないと、原画をさわって別の何かを加えてということはできないということになります。
あと、増刷といいますか、今あったものを増刷するという場合には、その増刷分の著作権料というのをお支払いをするという形になると思います。
○議長（沖田　　守君）　４番、道信君。
○議員（４番　道信　俊昭君）　それは誰に申し出をして許可を得るか、お金はどこに行くかということをもうちょっと。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　その部分につきましては、御子息のほうに行くことになります。当然、ですから、交渉のほうも御子息の方としていただくという形になろうかと思います。
○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。いいですか。３番、川田剛君。
○議員（３番　川田　　剛君）　すみません。２点なんですが、まず、１点目は今の質問の関連で、著作権というのは残っていながら、原画だけ、要は原画だけを購入したと、いわゆる我々個人が、たまたま原画を売っていて買ったていうような感覚で、著作権なんかを買ったわけじゃなくて、原画を買って、そういった権利を別に買ったわけではないということなのかなと思ったのと。

その著作権というのは、年数というのは聞いたことがあるんですけども、息子さんに相続されていくということは、いつまでそれが続くのかなって、これちょっと疑問だったんですけど、その点と。

それと、ＮＨＫ出版さんが入っているという、先ほどの後山議員さんの質問に関連するんですが、ＮＨＫ出版さんが逆になぜ入ってきたのかなという疑問が湧きましたので、なぜ入ってきたのかという点をお願いいたします。

○議長（沖田　　守君）　教育次長。

○教育次長（齋藤　道夫君）　まず、ＮＨＫ出版さんにつきましては、まず、美術館ができたときから、この作品については毎年購入をしております。その当時ちょっと私もおりませんでしたので、それは聞いた話ですけども、当時、先生が直接町と売買契約をするということはしたくないということを言われていたと。

その間で、先生の本を出版した経緯もあるし、今の大矢館長が当時はまだＮＨＫ出版におられましたので、美術館ができたときにはＮＨＫ出版におられましたので、ＮＨＫ出版はそういったことも、例えば田中一村なんかでしたら、そういった著作権の管理も受けてやっているようなことを聞いておりましたので、先生がＮＨＫ出版を通して売買をしてほしいということで、美術館建設当時からＮＨＫ出版と売買契約のほうはしております。

今回、御子息、契約は先生と覚書を交わしたんですけども、お話をさせていただいたのは御子息と話をさせていただいたんですけども、そのときに、今回については点数が決まって、金額が６，５４０万という形で決まっていましたので、間を通さずに直接先生と町とのほうで契約をすることも可能ですがどうしますかという話をしましたが、やはり、従来どおりＮＨＫ出版のほうを通してほしいという御意向でしたので、そのように覚書の中に盛り込んで今回はこういうふうに契約をしたということでございます。

もう一つは何かいね。（発言する者あり）通常、著作権というのは、売買、通常、私たちもそうですけども、絵を買うというのは、所有権の移転だけになるのが通常です。なので、私たちもこれまでは著作権は全て先生に残っていて、絵の所有権だけは移転したというふうに理解をしておりましたけども、御子息と話をする中で、著作権も美術館のほうでという話がございました。

著作権についてもいろいろ複雑ですので、聞いたりしながらおりますと、そのグッズを例えば作ったときの著作権料については、それは今までどおり頂けると助かるという形で御子息の方も言っておられましたので、その部分は、さっき、それと今の本の増刷とか、本を作る場合の出版するときの著作権に相当するものについては、そのまま従来どおり頂けると助かるというお話がありましたので、その部分については今までどおり安野先生のほうに、御子息のほうに行くという形になりますけども。

そのほかの今の複製したりとかいう権利等、著作権の一部になりますけども、そういったものについては町のほうに移行するということが覚書の中でも謳われておりますので、そういった形で進めております。（発言する者あり）

著作権の期間につきましては、ちょっとすみません。今、正確なものを調べておりませんでしたけど、たしか著作権法が改正になって、没後８０年ではなかったかと、ちょっとすみません。記憶をしております。

○議長（沖田　　守君）　３番、川田剛君。

○議員（３番　川田　　剛君）　この内容自体がだめとか、そういうことではないんですけど、例えば、僕のところにディズニーの原画があったとして、それが当然、僕に著作権が来るとは当然思わないんですけれども、この公の施設ですので、そういったグッズの販売ですとかグッズの製作をする際に一つ一つやり取りが必要になってくるのかなと、原画を持っていながらもそういうことが起こるということは、煩雑になるんじゃないのかなと言う部分と。

それと、この金額というのは、息子さんのほうが、あったほうが助かるからということで、著作権があったほうが助かるというのは当然そうでしょう。

ただ、その著作権も町に移転した場合、絵に何かを加えるとかとなると、これはまた別に問題になってくると思うんですが、その絵のポスターだとか絵はがきなんかを作ったときの著作権料という部分も購入した場合というのは、そういう金額というのは差はあったのか、積算されたのか、もともとからこの金額で著作権も含めた話をしていたのかていうところの積算の部分についてお尋ねをいたします。

○議長（沖田　　守君）　教育次長。

○教育次長（齋藤　道夫君）　これまでも、先生御存命のときにも、グッズを作るときには、その都度その都度お話をして、許可を得て作っておりましたので、その部分については従来と変わらないと思います。

あと、ポスター等、そういったものにつきましては、ポスターというのは、展示であったりに関係するものになりますので、先生、基本的に美術館のＰＲにつながるものについては、特に著作権料が本来発生するものであっても要らないというふうに言っていただいておりましたので、その部分も従来と変わらずに進むことになると思います。

ですから、御本人といいますか、御子息と話をしながら進めるという部分は、新しい、今ある原画を使って新しい本を出版をするとか、あと、その出版についても町が出版する場合ですよね。出版社が出版する場合については、うちのほうがどうこうということはないですので、出版する場合と、あと、本とグッズを作るときには従来どおり御子息と協議をしながら、通常、今まで払っていたのは、販売価格の１割程度が著作権料として御本人に行くという形で進めておりましたので、それは今までどおり変わらずに進める形になろうかと思います。

○議長（沖田　　守君）　２番、米澤宏文君。

○議員（２番　米澤　宏文君）　ちょっと物は違いますが、百景図を複写して、ほかのものに転用したいというときは、教育委員会に届出して済むわけですが、この場合はそうはいかんということですね。教育委員会の取扱いというわけにはいかないということですね。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　百景図につきましては、今言うたとおりに教育委員会のほうに申請いただければと思いますけども、先生の絵を使って何にするかにもよるかと思うんですけども、何かの商品を作ったりという場合には、うち、町のほうの話とするんじゃなくて、今の御子息のほうとの協議でオーケーが出ればそれを使って何かできるという形になるかと思います。
　また、例えば、何かのポスター的なもので、それが町のＰＲにつながるポスター的なものという部分については、当然協議はさせて、先ほど言いましたように著作者人格権というのは、その著作者をおとしめたらいけないというような、そういった権利ですので、あくまでも先生を傷つけないということになりますので、そういったとこに触れないということを前提で何か、例えばポスターを作って町のＰＲという部分になれば、協議しながら使うことは可能かなというふうには考えております。
○議長（沖田　　守君）　はい。３番、川田剛君。（「答弁漏れで、著作権料の設定の変更をされましたかどうか」と呼ぶ者あり）教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　今回の今の覚書、あるいは契約については、その金額のお話というのはしておりません。
　先ほど言いましたように、従来、大体１割程度で進めておりましたので、今後もその都度協議にはなっても、そのあたりで話をすることになろうかと考えております。
○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。４番、道信俊昭君。
○議員（４番　道信　俊昭君）　ちょっと具体的に、先ほどのお酒のことですけど、具体的なことがちょっとわかりやすいので、あのお酒のラベルという分はどこが権利を持っているのか、まず教えてください。
　それと、今後、あのデザイン以外のものを、例えばお酒ならお酒に貼りつけようとしたときには、さっきの話では、御子息と直で話を決めてくれというように受け取ったんですけど、直でやるとしたら、どういう手段でやるのか、だから、町は全く関与しませんよということになるのか。
　それともう一つ、ＮＨＫ出版には全く声をかけないのですか、それとも、どこに一体言ったらいいのかよくわからないんですけど、教えてください。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　まず、お酒のラベルにつきましては、これも当時、私がまだ美術館のほうにおりませんでしたので、直接話をしたわけではございませんが、あのラベルについては、酒の販売のほうの組合があるんですかね（発言する者あり）お酒

の、今のあのラベルを使っている町内の酒屋さんがあるかと思いますけども、そちらのほうで自由に使ってほしいという形で出されたというふうにお聞きをしておりますが、ちょっとこの部分については確認が必要かと思いますが。

それについて、そのラベルを使ったことに対して著作権料等は発生していないというふうに思います。

それから、先ほど、作るに当たって直接お話をするのかということですけども、基本的には協議はそうなるんですけども、ただ、連絡という形になりますと、なかなか直接というのは難しいかと思いますので、そういったことがありましたら、御相談いただければ取り持つといいますか、仲介をする的なことはできようかと思います。

ただ、それがオーケーになるかどうかというのは、また別の話でございますけど。(「ＮＨＫ出版」と呼ぶ者あり）ＮＨＫ出版につきましては、作品の売買に当たってのみですので、今のグッズを作ったり、そういうことについては関与はいたしておりません。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第８号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第８号物品売買契約（安野光雅作品原画）の締結については、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第５．議案第９号

○議長（沖田　　守君）　日程第５、議案第９号旧日原町ふるさと創生基金の設置、管理及び処分に関する条例の廃止について、これより質疑に入ります。ありませんか。ありませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第９号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第９号旧日原町ふるさと創生基金の設置、管理及び処分に関する条例の廃止については、原案のとおり可決されました。
――――――――――――――・――――・――――――――――――

日程第６．議案第１０号
○議長（沖田　　守君）　日程第６、議案第１０号津和野町木材処理加工施設の設置及び管理に関する条例の廃止について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第１０号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第１０号津和野町木材処理加工施設の設置及び管理に関する条例の廃止については、原案のとおり可決されました。
――――――――――――――・――――・――――――――――――

日程第７．議案第１１号
○議長（沖田　　守君）　日程第７、議案第１１号津和野町議会議員及び津和野町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について、これより質疑に入ります。ありませんか。ありませんね。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第１１号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第１１号津和野町議会議員及び津和野町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定については、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――
日程第８．議案第１２号
○議長（沖田　　守君）　日程第８、議案第１２号津和野町学校給食費徴収条例の制定について、これより質疑に入ります。ありませんか。５番、板垣敬司君。
○議員（５番　板垣　敬司君）　従来の給食費の一部保護者の負担もあったかと思うんですが、それの徴収に関しては、学校給食会等が担っておられたのかと思うんですけど、この公会計制度というのは、何かわざわざつくらにゃいけんという、そういう税務当局指摘等もあってとか、文科省の通達だとか言われましたけど、従来の処理とどういうふうに会計処理が違うのか、その辺について若干御説明を加えていただきたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　従来の給食費につきましては、給食費の食材の部分がこの給食費に当たりますけども、給食会のほうで積算して出した金額を学校のほうから保護者のほうに請求をして集めて、学校給食会のほうで一緒にして食材の支払いに充てていたという形であります。
　これが今度は、町が保護者のほうに請求をして町の会計に入れて、今まで給食会でやっておりました食材費の支払い等の部分も全て町の会計のほうに入れて、町の伝票を切って業者に支払いをするという形に変わります。
○議長（沖田　　守君）　５番、板垣敬司君。
○議員（５番　板垣　敬司君）　学校給食会というのも一応町の出先というか、団体のような感じですが、町の歳入に入れて、それから業者に支払うという、何かまた新しい行政の仕事が増えるということですか。
　教育委員会、今までどおりでもいいような気がするが、それは上が言うんだからそうするんだということではありましょうけど、人員的に少し手間がかかるということになるんですか。むしろ簡素化されて透明性があるとか、そういうことがあるんですか。何をその文科省はもってこういうことを言うんですかね。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。

○教育次長（齋藤　道夫君）　文科省が言うのは、本来、給食費であったり、修学旅行のお金であったりとか、あと教材費であったりしたものは、本来、学校が集めるべきものではなくて、それは町が集めるべきものだというふうに言っておりまして、その業務を教師、教職員のほうにやるのは、教職員の働き方改革の部分もございまして、本来あるべき姿ではないので、町のほうから徴収をしなさいというのが文科省のほうの言っておる指針であります。

それが、今回公会計化にする一義的な理由でございますけども、合わせまして、年が明けましたので昨年になりますけども、平成３１年度のその給食会の納税の手続に税務署に行きましたところ、これまで消費税部分だけで済んでおりましたが、この給食会がみなし法人に当たるというふうに税務署のほうが判断をしまして、私も説明に行っていろいろしたんですけども、その部分は変わらずに、３１年から過去５年に遡ってその法人税を払いましたので。

今後も、ですから給食会が残るということは、みなし法人と見做されて、法人税を支払っていくということになりますので、一義的には、さっき言いました文科省の指導にのっとってということではございますけども、新年度から法会計に以降するもう一つの理由としましては、そういったみなし法人に見做されて課税されるという部分をなくしたいということもございます。

○議長（沖田　　守君）　５番、板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　ちなみに、今日までのみなし法人と見做されて、５年前に遡って追徴されたという金額はどの程度なんですか。

○議長（沖田　　守君）　次長。

○教育次長（齋藤　道夫君）　国税のほうは、収入がないと課税がされませんので、国税については平成２７年と平成３０年に若干、この給食会の会計がプラスになったということで、平成２７年で５，４００円と平成３０年で７００円、国税についてはこれだけなんですけども。

あと、県税の部分が均等割というのがございまして、これが年額が２万１，０００円、この５年分ということと、あと、町の町民法人税というのがございまして、これが均等割が６万円の５年間ということで、合計で４１万３，４００円を過去に遡ってお支払いをしております。

○議長（沖田　　守君）　寺戸昌子君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　今お話を聞いていると、給食会をじゃ辞めてしまうということで、現場はどのように変わっていくのかというのをちょっと、給食会がなくなることで、そこでいろいろされている方はどこに、教育委員会に所属してということになるのかなと思うんですけど、その辺、現場はどう変わっていくのか。

それから、教職員の方の負担を少なくするための策だということなんですけど、その辺はどう変わっていくのかを教えてください。

○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　給食会はなくなりますけども、給食に関わる職員、調理師はじめにつきましては、従来から町の職員であったり、会計年度任用職員であったりという形ですので、そういった職員の人の身分が変わるということはございません。
　今の給食会なんですけども、これにつきましては、今後、メンバーとしましては小学校の校長先生ですとか、あと、ＰＴＡの会長さん、あと、学校栄養士さん、そういったメンバーで構成をしております。
　この給食会のメンバーにつきましては、今後は学校給食運営委員会というのを設置しようと考えておりますので、今までの同じメンバーで年に一度は集まりまして、例えば今後、その給食費の改定の話とかが出たときには、その場で検討をしていただいたりとか、そういった形の会に変えようというふうに考えております。（発言する者あり）
　現在は、今の学校のほうで徴収をしておりますので、これも確認をしたところ、全く未収で困るという、若干遅れることはあるようですけども、一応、年度内ちょっとこういうとこは入るという形で今、給食費のほうは集まっている状況ですが、やはり、そうやって若干遅れたりすると、また督促をしたりという作業は学校のほうでしておりましたので、そういった部分は軽減になろうかと思います。
　ただし、これは、今回条例出しまして公会計にいたしますけども、まだシステムのほうが、今年度このシステムのほうは作りますので、来年度につきましては町のほうから保護者の方に請求はしますけども、集めるのは一旦学校のほうに集めていただいて、そこから町の町会計のほうに入れていただくという形になって、完全に今のシステムを入れての移行は令和４年度からになろうかというふうに想定しております。
○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。８番、三浦英治君。
○議員（８番　三浦　英治君）　学校現場からは、何で学校が集めんにゃあいけんのかちゅうのは随分出されてきました。やっとここに来たのかなという気がしております。
　県下の、今、システムの話とか出ましたけども、県下の市・町で給食会という形でやっているところってまだあるんですか。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　どちらかというと、まず、公会計に移行しているほうが少ないという状況であります。
　給食担当のほうで調査をしてもらったところ、今、公会計化に移行しているであろうと思われるのが、雲南市さんと川本町、それから、吉賀町、海士町、隠岐の島町、邑南町という形なんですが、私がその条例規則等を調べた限りでは、徴収条例を制定しているのが、今の雲南市さんと隠岐の島町と邑南町さんにはこの条例があったんですけども、ちょっとほかの市・町さんではちょっと見られなかったので、実際に完全に移行しているのかどうかというのはちょっと確認ができておりませんけども、公会計化していない市・町のほうが多いというふうに認識をしております。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第１２号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第１２号津和野町学校給食費徴収条例の制定については、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第９．議案第１３号

○議長（沖田　　守君）　日程第９、議案第１３号津和野町課設置条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。１番、草田吉丸君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　介護保険が医療対策課に変わるということですが、これによって職員体制はどういうふうになるかお聞きしたいんですが。
○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。
○総務財政課長（岩本　要二君）　職員体制につきましては、医療対策課のほうに介護保険を主に担当することで、１名職員を増ということで配置をしております。
○議長（沖田　　守君）　健康福祉課が少なくなるの。今あれよ、草田議員の質問に答えてないで。副町長。
○副町長（島田　賢司君）　介護保険職員担当者につきましては、現在、医療対策課１名、健康福祉課に１名おりますけど、その健康福祉課分の１名が医療対策課へ行くことになります。
　ただ、健康福祉課が減るのか増えるのかというのは、現在検討中でございますので、一応、介護保険担当者だけでは、今現在１名、１名おりますけど、それは医療対策課でまとめるという検討を今さしていただいております。
○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第１３号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第１３号津和野町課設置条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１０．議案第１４号
○議長（沖田　　守君）　日程第１０、議案第１４号津和野町お試し暮らし住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。ないようであります。いいですか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第１４号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第１４号津和野町お試し暮らし住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１１．議案第１５号
○議長（沖田　　守君）　日程第１１、議案第１５号津和野町借上賃貸住宅管理条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。いいですか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第１５号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第１５号津和野町借上賃貸住宅管理条例の一部改正、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１２．議案第１６号
○議長（沖田　　守君）　日程第１２、議案第１６号津和野町職員の特殊勤務手当の支給に関する条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。いいですか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第１６号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第１６号津和野町職員の特殊勤務手当の支給に関する条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１３．議案第１７号
○議長（沖田　　守君）　日程第１３、議案第１７号ふるさと津和野基金条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第１７号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第１７号ふるさと津和野基金条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１４．議案第１８号
○議長（沖田　　守君）　日程第１４、議案第１８号津和野町介護保険条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第１８号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第１８号津和野町介護保険条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１５．議案第１９号
○議長（沖田　　守君）　日程第１５、議案第１９号津和野町保健、福祉及び医療対策審議会設置条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。いいですか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第１９号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第１９号津和野町保健、福祉及び医療対策審議会設置条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１６．議案第２０号

○議長（沖田　　守君）　日程第１６、議案第２０号津和野町看護学生修学資金貸与条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。１番、草田吉丸君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　これ、倍額になるということですが、借りられるほうとすれば非常にいいと思いますが、一気に倍にされたという何か理由がありましたらお聞かせ願いたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。
○医療対策課長（下森　　定君）　この奨学金制度は、町のほうは平成２２年にこの条例を提案をしまして認めていただきました。医療法人橘井堂のほうも独自で奨学金制度を設けておりました。これは、医師、看護師、医療技術者等を含めいわゆる一律月額７万５，０００円という部分で奨学金制度を設けておりました。
　当然、町の奨学金、そして、医療法人橘井堂の奨学金を併用して借りられる方、これがほとんどでありまして、その法人のほうの奨学金は全て町のほうが交付金の中で賄っているという状況でありまして、三輪理事長、そして、医療介護統括管理者、やはり、公立病院である限り、学校訪問に行っても町立病院の部分でいけば、町がその辺の部分の奨学金は一本化したほうがいいんじゃないかということで、本来４万円と７万５，０００円だから１１万５，０００円ではありますが、県内等を見ても、浜田医療センター等も出しておりますが、やはり８万円という部分が、お金でどうこうではないんですが、やはり医療従事者確保のためにということで、随分金額的には７万にするのか８万にするのかという部分がありましたけど、このたび８万の部分で提案をさしていただきまして、倍ということでそのような形を取らしていただきました。
○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第２０号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第２０号津和野町看護学生修学資金貸与条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１７．議案第２１号
○議長（沖田　　守君）　日程第１７、議案第２１号津和野町駐車場条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第２１号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第２１号津和野町駐車場条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１８．議案第２２号
○議長（沖田　　守君）　日程第１８、議案第２２号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町野中高齢者作業施設）、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第２２号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第２２号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町野中高齢者作業施設）は、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――
日程第１９．議案第２３号
○議長（沖田　　守君）　日程第１９、議案第２３号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町空家活用定住住宅野口団地４号）、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第２３号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第２３号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町空家活用定住住宅野口団地４号）は、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――
日程第２０．議案第２４号
○議長（沖田　　守君）　日程第２０、議案第２４号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第２４号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第２４号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）は、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２１．議案第２５号
○議長（沖田　　守君）　日程第２１、議案第２５号公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）、これより質疑に入ります。ありませんか。１０番、後山幸次君。
○議員（１０番　後山　幸次君）　この管理者は女性の方で、管理料も一銭もないわけでありますが、大変ここの利用者も高齢化し、また、近隣におられない人がやはりここへ納骨されておるんですが、そうしますと盆正月等、ここの広場の草刈り等が大変、管理者が女性の方ですので、この方に一人無理を言うような格好になっておるんですが、この前も納骨堂の屋根のほうへ樹木が、枝がかかったりしたんで、それは町のほうでやっていただいたんですが、そうした管理がこれからもあるんですが、そのときには、やはり町のほうで対応をしていただけるのか、そうしないと、ここの相当面積が広うありますんで、そういったことをどのように考えておられるか、お尋ねをいたします。
○議長（沖田　　守君）　税務住民課長。
○税務住民課長（山本　慎吾君）　議員御質問のように、利用者の会の会員減少や高齢化が進んでおります。修繕費用につきましては１０万円という規定はございますが、たとえ１０万円以下であっても利用者の会と協議の上、町のほうで業者を選定して、工事の代金についても町のほうで多少の負担はするようにしております。（「マイクを向けんと」と呼ぶ者あり）すみません。
　修繕費用の件につきましては、町のほうでも案分の負担をするようにしております。
　今後も、代表者は女性ではありますが、相談に乗った上で町としても修繕対応をしていきたいと、そのように考えております。
○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第２５号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第２５号公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）は、原案のとおり可決されました。
――――――――――――・――――・――――――――――――
日程第２２．議案第２６号
○議長（沖田　　守君）　日程第２２、議案第２６号公の施設の指定管理者の指定について（下左鐙地区広場緑地等利用施設）、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第２６号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第２６号公の施設の指定管理者の指定について（下左鐙地区広場緑地等利用施設）は、原案のとおり可決されました。
――――――――――――・――――・――――――――――――
日程第２３．議案第２７号
○議長（沖田　　守君）　日程第２３、議案第２７号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町水辺施設「オシドリ観察小屋」）、これより質疑に入ります。ありませんか。９番、寺戸昌子君。
○議員（９番　寺戸　昌子君）　この施設、かなり古い施設になっていますので、現状がどのような利用状況か、それから、建物がどんな具合なのかを教えてください。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　今の現在の状況につきましては、かなり、議員御指摘のように老朽化が進んでおります。ただ、一応まだ中のほうは使える状況になっておりますので、今回、３年という期間で指定管理者制度を新たに指定をしたとい

うことでございます。審査会のほうでも、まだ使えるという判断で今回、２月１８日の審査会も適当であるという判断をいただいております。
　以上です。
○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第２７号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第２７号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町水辺施設「オシドリ観察小屋」）は、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――
日程第２４．議案第２８号
○議長（沖田　　守君）　日程第２４、議案第２８号町道石西社支線の路線認定について、これより質疑に入ります。ありませんか。いいですか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第２８号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第２８号町道石西社支線の路線認定については、原案のとおり可決されました。
　それでは、ここで１０時４５分まで休憩といたします。

午前10時32分休憩

……

午前10時43分再開

○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２５．議案第２９号

○議長（沖田　　守君）　日程第２５、議案第２９号令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１４号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。６番、丁泰仁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　９３ページ、商工費、６００万の減額がありますが、地域商業活性化支援補助金、操業予定変更によると、こう書いてありますが、どっか予定していた、どこをやめたんですか。

○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。

○商工観光課長（藤山　　宏君）　まだ、今度、当初予算の予算委員会のほうでもいろいろ御説明さしていただこうと思っておるんですが（「マスク」と呼ぶ者あり）今回予定されておられた方が、個人情報に若干なるかもしれませんが、高岡通りのホルンとかですね、あともう１か所、若干変わってはきておるんですが。

　すみません。ちょっと今日、資料をそこまで用意をしておらんのですが、もう１事業者いらっしゃいまして、とにかく、これが新年度で早々で、ちょっと時期的に準備の段階でお時間がかかったということですので、新年度予算のほうでまた改めてすぐに上げさしていただいておるという状況でございますので、すぐ出てくるというふうに認識しております。

○議長（沖田　　守君）　６番、丁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　それでは、２軒あったわけですか。２軒。１軒は高岡通りのホルン、もう１軒は。

○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。

○商工観光課長（藤山　　宏君）　すいません。６００万でございますので、全部で３軒予定をされてあったんですが、１軒、美容院をという計画を持っておられた方がいらっしゃるんですけど、これはいろいろ事情がございまして中止をされたというふうに聞いております。それで、あとは２軒あるということでございます。

○議長（沖田　　守君）　２番、米澤宕文君。

○議員（２番　米澤　宕文君）　３７ページ、総務費の財産管理費、ここで青野山荘のＰＣＢ処理に伴い産業廃棄物処理業務委託料５８７万４，０００円、このＰＣＢ処理とは、青野山荘は今、廃止というか、休んでいる建物ですが、このＰＣＢとは何のことでしょう。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　ＰＣＢということでありますが、ポリ塩化ビフェニルというふうな名称の廃棄物になりますけども、環境省のほうで処分をするようにということで指定されたものであります。

今回、どういったとこにあったかと言いますと、安定器とか、そういった部分にこういったものが使われているということで、令和３年３月末までに処分が必要なものだということで今回、予算として計上をさしていただいております。

契約をすれば、３月末までに委託契約を交わせば処分可能というふうなことで決まっておるということでございますので、今回５００何万円の相当な金額でございますけども、計上さしていただいて、そういった手続を取らしていただくというものであります。

○議長（沖田　　守君）　３番、川田剛君。

○議員（３番　川田　　剛君）　８７ページです。一番下の６００万円減の津和野型森林作業道開設事業なんですけども、これまで卒業生がおられて作業道を開設してきたと思うんですが、いろいろ町内ではないところでも活動をしているというような状況を聞いておりますが、今年度どれぐらいの人数が関わって、どれぐらいのメーターが作設されたのかというのがわかりますでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　農林課長。

○農林課長（桑原　正勝君）　現在のこの津和野型の森林作業道につきましては、新たな森林管理システムの制度が始まりましたので、これに基づいて行いたいという事業であったのですが、これについての今、町内の森林所有者の方の意向調査を行う前段の準備にというところになっておりまして、まだここまで移行することができなかったということで、これについての部分については森林環境譲与税を充てて行っていきたいという形のものであったのですが、これについてはまだ取組ができなかったということで、大変申し訳ありませんが、減額という形にさせていただくという形になりましたものであります。

また、御質問の中にありました卒業生の、協力隊のほうを平成２６年度から呼び込みまして行っておりますが、現段階で１９名の方が町内に来られております。残念ながら４名は町外へ出られてしまったんですが、卒業をされた方については現在８名が山に関することの事業に携わっております。

残りは現役というような形の方がおられるという状況で、この３月末でまた３名が卒業するという状況に現在なっておりますが、彼らの今、活動の現場につきましてですが、議員の御指摘のように、町内で活動されている方もおられるんですが、町外と言われる、阿武町のほうで同様の、津和野と同じように自伐型の林業という展開を始められたということで、指導者が不足をしておるという状況で、阿武のほうは複数の人数を雇用しておりませんので、毎年１人ずつの採用を今されているというふうに伺っておりますが、それの指導にも来てほしいということも含めて、阿武のほうへ出かけておるメンバーが卒業生の中にはおられます。

ですが、住所は津和野のほうという形で通われているという今確認をしているところであります。

そのほかのメンバーにつきましては、地域の皆さんのほうと協定を結ばせていただいて、国の補助事業である森林山村多面的機能発揮対策交付金事業というのがございまして、任意の、３人以上の任意団体を組んで森林整備、あるいは道を造るというふうな形で、一団地の中、３年間まで事業が展開できますという形のものを使って道造りを行っておりますが。

彼らが今、どのぐらいの道を造っているかという、ちょっと詳細の手元資料が、それぞれの個別になりますので持ち合わしておりませんが、例年でいきますと、その人たちとは別個に町内の以前からおられる森林所有者の方々、御年輩の方々もこの事業を取っておられますので、それらを総トータルすると毎年１０キロ程度の道が開設をされておるというふうにここ数年は続いておるというふうには把握をしております。

また、今年度の分については実績報告を今確認中でありますので、それらがまとまりましたならばお示しすることが可能かとは思いますが、現段階ではそういった状況になっております。

以上です。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。１番、草田吉丸君。

○議員（１番　草田　吉丸君）　１４５ページの津和野城跡の整備事業で、実績で工事請負費が１，８００万減額されております。これは石垣の事業と思いますが、これ、今の進捗状況というか、どういう状況かちょっと教えてくださいますか。

○議長（沖田　　守君）　教育次長。

○教育次長（齋藤　道夫君）　この１，８４５万円の減額につきましては、本城の石垣の修復のための仮設の途上路を造るのと、あと、仮設の遊歩道を造る事業を予定をしておりましたが、今の城山プロジェクトの関係で、あそこの三本松の曲輪のところがなかなか使えないというか、混雑をして使えない状況にあるので、今年度につきましては、その本城の修理のための途上路と、人のための仮設路の整備については今年度取りやめをして。

今の現状としましては、今、出丸の石垣の修復はほぼ終了しまして、あと、今年度、出丸の入口部分の石段の修復と水路の修復を今年度の事業として予定をしております。

新年度におきまして、その出丸部分の修復のためにつけた仮設路の土を撤去しまして、今度、本城のほうの途上路の仮設路の土として移動をさせるということと、あと、その土を撤去した後、出丸への途上の今、土の下に隠れていた部分になりますけども、そのあたりの整備を行うと、出丸のほうは終了という予定で、来年度以降は本城のほうの修理に取りかかるという予定でおります。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。５番、板垣敬司君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　すみません。３９ページの企画のほうで、高校生の下宿の関係の改修ですかいね、あの辺が３件ほど今回の補正でまた上がっておりますが、当初の補正前の金額が３０万円ぐらいあって、３件分ぐらいあったかと思うんですが、今回また３件分ということで計上されていますが、現実的に令和２年度中において改修件数がトータルで幾らか。

そして、その改修物件というのは大体町内のどの辺に所在しているのか。例えば、日原地区なんかは電車通学というか、汽車通学なんかをする場合で、ちょっと通学か、そういう距離もあるわけでございますが、そういうところでこういう事業が実施されているのかどうか、その辺について少しお聞かせをいただきたいと思います。

それと、歳入のほうの１５ページの清掃手数料というのがあるんですけど、これは減額になって３１９万８，０００円になっていますが、これは、ごみ袋なんかの販売手数料じゃないかなと思うんですが、販売手数料は大体、販売金額の１０％ぐらいが小売店に落ちるというふうに認識しておりますが、今回の減額に対する主な要因、その辺についてお聞かせをいただきたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　今の、今回の３０万の補正の関連の件数でございますが、６件を予定しております。

それで、地区は、今全て旧津和野地区のほうのエリアになっております。

今、日原のほうもあるかということでございましたが、今そのほうはまだ０件ということです。

具体的にどういう場所かということでありますが、どういいますか、各大家さんの場所といいますと、ちょっとかなり幅が広がっていますけど、旧津和野エリアのほうで大体津和野高校に徒歩通学できる範囲というふうにお考えいただければと思います。（発言する者あり）いいですか。

以上です。

○議長（沖田　　守君）　環境生活課長。

○環境生活課長（清水　浩志君）　清掃手数料でございますけども、今回３１９万８，０００円ほど減額をさしていただいております。

内訳といたしましては、ごみ袋の販売手数料が２９４万５，０００円（発言する者あり）２９４万５，０００円、毎日収集の手数料が１９万８，０００円（発言する者あり）はい。あと、毎年、日原・津和野、両方でお祭りをしておりますけども、その祭りのときの特別収集の減額分が５万５，０００円という形となっております。

ごみ袋の販売手数料が２９４万５，０００円ですけども、当初見積もっておりました販売手数料に今回大幅により少ない販売数量になったというところがございましたので、今回こちらで減額させていただきました。

また、先ほど議員言われました手数料でございますけども、手数料につきましては、一旦全額を納めていただいた後に、歳出のほうで手数料という形で１２％の分を業者の方にお支払いしておりますので、こちらのほうに加味はされておりません。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　５番、板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　ちょっと私の勘違いだったかと思いますが、大体その下宿の改装費は１件当たり１０万円を上限として条例というか、要綱というかあると思うんですけど、前回まで当初予算があって、今回また３０万の増額予算補正じゃないかと思って、合わせて６件ということですか。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　そうでございます。合わせて６件で、今回３０万補正して合計で６０万円になりますので、１件当たり１０万円で６件という、そういう解釈でございます。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第２９号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第２９号令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１４号）は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２６．議案第３０号

○議長（沖田　　守君）　日程第２６、議案第３０号令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第３０号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第３０号令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第４号）は、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２７．議案第３１号
○議長（沖田　　守君）　日程第２７、議案第３１号令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第４号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようですので、質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第３１号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第３１号令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第４号）は、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２８．議案第３２号
○議長（沖田　　守君）　日程第２８、議案第３２号令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　質疑ありません。終結をいたします。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第３２号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第３２号令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）は、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２９．議案第３３号

○議長（沖田　　守君）　日程第２９、議案第３３号令和２年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第４号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　質疑なしと認め、終結をいたします。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第３３号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第３３号令和２年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第４号）は、原案のとおり可決されました。
―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３０．議案第３４号

○議長（沖田　　守君）　日程第３０、議案第３４号令和２年度津和野町農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第３４号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第３４号令和２年度津和野町農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３１．議案第３５号

○議長（沖田　　守君）　日程第３１、議案第３５号令和２年度津和野町奨学基金特別会計補正予算（第１号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第３５号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第３５号令和２年度津和野町奨学基金特別会計補正予算（第１号）は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３２．議案第３６号

○議長（沖田　　守君）　日程第３２、議案第３６号令和２年度津和野町診療所特別会計補正予算（第２号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第３６号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第３６号令和２年度津和野町診療所特別会計補正予算（第２号）は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３３．議案第３７号

○議長（沖田　　守君）　日程第３３、議案第３７号令和２年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第２号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第３７号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第３７号令和２年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第２号）は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３４．議案第３８号

○議長（沖田　　守君）　日程第３４、議案第３８号令和２年度津和野町病院事業会計補正予算（第４号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。１番、草田吉丸君。

○議員（１番　草田　吉丸君）　今回の補正の主なものが、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金、それから、新型コロナウイルス感染症対応の従事者慰労金ということだろうと思いますが、この地方創生の臨時交付金については、空調改修ですかね、このほうに充てられているというふうに思いますが、この従事者慰労金の補助金なんですね。

これは、津和野共存病院は特にそういった何かコロナウイルス対策の役割を県から設定されているということでこれが、こういった補助金があるのかと思うんですが、そのあたりと。

それから、これは、この使用方法は何か特別制限があるのか、人件費だけに回さにゃいけないとか、何かそういった制限があるのか、自由に使えるのか、その辺についてお聞きしたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。

○医療対策課長（下森　　定君）　まず、新型コロナウイルスの医療従事者慰労金でございますが、これは、病院関係の部分と介護関係がありまして、津和野共存病院の場合は、２階がいわゆる病院関係、３階が老健の病棟ということで、これは国のほうが１つの施設として、医療分として１人当たり２０万の職員の交付金があります。

残りは診療所、訪問看護ステーション、デイケア等の部分で、この部分に関しては医療従事者は１人当たり、介護部分を含めて５万円ということで、全体で２，６５１万７，０００円がその中の補助金でございます。

それと、加えて３８８万、インフルエンザ流行期における発熱外来診療体制の確保支援事業費補助金ということで、これは国のほうがこのたびの新型コロナウイルス感染症に備えて、インフルエンザもそういう状況になったときの体制ということで、これが３８８万の金額を補助金として頂いております。

それと、今回の交付金の関係の部分ですかいね、今の空調関係とか、その部分におきましては、要するに一般会計のほうと、その状況で臨時交付金の部分の中で協議をいたしまして、病院のほうにはこのたび、空調関係でこの補正では１，６３９万１，０００円の空調の増額分と、それと、電動ベッドの関係がこのたび１，２０５万、それと、２階のほうの病棟のほうで、患者さんが医局のほうに、やはり認知の関係があったりということで、ここで電子ロックの開閉の部分を、これを６１万円相当つけましたので、その金額を交付金として計上して、一般会計から繰入れをしていただいております。

以上です。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第３８号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第３８号令和２年度津和野町病院事業会計補正予算（第４号）は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３５．議案第３９号

○議長（沖田　　守君）　日程第３５、議案第３９号令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第４号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。８番、三浦英治君。

○議員（８番　三浦　英治君）　最後のページ、９ページですけども、公用車の燃料費、これ２口１０万円が出ているんですよね。この点について、なぜ２口出ておるのか。

○議長（沖田　　守君）　環境生活課長。

○環境生活課長（清水　浩志君）　燃料費につきましては、今回１０万円を減額させていただいております。当初予算のときに見積りました金額と現状のガソリン値の燃料代との差額分と、あとは、公用車のほうの走行距離が例年に比べて少し少なかったというところが原因だと思っています。

○議長（沖田　　守君）　三浦君。

○議員（８番　三浦　英治君）　その１４燃料費というのが、まとめて普通だったら出るんじゃないですかいね。別個にこういうふうに載せるもんなんですか。

○議長（沖田　　守君）　環境生活課長。

○環境生活課長（清水　浩志君）　１４燃料費、原水及び浄水費のほうにつきまして１０万円と、配水及び給水費につきまして目が違っておりますけども、目が違っておりますので別々に出しておりますが。

○議長（沖田　　守君）　いいですか。

○議員（８番　三浦　英治君）　はい。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第３９号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第３９号令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第４号）は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（沖田　　守君）　以上で、本日の日程全て終了しました。

本日は、これで散会といたします。

午前 11 時 15 分散会

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

年　　月　　日

議　　長

署名議員

署名議員

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

議事日程（第３号）

令和３年３月 16 日　午前９時 00 分開議

日程第１　会議録署名議員の指名
日程第２　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名
日程第２　一般質問

出席議員（12 名）

１番　草田　吉丸君	２番　米澤　宕文君
３番　川田　　剛君	４番　道信　俊昭君
５番　板垣　敬司君	６番　丁　　泰仁君
７番　御手洗　剛君	８番　三浦　英治君
９番　寺戸　昌子君	10 番　後山　幸次君
11 番　岡田　克也君	12 番　沖田　　守君

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長　福田　浩文君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	下森　博之君	副町長 ……	島田　賢司君
教育長 ……	世良　清美君	総務財政課長 ……	岩本　要二君
税務住民課長 ……	山本　慎吾君		
つわの暮らし推進課長 ……			宮内　秀和君
健康福祉課長 ……	土井　泰一君	医療対策課長 ……	下森　　定君
農林課長 ……	桑原　正勝君	商工観光課長 ……	藤山　　宏君
環境生活課長 ……	清水　浩志君	建設課長 ……	益井　仁志君
教育次長 ……	齋藤　道夫君		

午前９時 00 分開議

○議長（沖田　　守君）　おはようございます。引き続いてのお出かけありがとうございます。

これから、３日目の会議を始めたいと思います。

ただいまの出席議員数は１２名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（沖田　　守君）　日程第１、会議録署名議員の指名。

会議録署名議員は会議規則第１２６条の規定により、１番、草田吉丸君、２番、米澤宏文君を指名します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２．一般質問

○議長（沖田　　守君）　日程第２、一般質問。本日と明日の２日間にわたって一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。発言順序１、４番、道信俊昭君。

○議員（４番　道信　俊昭君）　おはようございます。それでは、トップバッターで参ります。

今日の一般質問、私、こういううれしい気持ちで一般質問をするっていうのは、たしか初めてだろうと思うんですけれども。最初の質問は提言という形になりまして、この通告にあった文章はあまりにも簡潔過ぎるなあと我ながら思っておりますので、少し前置きを述べてまいります。

実は先日、津和野高校が卒業式がありまして、その後、私のところに、お母さんとお父さんと、それからＳ君っていう３人が参りまして、「道信さん、無事卒業できました」ということを言われました。よく卒業できたなあというふうに、そこでひとつ安心をしたんですけど、ほっとしました。その後に、「実は、島根大学に合格しました」ということを聞いて、さらにうれしかったと同時に、よくやったなあと、そのときに彼にしみじみとその喜びを、私は伝えたところです。

それで、このＳ君っていうのは、横浜から津和野高校に入学してまいりまして、そして１年間学んできた後に、ちょっとしたアクシデントがありまして、住む場所がちょっとなくなったということがありまして。それで、お母さんと本人とが私の店にまいったんですけども、お２人とも、私は全く面識がなかったんで。それで、最初は雑談をしながら、話が進んでいったときに、実はっていうことで、何とかここに、津和野におりたいんですがということで内容を聞いてまいりましたら、今のように、ちょっとしたアクシデントがあったっていうことで、「これから横浜に帰ろうかと思うんですけど」っていう相談を受けました。私は、それじゃあ、ちょっと待ってくれっていうことで、「あ

なたの住む場所をいろいろ当たってみたいと思うんで、ちょっと時間をくれないか」ということで。それで、今の下宿の状態っていうのが、あまり。どこにっていうあれもなかったんで、そこで私が思いついたのが、促進住宅があるじゃないかと。あそこなら空いている、確かに空いとるっていうことが頭の中によぎりまして、早速、建設課に行って、「こうこうこういうことがあるんだけども、何とか促進住宅でこのＳ君を置いてくれないか」ということを相談にまいりましたら、「全例がない」ということは確かにありました。ですけども、「分かりました」ということで、「彼を促進住宅で受けましょう」ということを言われまして、彼はそこから再び津和野高校に通うことができるようになりました。そして、そこで一生懸命、彼も勉強したんでしょう。先ほど私が冒頭で言いましたように、見事、島根大学に合格したっていう通知は、本当に私、うれしかった。

こういう思いで、そして提言に入っていくんですけども。この生徒は男の子ではありますが、多少、自炊ができるということがお母さんから聞きましたんで、「それじゃあ頑張って自炊してみなさい」ということを言いまして、そして、その後２年間がたったわけですけども。

これは私も経験があるんですけれども、下宿しているときに、やっぱり食事っていうのが一番ネックになります。特に男の子だと、そういう料理の覚えもないので。そしたら、この食事ができるような形になれば、促進住宅っていうのは、下宿先あるいは津和野高校の第２の寮として使えるんじゃないかという思いがありまして。

それともう一つは、これで、もし食事の場所がどうとかということができるんならば、ほかのところでもこの事例というものはつくれていけるというふうに感じたんです。ですから、このことは非常に私は、ただ単に促進住宅がっていうことだけではなくて、先ほどもいいましたけれども、一番のネックは食事なんです。そうすると、下宿で寝泊まりすることはできるが、食事が駄目なところというのを、じゃあ、食事先を確保さえすれば、今の津和野高校の一つの問題でもある下宿っていうものが解決するんじゃないかということは、これは私が思いついたっていう意味じゃなくて、実は私の町内会の人から、前々からそういうような提言というか、ことは言われていたんです。そのときは、なるほど、なるほどと思ったんです。

今回、この事例ができて、「よし、これだったら、この促進をサクセスストーリーにして、そしてこの事例を他でも生かしていける」っていうことに、私はこのときに、彼がそのパイオニアっていうことになったんで、ぜひこれは一般質問で取り上げて、津和野のこういうような下宿先をどう確保するかということを、ぜひやってみたいというふうに思ったわけです。

ですから、一般の最初の質問っていうのは、このことを、ぜひ検討の価値があるんじゃないかということでお尋ねをいたします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　皆さん、おはようございます。本日より一般質問ということでございます。何とぞよろしくお願いを申し上げます。

それでは、４番、道信議員の御質問にお答えをさせていただきます。

促進住宅についてでございます。

津和野高校の志願者は、令和３年度の定員に対する競争倍率は１．１６倍となり、志願者が増加する傾向にあります。これは、津和野高校魅力化促進事業が子ども達の教育課程において有用であることが全国に認知されるとともに、進路実績が成果として現れ、津和野高校で学びたい、学ばせたいと思う生徒と保護者が増えているものと考えております。

津和野高校の人気が高まる一方で、島根県が管理し津和野高校に隣接する、県立つわぶき寮は、県外生等の遠方から入学する生徒が増加をするため、入寮希望者が入寮定員を超過し、一部の生徒は寮以外の住環境を探す必要が生じております。

この問題に、町といたしましては、島根県に寮の拡充や建設の働きかけを行っておりますが、島根県は「寮の建設は行わない」と回答しております。このことから、これまでに町営寮の建設等も検討してまいりましたが、調理員や管理人等の確保が難しいことから保留とし、令和２年度から地域の資源と住民の活力を生かした下宿制度の構築を、津和野高校と連携して取り組んでいるところでございます。

令和２年度には、２件の方が下宿事業を開始し、令和３年度に向けては、３月１１日現在で７件の方が下宿事業を検討する状況にあり、４月の入学に向けて、生徒の住環境の確保にめどがつきつつあると考えております。下宿事業に対しまして御理解と御協力をくださいました地域住民の皆様には、心から感謝を申し上げる次第でございます。

ただし、現状では下宿先の定員と町内に住居を要する生徒の数が拮抗しており、住環境の確保に関しましては、予断を許さない状況が続いていることも事実でございます。

議員御提案の定住促進住宅等を活用した高校生の一人住まいにつきましては、これまでにも学校と協議をしてまいりましたが、一般的な高校生の精神的な自律性や社会性を考慮しますと、寮や下宿等のように、大人が生活面を管理する体制が必要と判断し、生徒の一人住まいについては推奨していないのが現状でございます。

また、管理人室を給食室に改修し食事を提供するとなりますと、保健所の届出が必要になることや、定住促進住宅としての要件が変わり、一般住民の居住条件と合致しないことも懸念されます。これ以外にも、生徒に食事を提供するため調理する人材確保が難しいこともあり、慎重に検討する必要があると考えているところでございます。

町といたしましては、住居を必要とする津和野高校生の住環境の整備につきまして、島根県教育委員会や津和野高校と連携して、実施の可否も含めて検討してまいります。

○議長（沖田　　守君）　道信君。

○議員（４番　道信　俊昭君）　それでは、まず、ここの促進住宅の住環境というか。私があそこの住環境を聞いているのは、非常に湿気が多いっていうふうに聞いているん

です。ですから、まず、あそこの住環境というものがどういうものかっていうことを、ちょっと担当課のほうで御説明ください。
○議長（沖田　　守君）　建設課長。
○建設課長（益井　仁志君）　促進住宅の住環境ということでございますが。先ほど、議員のほうから湿気が多いという御指摘がございました。数年前から、そういうのを鑑みまして、今、週に１回ほど、空き部屋といいますか空き物件につきまして、戸を全開をして、中に空気を通して、できるだけ湿気が出ないようにということで、週２回ほど、今そういったようなことをしております。
　それに併せまして簡単な清掃もお願いをしておるところでございますが、そういったようなことで、湿気をできるだけ出ないようにという、ふだんの管理ということはしておるところでございます。
○議長（沖田　　守君）　道信君。
○議員（４番　道信　俊昭君）　今、聞きますと、あそこの環境をより整備をしてくれているなという感じがしておりまして、そういう面では私、非常にいいことだなあということで、まず一つはクリアということだろうと思っております。
　それでしたら、次は、今、回答にありましたが、ここに終わりのほうに、難しいことの条件がいろいろ言っておりますけれども。これを、駄目だ。だから駄目なんだというふうに持っていくというは。行政の立場からすれば、石橋をたたいて、たたいて、そのまんま、普通は渡らないということなんですけれども。
　私は、この生徒Ｓ君がこれらを吹き飛ばすようなことをやってくれたっていうことが。さらには、その後にまた質問がちょっと続いていきますけれども、これが一つの突破口がもう実例として出ているっていうことを考えたときに、これ、もうちょっとできない理由を挙げる。挙げるということは、逆に言えば、これを一つ一つ潰していけば、できるんじゃないかということがあるんですけれども。その点、どのようにお考えですか。課長、どうですか。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　今、今回、道信議員の御尽力によって、高校生がすごくそうした住環境を得たというのは、非常にすばらしいなということで、お聞きしておったところでございます。
　町の、今、私どものほうで津和野高校支援係を担当しておりますが、町長のほうの答弁にもありましたが、今、下宿事業のほうには非常に力を入れております。そういう中で、令和３年度も今、競争率も１倍を超えて、非常に特に県外生、県内からも遠方の松江市ですとか出雲市等からも、入学生は今、予定されておる状況です。
　そうした中で、令和３年度は今、９件で２４人の受入れの下宿先が今、確定しようとしております。議員がおっしゃるような促進住宅の新しい活用方法は、これから建設課等と協議してまいりたいとは考えておりますが、そういう御提言を生かしながら、特に

食事がネックになるというお話もありましたが、そうしたいろいろな皆さんの御提言をいただきながら、より充実した下宿体制なり寮の体制なりを今後も構築していきたいというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　道信君。
○議員（４番　道信　俊昭君）　先日ちょっと津和野高校の校長と話をしてみたんですけども、校長が言われるには、今のこの津和野高校の状態は非常にいいと。冒頭で津和野高校の申込者が増えているっていうことが言われましたが、校長としても非常にいい状態で、ぜひこれを続けたい、維持したいっていうふうに言われていたんです。まさにそれを維持する一つの組織というか方法として、コンソーシアムというのがあるんですけども。今度、立ち上がったばっかりですけども。ちょっと、コンソーシアムっていうのは、言い方がもうちょっと難しいんで、一般の人、町民になじんでいくためには、これを訳しゃあ何のことはない、共同体っていうことですんで。これ、あえてコンソーシアムとかやると、何か分からん、難しいもんだみたいな形になるんで、もうちょっと言葉を替えて。私のほうで調べてみたら、何だ共同体かみたいなことですんで。ですけど、それはいいとして。
　だから、この共同体をどうやって維持するか。というよりも、まず、コンソーシアム、この共同体とは何ぞやということを、町民の皆さんにちょっと知ってもらいたいっていうことがあるんで。その説明を、まずよろしくお願いします。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　コンソーシアム構想についてでありますが、現在、今、「一般財団法人つわの学びみらい」というのが先般立ち上がりまして、そこで、今のコンソーシアム構想がこれから練られていくわけであります。
　議員がおっしゃるように、じゃあコンソーシアム構想というのは何ぞやということでございますが、例えで申し上げますと、例えば津和野高校に、先ほども出てきましたが、横浜なり首都圏から津和野高校に来て、３年間過ごして、また首都圏の大学に入られたという方がかなりの数になってまいりました。そうした方々が、昨今の新型コロナウイルスの関係もありまして、大学がオンライン授業になったようだというような事情もあって、今、津和野高校に来て、生徒への指導等もしていただいております。いわゆるこういう新しい、好循環型の関係性を構築するというのが、一つのこのコンソーシアムのスタイルじゃなかろうかということも考えています。
　これだけじゃなく地域の住民の方々を巻き込んで、津和野高校を中心として、いろいろな地域課題を見つけ、それを解決していく。そういう作業に目を光らせる津和野高校の在校生も増えてきております。そうしたことも、今回いろいろなこういう地域留学制度を使って、県外生等から津和野高校に地域留学していただく生徒さんが増えてきたというのが、そうした新しい町の動きになってきたんじゃなかろうかというふうに、我々ども担当課としては考えているところでございます。

こういう新しい好循環のシステムをどんどん広げていって、町全体で、いわゆる０歳児からの人づくり構想に結びつけていくということの足がかりになるのが、このコンソーシアム構想の意義じゃなかろうかというふうに考えております。

また、今後、重ねていく上で、体制というか流れは変化していくものと思っていますが、今、例を挙げて言うと、そうしたことが我々どもとしたらコンソーシアムの足がかりになるんじゃなかろうかというふうに考えております。

○議長（沖田　　守君）　道信君。

○議員（４番　道信　俊昭君）　今の好循環っていうか、また再び津和野のためにっていうことを今、答弁いただいたんですけど。まさに彼がそうなんですよ。実は、「何で島大だったの」って。普通だったら、彼は横浜ですから、首都圏の大学に帰っていくのが普通なんですけども、「何で島大受けたの」っていうて聞いたら、「いや、実は津和野高校へ時々行って、コンピューターについて、私が助言するんだ」ということになっているらしいんです。先ほども校長にその話を聞いたときは、「いや、彼がほかの人ではもうとてもじゃない、歯が立たないような、そういうようなことを、彼は知識を持っている」と。「ですから、時々、津和野高校に来てもらって、そうして彼に助けてもらいたい」ということを言われたときに、まさに今のコンソーシアムそのものだなというふうに、本当、校長室でびっくりしたっていう感じの。「これ、続けましょうや。もう積極的に町も」っていう話をしましたんで。

先ほどの寮がどうとかという、寮っちゅうよりも、この促進がいろいろな条件がどうとかこうとかっていうのがありますけれども、今のようなコンソーシアムするときに、促進にそういう子供たちを集めて、管理人もちゃんと置いて、食事もできるような云々っていう、こういうことをクリアすることは、そんなに難しいことじゃない。今のようなコンソーシアム構想を実現するために、ぜひこの促進を利用していくっていうことをやってもらいたいんです。

だから、ただ単に結びとして「検討してまいります」という、何だ、検討するだけかいっていうことじゃなくて、この実例をぜひ生かしていただきたい。これが、私が最初に言いましたうれしい一般質問だということは、ここに一つの実例が本当に出ましたんで、ぜひ皆さんに理解していただいて、今後も続けていただきたいというふうに思っております。

そういうことで、ここの第１番目の質問を終わりまして、それじゃあ２番目の質問にまいりますが。通告では、何か長たらしい、「津和野町町内事業者営業等支援事業補助金交付要綱告示第１０２号について」というふうに長ったらしく書いておりますけど、ここにその交付要綱があるんですけど。これ、見たときに、これ全部読むわけにいきませんので、赤丸で「等」っていうのを丸をつけていったんです。等、等、等っちゅうて、たくさん「等」っていう字があるんですけども。一体、この「等」って何だろうっていうふうに。

あのね、面白いことに、元行政マンとちょっといろいろ雑談しておるときに、彼がこう言ったんです。「話に詰まったら、あるいは文章、こう詰まったら、「等」という字をつけりゃあいいんですよ」っていう。だから、今回の本文とはちょっと外れるんですけど、「「等」をつけりゃあ何か文章が収まる」っていうふうな言い方をしたときに、なるほど、ああそうかっていう、「等」のつけ方っていうのはそういう意味もあるんかいなというふうに、ちょっとそのときに感じたんです。

この質問では、通告では、一体この今言うたような要綱の「等」は、一体、何を意味するのかということを尋ねておりますので、まずそこから御説明いただきたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、津和野町町内事業者営業等支援事業補助金交付金要綱（告示１０２号）についてお答えをさせていただきます。

津和野町町内事業者営業等支援事業補助金交付金要綱は、コロナウイルス感染症によって多大な影響を受けておられる町内事業者の意欲ある活動を幅広く支援することで町内の経済振興を図り、地域の活性化に繋げることを目的として制定したものであります。

最初に、至るところに「等」があるとの御質問にお答えをいたします。

まず、例示にあります「事業者等」でございますが、事業者の定義に関しましては、要綱第２条に定義されております中小企業基本法、以下「法」と表します。第２条第１項に規定される事業者を規定しております。同法によりますと、対象となる中小企業者は、まず１番目に、資本金の額又は出資の総額が３億円以下の会社並びに常時雇用する従業員の数が３００人以下の会社及び個人であって、製造業、建設業、運輸業その他の業種に属する事業を主たる事業として営むもの。

２番目に、資本金の額又は出資の総額が１億円以下の会社並びに常時雇用する従業員の数が１００人以下の会社及び個人であって、卸売業に属する事業を主たる事業として営むもの。

三つ目に、資本金の額又は出資の総額が５，０００万円以下の会社並びに常時雇用する従業員の数が１００人以下の会社及び個人であって、サービス業に属する事業を主たる事業として営むもの。

四つ目に、資本金の額又は出資の総額が５，０００万円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が５０人以下の会社及び個人であって、小売業に属する事業を主たる事業として営むものとなっており、「事業者等」と表記しない場合は、これらを全て表記することになり、法令文が非常に煩雑になることから、「事業者等」と記しているものでございます。なお、法令分においては、こうした煩雑さを解消する目的で定義規定があり、こうした町内事業者の規定を要綱第１条で、「以下、「事業者等」という」と定義しておりますことにより、「事業者等」が頻繁に見受けられるものかと思います。

次に、「商店会等」についてですが、町では商店会のほかに商店街、産業種別組織なども想定をして助成の対象となるように考えております。

次に、「町税等」についてですが、町の税金を使っての措置でありますので、税部分のみならず料の部分に関しても納付が必要と考えての措置であります。料においては、保育料、介護保険料、後期高齢者保険料などがありますので、こうした表記になったものであります。

続いて、「暴力団等」についてですが、政府の「犯罪対策閣僚会議幹事会」における指針の中で、反社会勢力について、「暴力団、暴力団関係企業、総会屋、社会運動標ぼうゴロ、政治活動標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団等といった属性要件」を持つ集団と定義してありますので、これに関しても法令文の煩雑さを避けるために「暴力段等」と規定したものであります。

さらに、「販売企画等」及び「チラシ、折り込み等のＰＲ経費等」につきましても同様でありまして、商業における販売企画、チラシ、折り込み等のＰＲ経費に関する詳細を全て法令文に記すことは困難でありますことから、「等」を用いて規定した次第であります。議員御指摘の「等」のついた文言が頻出していることにつきましては、こうした理由がありますことを御理解いただきたいと存じます。

次に、その他、町長が特に認めた事業者等及びそれに関する経費についての御質問ですが、当該要綱の設置の目的がコロナウイルス感染症によって多大な影響を受けている町内事業者の意欲ある活動を幅広く支援することでありますので、町では中小企業基本法において規定はないものの、津和野町の商工業振興、地域振興のために必要であれば、組合、一般社団法人などの取組も支援する必要があると認識をしております。こうした規定がなければ、必要とされる事業者を制度のネットに組み入れることができないことになります。要綱の前項に規定したものにはなじまない性質のものであることから、対象事業者、補助対象経費において、改めて別の項で規定したものでありますことを御理解いただきたいと存じます。

○議長（沖田　　守君）　道信君。

○議員（４番　道信　俊昭君）　今、これ長々と説明されましたよね、これ。これが、私は問題だっていうことなんです。長々と説明をしなければ、自分たちの意思が伝えられないっていうことが、この「等」で十把一からげにしているっていうことを、これ如実に物語っているなあというふうに思うんですよ。

というのは何でかっていいますと、私の経験でもあるんですけど、例えば具体的に言えば、役場の窓口のカウンターのところに行って、町民の方が疑問に思っていることが、質問しますよね。その質問したときに、ちゃんと担当者は答えられていない。今やこの長々と言われたことが、本当に頭に入っとるんかいなと。ここが問題なんですよ。そうすると、「等」という言葉、要するに曖昧っていうことですよね。曖昧なことでそれを

はねつけてしまう、退けてしまうというものに、この「等」が使われているなっていう感じがしたんです。

だから、カウンターのところで議論するわけにいかないですよね。私なんかは、こうして今みたいな説明を聞くことができます。ですけども、カウンター越しにやり取りする中で、町民の方が納得できるようなことをあそこで議論することができないんですよ。これが私は問題だっていうことなんです。この「等」というのが。そしたら、うるさいやっちゃな、もう何とかここで帰ってもらおうとしたときに、今のようなことを使い分けているなあという感じが１つ。

それともう１つは、担当者の人もよく分かっていない。今、答弁にあったようなことが分かっていないから、どうしてもお帰り願いたいということが前提に立つんです。というふうに私は、私の経験からしたら、それを感じたんです。

例えば、具体的に言いますと、この答弁の中に、販売を企画することを目的とした要綱なんですが、要するに商業者の方が今、困っておるから、販売をどんどん上げてほしい。それを伸ばしてほしいというのが基本的な考え方なのに、「チラシ、折り込み等のＰＲに関し」っていうことが言われたんで、私が看板はどうなのって聞いたんです。だから、そのときに、やっぱり、はたと担当者も困った。これ、「看板」っていうのがないから。

ですけども、基本的な考え方は販促なんですから、看板も含めいろんなことが手段として幾らでもある。だから、そういう、困るんですよ。担当者も困り、町民も困るんです。この曖昧な表現をすると。

ということがあるんで、的確な単語を、だから、長々とこれ、書くわけにいかんというのが結びにありましたけど、的確な言葉を、単語を並べていく。あるいは幾つか上げることで、「等」で一括りにしないっていうことを是非やっていただきたいとは思うんですけど、今の１つの、それともう１つポスターのところなんですけど、ポスターには、例えば材質なんか書いていないですよね。多分、ポスターといったら紙ベースだと思っているんでしょうけど。ポスターにはビニール製のポスターもあるだろうし、いろんなポスターもある。

だから、そういうようなことっていうのを、今のポスターと、それからチラシ、看板とか、ちょっと私、ばらばらって言いましたけども、そのあたりの私の疑問もちょっと答えてもらえますか。

○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。

○商工観光課長（藤山　　宏君）　御質問でございます。

まず、今回のこの津和野町町内事業者営業等支援事業補助金でございますが、これにつきましては、こういうコロナ禍の中で、皆さん本当に今回、すごい切迫感のある中で、いろいろ自ら動いて、前向きな営業活動をしようと考える方が、かなり出ていらっしゃっています。ちょっとこれは、今までの状況とは違って、それが特にまた顕著に我々も

感じておるところでございまして。是非、こういう事業者の皆さんを御支援をしていきたいというのが町の思いでございます。

そういった形で、今回、そういう新たなキャンペーンとか自分たち、または仲間と一緒にやろう、商店街単位でやろうとかということがあれば、さらにそこを多くの金額を出しますよということで、御支援をしようというものが今回の趣旨でございます。

そういう趣旨の下で事業をつくりましたが、今回、コロナの経済対策ということで、去年の３月２４日以来でございますが、我々も手探りの中でいろいろな事業を行ってまいりました。大変手前みそではございますが、数えてみますと、もう３０近いプログラムを実施してきたということでございまして、これにつきましては、大変、本当また手前みそでおりますが、全国的にもかなりのスピード感とボリューム感ではないかと。こういう自治体としての規模を考えた上でございますが、という自負はございます。

そういう中でありますと、どうしても手探りで国として準則があるわけでも何でもございませんので、手探りで物事をつくっていかんといかんと。その中で、とにかく皆さんのやることを一生懸命応援したいという思いでやっておりますので、どうしてもまだまだ十分積み切れていない部分、ある意味、走りながら考えていかんとしようがない部分も出てくるということは、大変申し訳ない部分かもしれませんが、正直あるところだと思います。

ただ、そういう中で、いわゆるこの「等」をつけるということは、議員さんのほうからは、「等」をつけることによって、相手が曖昧な部分でこれは認められませんよって跳ね返すというふうにおっしゃいましたが、担当レベルもまだまだ勉強しながらいろいろ積み上げているところでございますので、そういうところでは物の感じ方っていう部分ではいろいろ齟齬があるところもあるかもしれませんが、基本的には、なるべく助けていきたい、皆さんに御支援したいという思いは、これはみんな一緒でございますので。その中で努めておるということは間違いないと思います。

そういう部分でいうと、「等」をつけることによって、多少曖昧な部分もあることによって、もしかすると、この部分はこういうふうに工夫すれば拾えるんじゃないかと、逆に受け入れるというふうに、多くを包含して受け入れるという部分で、この「等」を使うという意味もあるというふうに御理解いただきたいというふうに思っております。

そういった部分で、今回、「等」が多いということでございますが、本当に全てのことを列挙していることが、どうしても無理でございますんで。そこは御理解をいただいて、一緒になって積み上げていく。また、そういうことをやる中で、お互いが話す中で、じゃあ、こういう取組をすればいいですねっていうようなことが出てくる。例えば、看板の例がございましたが、固定した看板について、例えば、「お店の名前を今回、やり直したいからつけます」ということになると、これは新しい営業活動とはなかなか言えないというふうに思います。例えば、新しい商品をうちは売り始めますよっていうことを、何かを大きく出したいということであれば、例えば仮設でつけられたりとか、キャ

ンペーン期間中つけるとかいうことであれば、材質とかそういう部分は一切関係なく、新たな営業活動ということで、十分御支援できる内容だというふうに思っておりますので。そういったところをお互い話しながら、決して面倒くさいからどうこうっていうのは、私はないと信じておりますので。そういった中で、お互いで話しながら、制度をより成熟させて、その部分で前の型で違っている部分がありましたら、そのあたりはまた訂正をさせていただいて、広く均一で公平な取り扱いをしながら進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（沖田　　守君）　道信君。

○議員（４番　道信　俊昭君）　課長、今、すごくいい、前向きな姿勢で言われた。これ、非常に評価しますんで。だから、今日の一般質問を職員の方にも皆、全部ですけど聞いていただいて、職員の方はこういうふうに町民のために前向きに考えていますよっていうようなことを、ぜひ伝えてほしい。

それで、今、手探りって言われたから。まさにそのとおりだと思うんです。全て知っているわけじゃないから。だから、こっち側も全てを知っているわけじゃない。そうしたときに議論をする、議論ということないけど、意見の交換ですか。議論はちょっと大げさになるんで。意見の交換をしたら、その場で解決、あるいは終わりにしないで、追って連絡をするとか、というような仕組みを町民の人に分かってもらっておれば、じゃあ、そこで解決しなかったら、また追って文書なりあるいはまたちょっとお話ししましょうというようなことを、役場の中でみんなが共有するっていうようにしてもらいたいんです。

ですから、最初にぱっと言うたことを何か、頑なにそれを通そうとして無理が来て、「等」でごまかして、だからこっちからすりゃあ、ごまかしてしまうみたいに受け取られないためにも、「追って連絡します」とか協議して「追って」という、この考え方を職員の方がぜひ共有して、役場として、最初に言いだしたことで、もうがちがちにならないで。一緒につくり上げるという雰囲気を、ぜひ津和野町役場としてやっていただきたい。

この一般質問を聞いておられる町民の方が、今のように、気軽に行って相談してみよう。向こうの人も、職員も分からないこともある。町民の人っちゅうのは、大体、もう職員の人が言われることは、もう完璧みたいなふうに思っているんですよ。だから、そういうふうに町民の方が思って、そうしてまた話し合うという、この土俵をぜひ作っていただきたいというふうに、私はすごく個人的なあそこでのやり取りとかを経験したときに、あ、これ、あそこで議論したり、わーってやるのはまずいなあと。結論が出んなあと。町民としては、適当に追っ払われたなというふうに思いますんで、ぜひそのこともやっていただきたい。

それと、もう１回、「等」に戻りますけれども、できるだけ、やっぱり、確かにここまで書くと、なかなか大変になりますよ。ここまで。ですけども、思い当たる単語は、

少なくとも三つか四つぐらいはつけておかないと。一つの単語で「等」でやると、これは分かりにくい。非常に分かりにくい。三つか四つあると、その中から類推して、自分がそこで言ったことは、これから外れるなあとかいうことの推測ができますんで。だから、それは単語をもうちょっと増やしてほしい。もうちょい。ということなんですけども、ちょっと提言っぽいんですけども、その辺どうですか。
○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。
○商工観光課長（藤山　　宏君）　先ほども申し上げましたところでございまして、おっしゃる趣旨はこちらも分かる部分でございまして、より具体的にイメージ持っていただくような要綱にしていくっていうことは、確かに必要かなあと思っています。
　ただ、そういう中で、だからこそ人と人、商工会や観光協会さん、経済３団体ございますが、一緒になって今回の対策も進めておりますんで、そういう皆さんのところも含めて気軽に御相談いただいて、その中で話合いながら進めていきたい。ただし、あくまでもやっぱり要綱でございますので、その趣旨にのっとった部分で、救える部分は、御支援ができる部分はそうしていきたいという思いでおりますので。そのあたりも気をつけながら、進めてまいりたいというふうに思います。
○議長（沖田　　守君）　道信君。
○議員（４番　道信　俊昭君）　それと、要綱とか、それとか条例なんかでも、最後に必ず「町長が認めたとき」というような形で書かれているんですけど。これ、「町長が認めたとき」っていうのが、一体最後にどうなるんだっていう。全文はいいんだけど、最後でひっくり返るんかいっていうイメージを持つんですよ。だから、これを削除せよとかっていう意味はないんですけども、ぜひこの場で、その趣旨にきちっとのっとったような形で、あの最後の文言が履行されるというようなことを、こっちは思っているんですけども。そのあたり、最後の文言に関して町長、どう思われますか。
○議長（沖田　　守君）　町長。
○町長（下森　博之君）　先ほどからの議論の延長線上にもなるかと思いますが、基本的にはより広く町民の皆さんの支援になるような、そういう制度にしていこうというそのためのネットを広げるという観点から、「等」という言葉も使われておりますし、そして最終的には、町長が認めるものという文言も、これに限らず大半のそういう制度の条文には入っているかというふうに思っておりますが。
　そういう意義をしっかり私自身が受け止めながら、その都度判断をしていくと。そこに明確な、決して基準を設けるというのはなかなか難しいことだというふうに思っております。
　ただ、やはり、これは町長として、ある意味選挙を４年に１回やって、その中で選挙を経て、町民の付託を受けて町長としての仕事をするという部分、その一つの付託ということを私自身が重く受け止めて、そして公平公正な中で、その判断をしていくということが求められているんだというふうに、私自身は肝に銘じているところであります。

ただ、結果として、私の判断が誤ったときには、まさに議会があるわけでありまして、「それはおかしいんじゃないか」というような、また御提言等も受ければ、それもまた我々としては、それをどうだったのかということを検証しながら、議会と共通認識の下で町長が判断したということを進めていくということになるんではないだろうかと思っております。

○議長（沖田　　守君）　道信君。

○議員（４番　道信　俊昭君）　今の発言を素直に受け取っていきますんで。ですから、町民の方のためにちゅうよりも、いい町をつくるということのために、今の言葉を受け取っていきたいというふうに感じております。

それで２番目を終わりまして、３番目が女性管理職ということですけれども。

昨今、女性の進出っていうものが、テレビで特にオリンピックなんかがすったもんだやっておりまして。なぜ女性の登用が必要なのかっていったときに、これは私の考え方ですけども、視点が変わるっていうことなんです。我々の男社会の中では気づかなかったようことが、これが出てくるっていうことが、非常に大きなことなんです。だから、今までの男社会をずるずる引きずったようなことで価値判断するっていうことじゃなくて、「え、そんな見方があるの」っていうことがあります。これは、こと女性云々っていう意味じゃなくて、私はこれは幅広くもうちょっと捉えているんですけども、例えば子供目線、子供の目の高さに立ったときに見えるもの、それから、ほかのいろんなジャンルの人たちの目線っていうものが必要だっていうことが。

だから、ちょっとあれしますけど、例えば今、地域おこし協力隊で、どんどん来て。我々では感じなかったようなことに対して、「え、こんなことに興味持っておるの」っていうことが、非常にやっぱり感じましたんで。この一つの事例として、町長から、日頃から標榜しておられます、男女共同参画っていう言葉の中に、今回の質問としては具体的に、女性管理職の登用はどうですかっていうことを質問いたします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、女性管理職についてお答えをさせていただきます。

令和３年度施政方針でも述べましたとおり、本町では男女共同参画社会の実現に向け、平成３０年度に策定した第２次津和野町男女共同参画計画に基づき、数値目標に対する進捗状況の検証を行い、目標達成を目指しております。

こうした中、３月１２日に４月からの人事異動について内示を出したところでありますが、御質問の女性管理職については新たに１名を登用し、合計２名を任用したところであります。

今後も引き続き島根県男女共同参画サポーターと連携し、地域や若い世代への啓発活動を充実させ、男性も女性もともに対等なパートナーとして互いの人権を尊重し、個性と能力を発揮することができる社会の実現を目指してまいります。

○議長（沖田　　守君）　道信君。

○議員（４番　道信　俊昭君）　先ほども言いましたように女性、具体的に質問としては女性管理職っていうことを言いまして、何かすごく狭い言い方してあれなんですけど。地域おこし協力隊の若い人たちの動きを見ていると、彼らは今、「津和野の中には非常に面白い素材が幾らでもある」っていうふうに言うんです。私たちなんかは、津和野のバブルを知っていますんで、津和野のバブルでわーっといいときを知っていて、ほいで落ち込んでいった。そして、意気消沈した。これが今、津和野の中で既存の、既存っていう言葉がある。既存の町民にとったら、気持ちがもうどんどん落ち込んでいる。そして、閉店するところもたくさん出ている。

ですけども、彼らは、この今の状況がベースですんで、ここから自分たちが活躍できるという、このチャンスが幾らでもあるというような捉え方をするんです。これが、聞いていてとか、あるいは動きを見ていて、非常に参考になる。このように私、思っているんですよ。だから、積極的に彼らと付き合って、先般もズームに初めて出させてもらって、ズームってこんなもんかいっていう感じのところなんですけども。

ただ、１００点じゃないですよ、当然。当然、私、前も言うたんですけど、３割バッターは十分だっていう、ちゅうことは７割は駄目みたいなんですけど。ですけど、その７割の失敗の中に、私たちがやろうとしたけども怖くて、やっぱり駄目か。そういうことは駄目なんだなっていうことが、あの失敗の７割の中にあるなあっていうのもありますんで。

だから、ぜひこの女性管理職も一つの大きな目玉ですんで、これを具体的に出していって、また次に、今回２名って言われましたが、さらに女性管理職の方に、課長になってもらって、今までとは違うパターンを我々として見たい。そういうふうに思っていますんで、是非そこを頑張って。期待しておりますんで。

ということで、今回の私の質問は終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。

……

○議長（沖田　　守君）　以上で、４番、道信俊昭君の質問を終わり、ここで１０時５分まで休憩とします。

午前９時 56 分休憩

……

午前 10 時 05 分再開

○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続いて、一般質問を続けます。

発言順序２、９番、寺戸昌子君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　議席番号９番、寺戸昌子です。通告に従って、２項目質問をさせていただきます。

まず、新型コロナウイルス感染症対策についてです。

町長も施政方針において新型コロナウイルス感染症が町内経済に与える影響が大きいと懸念をされています。新型コロナウイルス感染症への対応を１年以上迫られてきた中、町民生活への経済的影響は大きくなっています。

そこで、生活困窮についてお伺いします。

厚労省が１２月２２日、「生活保護を申請したい方へ」と題したページを公式サイトで新たに公開しました。生活保護は国民の権利であり、「ためらわずに御相談ください」と呼びかけ、各自治体の福祉事務所を紹介しました。

そこでは、「よくある誤解」として、「保護が最優先であり、同居していない親族に相談してからでないと申請できないということはない」「持家がある人でも申請できる」などと紹介をしています。このような国の積極的な広報に対し、生活困窮者を支援する団体から評価する声が上がっています。

このたび、国が新たに公開した背景には、最後のセーフティーネットであるにも関わらず、生活保護の相談がしづらいという面があります。それは、困窮者本人や社会が持つイメージに起因します。そこで、国も相談しにくさを認めて、ためらわず相談してもらえるよう改善をしてきています。

また、田村厚生労働大臣は国会で、「扶養照会は法律事項ではなく、義務ではない」と答え、菅首相は、「生活保護は国民の権利だ」と改めて認めています。

御存じのように、扶養照会とは生活保護申請の際、申請者の親や配偶者だけではなく、きょうだい、孫などの親族に対し、生活の援助が可能かどうか問い合わせることです。これは申請を阻む大きな壁になっていると、厚生労働大臣も認めています。

そこで質問です。町内の生活困窮者による相談や生活保護申請は行いやすい状態でしょうか。生活困窮者の状態を社会福祉協議会と連携し、町行政がしっかりと把握しているでしょうか。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種計画の詳細をお伺いします。

山陰地方では、２月１９日から松江の病院で医療従事者向けの先行接種が始まりました。しかし、津和野町では多くの町民がワクチン接種について不安を持っています。ワクチン接種で体調を崩さないだろうか。副反応がもし起きても、早急に対処してもらえるんだろうか。ワクチンを接種していない人が不利な扱いをされるのではないだろうかなど、たくさんの声を聞きます。

そこで質問です。町内の医療従事者、介護従事者へのワクチン接種の進捗状況をお伺いします。

６５歳以上の方のワクチン接種についてお伺いします。

集団接種について。車を運転できないなどの交通弱者の方に対する対策は取られているのでしょうか。

個別接種について。町内の医療機関で個別接種はできるのでしょうか。

介護施設入所者や入院患者への対応はされるのでしょうか。

入院などによる町外滞在者への対応はされるのでしょうか。

次に、ワクチン相談専用窓口についてですが、専用の窓口は設置されるのでしょうか。先日、各戸に配布されたワクチンに対するチラシには、健康福祉課の窓口の電話番号が一つ載っていましたが。

次は、ＰＣＲ検査についてです。

医療機関や高齢者施設でのコロナ集団感染は、重症化や死亡に直結します。感染者をいち早く発見することが、クラスター発生の未然防止につながります。

津和野町では、医療機関や介護施設など福祉施設で、職員や入院患者、入所者に定期的に検査を行う社会的審査は行われないのでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、９番、寺戸議員の御質問にお答えをさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症対策についてでございます。

まず、生活困窮者からの相談対応につきましては、社会福祉協議会に相談支援事業を委託しておりますが、町民が相談しやすい体制を確保するために、本所、津和野支所おのおのに相談員を配置し、生活全般にわたる課題の把握に努め、貸付け等の実施や保護制度利用の案内等を行っております。

また、福祉事務所における生活保護申請に関する相談対応につきましては、相談者が保護制度に関し誤解を招くことがないよう、保護のしおりの活用による正確な制度説明に努めており、申請を希望する方に対しては、速やかに保護申請書の交付を行っているところであります。

次に、生活困窮者からの相談内容及び支援経過の把握につきましては、社会福祉協議会との連絡会議を年２回開催しておりますが、緊急性があるケース等に関しては、適時電話等による情報共有を行い、早期に適切な支援につなぐよう心がけております。

次に、ワクチン接種計画でございます。

まず、医療従事者へのワクチン接種は、県が所管し進められており、県下でも一部の医療従事者に対して先行接種が始まっているところですが、本町においてはワクチンの供給量や時期が不確定なため、現在のところ町内の医療機関従事者への接種は未実施となっております。

また、介護従事者への接種については、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設及び認知症対応型共同生活介護に従事する方が対象となり、接種順位は、６５歳以上の高齢者の次に接種を実施することとなっているため、現在は未実施となっております。

次に、６５歳以上の方の集団接種において、車を運転できない方などへの対策としては、各地域から接種会場までのシャトルバスの運行を計画しているところです。

個別接種に対応していただける町内の医療機関としては、現在のところ和﨑医院と調整しているところでありますが、接種できる方は、和﨑医院がかかりつけ医である方の

みとなります。介護施設入所者については、その施設の嘱託医院に御協力をいただき、施設内において接種できるように協議を行っているところです。

ワクチン接種は原則、住民票所在の市町村での接種をすることが基本となっていますが、入院等やむを得ない事情による滞在者については、滞在先の医療機関等での接種が可能となっております。

次に、町では、ワクチンに関する一般的な内容や接種スケジュール等についての問合せ、接種の予約を受け付けるための専用電話を近々設置することとしております。

次に、ＰＣＲ検査でございます。

医療機関及び介護施設においては、町が主導し、町内の介護施設に対しＰＣＲ検査をすることは考えておりません。現時点で、町内では新型コロナウイルス感染者が確認されていないことや、今後、先行して医療従事者をはじめ高齢者等に対してワクチン接種が控えていることも主な理由であります。

なお、町内に所在する特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護に対して聞き取りを行ったところ、いずれの施設においても、現段階ではＰＣＲ検査を実施しないという回答でございました。

○議長（沖田　　守君）　寺戸君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　相談をする、生活保護のことなんですが、コロナウイルスの感染症が広がってから、いろんな町内で打撃を受けていてられる方がおられるはずですが、まだそんなに影響がないっていうことを、生活保護に関してです、影響がそれほどないということを予算委員会でお伺いしましたが。そこまではいかなくても、まだ何とかやっていっておられるっていう方がたくさんおられると思います。実際に、緊急事態宣言が出されたときにお店を閉められたり、給食なんかは止まったりするので、給食に従事される方のお給料が減ったりとかいうことがあったと思うんです。

実際には、おうちで何とかされているっていう方もたくさんおられるはずです。最終的に、どうしても、これ以上は我が家だけでは何ともならないということで、相談に行かれるのが、生活困窮の相談だと思います。

そこで、相談するまでの壁がかなりあるっていうことを、国のほうも今、認められて、いろいろ改善を進めておられます。

我が町で生活に困ったときに、まずどうするかだろうということで、健康福祉課のほうに多分、相談に行かれると思うんですけれども、ちょっとホームページで生活保護について、どういうふうに出ているのかなっていうのを検索してみました。

ホームページのほうで生活保護のことの案内は、津和野町のページで概要として、ホームページに載っていた言葉なんですけど、「様々な理由により生活が苦しくなって、あらゆる努力をしてもなお生活ができないときに、国が困っている方の状況や程度に応じて、その足りないところを補い、最低限度の生活を保障し、生活の向上が図っていけるよう援助する制度です。生活にお困りの方はまず御相談ください」とあるんですが、

これ、生活に困られている、もうどうしようもないっていうことで相談に行かれる前にこれを読まれたら、「あらゆる努力をしてもなお生活ができないときに」っていう、この「あらゆる努力」っていう抽象的な表現がここに出てまいりますと、もうちょっと努力しなくちゃいけないのかな、何かうちで努力できないのかなということを、まず思ってしまうと思うんです。そうではなくて、もうちょっと。実際にはあらゆる努力をしていただいてからの生活保護っていうのは分かるんですが、その相談に行ける、実際に相談されたら、ああいうこともできる、こういうこともできるっていうことを、行政側がいろいろ提案してくれて、じゃあ、生活保護を受けなくてもよかったわっていうことになることだと思うんですが。それが、そういう方でも相談に行きづらい表現じゃないかなと思うんですが、この辺はいかがでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　ホームページに書かれてあります言葉というのが、恐らく本町単独で作っているものではなくて、国から示されたものを載せているんではないかなというところで、ちょっと今日のところは私も確認をしておりませんので、その文言がはっきり分かりません。

　しかしながら、その言葉だけで相談がしにくいというようなことはありませんで、当然、これまでも多くの方が相談に来られております。ましてや今は平成２７年から始まりました生活困窮者の相談支援事業、先ほど町長、申し上げましたように、社協のほうで窓口を作っておりまして、相談員それぞれ、津和野支所、日原の本所のほうに設置をしまして、本当、一時的な、今日、明日だけなんとか食べる物がないとか、今週１週間なんとかやりくりができれば、来週にはお金が入るとか、そういう本当、身近な相談、またその対応を社協のほうにしていただいておりまして、そういう対応では済まない方につきましては、町のほうできちんと生活保護の申請をしていただくということにしております。

　町のほうもそれを、難しく説明したいとか分かりにくくするようなことは一切しておりませんで、本当に分かりやすく、ただし国の制度、交付金が入るわけでありますから、その辺の線引きはきちんと説明をさせてもらっているということであります。

○議長（沖田　　守君）　寺戸君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　ぜひ、ホームページのほうの文言をもう一度見ていただいて、検討していただきたいと思います。

　吉賀町のほうもちょっと見させていただいたんですが、吉賀町は「生活保護とは、思わぬ病気やけがにより働けなくなり、医療費が支払われなくなるなど、いろいろな事情で生活が困ったときに法律に基づき、健康で文化的な最低限度の生活を保障することによって、一日でも早く御自身の力で生活ができるよう手助けをする制度です」という書き方をされています。ぜひ、御検討をよろしくお願いします。

それから、２番目の、社会福祉協議会との連絡会議が年２回開催されているということで、緊急性があるものに関しては、適時電話などによる情報共有を行っているということなんですが。その緊急性っていうところの、この線引きっていうのはどの辺になっているのか教えてください。
○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。
○健康福祉課長（土井　泰一君）　その前に、先ほど議員が言われました、吉賀町のということでありますが、吉賀町の今の文言は、そのままの、生活保護のしおりというのがありますが、そこの全文が載せてあるということであります。本町のほうでも当然、そのことはお伝えしているということで認識いただけたらと思います。
それから、社協のほうとの「緊急性がある」ということでありますが、先ほども申し上げましたが、一時的に、例えば二、三日分の食料支援が必要であるという方が、例えば社協に相談に来られたと。そういうことは、社協のほうで二、三日分の食料支援をしていくことによって、そのことが解決できるということでありますので、それは特に緊急性があるとは考えてはいないということで、社協のほうからも特別にその時点での連絡はないです。
ただし、例えば、病気が大変重くなっているとか、例えば、一週間分の食料支援であるとか、例えば、一時的な金銭の貸付けを行ったところでは、この方についてはもう生活ができないというような方が、例えば社協に相談に行かれた場合には、当然その時点ですぐに私どものほうに連絡が来まして、一緒に、例えば、当事者の方と社協と町とで３者でいろんな今のいろんな状況把握をして、もしそれが必要とあらば、生活保護の説明をさせていただいて、申請は本人次第でありますので、申請をするかどうかというような協議を行っていくというというふうな流れになろうかと思います。
○議長（沖田　　守君）　寺戸君。
○議員（９番　寺戸　昌子君）　連絡会議を年２回っていうのは、ちょっと、緊急性がないにしても少ないような気がするんですが、そちらを増やされることはないですか。
○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。
○健康福祉課長（土井　泰一君）　年２回といいますのは、一応まとめみたいなものでありまして、年間ほとんどの方が、ほとんどと言いましてもおかしいんですが、半分ぐらいの方は基本的に社協のほうから連絡が来ます。そうは言いましても。こういう方が来られたと。半分以上の方、ほとんどの方が、一応、こういう方が今回、来られて相談に来ていますというのは、電話連絡等では大抵あります。よっぽど簡単な事例でない限りには。それを半年ごとにまとめまして、この方が何回、相談に来たとか、この方には金銭の貸付けをしたとか。食糧支援をしたとか。そういうことをまとめたものを一応もう一回おさらいをしながら、今の例えば半年に１回、その方の今の状況はどうであるというのを、お互いの共通認識として持っていくような情報交換の場であるというふうに考えていただけたらと思いますので。通常時は、こういう方が来られたというのは、社

協とうちの生活支援係が会わないわけじゃありません。しょっちゅう会っていますんで、そこで、この前、こういう方が来られたがというような情報交換は大体行っておると考えていただいていいかなと思います。
○議長（沖田　　守君）　寺戸君。
○議員（９番　寺戸　昌子君）　年２回というよりも、かなり密にされているということで、安心をしました。
　それで、先ほど言った扶養照会のほうですが、かなり誤解があると思うんですが、我が町ではどのような場合に照会をされていますか。
○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。
○健康福祉課長（土井　泰一君）　基本的にはこれは生活保護法にのっとって私どももやっておりますので、生活保護法に載っておる最低限の扶養照会等をその他の調査、そこはしなければいけないというふうに感じておりますが、先般、厚労大臣とかが申し上げていたというようなことも、今さっき議員さん言われましたが、そういうところにおいては、町のほうにも文書が、国のほうから来ております。
　そういう中においては、通常でありましたら基本的には３親等以内の親族については扶養照会をしなければいけないとかいうのが大前提であるわけでありますが、そういう中でも、例えば母子の方が申請に来られた場合、例えば、元の旦那さんか何かから、ＤＶで逃げて来られている状況なのに、例えばその方に扶養照会をするとか。例えば、もう７０歳以上の高齢者の方で、ほとんど収入がないのにということが明らかなのに、扶養照会をするとか。例えば、２０年以上音信不通である方に扶養照会をするとかというのは、しなくていいということで、それは国のほうからも、また特別なルールとして出てきておりますので、その辺を私どもも勘案をしながら、それに当てはまらない方については、きちんとする。そういうことに当てはまる方については、しないというようなことでやっておるところであります。
○議長（沖田　　守君）　寺戸君。
○議員（９番　寺戸　昌子君）　国のほうからも通知が来ているということで、それをしっかり熟読していただいて、それに従っていただければと思いますが。先ほど申しましたように、「扶養照会は法律的事項ではなく、義務ではない」と大臣も答えておられます。ぜひ、行き過ぎたことをされることはないと思いますが、一般的にそこんところがネックで相談に行きづらいということをよく、一般的にですよ。話が出てきますので、よろしくお願いします。
　では、次、ワクチンの接種について、お伺いします。
　町内の医療機関従事者への接種がまだ未実施とお聞きしました。これ、びっくりしているんですけど、実施はできないもんなんでしょうか。
○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　現在のところ、テレビの報道なんかでありますが、松江のほうの国立病院あたりが今、始まっておるというところは、テレビとかで、報道で知っておられると思います。

本町の場合は、先般も津和野共存病院の院長とも話をさせていただきましたが、恐らく４月ぐらいに、４月半ばぐらいになるのかなというところで聞いております。

○議長（沖田　　守君）　寺戸君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　ということは、６５歳以上の方の接種をするときと一緒ということになるんですか。

○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　これは先ほど町長のほうからの答弁もあったと思いますが、医療従事者へのワクチン接種は県が主導してやっておりますので、私ども一切関わっておりませんので、いつ何どきに今どういう流れの中で、どこで接種されるか、どこで接種されるかというのは大体、分かりますけれども。関わっておりませんので、いつその関係のワクチンが来て、いつから始めるかとかいうのは、町としては判断ができないというか分からない状況です。

○議長（沖田　　守君）　寺戸君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　県が主導でやっていることということなんですが、大事な我が町の医療機関、公的な医療機関の共存病院の先生に、予防接種もお願いすることになっています。たくさんの方に接する前に、やはり医療機関の方にはワクチン、希望される方にですよ、がされるべきと思いますので、県にしっかりその辺、我が町はまだ感染者が出ていないっていうことで、後回しにされているのかもしれないですが。無症状の方がおるっていうのが、このウイルスの怖いところなので、ぜひ早急に医療機関の方が打てるように要請をしていただきたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　医療対策課長に答弁させえ。あなた、健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　議員おっしゃることはよく分かりますけれども、これ、全国の問題になっているわけでありますし、国も一生懸命ワクチンを今、国へ配送するようにしているところであります。御存じのとおり。

決して、うちのほうだけそういう状況になっているということではありませんので、県のほうへ進言をしても、県も公平に配分するように国からもらったワクチンをしているところであります。

いましばらく待っていただきながら、病院の先生方も、津和野共存病院だけではなくて開業医の先生もおられるわけでありますし、また、本町でいいますと消防関係者の方もおられたりというようなこともあります。その方々が優先接種の対象者ということでありますが、それだけのワクチン数が今、入ってこないという状況でありますので、いましばらくお待ちいただけたらと思います。

○議長（沖田　　守君）　寺戸君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　そんな、県に対して文句言うべきじゃないというような、そんなふうにちょっと受け止められるんですが。やっぱりうちの津和野町を守るのは津和野町なので、よその方はどうされているか分からないけど、我が町は早く接種したいっていうのを、やっぱり。我が町の医療従事者の方を守る側としては、言っていただきたいけど、それは言えないっていうことなんですか。
○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。
○医療対策課長（下森　　定君）　先ほどから健康福祉課長のほうが答弁してございますが、これは今、言われておるように、県から適宜そういう情報が入って動くということでありまして。津和野町の津和野共存病院は連携型の接種施設となっております。現在のところ、基本のいわゆる型病院、こちらでいえば益田赤十字病院から、うちの津和野共存病院のほうへワクチンが来て、そして、先ほど健康福祉課長申しましたように、医療従事者、そして介護従事者、開業医のクリニックの先生、広域消防の職員等の部分で、現在２００人ぐらいを津和野共存病院のほうで責任を持って接種をするということでありますが。
　現在のところ、県のほうもＶ―ＳＹＳというＩＤ番号、これはもう氏名等は津和野共存病院のほうがまとめまして県のほうに送っておりますが、そのＩＤ番号がまだこちらのほうに送られていないということで、先ほどから健康福祉課長のほうも目処が立っていないという状況でありまして。
　議員さん言われますように、まずは医療従事者を先行してということは、町としても町長をトップとして、その辺の部分も要望もしておりますし、健康福祉課からも全然そういう部分で県にそういうことを言っていないのではなくて、もう最優先でそういうこともお願いをしておりますので、どうかそのところを御了解をいただきたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　寺戸君。
○議員（９番　寺戸　昌子君）　よろしくお願いします。
　それで、６５歳以上の方の集団接種に関してですが、シャトルバスを運行していただけるということなんですが、これからいろいろ決めていかれると思うので、要望っていうことなんですが。お年寄りはよく体調を崩されるので、この地域は１回、シャトルバス行っただけとか。体調を崩して打てなかった方が、自分の対象の日に体調を崩して打てなかった方が、もう一度再チャレンジでワクチンを打てるように、シャトルバスをかなり頻繁に出していただけたらなと思います。もし、シャトルバスの運行決まっていれば、教えていただきたいですが。
○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。
○健康福祉課長（土井　泰一君）　シャトルバスにつきましては、できるだけその接種日、集団接種の接種日を、例えば何月何日月曜日は、例えば木部畑迫方面の方を優先するというような形で予約を取りまして、その日は例えば、木部畑迫に何往復もバスを用意するとか。例えば、その次の火曜日は今度は小川地区でということであって、笹山に、

例えばバスを出して、また寺田方面にも行ったりというような形で考えておりますが。それ以外の日に、例えばですけれども、何月何日月曜日は木部の日でありますが、その日にもう、例えば左鐙にも出すし青原にも出すというようなことは、ちょっと物理的には無理かなと考えております。

現在のところは、１日に何便というのも、例えば、あとはもしくはバスの大きさなんかも関わってくるわけですが、２８人乗りがいいのか、１０人乗りの小さいのがいいのかとかいうことも含めまして、その日の接種の予定地域に合わせたバスの大きさ、または運行の本数、または台数、その辺をいろんなパターンを作りまして、考えているところであります。

ただし、こうやって考えてはいるところではあるんですが、ワクチンの供給量と時期がはっきりしませんので、いつから始められるというのがまだできておりません。そういう中でバスの予約も取れていないわけでありますし、本当にこのバスがこれだけ造っても対応できるかなあというのが、非常に今、困惑しているところが現実であります。

○議長（沖田　　守君）　寺戸君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　なかなか国のほうがはっきりしないので、町も大変だとは思いますが、先ほど言いましたように、チャンスが１回だとお年寄りの方、打てない方も出てくると思うので、御希望される方が皆さん打てるように、少しでもいろいろな配慮をしていただけたらなと思います。

次に、ワクチン接種に関する専用電話を近々設置するということで、さすが津和野町と思いました。いろいろやっぱり不安を持っておられて、聞こうかなっていう気持ちを持っておられても、専用電話がないと、今、電話しても忙しいかなとかいろいろ、電話する前にお年寄り、いろいろ気を遣われるので。早く電話を開設していただけたらと思います。よろしくお願いします。

それと、住民の方からちょっと声があったのが、副反応が起きたときに、早急に対応してもらえるんだろうか、うちの町は。ワクチン接種で医療従事者が大変な、ワクチンを接種することだけでも大変なのに、副反応が起きたら一体どうなるんだろうかっていう不安を持っておられるんですが、その辺の対処についてはいかがでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　今回、集団接種につきましては、津和野共存病院のほうに全面的に御協力をいただくということで、そこから当然、ドクターがお１人もしくは２人出ていただけるということでお願いをしているところでございます。

その接種が終わった後は、通常、国は１５分間は待機をするようにというところで示しておりますが、津和野共存病院の院長のほうは、やっぱり３０分ぐらいはしっかり見たほうがいいということで、本町の場合は、接種後３０分間、その状況を見るということで、今のところは考えております。

もし、その間に何かあれば、当然、そこにドクターがすぐそばにいるわけでありますので、接種を中断してでもそちらのほうについていただくということ。それから、帰ってからそういう何かしらのことがあれば、それについては医療機関のほうに御相談いただいたほうが一番いいかなというところで考えております。

○議長（沖田　　守君）　寺戸君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　いろいろともう打合せをされているということで、安心しました。

次は、ＰＣＲ検査についてなんですが、現時点で町内では新型コロナウイルスの感染者が確認されていないこととかがあって、医療従事者や介護施設の方に対してＰＣＲ検査を行うつもりはないという御回答だったんですが。確認されてからＰＣＲ検査ということになると、万が一、医療機関とか介護施設とかで最初の方が発生した場合には、そこでもう既にクラスターになっちゃうっていう大変な事態になるので、従事されている方、それから、入院や入所をされている方が安心してその場にいられるためにも、ＰＣＲ検査を定期的に行う社会的検査っていうんですか、あれをしていただくわけにはいかないんでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。

○医療対策課長（下森　　定君）　このことに関して、社会的検査ということで、先日も益田赤十字病院の医療介護統括管理者であります木谷院長先生とも御相談をしました。それで、当然、日赤においては感染症の部分でコロナの入院先でもあるということで、今、議員さん言われましたように、町独自でということはいかがでしょうかという御意見を伺ったところ、やはり医療従事者なり介護従事者は連日そういう状況の中でソーシャルディスタンスを取り、そしてそのような対応も、職員が自覚をしているということで。当然、ＰＣＲ検査を全体的に実施することになると、やはり医療従事者等の分の今後の分の診療と、そして保険所等ともこういう連携を取りながらということがありまして、現在のところ対策本部とも相談をしまして、町が主体的にこのＰＣＲ検査は、先ほど町長が申しましたように、現在では行うというところは今、考えておりません。

特養等の、町長先ほど申しましたように、町内の施設等にも確認をしました。やはり同じような状況の中で、いわゆる入所者、あるいは御家族とも面会の部分もできないような状況になっておりまして、その辺も気をつけているという状況でありましたので、この、先ほど町長が回答したように、町主体ではＰＣＲ検査は現在のところ行わないと。

ただし、今後におきましては、やはりワクチン接種を接種することによって、そこら辺の部分もやはり重要であるということでありますので、まずはワクチン接種をできる限り多くの人に受けていただいて。先ほどから副反応という部分もあります。やはり、集団の会場では酸素ボンベ等も先日、院長の三輪先生等もその辺の対応はしていると。それと、医療機関からもドクターと看護師、そして事務員をつけて、即時対応ができるような体制も取っていくということで。先ほど、健康福祉課長も申しましたが、やはり

救急車等の広域消防ともその辺の部分も連携をして、よりこの接種に事故が出ないような対応を取っていきたいと考えております。
○議長（沖田　　守君）　寺戸君。
○議員（９番　寺戸　昌子君）　まだＰＣＲ検査のほうには踏み込まないということで、ちょっと残念ですが、ワクチン接種を控えているのでそちらに万全を期されるということだと思います。
　では、次の質問に移らせていただきます。ジェンダー平等社会の実現についてです。
　東京五輪・パラリンピック組織委員会の森前会長が女性蔑視発言で辞任した問題は、日本社会の女性差別の構造的なゆがみをあぶり出しました。これに対し、多くの人たちが差別を許す社会自体を変えていこうと声を上げ、社会を今、大きく動かしています。
　世界フォーラムが発表した女性の地位は、日本においては１２１位と、これ、何度もいろんな人が今、言っておられるので、皆さん御存じかと思いますが。１５３か国の中の１２１位ということで、本当、下から数えたほうが早いという順位です。
　この日本において、津和野町がジェンダー平等社会の実現をすることは容易ではないと考えます。しかし、昨年の９月議会で町長は、「コロナ禍におけるジェンダー平等社会の実現に対して支援策など行っているが、まだまだ理想から遠いところにある。平素からもっと力を入れていく重要性を改めて感じている」と力強い回答をいただきました。
　また、津和野町は定住施策の基本的視点を、若い女性が住みたいまちづくりとし、基本目標の中に、「若い世代の結婚、出産、子育ての夢をかなえる」と入れています。ジェンダー平等社会が実現される町を一歩でも前に進めていただくために、以下の質問をさせていただきます。
　平成３０年度第２次津和野町男女共同参画計画の進捗状況をお伺いします。
　近年における町の女性職員の管理職の数の推移、町の男性職員の育児休暇取得の割合。
　次に、「リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ（性と生殖に関する健康と権利）に関する意識を図るため、情報提供をし、意識啓発に努める」と計画の中にあります。このリプロダクティブ・ヘルス＆ライツっていう耳慣れない言葉、これを津和野町の計画の中に、しっかりと入れられているということで、大変心強く思います。
　そこで、そのリプロダクティブ・ヘルス＆ライツとありますが、どのようにそれを行われているのかお伺いします。
　このリプロダクティブ・ヘルス＆ライツっていうのは、人々が政治的、社会的に左右されず、子供を持つ、持たないを決める自由を持ち、自分たちの子供の数、出産間隔、出産する時期を自由に決定でき、そのための健康を享受できること、また、それに関する情報と手段を得ることができる権利のことです。聞き慣れない言葉ですが、とても大切です。
　次に、町職員における正規職員、非正規職員の男女比をお伺いします。

次に、庁舎内などにおいて男女の固定的役割分担意識は是正されているのでしょうか。固定的役割分担意識っていうのは、ちょっと分かりにくいので、ちょっと説明を入れると、「お茶くみは女性だよ」などという、性に関する固定的なお仕事っていうか役割を意識してしまうということです。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、ジェンダー平等社会の実現についてお答えをさせていただきます。

第２次津和野町男女共同参画計画の進捗状況についてでありますが、津和野町では、平成２１年９月に津和野町男女共同参画計画を策定し、男女共同参画社会の実現に向けて推進してまいりました。また、平成３１年３月には、社会情勢やこれまでの取組等を踏まえて第２次津和野町男女共同参画計画を策定し、施策を展開してきたところでございます。

まず、一つ目の御質問の、近年における町職員の女性管理職の数の推移につきましては、平成２９年度は０人、平成３０年度から令和２年度はそれぞれ１人となっております。なお、３月１２日に４月からの人事について内示を出しましたが、女性職員を１名管理職として登用しており、令和３年度は女性管理職２名となります。

また、男性職員の育児休業取得の割合につきましては、平成２９年度と３０年度が０％、平成３１年度が２０％、令和２年度２月末時点が１６．７％となっております。第３次津和野町男女共同参画計画では、令和５年度の目標値を女性管理職の数は３人以上、男性職員の育児休業取得者の割合を１０％としていることから、男性職員の育児休業取得者の割合は目標を達成しておりますが、女性管理職の数については目標値に達していない状況でございます。

二つ目の御質問の、リプロダクティブ・ヘルス＆ライツに関する取組状況でありますが、町としましても、国連を中心として国際社会レベルで提唱されてきた女性の基本的人権であるリプロダクティブ・ヘルス＆ライツの考え方として最も重要なことは、女性の健康な性と生殖に関する権利が保障されることだと認識しております。

このことから、町における取組としては、保健部門において、子育て世代包括支援センター「来る未（くるみ）」を中心に、不妊に関する相談や事業実施、子宮頸がん検診の実施、ＨＩＶ検査に関する情報提供、妊婦健診・産後健診の実施、子育ての相談、健康福祉部門において、ＤＶや家族の問題などの悩みについての相談に応じているところでございます。

三つ目の御質問の、町職員における正規職員、非正規職員の男女比につきましては、令和２年４月１日時点で正規職員が男性６９．６％、女性３０．４％、非正規職員が男性３５．６％、女性６４．４％となっております。

庁舎内などにおける男女の固定的役割分担意識については、庁舎内において、「お茶くみは女性」などのような固定的役割分担意識は実感としてないように思っております。

しかしながら、平成３１年度に行いました住民意識調査では、固定的性別役割分担意識に否定的な人の割合が５３．１％にとどまっていることから、津和野町全体で見ますと、まだまだ性別役割分担意識は根強く残っているということがうかがえます。

今後も男女共同参画サポーター等と協力をしながら、講演会や出前講座等を通して啓発に努めてまいりたいと考えております。

答弁の中で訂正をさせていただきたいと思います。「第２次」津和野町男女共同参画計画というところを、私、「第３次」というふうに申し上げたところでありまして、訂正をしてお詫びをさせていただきたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　寺戸君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　女性の町の職員の管理職のことに関してですが、正規職員の中での割合が、男性が７で女性が３ということなので、そのまま行けば、ここにもっとたくさんの管理職の方がおられるはずなのに、来年度になりますが２名の女性の方ということで、これ、何で女性の管理職の方が増えないのか、その辺の原因は調査というか分かっておられるんでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　原因はと言われますが、私が感じているところでは、その対象者が今までいないというところであります。

じゃあなぜ対象者がいないのかということでありますが、これまでの経過として、女性のそうした職員が、定年前の早めの段階で早期退職をされているという、そういう事例があったという中で、いわゆる管理職と申しましても年齢的な適齢期というものもありますので、そこを迎えるまでに退職をされておって、適齢期を迎えたときの、いわゆる女性の対象者というのがいなかったというところであろうかと思っております。

現時点を見渡しましても、適齢期、適齢期というのは何歳というというのは決まっているわけではありませんが、ただ、それを迎えた、特に女性で、この一般職のほうで管理職になっていない者は、いないというふうに認識しているところでございます。

ここ数年の傾向といたしましては、女性の職員の数が以前に比べると非常に増えてきていると。だから、職員全体の割合としては、女性の割合、職員の割合が増えてきているというふうに私自身は、ちょっと正確に調べておりませんが、そういう実感を持っております。そうした女性職員たちが、また６０歳という現行では定年でありますが、それに向けて、やはり務め上げていただけるという中で、またそういう女性職員が管理職の適齢期を迎えたときには、またそういう管理職が増えていくんじゃないだろうかというふうに思っているところであります。

○議長（沖田　　守君）　寺戸君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　女性の方が早期退職される方が多いのが原因じゃないかということなんですが。この早期退職に関していろいろ、それぞれ個人のいろんな条件があって退職をされると思うんですが、男性の方も最近、早期退職、結構されますが、

その退職に至ってしまうというのは、やはり、この津和野町をジェンダー平等に変えていかなければいけないということが象徴されているんじゃないかなと思います。

その女性の視点、先ほど同僚議員にもありましたが、男性の視点と女性の視点がやっぱり違うところがたくさんあるので、ぜひその管理職というところに女性をたくさん迎えていただきたいと思います。

ジェンダー平等がなかなか進まないっていう背景には、やはり女性の地位が低いっていうところもかなりあります。意識、皆さんの国民の意識を、国民でもいいや、町民の意識を変えたとしても、地位が低ければ、なかなかジェンダー平等にはつながらない。先ほどのお答えで、「正規職員の割合は、男性は７割、女性は３割」。７：３の割合なんですけど、非正規職員の割合は、男性が３５．６％、女性が６４．６％と、これは非正規職員の場合は、女性のほうが多くなる。やはり正規職員として働く方の女性の数が増えていかないと、経済的なものも伴っていきません。そこら辺からも町のほうで能力のある方を起用していただけたらと思います。

それで、「今後も男女共同参画サポーターと協力しながら、講演会や出前講座などを通して啓発に努めてまいります」ということを回答いただいたんですが、ぜひ出前講座の中で、座談会形式で、皆さんでいろいろしゃべっていただく。ジェンダー平等社会を押しつけていくっていうのではなく、住民から盛り上がってくる、そういうジェンダー平等社会が実現する津和野町にしていただけたらなと思います。

この出前講座、男女共同参画に関して、どのくらいされているんでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　今、御質問の出前講座の件ですが、すみません、具体的に出前講座の回数まではちょっと私、手元に持ち合わせてございません。ただ、今、議員おっしゃるように、いろいろな中身について、ボトムアップ式といいますか座談方式で、いろいろな住民の方々の意向を酌み上げるような形というのは、今後、意識してまいりたいなというふうに考えております。

○議長（沖田　　守君）　寺戸君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　よろしくお願いします。コロナが蔓延して、なかなか終息が見えない中で、住民の皆さんも心を閉ざしてしまうところもあるんですが、ジェンダー平等の社会が少しずつ実現に向かっているっていうことが皆さんに見えてくれば、女性も喜ぶし、男性も一緒に頑張ろうっていう気持ちを持っていただけると思うので、ぜひ、よろしくお願いいたします。

以上で私の質問を終わらせていただきます。

……

○議長（沖田　　守君）　以上で、９番、寺戸昌子君の質問を終わります。

１１時１０分まで休憩といたします。

午前 11 時 01 分休憩

……

午前 11 時 10 分再開

○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、一般質問を続けます。

発言順序３、３番、川田剛君。

○議員（３番　川田　　剛君）　議席番号３番、川田剛であります。

通告に従いまして、質問をさせていただきます。

まず、防災についてであります。

昨年、１１月２０日、浸水害等の避難収容施設設置に関する請願が、つわの福祉会様から提出され、文教民生常任委員会いおいて審査し、この定例会において審議が行われる予定となっています。

当請願の趣旨は、十分理解できるものでありますが、浸水害が発生した際、当該地域は福祉施設のみならず、多くの住民が暮らしており、高齢者や援護を必要とされている方々も多くいらっしゃいます。

津和野町においては、津和野町役場本庁舎、津和野駅舎、日原保育園、津和野中学校敷地内の学校給食センターなど、多くの建物が建設や改修予定であります。津和野町は、津和野地区、日原地区ともに洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域が多々ありまして、特に豪雨が発生した際には、住民の生命、財産が脅かされる危険があることは御承知のとおりと思います。

そこでまず、建築や改修に併せ住民の避難所としての活用は計画されているのか、お尋ねをいたします。

また、災害に備え、自主防災組織のような、住民による防災意識の醸成も必要と考えますが、組織の結成や防災備品の調達、管理など、体制の構築には支援体制も必要であると考えます。防災備品の調達に関し、活用できる助成制度はどのようなものがあるのか、お尋ねいたします。

また、住宅用火災警報器が平成１８年に設置が義務化されまして、各家庭において設置されていることと思いますが、設置からの経年により、電池切れ等が懸念されております。広報等で呼びかけを促されたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、３番、川田議員の御質問にお答えをさせていただきます。

防災についてでございます。

まず、移転改修工事を行っている役場本庁舎につきまして、平常時は建物３階部分の使用を想定しておりますが、災害発生時の非常時における避難者の受け入れ場所としての活用を検討したいと考えております。

また、耐震改修等を予定している津和野庁舎につきましては、現在、設計作業を進めているところですが、新たに増築棟の建設を計画したり、建物の２階部分において避難者の受け入れが可能なスペースの確保を検討したいと考えております。

次に、本町におきましては、自主防災組織等への防災備品の調達を目的として助成金制度はございません。住民の皆様の防災意識の醸成や自主防災組織の結成による地域防災体制の構築は、大変重要と考えておりますので、地域における防災備品の調達に当たっては、地域提案型助成事業補助金やまちづくり組織交付金の活用を御検討いただきたいと考えております。

三つ目の御質問でございます。令和３年１月に嘱託員を通じた文書回覧により呼びかけを行ったほか、広報つわのの３月号に記事を掲載し、呼びかけを行っております。引き続き、消防分遣所と協力をしながら呼びかけていきたいというふうに考えております。住宅用の火災報知機についてでございます。

○議長（沖田　　守君）　川田君。

○議員（３番　川田　　剛君）　この防災についてでありますけれども、実は、私どもの地域のまちづくり委員会では、令和元年度中に防災について研修を行おうということで、青原地域から自主防災組織のことを尋ねたりですとか、浜田市長沢町のほうに行って研修をしようとしていたところ、コロナ禍が発生して、昨年度、令和元年度中にはちょっと実施ができませんでした。このたび、やっとコロナも収まってはいないんですけれども、昨年とは違い研修等も実施できるということで、コロナ対策を十分の万全の体制に実施させていただきました。その浜田市長沢町というところは、以前、津和野町の開発センターにおいても、防災の講演会をされたということでありますけど、こちらは浜田市の長沢というところは、いわゆる浜田市の国道９号、９といいますか、バイパスじゃないほうの９号線の海側といいますか、海と浜田市内のちょうど真ん中にありまして、海沿いの近くではあるんですけど、山の中に囲まれて、ここも比較的急傾斜地域があって、土砂災害とかいろんな想定がされているようであります。

平成２０年頃から、自主防災組織の設置を進めてきたそうなんですけども、たまたまその呼びかけ人の中に浜田市だと思うんですが、浜田市の職員さんだった方、防災関係に詳しい方がいらっしゃったということで、備品の購入ですとか組織の結成とかを呼びかけていったそうであります。

現在、人数としましては３４名の役員の方がおられて、各地域の担当の方がいらっしゃって、消化班ですとか備品を買う班ですとか、総務班とか、いろんな班に分かれて活動されておられます。ただ、この方々がおっしゃっておられたのは、非常時ということですので、常時の事であれば住民の方から会費を募って、いろんなものを自治会として買うことができると思うんですけども、非常時でいつ使うかわからないといったものに大金をかけるわけにはいかないというところから、無理はしないということを第一に考えたそうです。

それと、いろんな備品購入に関しては、会費も当然そうなんですけど、いろんな補助、助成金などを使って、補助金などを使って整備されてこられました。年度ごとに平成２２年には１５万円が２回、２３年度には１５万円、２０万円と年度ごとにそろえて、現在３７０万円、およそ３８０万円分の備品を購入されておられます。その買った備品を見させていただきましたが、本当にいろんな、車椅子ですとか、ライト、発電機ですとか、想定されるようなものをほとんどそろえておられますが、やはり長年備蓄してきたものでやっとここまでになったんだと。１年目からそろえるとなると大変なことなんだということをおっしゃっておられました。

そこで、やはり我々も、自助、共助、公助というところで、自助の部分、まずは自分たちができるところから始めようじゃないかという地域の提案で、この防災組織結成に向けて今、研究を重ねているところではあるんですけども、まずその公助の部分として、役場本庁舎が今、でき上がろうとしております。そこも平時は建物の３階部分は使用は想定していないながらも、災害発生時には非常時における避難所としての受け入れを考えておられると。

また、津和野庁舎においては、増築される建物の２階部分について使用できるということではあるんですけれども、空間としては使用できると思います。ただ、備品という部分、例えば電池ですとか電源、鍋とかそういったまかないを準備できるような、衣食住の部分で避難時、大体３日間ぐらいでしょうか。そういった部分の想定で備品というのは整備されているのかどうかを、お尋ねをいたします。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　避難所における各区、備品の配備といいますか調達というところになろうかと思いますけども、今、指定避難所が２８施設、指定をさせていただいております。そういった施設につきましては、一応年次的にそういった備蓄物資、そういった備品類については調達をしてきているところであります。どういったものをそれぞれの施設に配置しているのかにつきましては、ちょっと今、資料を持ち合わせておりませんので、詳しくはお答えできませんけども、年次的にそういった備蓄物資だとか不足する部分については、そういった避難施設について備品を購入していくという計画で進めております。

○議長（沖田　　守君）　川田君。

○議員（３番　川田　　剛君）　公助という部分で、役場というのは一番最後の頼みの綱というところもあると思いますので、計画的にそういった備品、備蓄をしていただければと思うんですけども、続いて共助の部分ということで、地域で何ができるかというところであります。やっぱり役場に避難できる方というのは僅かです。

そういった中で、自分たちの地域の中でより安全なところに、より安全な場所に避難した際に、じゃあそこで３日間救助が来るまで何も動けない状態、ライフラインがとま

ったときに、どういったものが必要なのかというのを、やはりこれは地域で考えて行かないといけないんだろうと思うんですけれども。

じゃあ、そのいわゆる助成金です。そろえる際の助成金という制度自体はないということなんですけども、ただまちづくり委員会システムが津和野町にはありますので、地域提案型助成事業というものを使って、各地域そういった物を購入されているところもあると思うんですが。

備品購入ということについては、縛りがあるように思うんですけれども、この防災関係の備品を購入するに当たって、まちづくり組織交付金というのもあると思うんですが、地域提案型助成事業について、要は備品の購入の限度、縛りというのはどういうものがあるんでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　地域提案型助成事業の備品についてですが、大変申しわけないんですが、今ちょっと資料を持ち合わせておりませんので明確な基準はございませんが、議員おっしゃるように備品購入費等、あといわゆるハード面は、ちょっと若干の制約があります。財源の問題でございまして、基本的にはソフト事業が基本になっておりますので、その辺はまた改めてお調べして、後日回答したいと思っております。

○議長（沖田　　守君）　川田剛君。

○議員（３番　川田　　剛君）　これ以外にも、多分、いろんな県の社会福祉協議会ですとかいろんなところの助成金はあると思うんですけども、このまちづくりの中で一番の重要な部分、生命、財産を守るという部分が、まちづくり委員会には求められる一つのことだと、事業だと思っておりますので、その辺の備品の縛り、恐らくあると思います。基本的にはソフト事業ということで実施されていると思います。

ただ、防災組織を作るということに関しては、津和野町としてそれはいけないことではないはずなんです。その防災組織を作る上でも当然ソフトの事業、避難経路のマップ作成ですとかいろんなソフト事業ってあると思うんですけども、実際に有事が起きた際に使えるもの、これ備品購入になってしまうと思うんです。そのあたりをもう一度、要綱などを確認していただいて、それが実現できる体制にしていただければと思います。

それと、備品もそうなんですけども、じゃあ買った備品をどこに置くかという問題が発生すると思います。公民館との連携というのがありますので、どうしても公民館をイメージしてしまうんですけども、公民館にもその限られたスペースに災害用のものばっかり置くというわけにはいかないだろうとは思うんですけども、まず公民館に地域の備品を置くということは可能なのかどうかをお尋ねいたします。

○議長（沖田　　守君）　教育長。

○教育長（世良　清美君）　量と内容によって御相談という形になろうと思いますが、公民館もそれぞれ場所場所でスペースも違いますし、つくりの、要するに構造の内容も

違っていきますので、公民館ごとにそういう御要望があれば、どこまでお答えができるかというのを相談をさせていただくしかないかなというふうに思っております。
○議長（沖田　　守君）　川田剛君。
○議員（３番　川田　　剛君）　公民館だけでなく、集会所なんかも当然そういったところ、避難所に当たるようなところには必要になってくるんだろうと思うんですけども。
　つわの暮らし推進課長、またお尋ねするんですが、じゃあ置く際にたまたま空いているスペースがあって、例えば集会所の物置スペースが空いていましたということであれば、そこを活用すればいいと思うんですけども、基本的に多くの集会所で椅子が入っていたり、座布団が入っていたりとか、基本的にはそんなスペースはないようなイメージです。
　そうすると必要になってくるのが、倉庫ということになってくると思うんですけども、物置の倉庫です。そとにも設置できるようなものがあります。リースでもあるんでしょうけれども、非常時ということですので、いつ使うか分からないとなると、購入を検討しないといけないのかなと。それをどこに設置するかっていったときに、当然、私有地を譲ってくれるような方がいらっしゃれば、そういったところに置けるんでしょうけれども、なかなかそういったところもないと思います。
　公園ですとか公民館ですとか、そういったどうしても公有地といいますか、そういったところに置くようになるのかなと思うんですけども、まず倉庫をもしも自主防災組織をつくろうと、その中で倉庫を購入し、それを備品購入として充てたいと。当然、備品ではないかもしれないんですが、それをいわゆる地域提案型助成事業の中で設置することは、これはこの事業に反するものなのか、事業の考え方に反するものなのか。反するものでないのであれば、これも地域提案型助成事業の対象に含まれることができるのかどうかということと、それと教育長におかれましては、そういった備品を置くような倉庫、地域が提案してきた場合は、公民館の施設ですとか公園ですとか、そういったところに置くことが可能なのかどうか。
　また、総務課長におかれましても、そういった町有移設に設置ができるかどうかをお尋ねしたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　まず、地域提案型助成事業がこういった防災関連の事業に使えるかということに関しましては、地域提案型助成事業の中に、防災防犯事業というメニューがございますので、その辺では御活用いただきたいなというふうに考えております。
　今年度も実際、津和野地域のまちづくり委員会等で防災意識の啓発ということで、平成２５年の豪雨災害をテーマに学習会、それから啓発講演会等を行っております。私も参加して、いろいろそうしたことの準備意識の啓発活動というのは、非常にいいことだ

と考えますし、まさしくこのまちづくり委員会で、この地域提案型事業をお使いいただきながら、そうした活動を活発化させていただきたいというふうには考えております。

先ほどの、ちょっと答弁にも重複しますが、ハード面の備品購入費に関しましては、どこまでできるかということに関しては、繰り返しになりますがちょっとしっかり私も確認いたしまして、またしっかり町民の皆様にお知らせしていきたいなというふうに考えております。

○議長（沖田　　守君）　教育長。

○教育長（世良　清美君）　倉庫等を建てる場所ですが、敷地に余裕さえあれば、それは建てることは可能だというふうに思っております。ただ、なかなか今、いろいろと町内のいろいろな公民館を想定していましたが、あまり余裕のあるところはないなというのは実感として思っております。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　町有施設というところでの倉庫の配置というとこでございますけども、その町有施設を管理する担当課等がございますので、担当課と相談しながら、そういう倉庫を設置できるかというところは、また相談させていただきたいというように思います。

○議長（沖田　　守君）　川田君。

○議員（３番　川田　　剛君）　大変、重要なことでありますので、地域提案型助成事業だけでなく、そういった防災で使えるような助成金、支援等ありましたら、積極的に町民の皆さんに広報していただければと思います。

では、次の質問に入らさせていただきます。

教育についてであります。

小学校においては新学習指導要領が既に始まり、中学校においては４月から、２０２１年度に始まるようでありますけれども、新学習指導要領への移行において問題点や課題はございませんでしょうか。特に、主権者教育については議会とのさらなる連携を図るべきと考えますが、所見をお伺いいたします。

ＧＩＧＡスクール構想についてであります。端末を教育の中でどのように活用されていくのか、お尋ねをいたします。

それと、このたびの町長の施政方針の中にありました、設置を目指し、取り組まれるというコミュニティ・スクールについて、このコミュニティ・スクールの概要についてお尋ねをいたします。

津和野町スポーツ推進計画についてであります。新たなビジョンや計画の策定をされるということでありますが、学習指導要領によりますと、社会教育関係団体などとの連携による持続可能な運営体制を構築することが求められております。その構築するためにも学校における部活動やスポーツについては、人口減少を鑑み、社会教育や社会体育と連携し行うべきと考えますが、所見をお尋ねをいたします。

○議長（沖田　　守君）　教育長。
○教育長（世良　清美君）　それでは、教育についての御質問に対してお答えを申し上げます。
　まず、新学習指導要領への移行においての問題点や課題についてでありますけれども、新しい学習指導要領では、育成を目指す資質と能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に整理し、よりよい学校教育をとおして、よりよい社会をつくるとい理念を学校と社会が共有し、どのような資質や能力を身に付けられるようにするのかを、明確にすることが求められています。
　津和野町においては、新学習指導要領の完全実施に当たり、次の点が課題であると考えます。
　一つ、学校教育に地域の人的・物的資源も活用し、社会との連携及び共同により資質、能力の育成を図ること。
　二つ目、学校全体で児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育課程に基づく教育活動の資質を向上させ、学習効果の最大化を図ること。
　三つ目といたしまして、各教科等の指導に当たって、資質、能力が偏りなく育成されるよう、児童生徒の主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしていくこと。
　このような課題に対し、各学校においてもその趣旨を徹底したカリキュラムマネジメントが実施されるよう職員研修が行われ、次年度に向けた学校の特色を生かした教育課程の編成作業が行われております。
　主権者教育についてでありますが、平成２８年の中央教育審議会の答申において、民主主義を尊重し、責任をもって政治に参画しようとする国民を育成する上でも、小学校、中学校からの体系的な主権者教育の充実を図っていくことが求められております。
　津和野町においては、平成２６年度より小学校４校と町議会とが連携し、子ども議会の取組が行われ、今年度が７回目となりました。当初は町内小学校の高学年児童が町議会の議場へ集合して、模擬議会を開催する等の取組が行われておりましたが、学校の教育課程実施上の課題や児童の健康安全管理の問題から、平成３０年度より議員の皆さんが直接学校を訪問していただき、子ども議会学習会の形で開催をされております。
　内容は、学校での学習を生かして行うことを基本としているため、学校ごとの特色が生かされ、児童によって無理のない有意義な学習会となっております。そのことは、今年度の児童や担当指導者の振り返りを見ても明らかでございます。
　特に、今年度は学校と議員の皆さんとの事前の打ち合わせが行われたことにより、より内容が充実したものになりました。これは昨年度の反省をもとに計画されたものであります。このように学習会後の振り返りをお互いがしっかり行って、次年度へ向かっていくことが最も大切なことであると思っております。
　次に、ＧＩＧＡスクール構想の端末活動についてであります。ＧＩＧＡスクール構想による端末整備については、学校教育の授業の中で、一斉学習、個別学習、協働学習に

おいて導入したＩＣＴ機器の特徴を生かすことで、より分かりやすい事業を実現させるために活用していきたいと考えております。

まず一斉学習においては、端末整備後は授業の中で、教師は電子黒板で端末の状況を確認しながら、一人一人の授業中の学習状況を把握することができることで、児童・生徒一人一人に対し、きめ細かな指導等、双方向型の授業展開が可能になります。

次に個別学習においては、これまでは３人に１台のタブレット端末の整備でしたので、毎回違う機器を数人で使用する状況でしたが、個々に機器が整備されることで個人の学習記録を保存できるようになり、学年が上がってから過去の学習履歴を振り返ることができ、一人一人の教育的ニーズ、理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能になるよう活用できると考えております。

協働学習においては、これまでは整備端末が少ないので、グループ発表ならば可能ではございましたが、個々の意見は発信しにくい状況でした。整備後は、一人一人が記事や動画等を集めるなど、独自の視点で情報を編集でき、各自の考えを即時に共有し、全ての子供が情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられるようになると想定しています。これにより子供たち同士が教え合い、学び合う協働的な学びに活用できると考えております。

ＧＩＧＡスクール構想に付きましては、新型コロナ対策のために、国が急遽１人１台の整備に予算拡大されたため、対応も後手後手になり、まだまだ利用内容については十分に検証されておりませんので、新年度になって活用しながら研究する形になると考えております。

次に、コミュニティ・スクールについてであります。コミュニティ・スクールは、正式には学校運営協議会制度のことを指しております。平成１６年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律において創設されたものであり、同法律第４７条の５第１号において、各学校の運営や運営への必要な支援に関して協議する場を教育委員会が各学校へ設置することを努力義務としているものであります。

学校運営協議会の主な役割としては、一つ目として、校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。二つ目として、学校運営に関する意見を教育委員会または好調に述べることができる。三つ目として、教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができるの３点があります。

国は制度創設から、全国的に普及を呼びかけておりますが、なかなか浸透せず、１５年以上たった現在でも、国・島根県とも公立小学校等の約３割の導入に留まっております。このような状況を打開するため、国は一部補助事業に対して令和２年度からコミュニティ・スクールが導入されているか、導入への具体的な計画があることを事業の補助要件としました。

そのため、制度導入をしなければ、長年当町が事業展開している学びの協働推進事業に充てている補助事業の採択を受けられなくなり、事業実施に支障が出る恐れがあるため、導入の検討を始めたところでございます。

津和野町においては、これまで学びの協働推進事業として、地域と学校の連携、協働を進めるとともに、学校評議員の皆様に学校運営についての意見をいただきながら、よりよい学校運営を行うよう努めてきたところでございます。

これまでは、学校運営へ地域の皆さんが協力する形でございましたが、コミュニティ・スクールは、直接学校運営に関わる形となります。しかし実際には地域で関わる方は多くの場合、同じ方になりますので、関わる方の意識のもち方が受動的から能動的なものになるイメージで捉えております。

津和野町スポーツ推進計画についてでありますが、津和野町スポーツ推進計画については、御指摘のとおり学校における部活動は生徒数の減少により部数も減少し、生徒の多様な希望に沿えない場合も増えてきていると考えており、特に団体スポーツなどは活動が難しくなっている状況であります。

また、専門的な指導を行うことができる教職員の確保が難しいことや、国の掲げる教職員の働き方改革による負担軽減の必要性などの課題もあります。このような状況を解決するため、学校間での合同練習の実施や部活動地域指導者の委嘱などを行ってきたところでございます。

このような状況の中、現在でも学校外において、各種競技連盟やスポーツ少年団などの活動により、児童生徒の活動が担保されていることは大変ありがたいことであり、今後ますます重要になってくると考えております。

こうした状況を踏まえ、次期スポーツ推進計画の策定に当たっては、スポーツ推進委員や体育協会等にも御意見を頂戴しながら、学校と地域が連携して取り組む仕組みについて検討してまいりたいと考えております。

○議長（沖田　　守君）　川田君。

○議員（３番　川田　　剛君）　新学習指導要領の事についてから、まず入らせていただきますけれども、この新学習指導要領、いろいろと見てみますと、プログラミングですとか部活動ですとか、幼稚園のことまでいろいろと変わったようでありますけれども、中でも私、ちょっと興味、関心を持ったところというのは、やはり主権者教育の部分というのが、津和野町としては過去から７回を数えるんだなというふうに聞いておりましたけれども、この子ども議会から始まり、子ども議会学習会へと変わって、いろんな形で子供たちの発表を聞いてきました。まちづくりに関わるという点においては、ものすごく発想豊かな表現で発表されておられますし、確かに子供たちの発表ですから、１００万点で言えば、それが実現できるかというと難しいところもあるかもしれませんが、やはり子供たちの発想というのは、７年たってもやはり遊ぶところがないという感覚は一緒なんだなですとか、地域によって学びの協働で関わる大人たちが違いますので、そ

ういった特色ある発表になったりとかいう部分では、非常に興味を持って参加させていただいております。

この小学生に対しましては、いろいろこれまで関わってきてはいるんですけれども、現在１８歳まで選挙権が年齢が下がってきておりますので、小学生に対して選挙権について伝えることというのは非常に難しいんですけども、中学生年齢になってきますとだんだんと社会の実態というのは分かってくる。また高校生になってくると、自分たちの提案したことを実際にまちづくりに生かそうという動きになっている中で、やはり中学生にも我々議会は関わらないといけないのではないだろうかというのは、過去からずっと考えていました。

ただ、やはり小学校で議会学習会を経験して、中学校でやるとなると、また同じようなことになってしまうのかなというふうになるんですけれども、今は議会学習会という形で、子供たちは、小学生の児童たちは接しておりますけれども、中学生になって、より主権者教育に近いところで議会と一緒になって、何かできないかなと思うんですが、まず教育長の見解をお尋ねいたします。

○議長（沖田　　守君）　教育長。

○教育長（世良　清美君）　非常に、前向きに議会のほうからそういった学校教育に対して、御協力をいただけるという御意見をいただきまして、大変ありがとうございます。

言われましたように、小学校でああして長年蓄積してきておりまして、子供たちがいわゆるまちづくりに興味を示してくれていて、これは非常にありがたい成果かなというふうに思っております。

またちょっと、主権者教育とは若干焦点がずれるかもしれませんが、今、津和野高校のほうでマイプロジェクトというような形で、自分のやりたいことを地域の大人と一緒になってやってみるという、そういったプロジェクトをここ数年始められております。それが、今、中学生にも若干おりてきておりまして、津和野中学校、あるいは日原中学校でも。全員がやっているわけでは当然ないんですが、何名かの生徒の皆さんがマイプロジェクトの取組をされて、先日の今の学びの協働のネットワーク協議ということで、これコロナの関係で２会場に分かれてつないでやったわけでありますが、そのときにそれぞれの学校を代表して発表していただいたりしております。

そういったことが、要は地域まちづくりにいろいろと、中学生も目を向けてきたという、そういったところにつながってきているという、ありがたいことになっておりまして、高校でそういう実績があったから、それをやってみようということで中学校にも降りてきたんだろうというふうに思いますが、一方では小学校の今の議会学習という、そういった成果がそういった自信にもつながって、議員の皆さんもただ子供の意見を聞いただけでなくって、実際にまちづくりにどうやって生かしていこうかというのを真剣に考えていただいて、町の執行部にも御提案をいただく、そういったことも今は、最近は

見られるというような、そういったことが逆に子供たちに自信につながってという。本当にいい循環になっているなというふうに思っております。

これはしばらくそういう形で続けさせていただけるとありがたいと思いますし、今、そういった中学生に主権者教育で議会の皆さんにどんなことをやっていただくかということは、実際今、持ち合わせておりませんので、ぜひ逆に議会のほうからこういうことをやってみたいんだがどうだろうかという御相談をいただけると、御相談をしっかりしたいというふうに思います。

よろしくお願いをしたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　川田君。

○議員（３番　川田　　剛君）　まずは、このたびの小学生子ども議会の反省を、また議会のほうでも重ねて、中学生に向けていい考え方、いい事業がありましたら、また相談させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

このＧＩＧＡスクール構想についてなんですけども、たまたまといいますか、コロナが発生しまして、この端末の重要性といいますか、自宅にいることが多くなった昨今であります。なかなか出にくい昨今で、全てが全てタブレットで学習できるとは思わないんですけども、やはりこのすばらしい機器を有効活用できるのが一番だと思います。

そこで以前ちょっと、電話での御相談をさせていただいたことがあるんですけれども、タブレットというのがやはり学校の所有物といいますか、学校のものになって個人に配るわけでは、個人にあげるというわけではないわけで、そうすると学校内で使うのか、それとも家に持ち帰ることができるのかというところがあると思います。

それで、学校においては個人のものだったらいいよとか、そんないろんな対応が考えられると思うんですが、このタブレットはいわゆる学習に用いることを目的として、家に持ち帰ることができるのかどうか、そのあたりはいかがでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　教育長。

○教育長（世良　清美君）　その課題は、なかなか解決が今、こうしましょうという方向性で決まっておりません。実は、この御相談もいただいたり、こういった国がそもそもこのＧＩＧＡスクールで１人１台配るんだという方向に傾いたのは、言われたようにコロナの影響で自学をせんとやれない、その自学のツールとして個人個人に持って帰ってもらって、それを利用してやったらどうかという発想の中で、当初は３人に１台ほどの予算しか国も予定をしておりませんでしたけれども、それを一気に１人１台ということで交付金の枠を広げられて、こういう形で入るかということになったわけでありますが、ただ実際にアンケート調査等をとって、家庭にそういう環境がございますかということをやったわけでありますが、実際には１割の家庭にはやっぱりネット環境がないという回答を寄せられた方がおられます。ということは、今、子供は約４００人、小中おりますが、そうは言って、保護者でいくと２００ぐらいあって、それじゃあ１割という

ことで約２０世帯です。この２０世帯に対して、それじゃあ町がネット環境を整備してやるほうがいいのか。ほかの方はあと９割の方は自分でネット環境をやっています。

仮にネット環境だけは町の補助か何かでセットしたとしても、毎月今度は負担を、使用料としてやらないと、負担をしないといけないということになりますので、そのことを踏まえて、個人的に全てそれが全児童生徒に平等にいきわたるかというのはちょっとまだ疑問点がございます。仮にそれがクリアしたとして、そうすると今度、今、配布をする形で、仕様は個々に持たせようということは思っているので、先ほど答弁にも言いましたように、例えば１年生で勉強した記録をそのままそのタブレットに残していって、６年、６年間持つかどうか機械分かりませんが、仮に６年間持ったとすると、その機械で振り返りをしながら、あのとき忘れとったというのを、例えば３年生に戻って、もう一回復習ををしてということも十分できるような構想を持っていますので、そういう意味では非常に有意義に使えると思うんです。いざ持って帰るということになると、やはり壊すというところも想定しとかないといけない。壊したときにはそれじゃあ自己負担になるのか。それも壊してもみな町が負担するのか、なかなか町がそれを、同じ子が２度も３度も壊して、町が弁償するというわけにはなかなかかいかないというのも現実だろうと思いますが、その辺の想定がなかなか決めきれないのが現状でありまして、今の段階では持ち帰りまでをするかどうかというのは、ちょっと疑問点になっております。

それとあとタブレット自体を動かすためには電気が当然必要になりますので、持って帰るということになると、自宅にそういう充電をできる装置等もはなえていかないといけませんので、そこら辺も含めて、全体的に予算も検討しながら、実質の運用は可能かどうかというのは、またちょっと新年度動きながら考えていこうというふうに思っております。

○議長（沖田　　守君）　川田君。

○議員（３番　川田　　剛君）　全体的な考え方でいけば、やはりそういった考えは保険をどうするかとかいろいろあると思うんですけども、一事例で言いますと、読み書きが難しい子が、現在、小学校においてはタブレットを使用して、中学校に上がったときにその自分のタブレットを持ってこられると、壊れたときに責任が終えない、じゃあ学校で使えるタブレットを持って帰れるかというと、それは持って帰れないとなると、家でタブレット、学校でもタブレット、その機能があればその子は十分学習ができるというアプリが付いています。全体で考えたらそうかもしれませんが、個別の事象に対しては柔軟に弾力的に対応していただきたいと、壊れたときはそれは壊した側が払うというのは当然のことですし、そういった保険もあると思いますし、色んなことを想定して、一概に、今、今日教育長がそれはまだ考えていない、来年度からって言ったんで、来年度まで待たないといけないということにはならないように、４月からそういった話し合いを個別に進めていっていただけたらと思いますので、よろしいでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　教育長。

○教育長（世良　清美君）　今、議員さん言われた特別なケースというのは個々に相談に乗りながらやろうというふうには思っております。ただ、全体でやるとなると予算も当然かかりますし、学校の管理体制、機器の体制とかをこの人事異動の時期でもありますし、この４月までにきっちり決めるというのはちょっと物理的に無理だなというふうに思いますので、また新たな４月になって動き始めて、実際に使いながら、どういった利用の方法があるかというのも研究をしながら、それが自宅に持って帰った方が有利だということであれば、またそういったことができる環境も含めて検討をしていきたいというふうに思います。
○議長（沖田　　守君）　川田君。
○議員（３番　川田　　剛君）　しっかりとよろしくお願いしたいと思います。
　では、コミュニティ・スクールであります。施政方針の中で述べられていまして、僕、最初間違えてフリースクールのことだと思っていたんですけど、よくよく考えるとコミュニティ・スクールだなと。コミュニティ・スクールってなんか懐かしいなと思って。
　以前、おられた議員の方がおっしゃっておられて、聞いておられますかと聞いたら、コミュニティ・スクールの話が出てんのということで、ちょっと僕も驚いて調べてみて、全国でいろんな有効事例もありながらも、答弁聞いていますと結局そういうところではなくて、補助金の採択要件の部分なんだなというところに、今日分かったわけなんですけれども、この要は学びの協働推進事業に充てる補助金採択要件として、この運営協議会を設置しているコミュニティ・スクールを検討しているか、策定しているかというところが採択要件だということなんだろうと思うんですけど、これも採択しなかった場合、採択といいますか設置しなかった場合、採択要件に満たなかった場合、どれぐらいの予算が影響があるのかをお尋ねします。
○議長（沖田　　守君）　教育長。
○教育長（世良　清美君）　予算的には、そんなに金額ははりません。数百万円程度の年間予算になろうかと思いますけれども、ただ今までなぜ、このコミュニティ・スクールに一歩踏み入れなかったかということですが、島根県は従来からふるさと教育というのに力をいれておりまして、地域と学校をつなげていくという活動、コミュニティ・スクール以前の段階で、もう動いております。
　このコミュニティ・スクールというのが、国が旗揚げをした頃には、津和野町においては今、学びの協働推進事業に当たるふるさと教育と学校支援地域本部事業という、学校を地域が支えるんだという事業を、その二つを併せてこの学びの協働推進事業という形で、津和野町は展開しておるわけでありますが、そういう形をずっとやっていたので、あえてコミュニティ・スクールを入れる必要性が全然ないということで動いておりました。
　それから、もともとのスタート時に、地域に学校の人事権を、これ先ほどの回答で三つ目にありました人事権を与えるという表現の仕方が大いに誤解を全国的に生んでお

りまして、学校の先生を異動させたり引っぱってきたりすることが地域でできるんだという、そういうふうな単純に思われた地域も結構あったりして、それについては逆に学校側がすごく敬遠をする。そういうことで、この制度が伸びなかったということになっているのかなというふうに思っています。

ただ、今は現実的にそういう人事権があるわけではないというのが、だんだん１５年の歴史の中でわかってきておりまして、人事権と言いながら、要はこの先生について、こんな先生をぜひこの地域には迎え入れてほしいというようなことを教育委員会に御提言をいただいて、御相談をいただいて、それじゃあ教育委員会として県のほうへ、こういう先生をぜひ招いてほしいということで、人事の要望をする。そんな感じの人事権というふうに捉えていただいたほうがいいのかなということで、だんだんと全国に広がってきて、今、３割方が普及をしているところであります。

今回、津和野町もやろうと思ったのは、そういった全体の流れ自体が、うちの今のやっている取組とほとんど大差がない状況で、あとは組織的なものの組み立て方をきちんと整理をすれば、ある程度コミュニティ・スクールの形として運営ができるなという、そういう思いができましたので、そこでやろうということで踏み切ったところであります。

○議長（沖田　　守君）　川田君。

○議員（３番　川田　　剛君）　大体の概要は分かったんですけど、これいつ頃スタートなのかということと、全小中学校対象なのかということ。それと、今、人事権があるわけではないというようなことではありますけども、文言はやっぱり強いんです。教職員の任用に関して意見が言えるというのは、やはりいいように、今、教育長がおっしゃられたような、いいように捉えればいい権限だと思うんですが、悪いように使えば悪いような表現にもなるのかなと思って、ちょっとそこは僕もやっぱり懸念するなというところはあったんですけども。

これどういうふうに設計していくか、いわゆる、今でいうＰＴＡですとか、学校でいうあれですか、どのタイミングで移行するのか、いつスタートするのかというのをお尋ねいたします。

○議長（沖田　　守君）　教育長。

○教育長（世良　清美君）　一応、令和３年度中に骨格を作っていきたいというふうに思っております。今、ありました評議員制度というのがありますので、これは学校がやったことに対して評価をする制度なんです。このコミュニティ・スクールの場合は学校をどういう運営をしていくかというのを、評価の以前の運営に対して意見を述べる、そういう形にちょっとスタンスが変わってくるんですが、実際、津和野町のような小さい町でありますと、学校のそういった評議員であるとか、このコミュニティ・スクールの評議員的な役割の方、どっちにしても同じ方にやってもらわないと身動きとれないというのが現実なので、そこら辺をどういうミックスの仕方をして、その整理をしていく

かというのを、今からこの１年をかけて検討していきたいなというふうに思っております。
○議長（沖田　　守君）　川田君。
○議員（３番　川田　　剛君）　結局、全小中学校対象でいいんですか。
○議長（沖田　　守君）　教育長。
○教育長（世良　清美君）　すいません。対象は全小中を対象にやろうと思っております。
○議長（沖田　　守君）　川田君。
○議員（３番　川田　　剛君）　ということは、１年間検討をして、実質運用は令和４年度ぐらいというふうに思っておけばいいのかなというところであります。
　最後、スポーツ推進計画の策定ということであります。もう答弁にもいただいておりますけれども、やはり現在、どんどん児童生徒が少なくなる中で、競技スポーツですとか、選択の幅がどんどん少なくなっているというのは同じ認識だと思いますし、各種競技連盟やスポーツ少年団などの活動というのがありますので、そういったところと連携し、子供たちのスポーツの選択の幅をなくすことなく、同じ町内だけでなくて益田市さんですとか近隣市町、いろんなスポーツがありますので、そういったところであらゆる競技に触れる機会を増やしていただければと思います。
　最後に答弁、お願いいたします。
○議長（沖田　　守君）　教育長。
○教育長（世良　清美君）　今、本当まさに議員さんが言われたとおり、もう地域と学校が結びつきながら、先ほどのコミュニティ・スクールなんかもそういったところも議論ができるのかなというふうに思っておりますので、地域と一緒になって、学校の児童生徒たちを見守り、育てていただきたいなという思いでおりますので、スポーツについても同じように連携をしていってほしいというふうに思っております。
○議長（沖田　　守君）　川田君。
○議員（３番　川田　　剛君）　以上で、質問を終わります。
……
○議長（沖田　　守君）　以上で、３番、川田剛君の質問が終わり、午後１時まで休憩といたします。
午前 11 時 58 分休憩
……
午後０時 57 分再開
○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、一般質問を続けます。
　発言順序４、６番、丁泰仁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　議席番号６番、丁泰仁でございます。本日も通告に従いまして、３項目の質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。早速入りたいと思います。

第１項目めですが、コロナワクチン接種と観光経済の先行きに関しまして、まず、我が国の経済状況ですが、一昨年１０月の消費税増税の影響で景気が失速したところでコロナ禍が加わり、日本経済の大きな打撃となっており、ＧＤＰが回復するのは二、三年先と言われています。

政府、日銀が取り組むべきは、コロナ感染拡大防止と経済活動をできるだけ両立しながら、景気が再び後退局面に入ることを食いとめることであると思います。

コロナ対応、感染拡大防止が最も重要なことでありますが、経済活動の行き過ぎた制限も失業率の上昇により自殺などの増大を招く恐れがあります。政府は雇用の維持と中小事業者の支援を中心に万全を尽くしてほしいと思います。

昨今の新聞記事によれば、大学就職内定率が急減し、例年に比して７０％割れとなり就職氷河期、バブル経済崩壊後の１９９０年代半ばから１０年間、社会に出た人々の再来かと政府は回避に懸命とあります。

また、緊急事態宣言対象地域はもちろん、対象外地方の観光関連業種、飲食業、宿泊業を中心に消費の沈滞化は極度に達しています。おりしもこの状況下で当県の丸山知事が政府に投げかけた発言が全国で波紋を広げています。

コロナ感染が治まらない状況下でのオリンピック開催への疑問、及び聖火ランナーの県内走行中止などの発表に端を発し、ついには２月２７日の全国知事会におきまして丸山知事の求めている困窮を極めている緊急事態宣言の対象外地域の飲食、宿泊など観光関連事業者などへの経済対策の拡充を盛り込んだ政府への緊急提言を取りまとめるにいたりました。まさに知事の主張は当町の観光関連業者の声を代弁したもので、私としましても、大いに賛同するものであります。

さて、コロナ感染拡大防止の救世主として、いよいよ２月末からコロナワクチン接種が始まりましたが、ここに来て、世界中でワクチン収奪戦が激化し、我が国に入荷する肝心のワクチン供給量が不足する事態に直面しています。ワクチン接種が政府計画どおり実施できるかどうか、油断を許さない状況だと報道されています。

さて、一方、当町商工会におきましては、コロナ終息後をにらんで２０２１年度以降の中期活動方針が討議されています。この活動方針項目の中で、行政に要望する事柄がいくつかあります。それらを交えて質問をいたします。

１、当町のコロナワクチン接種のスケジュールは。２、コロナ感染症緊急経済対策に関しまして、Ａ、得々ショッピング券の再企画は可能か、春季新人歓迎会、退職者歓送会と名打って、Ｂ今年度と同様、来年度固定資産税の延納の要望が多し、検討は可能か、全国的に経済活動が正常に戻るまで猶予が必要と思われます。３、観光土産品としての津和野栗製品化プロジェクトその後の進捗状況、これは商工会の提言であります。４、

観光行政に関わるカトリック教会乙女峠列福成就のための現地整備体制のその後につきまして、公衆トイレ、駐車場の整備、マリア聖堂までの坂道の整備など、これも商工会におきまして出ました提言でございます。

以上、お答えください。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、６番、丁議員の御質問にお答えをさせていただきます。

コロナワクチン接種と観光経済の先行きについてでございます。

まず、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種につきましては、国の方針に基づき４月初旬から開始することで準備を進めてまいりましたが、報道でもありますとおり、本町への高齢者数分のワクチンの供給量と配送時期については、明確に示されていない状況にあります。現時点での国や県からの情報では、４月１９日の週にワクチン１箱、接種回数９７５回分が本町へ配布されるということになっていますが、その後の状況は未確定であります。

そのため、現在のところ、４月末以降でワクチン接種を開始するスケジュールに変更し、準備を進めておりますが、今後の国からのワクチン供給量等によって、さらに開始時期がずれる可能性も考えられる状況になっております。

続きまして、町内消費拡大を目的とした忘年会・新年会応援キャンペーン、得々ドライブショッピング券プレゼントにつきましては、一般社団法人津和野町観光協会による分析結果によれば、皆様からの評価も高く、経済対策として一定の効果があったとの報告を受けております。

こうした中で、今後、次年度における国の第３次臨時交付金を活用した経済対策について具体化をしていくことになります。実施済みの各種の経済対策を経済３団体において分析し、より効果の高い対策を目指す考えであります。

次年度の施策となりますので、現時点では詳細な施策について答弁のできる段階にはありません。今後、これまで実施してまいりました経済施策も踏まえ、「得々ドライブショッピング券」についてもコロナウイルス感染症の鎮静化、終息等の状況を考慮しながら、適時実施することは選択肢の一つとして捉えております。

次に、固定資産税の延納については、来年度においても、町内に主たる事業所を有する中小企業者を対象に、新型コロナウイルスの影響により事業等に係る収入が前々年同期に比べおおむね２０％以上減少していることを要件として、徴収の猶予を行いたいと考えております。

三つ目でございます。津和野栗再生プロジェクトの進捗状況でございます。

平成２７年度に設立された本協議会は、つわの栗の生産振興とＰＲ、商品開発を目指して活動を進めております。生産面においては、苗木補助制度を設け、平成３１年度までに１，３７７本、４６０アールの新植が行われました。また、先進地視察や栽培講習

会を行い、生産者活動支援のため、つわの栗生産推進研究会を立ち上げるなど活動しております。

ＰＲ、商品開発においては、栗拾い体験イベントの実施や町内飲食店や菓子店などを中心としたつわの栗メニューの提供を行う「津和野の里の栗まつり」等実施しております。

今年度の栗拾い体験では、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら実施し、結果３日間で県内外から１９０人の参加者があり、年々増えている状況です。

「津和野の里の栗まつり」においては１０月１０日から２５日に間、町内１６店舗が参加し、つわの栗を用いたメニューや商品を提供するキャンペーンを実施いたしました。

ＧｏＴｏトラベルやタウン誌を活用した告知効果もあって、来訪者も多く参加店舗からも好評をいただいたところです。協議会においては祭りで使っていただく栗をＪＡから仕入れ、糖度を上げるパーシャル冷凍やむき栗加工を施したものを要望に応じ、配達するなどの対応を行っております。

特にＰＲ事業については、これまでの活動や広報活動の成果もあり年々ファンも増え、効果を実感しているところであります。一方、生産面では近年の不安定な天候もあり、収穫量が減少傾向にあること、つわの栗の町内流通体制がまだまだ未成熟で関係機関の連携・体制の確立などが課題として捉えております。

今後とも協議会に加盟する生産団体、ＪＡしまね、商工会、観光協会、本町農林課・商工観光課が連携し、つわの栗の生産振興、ＰＲに取り組んでまいりたいと考えております。

最後の乙女峠周辺の現地整備についてでございます。

まず、公衆トイレに関しましては、令和３年度に下水道の敷設工事開始が予定されており、その進捗を鑑みながら、なるべく早い段階で公衆トイレの計画・整備を進めてまいりたいと考えます。現在実施している歴史的風致維持向上計画も一つの選択肢として、計画に追加するなど検討を行っている段階でございます。

駐車場整備、乙女峠につながる里道の整備につきましては、関係各課との調整、政教分離の調整など図りながら、より有利な事業導入の可能性など検討してまいりたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　丁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　それでは、再質問にさせていただきます。

最初に、コロナワクチン接種のスケジュールにつきましてですが、これ今一番町民が関心を持っていることなんですね。我が町は、いつからこれ接種できるのかというのをよく聞かれます。それで、今日質問に上げたわけですが、今日回答を得た中で分かったことは、４月１９日の週にワクチンが１箱、接種回数９７５回分が本町に配付されると。その以降はまだ不確かであるということですね。

それで、お聞きしますが、この１箱、４月１９日の週、ワクチン１箱。これは優先順位としましては、接種するときに９７５回分ですね。これはどういう優先順位で、それから今ちまたで言われているのは、ワクチンが足りないから１回で済まそうとかどうか言っていますけど、恐らくファイザー製でしたらこれ２回やらないと効果がないんだということですので、そういう点では、どういうふうにお考えになっているのか、ちょっとお答えください。

○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　現在のところはっきりしておりますのは今町長が申し上げましたように、４月１９日の週に１箱、これは５回分のシリンジで９７５回分の接種ができるというものであります。この辺をどなたからということは、特に優先順位は今のところは考えておりません。と言いましても、本町の場合、集団接種を３週間で３，０００人を予定しておるところであります。それで、今現在はどういう利用の仕方をするかははっきりと、はっきり言いまして決まっておりません。先般も津和野共存病院の院長先生とも話をしたところでありますが、この後が、９７５回分を１９日の週に１箱来ますが、その次の週にも１箱、次の週にも１箱と、これが見えてきますと、きちんと１週間に１，０００人、１日２００人の予定で、接種予定にしておりますが、それができてくるわけでありますが、次の週からの入荷予定が定まらないと、この９７５回は２回目にとっておかなければならないので、約５００人分ということになります。それを３週間後にもう２回目として打つということになるわけでありますが、その最初に、そうなった場合には最初の５００人分をどなたにするかということであります。当初の予定どおり地区割の最初の順番のところからにするのか、もしくは介護事業所といいますか、支援員は特養であるとかグループホームであるとか老健であるとかそういうところからにするのかというところの判断に今後なるわけではありますが、今のところ、河野大臣の発言でありますと、２６日の、この１９日の次の２６日の週にも全国に各市町村に１箱行き渡るようにしたいというような発言もあったりしまして、もうしばらく様子を見て、６月中にはほとんど全国の高齢者分ほどは配付をすると言っておりますので、もう少し国の配分スケジュールを見ながら、どういう接種の順位にしていくかということを考えていきたいと思っております。

それから、ファイザーの薬、２回打たないと効果がないということでありますが、いろんなところで１回でも効果があるというようなことも何か出てはおりますが、基本的には国も２回を推奨しておりますので、本町も２回を接種することでワンセットという考えでおるところであります。

○議長（沖田　　守君）　丁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　大体分かりましたが、もう一つ、優先順位の中で、医療従事者、それから介護従事者と、そういうところが大体、今報道されているのは、そ

の方たちから優先であり、それから次に６５歳以上の老齢者という順序になっているみたいですが、当町もそういうふうな順序で大体やれるわけですか。
○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。
○健康福祉課長（土井　泰一君）　医療従事者の関係については、県のほうが進めておる事業でございまして、これはもう国のほうから、まず最初に医療従事者関連を接種するということで、現在既にもう２月から始まっておるということになっております。ただし、本町の場合はまだ医療従事者まで接種できていないというのが現状であります。
　町のほうとしましては、６５歳以上の高齢者の部分からが町のいわゆる担当になっておりまして、そこの部分を本町の今本課がどういうふうに接種をしていくかというのを検討しているところであります。
○議長（沖田　　守君）　丁君。
○議員（６番　丁　　泰仁君）　それでは、正確にそのスケジュールが出ましたら、また町民のほうに詳細に告知してほしいなと、そういうふうに思います。
　これはこのくらいにいたしまして、次に、２番目にコロナ感染症緊急経済対策に関してでございますが、まずＡとしまして、得々ショッピング券の再企画は可能かと私投げかけまして、特に、これは非常に正直なところ、商工観光課長、申し訳ない、本当に好評だった。それで、特に忘年会、新年会に関して出ました、それまでの得々ショッピングいろいろ出ていますが、得々ショッピング券は、これは確か５００万円あと予算追加したと思うんですよ。１月３１日まで確か期限があったと思うんですね、発行の。ところが、２０日過ぎぐらいにもう終わりましたと、要するに予算が消化されてしまったということなんですね。それでやめてくださいという連絡が入ってきたんですよ。
　それで、何とそうだろうなと思って、やっぱり人気があったんだなとというのは、私もお店をやっていますんで、いろいろお客さんの口売り、いろいろな話が入ってきます。非常にそれを目安に目がけて、お客さんがこう動いているという感覚が非常にありました。それで、これは大ヒット商品だなと、いうなれば、いろいろ企画されてあるんだけど、中にはお金が余り過ぎて消化されずに戻ってくる、随分あったでしょう。予算が余って全然、戻ってきたというのがね。
　だから、それに比べれば早く償還されて、それから足りないぐらいだと、こういう企画はどんどんやってほしいなと、そういうことで、このたびも、要するに、今それが終わっておりますけど、同じ仲間たちで、もう一回あれをやってくれればいいなということなんですよ。それで、新年会、忘年会とはいきませんが、今度は春季歓送迎会をとか、そういうものに何とかキャンペーンを打って、ぜひ予算が動けば、許せば実施してほしいなと、そういうふうに思います。それで、このことを上げましたけど、いろいろ今から交付される国の資金、臨時交付金等を活用して、また考えたいということですので、安堵しております。ぜひ実行してほしいなと思っております。

それから、次に、固定資産税の件を上げましたよね。それで、今年度、非常にこのことでやっぱり経済界、非常にありがたくこの企画、助かっています。それで、このたびの経済対策で、これはよかったなというのは、この先ほどの得々ショッピング券、それから業績悪化緩和資金、これ。それとこの不動産の、不動産税、固定資産税の延納、この３件は非常に時下に経済に苦しんでいる方に非常な助けになっているんですよ。それで、国も昨年、国・県といろいろ出してもらいましたけど、本当に当町独自でありまして助かったなと、よくやってくれたなと思っているんです。そして、それも本当これしばらくまだ落ち着いていないですから、コロナのことは。我々業界も非常に困っていますんで、さらに続けてほしいなということで、この固定資産税の問題も上げたわけです。

これも前向きな回答を今いただいていますので、これも新年度になって、早速に予算組みまして周知してほしいなと、そういうふうに思います。これは本当にありがたいなと思っております。

観光課長、何かこのことについて。

○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。

○商工観光課長（藤山　　宏君）　まず、得々ショッピング券につきましては、町長の答弁にもございますように、ぜひまた大変好評であったという分析をいただいておりますので、考えていきたい。ただ、やはりこのコロナの状況を見まして、今島根県下でも９人というような人数制限もあったりということもございます。なかなか歓送迎会ということにはなかなかなり兼ねるかもしれませんが、この２１日でまたひとつの区切りが出てくるかなという思いもございます。その後の状況を踏まえまして、沈静化するようであれば、どこかの時点で考えるということを、また４月早々には全体的な経済対策を第３次の交付金を念頭にお示しをさせていただきたい、御提示をさせていただきたいと思いますので、また御審議いただき、御容認いただければ対応可能かなという部分も考えておるところでございます。

○議長（沖田　　守君）　丁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　今、歓送迎会の人数の問題を言いましたね。人数もさることこの得々ショッピング券でなぜヒットしたかといいますと、今までに比べまして３割以上の還元があったわけですよ。だから食べたって半額ぐらい、気持ち的にね。だから、人数は３人でも４人でもいいですよ。それでもどんどんやってもらえれば、還元率が高いから、それで評判がよかったわけですよ。

だから、こういう商品は、今、余り人数は言いませんけど、ぜひ続けてほしいなと、そういうことでございます。

これはこのくらいでおきまして、次に、観光土産としてつわの栗の製品化プロジェクトですね、これは私も思わぬ、これが出てくるとは思わなかったんですけど、どうしましょう、これは今、前段でも私述べましたように、今商工会で私もちょっと役員をやっておりますので、来年度の、要するに活動計画を、中期計画を今、商工会のほうでどう

いうことをしようかということで、いろいろ上がってきているんですけど、その中で、地域振興、観光振興という分野で分かれまして、それぞれ目玉を上げて活動目標にしていこうじゃないかという中で上がってきたものです。

そういう中で、どうしてもそれ行政の力を借りないとできない問題ということで、この地域振興の中で、役員の中に栗の生産業者がいらっしゃいまして、その方が今後もやはり米が余り芳しくないんで、やっぱり何かにいろいろな方向転換をしなければいけないんで、栗が一番単価がいいと、実入りがいいと。だから、でいることなら栗を増産してどんどんやっていきたいという話から出たことで、そういえば、当町は５か年計画でつわの栗、ブランド化５か年計画概要ちゅうのがこうそれまで持っていますけど、こういうのを発行しまして、確かとっついているんですよね。

これは、平成２７年にスタートして、５か年で平成３１年に完了ということなんで、目標は、要するに素材から、６次産業ですね、素材から加工、生産、それから最後には製品化して全国へ、あるいは海外にでもこの製品を売り出していくという、その６次産業の際たる力を入れてやった企画なんですね。

それが、そういう話が出てきているんですが、確かに我々も非常にこれに熱を入れまして、いろいろプロジェクト聞いて視察にも行きましたし、ここでも何度も討議しました。

それで、平成３１年、今２年目ですかね、終わって２年目のはずなんですよ。ところが、今のその生産者の方に聞きましたら、うまくいっていますかと言いましたら、何か「はい」とは言いませんね。何かもどろしいようなちょっと余りうまくいっていないみたいですね。

それで、何がどうなのかなと思って、本日このテーマに上げたんですが、これいろいろ書いてあるんですよね。生産面においても回答をいただきましたが、何ヘクタール植えて当然、圃場整備をしたとかある、それからイベントでもいろいろ町のほうで栗拾い体験とかそういうこともやっている、それからここいろいろあるんですが、最後にやはり町内の流通体制がまだまだ未成熟で関係機関の連携、体制の確立などが課題としてあるというふうに結論づけていますので、やはりここだろうなと。だから、やっぱりいろいろな体制が、横の連携が縦か、そういうところがはっきりまだしていないのかなと。

それで、伺いますが、最初、これ我々とっついたときに、かってはつわの栗は１００トンですかね、非常なものを出して、美味しいし、現在はとんでもない、確か我々研究した、１０トンぐらいじゃったかな、目標とりあえず３０トンぐらいにしようじゃないかというような話だったと思うんですが、ところで、それ以降、この生産量に関してどういう水位をしているのか、まずはここから承りたいと思いますが、どうですか。

○議長（沖田　　守君）　農林課長。

○農林課長（桑原　正勝君）　ただいまの議員からの御質問ですが、生産量につきまして、ＪＡのほうで確認を取らさせていただいた数値でございますが、平成２７年度は９，

９１９キログラム、９トンばかりと、それから２８年度は９，０００キロちょうど、２９年度は９，８３１キロ、それから３０年度が６，４３４キロ、３１年度が５，３９３キロ、本年度の集計は現在のところで確認ができておりますのが６，０２０キロであるというような状況になっております。

○議長（沖田　　守君）　丁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　これ５か年計画で、３１年度に本来なら３０トンを目標にして当初スタート時に９トン、せめてちょっとそれ以上、十五、六、まあ２０ぐらいまではちょっと欲しかったなと思うんですが、要するに６トンでしょう、６，０００ちゅうのは。これは、やはりここに何か原因、天候のことも先ほど答弁ありましたね、天候不順じゃから生産量うんぬんだけど、それでこんなに減るのかな、そんなもんじゃないと思うんですけどね。

これ何かやっぱり計画の段階でそれぞれここにおっておりますよ。平成２７年度には生産サポートで圃場整備したり、それからいろいろやる、それから２８年度には、今度は加工工場をつくったりして、随分生産がどんどん拡大して、加工工場をつくって販売をやる、それから冷凍実験をやるからＣＡＳ使用するとか、こういうのがある。それから２９年度は、それほとんど完成して新開発商品の製造ラインを模索、加工制度を一括管理をする組織、団体の構築まで、これ２９年できとかな。それで３０年にもう生産地の交流人口拡大とかもうブランド化しているころ、ここ。それから、平成３１年には売価が大幅増になって雇用創出して定住者が増しているというね、この栗生産だけで。それだけのことをうたっている。それから、もう営業販売に対しての確立ができて、海外展開の起点になっているという、これ３１年度の減少ですよ。

だから、１０本でスタートしてここにおいては、当初目標３０トンをもう確保して、こういう現象が起きてなければいけないわけです。

だから、私に言わせれば、この５年間の間にやっとった工程に中で、どこに齟齬があって３０トン目標が６トンしかないという、それどういうこと。だから、生産業者がどうですかと言ったら、首を縦でない、複雑な顔をして、どうも首を横に振る、うまくいっていますかっていう。やっぱり何かがこう落ちているわけですね、ここで。どういうふうに一言でまとめられますか。これは、それから今後どういうふうに、このプロジェクトを５か年やった分を継続するのか、それで新たにスタートするのか、何かそういう方針を立てないと、せっかく栗の生産でやっていこうという気持ちのある人たちが萎えてしまいます。

だから、ここでひとつそういう方たちに向けて、発言するような気持でちょっと抱負を述べてください。

○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。

○商工観光課長（藤山　　宏君）　丁議員からの御質問でございまして、確かにそれだけの計画をつくりまして、地域応援宣言というような経済産業省の中国地方の経産局の

事業もとって、そういうことで強く栗を売り出していこうということで２７年からスタートして、地方創生辺りもつかいながら進めてきたところでございます。一番何が齟齬を生じているかということは、やはり、かなり生産者の方の高齢化というものの中で、どうしても生産量が落ち込んでいるということが一番大きい。ただ、その一方で、４丁６反ですね、４丁６反の新植とあと１，３７７本の新植という中には、新たに栗に算入された方もいらっしゃいますし、皆さんで四万十の方式を学んで新たな剪定技術で１本当たりの収穫量を増やそうというような努力もしてこられる、そういう研究会も立ち上がって進めておられるというところです。

いかんせん、ちょっと高齢化の中で落ちてくるスピードのほうが強すぎて、生産量がどうしても伸びてこない、やっぱりここが決定的に一番大きいところだと思っております。

そういう中で、今言う新しい動きも出て、これが天候の問題も確かにありますんで、随分裏と表とかありますし、桃栗三年柿八年とよく言いますが、なかなか３年では栗も採れるまでは正直いかない部分もございまして、そういう中では今後出てくるかな、そういう部分でいうと、一昨年に比べて去年が若干持ち直してきたということを見ると、多少何かちょっと潮目が変わってきた分もあるんではないかと、今年度、新年度はまた大きく期待したいところだと思っております。

ただ、本当その片一方でものすごい需要は高くて、価格については、当時始めたときが８００円とかそんなものだったと思いますが、今は１，０００円を超えているんじゃないかと思っております。そういう部分で随分高くなっておるのと、評価も高いと。

それと、そういった部分でやっておりますし、ＣＡＳ冷凍を使った保存もそれなりのやっぱり糖度が上がる上では効果もございます。それに、何て言いましょうか、今後農協の共販、共同出荷の関係が、昔は薬で燻蒸といっていぶして虫を殺すわけですが、これが使えなくなりましたので、今後、パーシャル冷凍とかである程度殺しながら、虫を殺しながら出していくということも考える中で、農協さんとしてもわりに町内流通に目が多少向き始めていると。以前はどうしても、以前のおつき合いもあって共販のほうが主になってしまっていたところもあるんですが、そういったところでも、今後その辺りをもう少し話して、今清流会さんのほうでむき栗をやってもらったりとか、そういう作業もしている、そういう部分で、何かそこに流れる形を、どうしても役場が裏でちょっとフォローを打っている部分がありまして、商工観光、農林課で、実際に配達とか集まったものを配るというようなところは、若干まだ事務局側の手がかかっているのを何とか独立して新しい形に、今後生産量が増えてくることを念頭に進めてまいりたいというところです。

なかなかスケール的には十分いっていないですが、志は持った動きの中ではある程度動いているというふうに認識しておりますので、ぜひとも今後とも栗を、津和野の栗と

いうのは大きな訴求力ございますので、頑張って伸ばしていきたいというふうに思っています。

また、ちょっと商工会で入っておられる方については、ちょっと個別のお名前を避けますが、やはり独自路線で進んでおられる方もございまして、なかなかプロジェクトとはちょっと別な部分で活動されているところもあるんで、十分に認識いただいていない部分もあるのかなという思いも持っておるところでございます。

○議長（沖田　　守君）　丁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　いろいろ課長のほうから今後の抱負、それから現状をよく分析されていると思いますので、ぜひ来年度も生産量を伸ばすような行政としての指導力を発揮して、ぜひ生産者を励まし、そして老齢化しているかも分かりませんが、できれば実入りが多いということで、ぜひ育てていかなければいけないと思いますので、頑張ってほしいと思います。

これはこれまでにしまして、次に、カトリックの例の乙女峠列福成就のための現地整備体制のその後って、これもずっと前、何年か前に上げています。それで、これも観光振興の話の中で、結構、商業者ですか、観光業者がものすごい期待しているんですよ。これがここにあるというのは、私もはっと思いましたけどね。町の中、広まっているんですよね。非常に期待感。それで、あれと思ってちょっと私ももう一回、頭を変えてみたんですけどね。今の状態で、特に今、沈滞化している、そのコロナの影響でですね、どうなるんだろうと、町が。そうしますと、コロナが収まったとしても、立て直すのに町としましてもどうやって立て直すのかと、観光業としまして。

そうしますと、何か一つ転機が訪れないと、これは非常に難しいなと思うんですが、そこへやっぱり商工業者が非常に期待しているのが、この列福というのを上げてきたんですよ。

私も、考えてみれば、これあれですよ、今ちょっとコロナ禍で沈んでいますけど、教会のほうでは２０２３年、令和５年、あと今年令和３年ですよね、あと２年内に何らかの結論を出すと言っているんですよね、１５０年の禁教令廃止を目処に。それあと２年残すのみなんですよ。それで、あっという間ですよ。

それで、私が懸念したのは、待てよ、あの現地をあれからどうなっているのかと。特にトイレが、あの当時、私がここで示したときに、要するに下水道と一緒にやるということでどうなのかなと思ったら、先般、予算委員会のほうで環境課長さんのほうから、令和２年ですかね、３年、４年ですか、２年先、ちょうど、令和４年です。令和４年に貫通すると、それで接続可能だということですので、それに合わせて公衆便所をつくれると。何とかかつがつに間に合うんじゃないかなと、列福成就に。だから、そのことも質問しました。

それから、もう一つ、ネットで、何日か前のネットに例のマリオット、ホテルの。マリオットがいよいよ本格的に国内に、言っていた、我が町ですね、うんと関りがあって

くると思うんですが、７０室から１００室のコンパクトなホテルを道の駅に設定して６件、もう６か所決まって、いよいよ着手し出しているんですよ。そのモデルが出とったんですけど、それは、やはりあの道の駅に接して、観光、これをやっぱり誘致するという、そこら辺で積水にやらさせて、マリオットは、随分このコロナ禍におきましても計画は着々と進めていると、そういうニュース入っていました。

それで私思ったんですけど、これは、本当ぜひこの列福成就だけはやらないと、やることによって、何かが全て変わってくると、活気をもう一度取り戻せると、そういうことなんですね。

それで、商工会の今の総務委員会で話し合っているんですが、どういう町にして残したいかと、１００年、２００年、３００年先、それは本当に景観の美しい城下町そのままで残していきたいと、そういう意味の中で、この町の継続を望んでいると、非常にそういう意見が多かったです。

だから、そういうものに対して行政としましても今、一応気持ちは何年か前からずっとあると思うんですが、コロナ禍だからという今、しっかり着々と準備を進めて、いざ幕を開けたときにそれが来た年には準備はできていますよと、いつでも、そういう気持ちで迎えると、そういう体制をぜひ今から築き上げてほしいなと、そういうふうに思っています。どうでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　本町もこの観光に関わる資源というのが長年にわたる歴史文化財産であり、町並み景観であるということであります。やはり、観光を盛り上げていくのには、ハード整備両面からやはり携わっていくのが必要だというふうにも思っております。ハード整備はやはりこれは行政の仕事と思っておりますし、またソフト面はその後方支援はもちろん行政からも民間団体で行いながらも、やはりおもてなし力を上げていくという面においては、まさにこのソフトは民間がそれぞれの業者であり、また観光協会や商工会なりがまとまって力を入れていただけると、そういうお互いの連携とバランス感覚のもとで成果が出ていくんだというふうに思っております。

そういうことを考えて、我々行政の立場からも、まずはハード整備をきちんとやっていこうということで、歴史的風致維持向上計画というものを平成２５年に国から採択をいただきまして、これまでも様々な景観整備事業をやってきたというところであります。

これ例えば、益田市の民間業者からお話をしますと、津和野はものすごい事業をやっているなと言われるぐらいやっているという状況であります。ただ、いかんせん、やればやるほど、社公金をいただきながらもですけど、やはり、半分程度は町の起債等で行っていかなければなりませんので、非常にそういう財政的な負担というものも生じているわけであります。しかも、今後もさらにこの歴史的風致維持向上計画を使いながらということになるかと思いますが、そうした列福運動等も含めた中で、より一層のハード整備をしていくということ、これはしていかなければならないと思っていますが、一方

で、私の立場でありますと、財政ということも気にしながら進めていく必要があるかというふうにも思っているところであります。

今後につきましては、まずは私もやはり町長の責任として、この財政をどう保っていくかということが非常に重要だと思っております。と申しますのも、このコロナウイルスの状況で民間の企業も本当に大変な、事業主が大変な思いをされておられると思います。それは私自身もよく分かっておりますので、本当に全国に先駆けて、この経済対策というのを町独自でもやってきたというところであります。

それはもうある程度、町の財政は二の次でやってきたつもりでもあります。当然、その経済対策も国の臨時交付金等も使わせていただいてやってきたものでありますが、要はこの国がこれだけ全国的に経済対策、感染症対策にお金を投じている中で、大変な借金になっておりますので、国債等の発行で。今後、その国の財政がやはりどうなっていくかということと、それは今まで私は余り気にせずに地方の実情を訴えて金を引っ張ってくるのが私の役目だと思っておりましたけれども、その国のお金を引っ張ってくるという上において、実際に国がこれだけ厳しい財政状況になる中で、果たしてこの地方交付税が、令和３年度、これは何とかなっておりますが、令和４年度以降、本当に確保できるのかどうかということを、非常に私自身も今、懸念をしているという状況でございます。

そういう何か背景がある中で、まずはこうした地方交付税の確保、そして地方一般財源総額が令和４年度以降も地方に対してしっかり配分がされるということを、私としてもまずは最大限の努力をしていきたいというふうに考えているところであります。

そして、その上で、また限られた財源というものを町として有効に使いながら、こうした列福というものも、本町の観光は基幹産業でございますので、これを今一度よみがえらせていかなければならないというのも、私の強い思い出ございます。この列福というものを大きなチャンスに変えるためにも、このまずはハード整備、町が責任を持ってやっていくという部分において、できるところを行っていきたいというふうに考えているところであります。

全てをひとまず置いて一生懸命全てやりますというふうに言いたいわけでありますが、やはり財政も考えていかなければならないというのが、私の責任でもありますので、こういう答弁ということで御理解をいただきたいというふうに思っております。

○議長（沖田　　守君）　丁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　町長もしっかり考えていただいていると思います。財政の許すところでお願いいたします。

１問目はこれで終わりまして、２問目の質問であります。

津和野庁舎改修及び一部増築に関しましてですが、今年度本庁舎改修終了後、来年度改修計画が予定されている津和野庁舎改修及び一部災害時避難所を目的としました２階建て増築部分の建築場所等に関して、庁舎建設検討会議におきまして協議があり、採

決の結果、当初案の現庁舎背面箇所から新案としての、昨年取得した旧鹿足交通安全協会駐車場へ現庁舎横並びに殿町側に面して建設することに賛意多数で決したもようでありますが、この件に関して質問します。

１、重伝建地区での建設になり、様々な制約が生じると思われますが、主な問題点は何でしょうか。２、現在、駐車場を利用している人の駐車場代替地の確保は、さらに災害時避難場所としての駐車場の確保は。３、増築建物の使途、必要性、建設費用の財源、償還計画に関する町民への説明の必要性は。４、夏祭りイベント会場として残してほしいとの要望がありますが、いかが対処しますか。

以上。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、津和野庁舎改修及び一部増築に関してお答えをさせていただきます。

まず、津和野庁舎増築棟の建設予定の予定場所の職員駐車場については、津和野伝統的建造物群保存地区内に該当しており、津和野町伝統的建造物群保存条例に基づいて策定した保存計画に記載の基準を踏まえて新築する必要があります。

この場合、現津和野庁舎をはじめとした周囲の景観に調和した建物とするため、その規模、外観などについては、伝統的建造物群保存審議会の意見を踏まえて決定することになります。

また、建築に際して、補助金を受けるためには、文化庁及び県文化財課との協議も必要も必要となります。

なお、津和野庁舎周辺は周知の埋蔵文化財包蔵地である津和野城下町遺跡の範囲にも含まれていることから、建物基礎工事に係る事前の発掘調査等も必要となります。

次に、増築棟の建設予定場所については、休日は観光駐車場として利用しております。増築棟の建設により、大型バス等の駐車場が減少いたしますが、既存にあります舗装済みの職員駐車場を観光駐車場として利用したいと考えております。また、平日は職員駐車場として利用しており、職員駐車場につきましても不足いたしますが、敷地内にあります職員寮及び車庫等を解体し駐車スペースを確保したいと考えております。

災害避難場所としての駐車場の確保でございますが、増築棟建設後の駐車スペース、職員寮及び車庫等を解体後の駐車スペース及び既存の舗装済み職員駐車場が利用できると考えております。

次に、増築棟につきましては、構造を木造瓦ぶき２階建てとし、床面積を４１７平米で計画をしており、１階を執務室として教育委員会を配置したいと考えております。２階につきましては、会議室等を設けますが、避難所として利用できるようにしたいと考えております。

建設費用の財源ですが、令和３年度当初予算に建設工事費として２億２，２４２万円を工事請負費に計上しており、合併特例債を充当したいと考えております。また、償還につきましては、３年据え置きの２０年間での償還を計画しております。

町民の皆様方への説明につきましては、町広報等を通してお知らせしてまいりたいと考えております。

最後の御質問であります。増築棟の建設予定場所は、津和野地域の夏祭り「つわの鯉・恋・来いまつり」の開催場所として利用されております。この夏祭りは、津和野地域の夏一番の祭りであり、町民の皆様をはじめ町外からも多くの方が楽しみにされている祭りであると考えております。また、夏祭りの開催に当たっては、実行委員会の皆様には一方ならぬ御尽力を賜っており、感謝を申し上げるところであります。

このように町民の方々が親しみを持たれ、楽しみにされているイベントでありますので、今後も引き続いての開催をお願いしたいと考えておりますが、開催場所につきましては、今後、町商工観光課と相談をし、津和野夏まつり実行委員会と協議を進め、代替地について検討してまいりたいと考えております。

○議長（沖田　　守君）　丁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　大体、当初私どもは説明を受けておったのは、背面の高岡通りにてありましたけれど、一応殿町に面してということで、恐らくその殿町通りの景観にマッチした素晴らしい建物ができてくるんではないかと思いますので、さらに観光の、要するに観光名所のところですが、相乗効果を起こすような立派な建物にしてほしいなと、ここまで来たら、今２億２，２００万円ですかね、予算をかけていますが、若干、恐らくいろいろな要件がついてくると思いますので、若干数値が変わってくるのではないかと思いますが、それにしても、やっぱりどうせ建てるなら、観光名所にして、さらに相乗効果を起こすような、そういう立派な建物にしてほしいと思います。

この質問は以上にします。時間もありませんので。

最後です。中座団地に関してですがね、今年度予定されている中座団地の解体工事及び造成後の新建造物について問います。１、解体費用及び建設費用について、２、新建造物の戸数及び家のタイプ、１戸の大きさ、家族向け、独居向けなど、３、完成時期、入居者資格、家賃など、現住民の処遇はどうなるのか。そういうことをよろしくお願いします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、中座団地に関してお答えをさせていただきます。

まず、来年度から予定しております中座団地の解体費用でございますが、現在、９戸の既存建設物がありまして、概算で２，３００万円の解体費用を見込んでおります。

建て替え住宅の建設でございますが、令和３年度では新しい住宅の建設に伴います詳細設計を予定しているところですが、そのための基本計画を現在進めている状況でございます。概算の建設費につきましては、基本計画策定後に見込める予定でございます。

次に、令和２年度予算におきまして、中座団地建設に伴います基本計画策定業務を発注し、現在は計画策定中でありますので、家のタイプや大きさなど詳細につきましては、現在検討しているところでございます。

なお、原則としまして、現在の敷地内での建て替えを計画しており、建築物や駐車場などの配置や大きさ、敷地内道路の位置など、各施設の規模や配置等を検討しているところでございます。

基本的には、できる限りの段差解消を考慮するなど、高齢者や障がい者の方も安心して生活できる構造を目指した町営住宅を建設したいと考えております。

次に、住宅の完成時期など具体的な建設スケジュールにつきましては、基本計画策定に合わせ具体的な計画にしてまいりますが、令和３年度に現住宅解体撤去、敷地造成及び住宅の実施設計まで行い、令和４年度には住宅の建設に入りたいと考えているところでございます。

また、建設が完了した後、速やかに入居ができるよう進めてまいりたいと考えております。

入居者資格につきましては、公営住宅法及び津和野町営住宅設置及び管理に関する条例に基づきまして、事務処理を行うこととしております。

新しい住宅の家賃につきましては、公営住宅法に基づき、建設費用が算定根拠となることから、高額な家賃設定とならないように建設経費の抑制にできるだけ努めてまいりたいと考えております。

現入居者の方につきましては、住宅建設に係る期間中は他の町営住宅等へ移転していただくことを予定しております。また、建て替え後の新たな中座住宅に入居を希望される方につきましては、住宅設置及び管理に関する条例第５条第１項第４号により公募を行わずに優先的に入居をしていただくことを考えております。

○議長（沖田　　守君）　丁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　来年度は、要するに解体、造成ということが主で、建設に関しましては、新建物に関しては、その次の年度ということになるみたいですね。それで、今現在、ここの場所は木造平屋で１０戸ですかね。それで、大体１０坪ぐらいの建物がこう並んでいるんですね。それで、前回、１回、数年前に私、一般質問でこの住宅問題で中座団地を上げたときに、大体解体した後、１６戸建てるというような予定が出ていたんですよ。駐車場つきで。それで、家族向けで、要するにファミリーが住める、若い者が定住できるというんで、そういう住宅が恐らく１戸２０坪ぐらいになる住宅を１６戸というような計画案が出とったですが、それはそのときのことでありまして、今は状態も変わっていると思いますけど、家のことは、現住民の待遇ですね、やはり。今、一応、来年、再来年、建物ができたときに帰ってきてもらう、それで優先的に入ってもらうと、これはいいことだと思うんです。で、問題はあと、家賃だと思うんです。今入っている人、恐らく数千円ぐらいの単位だと思うんですよ。これやっぱり何ぼ低家

賃にする言うたって、新しい住居できましたらそんなわけにいかないですよね。今大体新しいの建ちました、４万、５万という町営住宅でも値段つけているわけですよ。だから、恐らくそれに匹敵するような数字が出てくると思うんですが、そこら辺の今、現住民の優先的には入れるんだけれども、家賃でその人たちが本当にそこにそれだけの家賃を払えるかどうかという場面に直面したとき、どういう待遇、優遇施策を取るかということが問題になってくるんじゃないかなと思うんですが、ここら辺の考え方というのが、例えば、数千円、数万円というときにギャップね、それは今入っている人、大体入っている人で中にはよく話をされる方もいらっしゃるんですが、そこら辺の考え方というのは何か持っていますか。

○議長（沖田　　守君）　建設課長。

○建設課長（益井　仁志君）　住宅に関してでございますが、先ほど議員さんおっしゃるとおり、家賃についてでございますが、そこに先ほど町長の答弁にもありましたとおり、建設費がどうしてもその家賃に響いてくるといいますか、関係してくるということは、これ公営住宅法の中で、この補助金を取ってやることに関しましては、もうそれは致し方ないというところでございます。

　しかしながら、こうしてできるだけそこら辺を抑制をしていく、例えば、用地を買ったりとかいうことはせずに、今の既存の敷地の中でこれを解決していくという思いの中で進めていこうといったところで、建築費も抑制をしたいというふうに思っておるところが一つです。

　それから、家賃については当然上がってくるだろう、それがどのくらい上がるかというのは分かりませんが、上がってくるだろうという予想はつきますが、例えば、段階的に上げていくとかというようなことは、検討しなければいけないのかなというふうに思っておるところでございます。

　できるできないは別にして、やはり今住んでおられる住民の皆様方には御迷惑をかけないようにということで考えておりますので、理解していきたいというふうに思います。

○議長（沖田　　守君）　丁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　最後にもう一点、あそこはなごみ方面から町に入るときに、道路をこう入ってきて、目の前にすぐ目の視覚に入るあそこなんですよ。今塀を囲っているから老朽化しているところ隠されておりますけど、ぜひ今度新しい建造物を建てるときには、そこを植樹なりして景観のいい町に素晴らしい住宅が建っているという、津和野町のイメージを高めるような建造物にしてほしいなと。

　これをもちまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

……

○議長（沖田　　守君）　以上で、６番、丁泰仁君の質問を終わり、ここで２時５分まで休憩といたします。

午後１時 58 分休憩

……

午後２時07分再開

○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、一般質問を続けます。

発言順序５、５番、板垣敬司君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　失礼いたします。それでは、今回は、３月定例議会ということで、施政方針からそのテーマをいただいたところでございます。

まず最初に、この津和野町がまちづくりを進めているその組織の中に、地域おこし協力隊、集落支援員、さらに地域おこし企業人制度を多用しておられます。既にこの制度が始まったのは少し前かと思いますが、この制度を活用し始めたのは１０年前ではないかなと思いますが、今年度の配置とさらにそれらに付随している活動費を委託料という形で計上している、そういう委託先、さらに委託料等については今年の場合はどのようになっているか。また、制度の中で採用されたそういう方々が、会計年度任用職員としての位置づけとして担当課に在籍している、そのようなこともあるように感じておりますので、その辺についてまずお伺いしたいと思います。

それから、石見観光振興協議会への職員派遣ということで、新たに町の正職員がそのほうへ派遣されるというようなことが施政方針の中にうたわれておりました。さらに、萩・石見空港利用拡大促進協議会が雇用した人材を本町の東京事務所へ常駐、もしくはそこへ出ていただいてお勤めをいただくというようなことで、新たな観光戦略が期待されるところではないかと思っております。その体制や活動内容等についてお伺いをいたします。

三つ目として、従来からやっております空き店舗活用として、島根県地域商業活性化支援事業や空き店舗活用基盤整備補助制度の新しいものが加わったようでございますが、その内容等、今後の活用の見込みについてお伺いをいたします。

４点目として、民間賃貸住宅建設（改修）支援事業を新たに創設するとありますけども、従来このような制度が少しあって、事業があって、昨年も何件か推進されたように感じておりますが、この新たな支援事業の創設について、その従来と違う点、さらにはこのようなものが向こう３年間で１８件ぐらいを見込んでおられるというような、積極的な事業を展開されるようでございますが、その需要見込みなり財源等についてお伺いをいたすものでございます。どうぞよろしくお願いします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、５番、板垣議員の御質問にお答えさせていただきます。

施政方針についてでございます。まず、令和２年度における地域おこし協力隊、集落支援員、地域おこし企業人の設置状況につきましては、年度途中で任期満了を迎えた隊員を含め、地域おこし協力隊２２名、集落支援員３３名、地域おこし企業人２名を配置し、活動しております。

活動費の一部を委託している主な委託先として、地域おこし協力隊に関しましては、株式会社Ｆｏｕｎｄｉｎｇ Ｂａｓｅ、自伐型林業の普及と推進業務については、合同会社やもり等であります。

集落支援員に関しましては、買い物支援・見守り業務については株式会社津和野開発、観光支援を通じた集落振興業務については津和野町観光協会、日原賑わい創出拠点の施設の活用による商店街の活性化支援業務に関しては、ＮＰＯ法人にこはらであります。

地域おこし企業人に関しましては、特産品の魅力化や交流人口増加のための企画発案及び調整等を業務として株式会社Ｆｏｕｎｄｉｎｇ Ｂａｓｅと株式会社Ｐｏｍａｌｏへ委託しており、各課の活動内容に合わせて業務委託し、運用しております。

また、令和３年度につきましては、地域おこし協力隊１８名、集落支援員３１名、地域おこし企業人１名の配置を予定しております。

令和３年度について、委託先の大きな変更はございませんが、一部の地域おこし協力隊に関して、これまで活動費の一部を委託料としていたものを、人件費及び活動費の全てを委託先へ委託することを予定しております。町から委嘱し、委託先へ全部委託することで、町との直接的な雇用関係はなくなるものの、委託先へ管理を一任することで、よりよい管理体制の構築や活動が期待できるものと考えております。

全部委託を予定している委託先といたしましては、これまで委託契約の実績がある株式会社Ｆｏｕｎｄｉｎｇ Ｂａｓｅや一般財団法人つわの学びみらいを予定しており、地域おこし企業人については、引き続きＰｏｍａｌｏとの契約を予定しております。

委託料としては、全部委託と一部委託の金額を併せて、地域おこし協力隊に関しては３，９９８万２，０００円、集落支援に関しては１，７００万８，０００円、地域おこし企業人に関しては５６０万円を計上しております。

なお、町が直接雇用する地域おこし協力隊、集落支援につきましては、会計年度任用職員として活動していただいております。

２つ目の御質問でございます。石見観光振興協議会への派遣については、平成３０年度に検討された同協議会事務局への市町からの派遣の方針を考慮の上、構成市町の協議を受けて令和３年４月から２年間、津和野町から派遣することとなりました。勤務先は、島根県浜田合同庁舎、配属は西部県民センター、商工観光部観光振興課となります。派遣職員については、商工観光課経験のある中堅職員を予定しております。

同協議会の業務内容としましては、石見地方の観光振興に関する業務となり、情報発信・誘客促進・環境整備の３分野で事業を進めております。

具体的には観光動態に基づく誘客施策の検討、事業計画の策定を行い、県内外の旅行会社及び観光事業者に対するセールスの実施や商談会への参加、イベントでの観光ＰＲを行っていくことになります。

同協議会では、石見地方９市町と島根県による広域の観光振興となるため、連携をとることが重要であります。本町としましても、職員派遣により今まで以上の連携が取れることで、本町のより一層の魅力発信、誘客促進につながると考えます。

次に、津和野町東京事務所につきましては、４月以降、準備が整った時点で、萩・石見空港利用拡大促進協議会において、委託契約したスタッフが東京事務所をベースに活動することとなります。

活動の目的としては、同協議会の幹事市町、益田市、浜田市、萩市、津和野町、吉賀町、阿武町の情報発信を行うとともに、羽田発着枠政策コンテストの提案事項の一つである都市間交流、関係人口創出について首都圏での推進体制を構築し、充実させること、萩・石見空港、東京線の利用拡大につなげることが目的となります。なお、スタッフの決定は、公募型プロポーザル方式により選定することとなっております。ついては、３月５日で参加表明を締切り、４社の応募がありました。現在、各応募者に企画提案書の提出を求めており、同協議会事務局長、益田市・津和野町選出の審査員３名により選定します。

なお、業務の遂行については、本町東京事務所と連携を図りながら行うことを条件としております。

次に、現在、空き店舗を活用した新規創業等を支援する制度として、島根県地域商業活性化支援事業を活用した津和野町商業等支援事業費補助金制度と空き店舗活用基盤整備補助金制度を設けております。

まず、津和野町商業等支援事業費補助金については、県の間接補助事業として、対象経費の４分の１を町、４分の１を県が補助し、計２分の１補助が基本となっており、補助上限額が空き店舗を活用した新規創業等を対象とする一般枠においては上限２００万円となっております。また、買い物不便対策特別枠なども設けられており、こちらは補助上限額が１，０００万円となっております。令和２年度については、このうち一般枠に１事業者が申請し、２００万円の交付決定をしております。

一般枠は、町内の指定区域において新たな事業を開始しようとする事業者のうち、小売業、飲食サービス業、宿泊業等を営む者に対して、店舗の改修費や備品購入、リース費、家賃、広告宣伝費を補助するものとなっております。

空き店舗活用基盤整備補助金については、令和２年度から新設された町単独制度となっており、町内空き店舗を活用した新規事業の立ち上げを支援するため、町内に主たる事務所を置く中小企業者に対し、対象経費の２分の１以内で補助上限額を新規事業により創出される雇用従業員数により５０万円から３００万円までの間で設定しております。

この制度では、事業に必要な店舗改修として空き店舗で住居部分が付随している場合、新規事業を行うために住居部分と商売に使用する部分を切り離そうとする際に必要な経費や商業等支援事業では対象外となっている従業員のみが使用する事務所部分など

の改修費も対象としております。令和２年度については１事業者の申請を受けております。

このほか、津和野町個別商業包括的支援事業補助金制度の中にも、創業支援事業を設けており、補助率２分の１、補助上限３０万円までで、家賃や設備、備品購入費、その他事業所など開設に係る経費を補助しております。

今年度、津和野町商業等支援事業費補助金の活用相談をいただいた事業者は１１事業者あり、そのうち、前述の１事業者が進行中で、令和３年度早々にも申請を予定している事業者もいらっしゃいます。

コロナ禍においても新たな取組をしたいと考えている事業者は多いと感じており、引き続き津和野町商工会とも連携しながら相談体制を継続し、町内事業者の積極的な新規事業を応援してまいりたいと考えております。

四つ目の、次の御質問でございます。来年度より新たに創設をします「津和野町民間賃貸住宅建設（改修）支援事業」につきましては、昨年７月より開始しました「津和野町空き家再生事業」の改訂版として考えております。

従来事業は、主に耐震診断、耐震補強工事、トイレの水洗化を補助要件としており、補助金４００万円を上限に事業費の５分の４を補助するものであります。

今年度の実績としましては、２件の申請を受け、うち一件は既に耐震とトイレの水洗化が実施された空き家、もう一件は、既にトイレが水洗化された空き家であり、補助事業の中で耐震診断、耐震補強工事を実施しております。

町内の家屋は、旧耐震基準で建築された家屋が多く、従来事業の活用に当たっては、耐震診断、耐震補強工事が必須となってまいります。

しかし、こうした場合、耐震補強工事に係る費用が事業費の大半を占めることとなり、水回りなど他の部分に改修費用が回らないといった事情のため、改修を見送られるケースが多くありました。

また、補助制度について、町内事業者に対して周知をしてまいりましたが、空き家の個人所有者に対しての営業が難しいといったことなども課題となっておりました。

こうしたことから、新たに創設する「民間賃貸住宅建設（改修）支援事業」では、補助対象事業費並びに上限額を拡充し、また空き家の取得費についても補助対象経費に含めることとしております。

補助内容につきましては、耐震が確保された空き家に対して７２０万円を上限に事業費の５分の４を補助し、耐震補強工事が必要な空き家に対しては９６０万円を上限に事業費の５分の４を補助することとしております。

来年度より３年間限定の事業として実施していくこととしており、本町の定住対策としてより即効性のある事業であると考えております。また、空き家対策や危険家屋防止対策としても有効であると考えております。

需要見込みにつきましては、従来事業において見送りをされた方も多くおられ、また来年度に向けて既に準備をされている方もおられることから需要はあるものと考えております。

財源につきましては、従来事業と同様に島根県の「しまね定住推進住宅支援事業（改修）」を活用することとしており、１件当たりの補助金の上限額が３５０万円になります。残りは一般財源としております。

○議長（沖田　　守君）　板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　すみません、通告というか、なかったかとは思いますけど、各課でそれぞれ当然課長さん掌握しておられると思いますので、通告はしておりませんが、各課における集落支援員なり地域おこし協力隊員としてその制度のままで、一応管理というか、会計年度任用職員ではない、任用職員と任用職員でない、そういう区分があるかと思うんですが、各課においてそういうものがどういうふうに、どのような仕事に携わっておるのか、概略で結構でございますが、お話がいただければありがたいと思います。分かりますかいね、言うことが。分かりますよね。

各課でそれぞれすみませんが、総務課長、各課で制度で地域おこし協力隊員、それから集落支援員として、課におられる方は全部、全て会計年度任用職員扱いになっているかと思いますが、それ以外はみな委託料、もしくは個人でその活動費も本人についてそれぞれが帰属しているというか、何か仕事に当たっていると、そういうことでいいですよね。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長、一括で答弁できるの。各課に振るような。

○総務財政課長（岩本　要二君）　一応、それでは私のほうから、あと不足する部分は補足していただくということで。

まず、集落支援員ですが、つわの暮らし推進課で７人配置をしております。その主な内容といたしましては、買い物支援、ふるさと納税、定住対策という業務に関わっております。

それから、農林課に６人ということになります。ＣＡＳ関連、フロンティア日原、にちはら総研、あと有害鳥獣等に関わって、林業振興ですか、に関わっております。

商工観光課といたしまして、日原賑わい創出、観光関係で地域力創造、地方創生ということで５人、あと教育委員会といたしまして日本遺産センター、あと公民館、そういったところへの配置、文化財関係の配置等で１４人の集落支援員を配置をしております。

続いて、地域おこし協力隊ですが、つわの暮らし推進課で公営塾、それと人づくりによる地域の好循環形成事業に５人、それから健康福祉課の保育士コーディネーターに１人、医療対策課のコミュニティーナースに１人、農林課の農業振興課、農商工連携地産地消に１人、林業振興課のヤモリーズに６人、それから商工観光課の観光費、インバウンド対策に１人、教育委員会に、天文台に１人、人づくり事業より芸術史ですが２人ということで計１８人を配置しております。

これらの方につきましては、いずれも会計年度任用職員のパートという位置づけでおります。

以上であります。

○議長（沖田　　守君）　板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　会計年度任用職員という位置づけ以外はみなどこかに委託をされているということでいいんですね。そうじゃないですかね。例えば、今、今回できた「つわの学びみらい」ですかね、ああいう一般社団法人は今言った中にも入っておりませんね。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　先ほどの総務課長の答弁の中にも入っております。なので、一般財団法人つわの学びみらいは、先ほどつわの暮らし推進課関連４名と申しましたが、そのうち４人は一般財団法人つわの学びみらいのほうに委託をしておるというふうに御理解いただければと思います。

○議長（沖田　　守君）　板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　別にあれですけど、委託料でその方々がどこかの派遣先に出た場合は、委託料というのはその派遣先の組織なり法人の給与規定ということで、ボーナス等が出るか出ないかというのは、その派遣先の事業体によっての判断であるのかなとも、そして一方では、役場職員というか、会計年度任用職員という制度のもとで在籍された方には当然期末手当等、ボーナス的なものが出されるというふうに、私は思うんですが、例えば、つわの学びみらいなんかは社団法人に何人か行かれて、その方々というのは、その社団法人のいわゆる規約というか、定款に基づいてそういう、手当というか、そういうものはあったりなかったりということもあるわけですよね。どうでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　つわの学びみらいのことが例に出ましたんで、私のほうで申しますと、町から地域おこし協力隊等で委託してつわの学びみらいに委託する方は基本的に地域おこし協力隊の制度に則って向こうでその給与体系でやります。ですから、月額１６万６，０００円の給料と一時金も合計で２．５５か月ですか、そういう条件で地域おこし協力隊としてつわの学びみらいで働きになります。

ただ、議員おっしゃるように、つわの学びみらいも新しい一般財団法人として立ち上がりましたので、そこで雇用される方は一般財団法人つわの学びみらいの就業規則に則って雇用はされます。

ですから、我々そこの、うちの委託料もそこはございますが、一般社団法人つわの学びみらいとして雇用される方と、それから地域おこし協力隊としてそこで雇用される方と２種類いるような感じで御理解いただければよろしいかと思います。

○議長（沖田　　守君）　板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　いろいろせっかくこの国の制度でいろいろ津和野町のまちづくりのために御協力いただいているわけですから、その人についている集落支援員なり地域おこし協力隊の方についている活動費というものは、活動の将来に向けての基盤をつくることにも当然使途されて当たり前だと思うんですが、一方その本人に対して、ある人とない人とあるということが現実としてあるならばやっぱり少しその辺については派遣先の企業、法人に対してもそういう配慮というものをしていきませんかということも役場というか、行政からお願いか指導か分かりませんが、そういうものがないと、それは本人の希望でそこの法人に行く人もおられると思うんですよね。例えば、私はこういうことがやりたいんだからそこへ派遣してほしいという、本人の希望で行く場合と、行政の課題解決のためにそこへ行ってくれんかということで、派遣先がたまたまそういう就業規則の中で、今は経営的に厳しいからボーナス的なものはちょっと難しい、一般の集落支援員とかで派遣された職員ではなくて、従来からおられる職員と比較したときに、従来の人がボーナスがないのに役場から派遣された地域おこし協力隊とか集落支援員の方には会計年度任用職員と同じようにボーナスの支給をせいというのも何か変な話ですので、だけども、本人にしてみれば少し派遣先が自分の意思で派遣されていなかったらば、やはりそういう福利厚生を含めて給与面においても何かちょっと不満が発生するのではないかなと思うようなことがありますが、そういうことは全然心配はないと。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　新しく一般財団法人となりましたので、この４月からのスタートを目途に現在、各個人個人では採用条件を伝えております。なので、議員が御心配されるように、例えば、地域おこし協力隊の例えば給与条件、それから一般財団法人つわの学びみらいとして雇用される給与体系は違いますけれども、そのことは雇用する前段できちんとこちらから説明をいたしております。それを納得していただいた上で、御応募いただいた方の採用という形で形をとっておりますので、今のところ、それはこの４月からスタートして新しい企業体系でスタートしますので、いくらかのその問題点は出てこようかなとは思っていますが、採用時に関しては、皆さん納得していただいた上で、入っていただくというふうに考えていただけたらと思います。

○議長（沖田　　守君）　板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　続いての質問の、石見観光振興協議会への職員派遣のことでございますが、ちょっと私も当然知って当たり前のことがあるんですけれども、石見観光振興協議会というものがあることはあるように聞いておりますが、このみんなで協議会として負担金もそれなりに２０万円前後というか十四、五万円前後、負担し合いながらやっているわけですが、ここの人的な体制は、先ほどの答弁の中にもありましたが、今までは、それでは津和野からの派遣でなくてどこかからの町村から２年ごとに職員の派遣がなされておったのか、今まではなかったけども、初めての試みなのか、そ

してこの派遣に対する人件費的なものは、派遣元の町村の負担なのか、その辺少し、ちょっと最初にお聞かせください。
○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。
○商工観光課長（藤山　　宏君）　これまでは、石見観光振興協議会というのは、簡単にいうと、もう石見部の観光は浜田の合庁の中の観光振興課の中にこの事務局は置いてありまして、もうそこで実際、石見の観光は取りまとめて、この協議会によって行われていると言っても過言ではないということだと思います。そこへ１人は派遣をするということでして、現時点までは、今までは浜田市、益田市、大田市、江津市、市において、浜田市は毎年１人必ず出る、あと１名はその市の中でローテーションを組んでおられたという状況でございます。これが、今回、さすがにちょっと市のほうも持たないのでということで、浜田は出し続けられるというふうに認識しておりますが、地元でございますんで、それにいわゆる郡部が２つですね、鹿足郡と邑智郡ですね。川本、美郷、邑南、この３市町が入った邑智郡と鹿足郡でもローテーションの中に入ってほしいと、郡部で２年間の任期をやってほしいと、それをローテーションを組んでやっていくということで、今回、邑智郡のほうが以前１回１人出たことがございまして、そういうことで、今回は鹿足のほうでということになって、観光面で一番貢献もいただいている部分ですので、津和野町から１名ということになったという次第でございます。
　これで考えますと、今後ローテーションを考えますと、詳しくは言いませんが、もう２０年後とかそのぐらいになりそうだということになってくると思います。２年ずつやっていくとですね。そういう形になると思います。
　そういう状況で行っているということですので、今後その中でより連携が図られるということでは、県の事業辺りも直接やり取りをしながら広く活動してもらえるので、派遣した職員の経験としても大きな、得るものも大きいということで期待をしているというところでございます。
○議長（沖田　　守君）　板垣君。
○議員（５番　板垣　敬司君）　それでは、今の事務局長は県の商工観光課長が事務局長で、その下に浜田市から派遣されている市町村の職員と今回、津和野から派遣される職員、結局、３人という形で協議会の事務が行われるわけですか。
　それと、先ほどの質問に、派遣される人件費等についてはどうだったか。そしてそういう人件費部分が各町村のその負担部分に反映するのかどうか、いわゆる負担金が増えるのかどうか。増えるか増えんかは担当市町村の負担ということになれば増えんのかなと思うんですが、その辺について。
○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。
○商工観光課長（藤山　　宏君）　大変失礼しました、本当に。質問をちょっと一つ忘れておりまして、お答えを。

基本的に人件費は出た母体の津和野町のほうで見るという形になっているというふうに認識をしております。それから、事務局長は商工観光部の部長が事務局長、浜田の商工観光部の部長の方がいらっしゃいますので、部長さんが事務局長になったという認識でおります。

あとその下で、その部長さんは商工畑と観光畑の両方を持っておられますけど、その観光振興、今度は観光振興課のほうの会員さん全員が事務局を兼ねるということになりますね。その中に入ってくるということになります。それで全体を回していくということになるというふうに思っております。

○議長（沖田　　守君）　板垣君、ちょっと申し上げますが、通告をしたそれぞれの項目については深く追及したり当然のことですからいいんですが、中身的なもので、予算審査の中でやればいいようなことは、一般質問ではちょっと避けてもらいたいと思う。今さっきからいろいろ質問されるようなことは、本来、予算審査の中でそれぞれの担当課長等々につぶさにお聞きになるようなことだから、そんなもの、町民がこれ見ている間にそれやると、何のことかそれでなくても分からんのに、全く分からなくなるよ。どうぞ。

○議員（５番　板垣　敬司君）　そういうように注意されるとますます私も質問の角度を失うんですけど、予算審査は既に終わったが、まだそれをみんなで認定はしましたよね。予算審査特別委員会では認定をしましたよね。まだ最終的な本会議での議決はしておりませんけど、認定はしましたよね。

○議長（沖田　　守君）　認定するかせんは別として。

○議員（５番　板垣　敬司君）　それでもそういうことで一般質問を続けることは。

○議長（沖田　　守君）　一般質問をして結構なんですが、先ほどから地域協力隊、集落支援員等々の、要するに、いうなれば経費の中身の使い方なんかの質問については、予算審査の中で本来いろいろ聞いていいか悪いかを判断するんであって、ちょっと一般質問には余りなじまないということを申し上げた。分からんかいね。

○議員（５番　板垣　敬司君）　ちょっと分かりづらいですね。

○議長（沖田　　守君）　もう一回言っておきますが、今施政方針で４項目にわたって今議員は質問をしておいでになる。そのことについて質問等をしてください。

○議員（５番　板垣　敬司君）　質問の通告の中にはその委託料がどうなっているかとかいうことは書いてありますけれど、その範疇には収まらないものでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　あなたがそういう判断をすればよしとしますが。

○議員（５番　板垣　敬司君）　ちょっと議長の注意に対して、私は素直に受け取ることができませんが、一応少し意識しながら質問を続けさせていただきたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　どうぞ。

○議員（５番　板垣　敬司君）　それでは、余り予算に関係ないちゅうことで、一応今までは石見観光振興協議会ということへの体制とか派遣とかについて質問をさせていただきました。

あと、東京事務所へ萩・石見空港利用拡大促進協議会がこの新しい年度にどういう形で雇用というか、委託される雇用契約なのか委託契約なのか、そのことについて詳しく分かりませんが、東京事務所、津和野の東京事務所へ今次長が行っておられますが、そこへデスクを構えて毎日とは言わないけれども、時々出られて、一緒に関係機関のところに出向いたりして、関係人口の拡大につなげていきたい、そのスタッフについても萩・石見空港利用拡大促進協議会において全てその人件費等は負担されると。その期間はいつまでぐらいあるのかということで、１年ということで書いてありましたかいね。その辺についてお伺いします。

○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。

○商工観光課長（藤山　　宏君）　今回、そういった形で、より広域としては、石見空港利用拡大推進協議会としては、こういう大変厳しい時期ではございますが、空港利用をより確実にしていこうということで、東京にベースのある津和野町をうまく、あちらとすると利用してその業務をさらに広げていこうとういことで、今までも連携をする中で、観光協会さんが間に入った中であちらから一定の負担金をお支払いいただいて業務を行っているところでございますが、この比重をより強めていこうということでございまして、こちらとすると、今回は同協議会さんのほうからお支払いになるのは委託料でお支払いになるという形になると思います。直接的にはあちらと、会社なり個人営業事業主さんに対して委託でお支払いをした、その上で業務をやっていただくということで、最終的には結果も求めていくという形になると思いますが、そういった形でやられた方がうちのスタッフ２名と一緒になって、席を設けるというのはさすがにちょっと物理的にちょっと厳しいかなと今、思っておりますが、共通の会議テーブルというか、ワーキングスペースがありますので、そちら辺りも使いながら、毎日おるということはちょっと厳しいんじゃないかと私は思っています。割と出て回っていただくということもありますが、そこをベースにやはり一緒に行ってみたりとか、あちらがやることで今度は東京事務所のほうがある程度、お電話等の対話をさせていただくということを協力しながらやっていこうということですので、これに応じて今回の歳入のほうでも一定の、あちらとしての、さらに今までの金額にプラスしたところで、家賃の一部を負担いただくというような形で、協議会から約７０万円程度と思っておりますが、いただくということになっているということでございます。

○議長（沖田　　守君）　板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　通告とまたちょっとあれかも分からないですが、活動ということで、少し最近の萩・石見空港の協議会から出されたパンフレットですかね、あれ前年度より少し、搭乗者に対する支援が少し減額されたんではないかなと思うんで

すが、こういう人的な拡大路線をするためにそちらのほう、７０万円入ってくるというわけだからプラスになるんならそれはあれですが、減額しようという意図はどういうことですかね。搭乗者に対する何か支援策がちょっと減らされるんではないですかね。
○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。
○商工観光課長（藤山　　宏君）　そういう認識はないと思っております。昨年については、やはりそういう、本年度についてはなかなか同協議会さんに対しては、詳しいところは何でしたらつわの暮らし推進課長のほうからまた御答弁をお求めになられたほうがよろしいかと思いますが、その事業を今回やることにおいて、そういう補助額が減るということはないというふうに私は認識をしております。
　ある意味、今年ある程度、十分な活動ができなかった部分もあるという認識だと思うので、それをうまく生かして今回つながっていこうということでございますので、たちまちそれで新年度の予算、補助額を落とすということではないと。
　今、申し上げました７０万円なりというのは、協議会から津和野町に対して家賃の負担分ということで見てあると。協議会とすると委託経費を大体６００万円くらいで全体的な予算を組んでおられるということでございますので、それを津和野側が負担するというのは、広く協議会では出しているのかもしれませんが、直接的に負担するということはございません。
○議長（沖田　　守君）　板垣君。
○議員（５番　板垣　敬司君）　もう一回確認です。それでは、今の、今回、何て言いますか、協議会で６００万円の負担をされて、さらに津和野東京事務所にスペースを貸してあげるというようなことで７０万円が津和野東京事務所に入るということでいいんですね。
　それで、つわの暮らし推進課長、石見空港の協議会のパンフレットは御承知ですか。見ておられますか。私はちょっとぱっと見たときには、ちょっと今までよりも少し優遇策がちょっと下がっているんじゃないかなと思ったんですがいかがでしょうか。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　まだ最新版はまだちょっと私も見ておりませんが、案の段階で見させていただきました。議員おっしゃるようにちょっと変わっております。これサービスの拡充が落ちたというよりは、やはり新型コロナウイルスの関係で搭乗者、搭乗率がかなり落ち込んでいます。それにより、実情に合わせた形で若干見直しを行ったというふうに僕のほうはちょっと理解をしております。サービスの低下というよりは、むしろ搭乗者減により予算を有効に使うためにアレンジをしたものというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　板垣君。
○議員（５番　板垣　敬司君）　続いて、空き店舗の関係は、津和野町のやっぱり商店街というか、中心連担地区のために何とか利用していただきたいということでございま

すが、答弁の中にもありましたので、これについては是非いろんな形で推進をしていただきたい。その一点につきます。

続いて、４番目の津和野町、民間の賃貸借の賃貸住宅建設の支援事業ということで質問させていただいておりますけれども、昨年、県の事業として上限５００万円の事業費の５分の４で４００万円が上限額でということで予算化がなされて、最終的に今回の答弁で２件あったように聞いておりますけど、今回その事業が、その事業費額で９００万円とか、もっと耐震補強工事が必要な空き家に対しては９６０万円を補助金じゃけ、それよりもっと多いんかなと思いますが、やっぱり今年、令和２年度においていろんな広報をしたり建築会社のほうにも御紹介をお願いしたりしたが、結果的になって、今年は何かその家を所有している人じゃなくて、その家を買うことも含めて補助事業の対象になっているということでございますが、そういうことでいいですかね。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　お見込みのとおりでございまして、購入費も補助対象経費といたしております。昨年度、議員おっしゃるように、予定件数３件でございましたが、２件の申し込みしかございませんでした。先ほど、町長の答弁にもございましたように、いろいろ原因分析をしましたところ、耐震工事に係る経費が非常にかかるということで、なかなか改修費用に費用が回らなかったというような現場の声も聞いております。

そういう中で、補助制度の周知にしても民間事業者の方々の力を利用した形に今回改定をしております。そうすることによって、新たに購入費ですとか工事費の事業枠を拡充しまして、同じ５分の４補助ということで、今回改定版として、新規事業として立ち上げたものであります。

○議長（沖田　　守君）　板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　現実に令和２年度で耐震診断をされて耐震補強工事を実施された、その物件等について、記憶というか覚えておられれば、その診断経費とかあれというのはどのくらいかかるもんなのですか。その物件を、耐震補強工事というのはどのくらい、今回５００万円の事業費の中でどのくらい占められたかというのも実績報告か何かにあったかと思いますが、答弁できましたらお願いします。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　まだ実績報告等は出ておりませんので、耐震関連にいくらかかったかというのは、正直ちょっと数字を今持ち合わせておりません。ただ、大体今回の令和３年度の新しいこの事業に関しましては、改修費全体で６００万円程度を見込んでおります。耐震経費については３００万円程度、これ全部いずれも１件あたりですが、を見込んだ形で予算計上をしております。

○議長（沖田　　守君）　板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　この事業は、例えば、私がどこかに空き家物件があって、これを取得して、この事業の対象にして個人でやることを推奨しているわけですか。推奨も個人で、例えば、板垣というわけじゃないですけど、個人が個人の家を改修して、借り受けるというか、購入してもいいのか分かりませんが、そうした場合、必ず１０年ぐらいは賃貸物件として個人の自由にはならない、そういう条件もあるんですね。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　今、詳しい補助要綱を作成中でございますが、おっしゃるように、１０年は、改修後１０年は賃貸物件としてやっていただくというようなルールをつくろうと思っています。
　それで、議員が例えておっしゃいましたが、例えて言うなら、ある建設会社ですとか工務店さんが民間の空き家を、これを使えると思ったらそれを買って改修をして一般の方々に貸し出すというふうにイメージをしていただければと思います。その際に、５分の４の高補助率でございますから、やっぱりいろいろ条件を今考えておりまして、トイレとか水回り、風呂、トイレ、台所、洗面所等の改修、それから畳、ふすま、障子等の改修等の一定の条件をつけ加えてやろうと思っています。
　あとは、当然高補助率ですので、民間業者の負担は少なくなりますので、向こう１０年間賃貸するということになると、逆算すると１か月当たりの家賃がかなり安く抑えられるということで、安く津和野に住める環境を構築したいというのも目的の一つであります。
　以上です。
○議長（沖田　　守君）　板垣君。
○議員（５番　板垣　敬司君）　民間の業者という表現でございましたが、農村部に空き家物件があってそれを売ってもいいよという所有者のあった場合、それを集落の個人が取得して、それにこの事業が該当するかどうかということです。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　細かい細則はちょっとまだなのでちょっとはっきり申し上げられませんが、エリアについても今議員さんおっしゃるように、農村部とおっしゃいましたが、エリアについてもある程度、選定もしたいなというちょっとまだ気持ちもあります。
　というのが、農村部と都市部といいますか、そういうのを分けるというよりも、むしろまとまった形で改修されるエリアがあったほうがいいんじゃないかというような意見もあって、今までの、例えていいましたら、今年は例えば野口団地とかはまとまって４件とかを改修しましたが、ああいった形でまとまって改修をしてむしろ募集をするほうが、より有効に入る人もいらっしゃるんじゃないかというような意見もありますので、その辺の細則につきましては、今後検討してまいりたいというふうに考えています。
○議長（沖田　　守君）　板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　いろいろこういう事業で空き家が改修されたり、そして答弁にもありますようなそういう倒壊防止につながったり、いい事業と思いますので、３か年しっかりその事業が償還できますことを期待して、次の質問に入りたいと思います。

新型コロナウイルスということでもいろいろありますけど、昨今のその終息宣言、なかなか緊急事態宣言の云云等についてもマスコミも日々動いておりますが、今朝の新聞です。今朝の新聞では、とうとう世界で１億１，９９８万２，４０３人というような感染者が１億１，９８８万２０４人ということで、この数字が示されておりますが、１年前はちょうどこの３月時点ではまだ感染者は２００人か３００人、２８２人ぐらいですかね。それで、３月３日に１０万１，９２７人ちゅうことで、素晴らしい勢いでこの感染者数が増えているということでございまして、大変この脅威に対しては人類の本当脅威だと思っていますが、これについて云云ということじゃないんですが、津和野町の独自の施策を打たれて同僚議員からも津和野の独自の施策が非常に効果もあって、非常に喜ばれていると、そういうような提案もありましたが、私もまさにこの実感をしているところでございますが、この収束が見込まれない中で、今後の新型コロナの中で新たな施策が検討されているかどうかをお聞かせをいただきたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、新型コロナウイルス感染症対策についてお答えをさせていただきます。

国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業につきましては、現在、令和３年３月中旬を期限として各課に考案するよう指示しているところでございます。既に本交付金を活用し、令和２年度においては業績悪化緩和運転資金補助事業や介護事業所、障害福祉事業所及び診療所に対する新型コロナウイルス感染症対策支援事業等の事業を実施しておりますが、令和３年度につきましても、きめ細かい対策、支援となるよう検討を重ねてまいりたいと考えております。

その上で、現時点では４月中旬に臨時議会をお願いし、関連予算の上程を計画しております。

○議長（沖田　　守君）　板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　質問が重複するかもしれませんが、最初に得々ドライブショッピング券につきましても、同僚議員からもありましたが、それを受けて、今現在はテイクオフですかね、従来は３，０００円、５，０００円、７，０００円のあれに対して１，０００円、２，０００円、３，０００円ですか、そういうあれがありましたが、今回のあれはテイクオフで５００円のテイクオフをした場合、１ポイントということで、結果的に５，０００円のテイクオフをした場合は１０ポイントついて１，０００円の商品券というか、なるということですが、結果的に得々ドライブショッピング券も特定の人にそれが支出されたというか、利用されたというか、町民、全てのあまねく利用する

部分については、ちょっと現実的にそういうものがあったのかなと考えて、それで結果的に５００円の買い物について１ポイントというほうが町民に等しく行き渡るんではないかということでこの施策に代わられたのかなと思うんですが、いずれにしましても、要は観光関連産業というか、そういう飲食業、そういったところが大変観光業としても特に津和野町の場合、主流でございますが、そういうところがやっぱり恩恵を被るということも一つの視点ではないかと思いますが、新しい年度になるさなかで、現在、検討をされていると思いますが、その二つの得々ドライブショッピング券のあの割増の率の高さとこの今の場合と、この感覚はいかがでしょうか。現在の、いわゆる発行している感覚はいかがですか。

○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。

○商工観光課長（藤山　　宏君）　得々ドライブショッピング券については、議員御指摘のとおり、テイクアウト用の今回キャンペーンをやっておりまして、これおっしゃるように５００円で１ポイント、１０ポイントたまったら１，０００円バックということをやっておりまして、忘・新年会プランのほうはいわゆる５，０００円までが２，０００円でしたですね、あと３，０００円というような形でだんだん伸びてくる。確かに還元率は高かったという認識でおります。

やはり、それだけやっていただきたいというところがございましたが、決してこっちが還元率を、あれが事業的に偏っていたからというような意味でなくて、テイクアウトについては、去年の４月の連休前ぐらいからこういうお客さんが来られないんで、じゃあ持ち帰っていただこうという動きが急速に、チラシもつくって出しましたので、急速に伸びて、かなり御利用も多かったということがあって、これを一つ今後業務、それぞれの飲食業さんの業務の体系の一つとしてきっちり位置づけていただきたい。

今後、コロナの影響が治まろうがどうであろうが、こういう商売の形態もあるよということを、ある程度根づかせたいという思いもあって、長い期間かけてでも、すぐにたまりませんので、どうしても１０ポイント、１回に５，０００円ぐらいのオードブルとかいうことになればもう１回にたまりますが、お弁当を毎日５００円ずつでもたまるわけですので、とにかくそういうことを位置づけていただきたいという思いでやりました。

ですから、これはこれとして、繰越しを、議会の御同意いただければ考えているところでございますので、ある程度、伸ばしていきたいなという思いでおります。

もう一個は、それとはもう一個また別口として、やっぱり先ほど丁議員からもございましたが、忘新年会に代わるものについては、今後収束あたり、また沈静化を見て、例えば。初夏ぐらいから夏場に向けての暑気払いとかいろんなことを含めて、もっと遅くなれば秋冬ということになってしまうかもしれませんが、状況を見ながら復活をさせていくことも一つ選択肢に入るという思いでございますので、２つとも方法とすると考えているということでございます。

○議長（沖田　　守君）　板垣君。

○議員（５番　板垣　敬司君）　大変、ところどころ失礼な点があったことをお許しいただきたいと思います。

　それでは、これで一般質問を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（沖田　　守君）　以上で、５番、板垣敬司君の質問を終わり、以上で本日の日程全て終了いたしました。本日はこれで散会といたします。

午後３時04分散会

―――――――――――――――――――――――――――――――――――

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

年　　月　　日

議　　長

署名議員

署名議員

―――――――――――――――――――――――――――――――――――

令和３年　第３回（定例）津　和　野　町　議　会　会　議　録（第４日）

令和３年３月17日（水曜日）

―――――――――――――――――――――――――――――――――――

議事日程（第４号）

令和３年３月 17 日　午前９時 00 分開議

日程第１　会議録署名議員の指名
日程第２　一般質問

本日の会議に付した事件
日程第１　会議録署名議員の指名
日程第２　一般質問

出席議員（12 名）

１番　草田　吉丸君	２番　米澤　宏文君
３番　川田　　剛君	４番　道信　俊昭君
５番　板垣　敬司君	６番　丁　　泰仁君
７番　御手洗　剛君	８番　三浦　英治君
９番　寺戸　昌子君	10 番　後山　幸次君
11 番　岡田　克也君	12 番　沖田　　守君

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名
局長　福田　浩文君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	下森　博之君	副町長 ……	島田　賢司君
教育長 ……	世良　清美君	総務財政課長 ……	岩本　要二君
税務住民課長 ……	山本　慎吾君		
つわの暮らし推進課長 ……			宮内　秀和君
健康福祉課長 ……	土井　泰一君	医療対策課長 ……	下森　　定君
農林課長 ……	桑原　正勝君	商工観光課長 ……	藤山　　宏君
環境生活課長 ……	清水　浩志君	建設課長 ……	益井　仁志君
教育次長 ……	齋藤　道夫君		

午前９時 00 分開議
○議長（沖田　　守君）　おはようございます。
引き続いてのお出掛け、ありがとうございます。

これから４日目の会議を始めたいと思います。

ただいまの出席議員数は１２名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

――――――――――――――・――――・――――――――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（沖田　　守君）　日程第１、会議録署名議員の指名。

会議録署名議員は、会議規則第１２６条の規定により、３番、川田剛君、４番、道信俊昭君を指名します。

――――――――――――――・――――・――――――――――――――

日程第２．一般質問

○議長（沖田　　守君）　日程第２、一般質問。

昨日に引き続いて、順次発言を許します。

発言順序６、８番、三浦英治君。

○議員（８番　三浦　英治君）　皆さん、おはようございます。

それでは、通告に従って質問したいと思います。８番、三浦英治です。よろしくお願いいたします。

まず、初めに、買い物困難者への対応についてです。４項目あります。

１点目、１月末日をもって、つむぐショップが店を閉じました。この影響をどう捉えていますか。

２点目、平成３０年１１月、津和野町買い物支援センターが始動してからの現状と課題をお伺いいたします。

３点目、空き店舗の活用状況と課題はどうなっているのでしょうか。

４点目は、高齢者の買い物が困難になると、栄養のある食事を摂れなくなる人が増えることを懸念する声を聞きます。健康寿命増進する意味でも重要なことと思いますが、健康福祉の観点からどのように考えているかをお聞きいたします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　皆さん、おはようございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、８番三浦議員の御質問にお答えをさせていただきます。

買い物の困難者への対応についてでございます。

まず、つむぐショップ様におかれましては、橋北地区の食品小売店が減少する中、唯一営業を継続いただいた店舗として同地区を中心とした買い物不便対策に大きな御貢献を賜ったところでございます。同店舗の創業時には、津和野町としても島根県と連携し、可能な限りの支援を行うべく、同地区を買い物不便地域に指定した上で、空き店活用による改修費等の特別補助を行いました。その後、社会環境の変化やコロナウイルス

感染症対策など、厳しい条件下であったと推察をいたしますが、今年１月末まで営業いただきましたことに心よりお礼を申し上げます。

影響につきましては、小売り卸売を含めまして、非常に大きなものがあると考えられます。同店舗では、移動販売についても実施しておられたこともあり、その影響をできるだけ抑えるためにも本町の買い物支援サービス、町営バス運行との連携など、対策が必要と認識をしております。

次に、買い物支援サービスにつきましては、買い物支援センターを拠点に、平成３０年１１月から業務を実施し、もうすぐ２年５か月となります。当初より、株式会社津和野開発に業務を委託し、実施しております。３月１日現在の買い物支援サービスの加入件数は６６件、参加商店は１９店舗で、生鮮食品以外にギフト、時計、本、青果、印鑑、仏具など約１，０００品目の商品を取り扱っております。注文受付は電話、ＦＡＸによるものが主で、注文を受けた商品を集落支援員がピッキングし、毎週火曜日と木曜日の週２回配達しております。平成３１年度までは津和野地区、日原地区ごとに曜日を分けて、週１回ずつ配達をしておりましたが、今年度は実証実験を経て、地区を分けずに、それぞれ火曜日と木曜日の週２回の配達をしております。配達回数を増やしたことで、利便性の向上にもつながり、年度当初に比べると加入件数もかなり伸びてきている状況であります。２月締めの利用状況としましては、津和野、日原地区それぞれ８回の配達のうち、津和野地区が７５件、売上高２０万２，８９８円、日原地区が１０６件、売上高１８万８，３０６円の合計１８１件、３９万１，２０４円の売り上げとなっております。

今後の課題といたしましては、買い物支援事業を実施する上での関係部署との情報共有や商店が減少していく中で、地域と連携した拠点づくりに向けた買い物支援サービスのあり方について、検討する必要があると考えているところでございます。

次に、現在空き店舗を活用した新規創業等を支援する制度として、島根県地域商業活性化支援事業を活用した津和野町商業等支援事業費補助金制度と空き店舗活用基盤整備補助金制度を設けております。

まず、津和野町商業等支援事業費補助金については、県の間接補助事業として、対象経費の４分の１を町、４分の１を県が補助し、計２分の１補助が基本となっており、補助上限額は空き店舗を活用した改修等を伴う新規創業等を対象とする一般枠においては、上限２００万円となっております。この一般枠のほか、買い物不便対策特別枠なども設けられており、こちらは補助上限額が１，０００万円となっております。令和２年度については、このうち一般枠に１事業者が申請し、２００万円の交付決定をしております。

一般枠は、町内の指定区域において新たな事業を開始しようとする事業者のうち、小売業、飲食サービス業、宿泊業、生活関連サービス業、娯楽業または自動車整備業を営む者に対して、店舗の改修費や、備品購入費・リース費、家賃、広告宣伝費を補助するものとなっております。

空き店舗活用基盤整備補助金については、令和２年度からの新設された町単独制度となっており、町内空き店舗を活用した新規事業の立ち上げを支援するため、町内に主たる事務所を置く中小企業者に対し、対象経費の２分の１以内で補助上限額を新規事業により創出される雇用従業員数により５０万円から３００万円までの間で設定しております。この制度では、事業に必要な店舗改修として空き店舗で住宅部分が付随している場合、新規事業を行うために住居部分と商売に使用する部分を切り離そうとする際に必要な経費や商業等支援事業では対象外となっている従業員のみが使用する事務所部分などの改修費も対象としております。令和２年度については、１事業者の申請を受けております。

このほか、津和野町個別商業包括的支援事業補助金制度の中にも、創業支援事業を設けており、補助率２分の１、補助上限３０万円までで、家賃や設備、備品購入費、その他事業所など開設に係る経費を補助しております。

今年度、津和野町商業等支援事業費補助金の活用相談をいただいた事業者は１１事業者あり、そのうち、前述の１事業者が進行中で、令和３年度早々にも申請を予定している事業者もいらっしゃるところです。

コロナ禍においても新たな取組をしたいと考える事業者は多いと感じており、引き続き、津和野町商工会とも連携しながら相談体制を継続し、町内事業者の積極的な新規事業を支援してまいりたいと考えております。

次に、町内外で食材を確保する手段として、民間の宅配や移動販売の利用やつわの暮らし推進課が主管している買い物支援サービス、健康福祉課の配食弁当、介護保険のヘルパーを利用した買い物等の公的な買い物支援の利用、御近所、家族などへ買い物をお願いする、地域の買い物バスなどがあります。

買い物をするという行為は、単に必要物資を得るだけでなく季節や要件にあった服装で外出をする機会の確保、出会った人とお話しするコミュニケーション力の維持、商品を見ながら用途に合った品物を選択する力、レジで購入した品物に見合った代金を支払う金銭を管理する力など、認知機能の維持にも大きく影響いたします。また、同様の行為を通して認知症の早期発見にもつながります。

町内に買い物ができる商店がなくなるということは、単に必要な食材が届けられず低栄養になるだけでなく、生活全般を支える力が低下する可能性があり、健康寿命を維持するためにも大きな課題であると考えております。

○議長（沖田　　守君）　三浦君。

○議員（８番　三浦　英治君）　まず、１点目の質問になりますけれども、日用品の買い物が困難な状況に置かれている人を買い物弱者ともいいます。８年前の平成２４年９月定例会で、同様の質問をしていますけれども、当時全国で６００万人いると推定されていました。今回質問に当たって、ちょっと調べなおしたところ、経済産業省では約７００万人と推計値が出されています。

また、農林水産省は経済産業省の推計より厳しい数値を発表しています。８２４万人です。農林水産省では買い物弱者と同じ意味での食料品アクセス困難人口については、食料品を購入できる店舗まで、直線距離で５００メートル以上あり、自動車の利用ができない６５歳以上の高齢者を指しております。

再質問ですけれども、橋北地区を買い物不便地域にした上で、島根県と連携し、可能な限りの支援をしたことは承知しております。この買い物不便地域でない地域では、津和野町のどの地域を指すのでしょうか。また、空き店舗活用による改修等の補助金確保のための指定だったのか。また、買い物不便地域の定義はどのようになっているのかをお聞きしたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。

○商工観光課長（藤山　　宏君）　おはようございます。よろしくお願いいたします。

まず、議員御質問の買い物不便地域でございますが、議員がお見込みのとおり、これについては今回の空き店舗活用の補助金を出す上での特別枠、町が５００万円、県が５００万円の１，０００万円でございます。約５年前だったという認識でおりますが。創業時に御支援する上で、指定するために、その補助の適用を受けるために買い物不便地域の適用をしたということでございます。そういうことで、全町内で買い物不便地域に認定している地域については橋北地区のみということになります。

それと、買い物不便地区の認定に関する条件でございますが、基本的にこれは町の場合は町としてそれを認定できるか否かということでございます。町の判断に任されておりまして、これを認定する際には、ちょっと細かな条件が、細かく挙げる認定の条件というものは設定はされてなかったと思うんですが。津和野町としましては、津和野町産業振興審議会のほうで審議員の皆さんに商工会等とも連携しながら、地域の人口とかそちらの状況等を客観的に判断をいただく中で、これは買い物不便地域に当たるであろうと。他の事業者がいらっしゃる、いらっしゃらないということも出てくると思うんですが。そういったところも踏まえて、決定をしたということでございます。

○議長（沖田　　守君）　三浦君。

○議員（８番　三浦　英治君）　津和野町全体が買い物不便地域だと私は認識していますし、ほんの一部が例えばこの経済産業省が定義づけしている食料品購入できるまで直線距離で５００メートル以上、つまり１キロ範囲になりますけれども。というのは、ほんのごく限られているなと。全体的な問題であろうかと思います。

それで、２点目の再質問ですけれども、まず、主に電話、ＦＡＸによる注文とのことですが、これ以外の注文方法はどうなっているか、お聞かせください。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　以前、光ボックス等も準備しておりましたが、一部利用があるのみで、主には電話、ＦＡＸになっております。それで具体的にちょっと今どのぐらいの割合かというのは、ちょっと私、数字を持ち合わせておりません

が、ほぼ９割方は電話、ＦＡＸによる注文が入っておるというふうにお受け止めいただけたらと思います。
○議長（沖田　　守君）　三浦君。
○議員（８番　三浦　英治君）　ということは、以前実証実験でも行ったように、テレビを見ながら会話をするというのは本当にごく少なくなったということでよろしいですね。年度当初に比べて、加入件数も津和野地区で７５件、日原地区で１０６件と伸びてきておりますけれども、月５００円負担して、商品カタログを見て、電話、ＦＡＸで家まで届けてくれるという大変いい体制だと思っておりますし、また、利用している人から何でこれがもっと伸びないのかなという声も聞きます。この思っていたほど利用度が上がらない原因ですよね。どのように考えているか、お聞かせください。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　先ほど町長の答弁にもありましたように、一応年度当初に比べると、年度当初が１７件でございましたので、約５０件伸びてきたということでございます。思ったほど伸びないと議員おっしゃいますが、今宅配の配達するのを年度当初週１回を今２回に増やしております。これを９月にもアンケートを取りましたところ、週２回の配達ペースがちょうどいいという方が約８割ございましたので、これを継続しながら来年度以降は週４日に増やしたいと思っております。これが、ですから旧日原エリアを週２回、例えば月曜日と木曜日。旧津和野エリアを火、金という形で、買い物支援センター全体は週４日配達稼働できるような形で今構築しようと考えております。こういうふうな買い物支援センターの宅配サービスの向上をするうちに、利用者は伸びていくんではなかろうかと、このように私どもとしては推測しています。
　以上です。
○議長（沖田　　守君）　三浦君。
○議員（８番　三浦　英治君）　この町民に対する周知案内が足りないのではないかと。もっと知ってもらうための広報なり、その自治会を通じてとか、いろんな方法があろうかと思うんですけど。そういう声も聞くんですよね。もっとこういうのを普及するべきじゃないかと。むしろこれを応援しようとしている人も結構おるような、私の周りではいます。今後それを考えていただければと思います。
　総務省が２０１７年に発表した調査結果によると、移動販売や宅配など、買い物難民対策の事業の７割が採算が取れていないとなっております。この残り３割の事業形態を調べようと思いましたけれども、とても私１人では時間もなければ金もないというか、能力不足というか、ちょっと自分自身ももやもやしているんですけど。やっぱり成功例というか、いろんな、全国でこれはいろいろな自治体が取組をしている中で、いろんなものがあると思うんですよね。当然、執行部におかれましては、さまざまにアンテナを張っていると思います。そうした中で、またこれが発展するよう、期待しておりますので、よろしくお願いします。

それでは、次の３点目の質問にまいります。津和野町商業支援事業費補助金の活用相談が１１事業者のうち１事業者が進行中で、令和３年度早々に予定している事業者がいるとのことですが、残り事業者の動向がわかればお聞かせください。
○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。
○商工観光課長（藤山　　宏君）　まず、１事業者については現在進行中であるということで、既にある程度進めておられるということでございます。令和３年度早々というのも、これは本来は令和２年度で予定されておられたんですけれども、やはりコロナとかいろいろな部分での状況が変わる中で、待たざるを得んというところが出まして、令和３年度になって早々にはまた対応されるという認識でおります。
あと、やはり本当こういう状況でかなり経済的にほかの事業者については、厳しい状況になってきた部分があって、一歩踏み出そうと思っていたのを控えられた方がほぼだと思っております。それ以外の部分では、予定していた資金繰りの関係で借入が条件的に整わずに、借り入れができないので、当面断念をされておられるという方もいらっしゃいます。ざっくりしたところで申しわけないんですが、概ねそんな感じだというふうに思っております。
○議長（沖田　　守君）　三浦君。
○議員（８番　三浦　英治君）　現在コロナ禍の中でさまざま大変だと思います。店を閉じている中にはコロナ禍を機会に跡継ぎがいなから辞めていくと。だから、コロナ禍がどうこうじゃなくて、もう後継者がいないから辞めるという声も聞きます。
次の質問ですけれども、津和野町は自然環境と歴史的文化遺産を保存するために、津和野町環境保全条例を定めています。また、次の世代へ継承していくために津和野町景観条例や伝統的建造物群保存条例を定めております。これらの条例が新たに出店する場合や空き店舗活用に対しての障害となっているのではないかということがちょっと懸念があるんですけども。どのようにお考えなのかお聞かせください。
○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。
○商工観光課長（藤山　　宏君）　ちょっと議員の先ほどの御質問で若干補足をさせていただきたいんですが。それ以外もやはり探していた物件となかなか条件が合わなかったということと、借りたいけど相手側の方が所有されている方のほうがなかなかそれでは貸せません、金額もありますが、そういった部分も若干あると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。
それと、今の御質問でございますが、確かに景観条例についてもその条例を設けまして、既に１０年以上経ってきておるという中で、我々事務方、さらには委員の皆様においてもそろそろちょっと見直す必要があるんではないかということは御指摘としてあると思います。やはり、津和野橋北地区を中心とした美観地区をエリアといいますか、あのエリアの中においてはやはり観光の根幹をなすものが街並みということであると思いますので、また重伝建の認定等も受けておりますので、一定程度のやはり制約を受

ける中でその分有利な制度もあるわけですけれど、街並みを守っていくということはどうしても必要であろうと。その中でより雰囲気のいいお店を作るということも補助もあるわけでございますので、意識をしていくべきだと思います。

片や、一方、例えば国道９号線沿いとかいうところで、ある程度の看板を作りたいといったときに。やはりここは何センチ以内ですよと、縦横が決まってくるわけですが。そういった部分で、ほかのロードサイドのお店であればもっと大きい看板が出せるのにというようなことで。これを津和野町とすると商工観光課が景観のほうもやっておりますので、片一方で商工業を応援します、推進しますという、片一方で、それをやってはいけませんということで自問自答するところで、自己矛盾を感じることもそこそこございます。議員御指摘いただいたようなことが本当にあり得ますので。守るべきところはきっちり守っていくということと、やはりある程度条件を見ながら緩和する部分ということも今後話す中では審議をしていこうということが、本当具体的に話としては出ておりますので。今後、景観審議会等をやる中で、たたき台を作りながら、町長以下、内部協議も進めた上で、方向性を定めて考えてまいりたいと思っております。

○議長（沖田　　守君）　三浦君。

○議員（８番　三浦　英治君）　この津和野町環境保全条例、新町合併して見直していますけれども、これ旧津和野町時代、１９７３年だったと思いますけれども、全国に先駆けてこの条例を作って、街並みを保全しようとしているんですよね。そういう意気込みとやっぱり時代にマッチしたものを作っていかなければなかなか先細りしていくのではないかなと思います。利便性は確かに追及しなきゃいけないけども、逆に守らなければならない、ふるさとっていうものがあろうかと思います。見直しをかけて、時代に合ったものにしていってほしいと思います。

４点目の再質問にまいります。健康に関する部分ですけれども、例えば認知症のある独居の高齢者の場合、宅配では同じ食材を何度も購入したり、調理することができない使いきれない食材を注文してしまったり、消費期限を過ぎた食材を口にして、体調を崩したりと、自身の健康を維持するための食材の選択ができない方も増えていくと考えられます。今後の課題として、また、町としてこのことをどう考えているのか、お聞かせください。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　今議員がおっしゃるような認知症の方、それから独居の方、結構増えていらっしゃいます。ちなみに今うちの利用者数のうち、７９％が独居の方でございます。なので、今議員おっしゃるようなことは、実際もう既に起こっておりまして、例えば買い物支援センターに弁当を発注する。実際届けてみると、前回と同じ弁当が冷蔵庫の中にあったとか。そういうことは事象としてございます。それで、これはやっぱり我々つわの暮らし推進課だけではなかなかこれ解決できないというふうに思いまして、現在医療対策課、健康福祉課と一緒にちょっとそういう情報共有

をするような場も設けております。これを定期的にやることによって、より現場に即したといいますか、住民の方々のニーズに合った買い物支援体制を整えたいというふうに考えておりますので、今後のこれは大きな課題かなというふうに認識しております。
○議長（沖田　　守君）　三浦君。
○議員（８番　三浦　英治君）　なかなか認知症の場合、介護度も、体は動くので介護度もなかなか上がらない、施設も今介護３以上、施設によっては４以上しかもう受け入れないような状況の中で、この買い物支援に関わらず、地域包括ケアの観点からもこういう買い物というものがすごく重要になってくると思います。先ほど連携していくというふうに答えておりますけれども、今回介護関係が医療対策課のほうに移って、結構一本化されていくのではないかと思います。
　そういう点から見て、健康福祉の面から見て、健康福祉課長なり医療対策課長、この買い物とのジョイント、絡み、何か所見があればお伺いしたいのですが。
○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。
○医療対策課長（下森　　定君）　先ほど、つわの暮らし推進課長が申しましたように、やはり食材を確保する手段、これは津和野町にとってはあると思います。ただ、それを選択する、いわゆる力、ましてやその認知の部分で円滑にその方法をやはりどういうふうな利用がいいかというような状況の部分というのは、先ほど言ったような状況。この利用者に対して、結局円滑的な部分をやっていく、それにはやはり行政の中でのセーフティーネットや個別支援をどうつなげていくかということがまず第１点にあると思います。今議員さんも意見されましたように、地域包括ケアの部分を確立していくには、やはりこの買い物という部分は重要な取組ということで捉えております。
　今後、町長のほうも地域包括ケア確立という中で、医療、介護、その中でこの生活支援、今後においては、今の移動販売等の部分も考えられますが、やはり地域でそういう部分で買い物ができるということになれば、やはり移動支援をどうしていくかということもこれは買い物だけではなく、やはり医療、介護においてもその辺の部分の取組は最重要となっておりますので、その辺の状況を踏まえた上で町内部で先ほどつわの暮らし推進課長が申しましたように、それぞれが連携を取って、地域包括ケア確立のために今後も努力していきたいと思っております。
○議長（沖田　　守君）　三浦君。
○議員（８番　三浦　英治君）　奈良県吉野郡川上村の移動スーパーは宅配に看護師、歯科衛生士を同行して、活動しております。まずは健康づくりとして、身近で相談、予防に取り組み、重症化する前の取組を実施しているわけですけど、こういったようにもう横断的な部分としての取組を津和野町でも考えてみるべきではないかなというふうに思いますけども、どうでしょうか。
○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。

○医療対策課長（下森　　定君）　私もこの川上村の部分の移動の部分は先日うちの地域包括ケアの中でも話し合いをしました。本当この取組は全国的にも最先端ということで、今年度におきまして町としてもファンディングベースを使った中で、コミュニティナースの部分がありますので、そことの絡みをこの買い物の部分の中でどうにかそういう介護予防につながると。そして、認知症の早期発見にもつながるという状況の中で、令和３年度においてはそういう状況の部分も検討してまいりたいと考えております。
○議長（沖田　　守君）　三浦君。
○議員（８番　三浦　英治君）　大いに期待しておりますので、よろしくお願いいたします。
　健康寿命を維持するためにも大きな課題であると考えられていますけれども、現在それぞれの部署で健康寿命をいかに伸ばすかの施策が取られております。津和野町健康増進計画、これは平成２５年度から令和４年度にかけてですけども、公民館で展開されている健康を守る会の活動。また、社会福祉協議会が事務局になっている津和野町老人クラブ連合会の事業計画では、延ばそう健康寿命、担おう地域づくりをメインテーマに掲げて、さまざまな活動を展開しております。
　また、益田保健所が進めようとしている島根健康寿命延伸プロジェクトとさまざまありますけれども、それぞれの地区でお世話している人たちは役が重なって混乱しているのが現状ではないかというふうに思っております。逆にそれが自治会、町内会の疲弊にもつながっているのではないかとも思います。横断的な体制、連携を期待したいと思いますが、所見をお聞かせください。
○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。
○健康福祉課長（土井　泰一君）　今の御質問でありますが、特に議員の地元の青原地区において、今年度から県の健康寿命延伸プロジェクトの指定地区としてお願いをして、快く青原の健康を守る会のほうにお受けいただいたというところであります。これは長期に渡って、県のほうが青原地域の住民の方の健康の変化を調査するということでありますので、地域の方にとっては非常に有意義なデータが出てくるんではないかなということでお願いをしたところであります。
　そういう中で、今議員さん仰せられましたように、各課横断的にと、窓口一本化でできたらいいというようなことではありますが、基本的にはそう私どもも思っております。そういう中で、地域包括ケアの構築を中心に、今後住民の足であったり、今さっき言いました認知症予防であったり、健康教室であったり、そういうところを一本化しながら、何ができるのかというのをやっぱり町としたら一元化していくと。
　組織も、今議員さん言われますように、いろんな組織があって、役がそこに必ず皆さんはまっておられる方は同じような方になっておるというようなことで、本当混乱をされている方もおられるんじゃないかと思います。そういう中で我が役場のほうがきちんと横のつながりを作って、その辺は協議をしていきたいと考えておるところであります。

○議長（沖田　　守君）　三浦君。
○議員（８番　三浦　英治君）　３月、この時期、自治会を含め、それぞれの組織が、総会が開かれ、コロナの関係で総会自体を取りやめているところも出ているようですけれども、よく聞かれるのがなかなか役を引き受けてくれるものがいないと。そして、昔から言われているんですが、役を世話する人を探すんなら、忙しい人のところへ行けと。それなら何とかなるということがあるんですけども。ただ、自治会とか町内会もそうですけど、なかなか次の担い手がいないのが現状です。そうした面でそういう本当役をやっている方の負担ですよね。それを一元化、横断的、いろんな言い方ありますけど、少しでも楽になるようなフォローを行政のほうもしていただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。
　それでは、次の空き家対策について、質問していきたいと思います。
　平成３１年３月に津和野町空家等対策計画が策定されました。まず１点目、現地調査の結果、町内５００戸の空き家があり、そのうちの１３％に当たる６４戸が倒壊の危険性があるなど、住むことができない判定Ｄと示されました。この危険家屋の判定後の状況と課題は。また、特定空き家等に認定された件数と工法はどうなっているのでしょうか。
　２点目に、空き家の解体撤去に当たっての補助金はどうなのか。
　３点目が、解体撤去に際して、アスベストが確認された場合の補助金は考えられないのでしょうか。
○議長（沖田　　守君）　町長。
○町長（下森　博之君）　それでは、空き家対策について、お答えをさせていただきます。
　まず、危険家屋の判定後の状況につきましては、瓦の落下や建物の倒壊により、人的、もしくは物的損害が発生する可能性がある物件について、自治会からの通報により、現場確認を行っております。早急な対応が必要な危険家屋については、所有者と連絡を取り、危険回避の対応を依頼しております。しかし、特定空き家等に認定されるまでは、対応依頼に法的根拠がないため、所有者の善意に頼る点が課題となっております。特定空き家等の認定件数につきましては、令和３年３月時点で、１件となっております。自治会より要望があり、危険回避がなされていない物件については、４件となっております。今後、状況が改善されない場合は、特定空き家等として対応せざるを得ない可能性がございます。
　次に、空き家の解体撤去にあたっての補助制度は、現在のところございません。しかし、空き家の解体撤去に関しては、早急に対応せざるを得ない状況も考えられるため、危険家屋撤去工事を行う所有者に対し、上限１２０万円を補助する制度を新設し、令和３年度当初予算に計上しております。

次に、解体撤去に際して、アスベストが確認された場合の補助制度については、現在のところ、町の制度はございません。島根県によるアスベスト除去等に係る資金を融資する制度は運用されております。
○議長（沖田　　守君）　三浦君。
○議員（８番　三浦　英治君）　それでは、１点目の再質問ですけれども、自治会より要望があった危険回避がなされていない物件が４件あるようですが、それぞれの状況をお聞かせください。また、この４件以外の危険家屋の状況はどうなっているのでしょうか。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　４件の状況でございますが、対象地区は枕瀬地区に１件、それから自治会で申しますと栄町で１件、それから福谷地区に１件、森村地区の１件という状況になっております。それぞれ所有者に危険回避の対応を依頼中という状況でございます。今後、これが特定空き家等の対象物件になるかどうかというのは、今所有者等との協議中でございまして、まだそこら辺の進捗はまだまだ両者間の協議が進んでおるといったような状況でございます。
それから、今の今後の対応ですが、今の自治会等の通報により今の対応しているわけでございますが、当面はこの状況が続くと考えております。なので、前回の空き家等対策計画、これは平成３１年３月に策定されましたが、これの根拠になっておる数値が平成２６年度に実施した空き家を対象とした調査が実施母体の数字となっております。なので、こうした実態を踏まえて、来年度は再調査をして、新しい課題解決に向けて取り組んでまいりたいというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　三浦君。
○議員（８番　三浦　英治君）　危険家屋に限らずということになるかもしれませんが、自治会から要望があったことの内容に対する進展、物事が変わった場合、自治会長へは連絡していただきたいなというふうに思います。これ、空き家対策に限らずだと思うんですけども。逆に、自治会長からすると、住民から問い合わせがあるんですよね。当然のごとく。そこで、ぎくしゃくすることが多々見受けられます。そこはやっぱり行政と連携をもって、当然情報も近いから入ると思いますので、一言電話一本で済むことなので、そこはこういう様子です、こうなりましたぐらいは連絡していただきたいなと思います。ので、よろしくお願いします。
次の新規事業であります。当初予算に計上している新規事業の老朽空き家除去支援事業補助金の上限１２０万円を補助する制度は、この特定空き家等に認定された物件に対して適用されるのか。これが適用されるのは、どういう場合なのかお聞かせ願いますか。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　この新設される空き家除去支援事業でございますが、対象物件はこの特定空き家物件、今特措法の対象にならずとも所有者とか、

それからその他町の納付すべき受領金の滞納がないものとか、そういった一定の条件をクリアすれば、対応となり得ます。上限が１２０万円ということでございますが、この事業は１２０万円のうち６０万円が国の助成、３０万円が県費が出ます。残りの３０万円が町の補助ということでございまして、いわゆる新しい特措法の対象となる前に、未然に所有者間でこの補助事業を使って、空き家の問題を解決していただきたいと。そういう形でこの補助事業が創設されたというふうに御理解いただければと思います。

○議長（沖田　　守君）　三浦君。

○議員（８番　三浦　英治君）　この特定空き家等に認定するまで、結構クリアしなければいけない問題がいっぱいあるし、これがまた除去までいくのにもなかなか時間がかかるというのが現状だと思うんですけども。またこういう補助金制度があれば、今までにないちょっと空き家対策が進められるのではないかなという気がしております。なかなか空き家に関していえば、建てるときには当然必要だから建っていくわけで、この人口減少の中で必要がなくなればやっぱり後始末はしなきゃならないけど、なかなかそこの負担というものが払えない、から当然空き家はそのまま残るわけなんですけど。それと今、ほかにもいろいろ制度がありますよね。一番問題になるのが水回りとやっぱり仏壇の処理ということになるんですけど、そういった補助制度もありますよね。ちょっとお聞かせください。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　今回の補助事業に関しましては、家財道具等の搬出及び処分は除くとなっております。なので、今言うように、確かに仏具とかそういうのが問題になっているというのは我々も承知はしておりますが、今回はその辺は補助対象になっていないということでございます。

　ただ、今の実際空き家等の問題に関して、その辺が１番大きなネックになっておるというのは認識しておりますので、今後今議員のおっしゃったような提言を基に、今後町のほうでいろいろ考えてまいりたいというふうに思います。

○議長（沖田　　守君）　三浦君。

○議員（８番　三浦　英治君）　それでは、アスベストに関してですけれども、アスベストは天然鉱物繊維で、石綿とも言われ、補強材として耐火や断熱の効果、またコストパフォーマンスもよかったわけで、そのため１９７０年から９０年にかけて広く建築現場で使われていました。ただ、アスベストは人体への影響が大きく、除去が必要になっています。昨年の１２月に建設現場でアスベストを吸い込み、肺の病気になった元作業員らが健康被害を訴えた集団訴訟で最高裁判所は国の上告を退ける決定をし、全国の集団訴訟で初めて国に賠償責任があるとした判断が確定いたしました。集団訴訟に関連している人が全国で１，１００人、２０団体ぐらいあるわけなんですけども、この健康被害の深刻なアスベスト除去には、費用負担の大きさから解体を含め、工事を躊躇している人が多いため、自治体によっては補助金や助成金の制度を設けています。

公共工事の場合、アスベストが確認された場合、補正で工事を続けますけれども、民間の場合、解体自体をためらう声も聞きます。建設業協会のほうからも要望書が町へ上がっていると思うんですけども、このアスベストに対する除去に対する補助金の新設は考えられないか、所見をお伺いします。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　アスベストに関しては、我々今、民間の危険家屋、それから空き家等を改修する場合に、今のところ大きく影響があるとはちょっと今のところ認識しておりません。なので、議員おっしゃるような、自治体によっては、そういう補助金があるということでございますが、私どものほうで今のところ新設するという考えはないということでございます。
ただ、今後議員おっしゃるように、１９７０年代から９０年代にかけての建築物が特に鉄筋コンクリート等を使った場合に、アスベストがやっぱり多く使われておるというような認識もございますし。そうした建物が今後危険家屋になってくるであろうという予測は立てております。なので、現行ではそうした補助事業はございませんが、町長の答弁にもございましたとおり、島根県の融資資金等はございますので、そういうのを御活用いただきながら御対応していただくと。ただ、近い将来、こうしたことが自治体の責任になってくるかなという予想はしております。今回の空き家に関して、先ほどの補助事業もありましたけれども、国の特措法が今後も変更される可能性があると思うんですよね。これはどういうことかといいますと、全国的にやっぱりこうした危険家屋の問題が広がってきております。我々津和野町にとっても今大きな問題でありますが、これは全国的な問題というふうに認識しておりまして、国の法律的な対応がちょっと後手後手になっておるなというような認識もしております。そういう中では、新しく国のほうから今のアスベストに対する補助事業もやがて来るのではないかというような予測もしながら、津和野町としても対応してまいりたいというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　三浦君。
○議員（８番　三浦　英治君）　よろしくお願いしますとしか言いようがないんですけども。この平成２６年度に空き家の実態調査がされて、３１年３月に計画がされております。先ほど、令和３年度に実態調査をされるとの見解が示されましたけど、前回計画が策定されるまで５年もの時間を要しているわけですよね。立ち上げだからそれだけ時間がかかるのかもしれませんが、少しでも短縮して、現状に合った施策を打てるよう期待しております。何かあるでしょうか。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　平成２６年度から確かに時間が経っておるということで、私もこの４月から課長に就任しまして、そういう意識は同様のものがございます。なので、来年度改めてこうしたことをやっぱり再調査をして、それで空き家

改修ももちろんですが、危険家屋の実態把握には努めてまいりたいというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　三浦君。
○議員（８番　三浦　英治君）　この実態調査をされるとき、私も町の人と歩いたりして、ピックアップしたりいろいろしましたけど、本当自治会と連携を密にして、当然情報はそこから上がれば、当然職員の負担も少なくなるだろうし、そういった連携をとにかく強化していただきたいと思います。よろしくお願いしまして、私の質問を終わります。
……
○議長（沖田　　守君）　以上で、８番、三浦英治君の質問を終わり、ここで１０時５分まで休憩といたします。
午前９時 54 分休憩
……
午前 10 時 05 分再開
○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続いて、一般質問を続けます。
　発言順序７、１１番、岡田克也君。
○議員（１１番　岡田　克也君）　それでは、１１番、岡田克也でございます。通告に従いまして、３点ほど御質問を申し上げます。
　一つ目でありますが、医療・福祉についてであります。まず、医療福祉の１点目でありますが、医師・看護師等の医療従事者確保対策についてであります。
　津和野町は医療崩壊危機を経験して以来、前町長時代から継続して、町の最重要課題として医療を守るために国や県とも連携しながらさまざまな政策を行ってまいりました。町の医療に対する姿勢や取組が認められ、島根大学や自治医科大学などからの医師の派遣につながっていると思います。また、益田赤十字病院の木谷院長に医療統括管理者に御就任いただき、橘井堂の経営から医療体制構築までさまざまな御尽力をいただいてまいりました。今後は木谷医療統括管理者や三輪理事長先生などの橘井堂の医療従事者の皆様方に加え、医療統括副管理者も新たに置き、医療対策課とともに、一層強固な体制を構築して、医療を守る体制整備を進めていかれると思います。今後の体制並びに医師・看護師等の医療従事者確保対策について、お尋ねします。
　２点目であります。橘井堂の医療従事者の処遇改善と健全経営についてであります。橘井堂における看護師等の医療従事者の確保については、他の医療機関と比較したときに、処遇改善は不可欠であると思われます。しかし、橘井堂の経営と津和野町の財政は直結しており、橘井堂の経営悪化は、そのまま津和野町の財政悪化につながります。今後の医療従事者の処遇改善の財源について、どのように考えておられるのかお尋ねをいたします。また、過疎地域における公立病院に対する国のこれまでの様々な支援に心よ

り感謝を申し上げながら、また、今後一層の支援も重要と考えます。所見をお尋ねいたします。

３点目であります。日原診療所の機能充実による展開についてであります。日原診療所の機能充実や医師体制の充実により、外来受診者が増加していくことが予想されます。このことにより益田赤十字病院・津和野共存病院・日原診療所の連携が一層進展し、受診から検査・入院・退院後の在宅医療・介護までが一貫した流れとして構築されていくと考えます。このことは橘井堂の収入増加にもつながると思われますし、津和野町並びに周辺地域の医療・福祉の充実につながると思います。電子カルテを活用したしまね医療情報ネットワーク（まねネット）は、益田赤十字病院や津和野共存病院に救急搬送された患者様の既往歴や処方中の薬の情報共有などができるのかお尋ねをいたします。情報共有ができれば、一刻を争う疾病の場合、命が助かる可能性が高まると考えます。また、退院後の在宅医療・介護連携も容易になると考えます。日原診療所の機能充実による展開について、構想等をお尋ねいたします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、１１番、岡田議員の御質問にお答えをさせていただきます。医療福祉についてであります。

まず、令和元年度より自治医科大学卒業医師の派遣、さらに令和２年度から島根県のキャリア形成プログラムによる医師１名、津和野町奨学金貸与医師１名がそれぞれ赴任されております。また、病気休養後からの復帰プログラム中であった須山医師、飯島医師もそれぞれ週４日の勤務となり、常勤の放射線科医師と合わせて、三輪理事長以下７名の診療体制となっております。このような常勤医師数の増加で全体の診療体制において、個々における医師の負担が軽減され、ゆとりをもった診療が可能であると考えております。

今後の医師確保については、引き続き島根県をはじめ関係する大学への派遣要請や地域枠入学者、奨学生などとの意見交換会やオンラインでの面会などを通じて努力をしてまいります。

また、医師のみならず医療従事者の不足は引き続き大きな課題でありますので、大学・専門学校などの養成施設等の訪問による津和野町の地域包括ケアの説明や人材確保等にさらに力を入れるとともに、津和野町の人口推移、要介護人口や生産人口などを分析し、将来にわたって必要かつ確保できる施設や人員を明確にし、現状を検証してまいりたいと考えております。

なお看護師の確保につきましては、令和３年度より看護学生の就学資金の貸与額を増額する予定となっておりますので、このことを強くアピールしながら橘井堂と協力して看護学校等を訪問することで、魅力を最大限伝えていきたいと考えております。

次に、医療従事者の処遇改善の財源等についてでありますが、現行、橘井堂職員の高齢化に伴い、若い次世代職員を確保するため益田赤十字病院をベースとして圏域病院・

施設並みに処遇改善を図ることが求められています。また現行処遇の課題として、退職金制度、諸手当規定の充実、賞与・給与設定の見直しが挙げられます。

医療法人橘井堂は、社会保険労務士等の支援を受けて、現状の職員の処遇改善を目的とした就業規則をはじめとする規定の精査・改訂、再雇用制度の見直し等を進めているとお聞きしております。

処遇改善のためには財源確保も必要となり、そのためには、法人にも引き続き経営努力をしていただくとともに、当然行政としても一般会計からの予算繰り入れ等を考えておりますが、慎重に進める必要があると考えております。

当町は、益田圏域での機能分担を行うなど、圏域の病院と連携し、協力することでお互いに弱点を補いながら運営をしておりますので、人員不足により津和野共存病院が機能不全を起こした場合、他病院に大きな負担を与えてしまう可能性があります。

処遇改善が医療従事者の確保につながれば、圏域での津和野共存病院の機能も維持できますし、さらには圏域内での医療従事者の交流も容易になれば、従事者の質の向上も期待できると考えております。

次に、過疎地域における公立病院に対する国の支援につきましては、要請するのであれば、津和野町単独ではなく、公立病院を有する他市町と協力しながら行うことが効果的と考えております。

なお、令和２年度の病院関連の交付税措置を見ますと、１００床未満の病院に対しては病床数に対する単価は下がったものの、均等配分が新たに追加されたことで、前年度より１，１００万円程度増額の見込みとなっております。

次に、日原診療所は、津和野町全体で考えたときに津和野共存病院のサテライト施設として位置づけています。少子・高齢・過疎化が進む津和野町においては、津和野共存病院が地域医療拠点病院となることが望ましく、サテライト施設としての日原診療所への医師応援や訪問・巡回診療など地域における役割をさたに明確にして貢献することが重要であります。日原診療所は、平成３０年に民間の医療機関が閉院して以降、日原地域唯一の診療機関として医療を提供してまいりましたが、令和３年度は日原地域の医療を守り、町民が安心して生活できる環境を整えるため、診療所の機能を充実させる必要があると考えております。

今般、町道を挟んで同一敷地内があり、同一管理者であるということで、発熱外来施設への移転が許可されました。簡易な検査機器の設置やレントゲン撮影装置を導入するとともに、訪問看護ステーションも同診療所内に設置することで、日原地域における医療拠点となり得ると考えています。

次に、電子カルテについては、コスト面での負担が大きいため、まめネットの導入推進を図ることで津和野共存病院だけでなく圏域における患者情報の共有が可能と考えております。費用においても新たな設備投資は不要であり、利用料が月々発生しますが、電子カルテに比べると遥かに安価で、かつ汎用範囲が広いと考えております。

○議長（沖田　　守君）　岡田君。
○議員（１１番　岡田　克也君）　令和３年度においても、自治医科大学卒業医師の派遣などで三輪理事長先生以下７名の診療体制とただいま答弁をいただきました。圏域における津和野共存病院などの役割推進、回復期、急性期病院の後方支援病院としての在宅復帰支援、在宅療養支援の強化を行い、今後も引き続き医師確保においては継続していかなければならないと考えますが、そこはやはり津和野共存病院が魅力的な病院でなければならないということが条件だと思います。魅力がある病院とはどのようなものと考えておられるのか、所見をお尋ねいたします。
○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。
○医療対策課長（下森　　定君）　魅力ある病院ということで、まずは人と人とのつながりということで、医師と患者さん、そこの部分がお互いやっぱり満足度が高い病院でなければならないと考えております。
　２点目としましては、やはり病院の役割をこれはもう明確化をしていくということで、先ほど町長の答弁にもありましたように、急性期の後方支援病院として、いわゆる回復期、この辺をＰＲしていくと。そして、そこには経営の健全さ、組織の健全さが必要であると考えております。そこの部分をいろいろ方法はあると思いますが、やはり院長、理事長等のリーダーシップが役割がそこは大きいと考えます。それと津和野町だから学べるこの県境の中での中山間地におけるこの津和野共存病院等の役割からいって、やはりそこは在宅復帰支援強化等訪問診療、津和野だからこそ学べる状況、いわゆる医療・介護の強味をＰＲしていくと。そして、そこには生まれ育った町でやはり住民が生活していく中で、医療・介護の両面を支え、住民とともに成長しうる過程である病院となるのではないかと思っております、魅力ある病院ということになれば当然そこには若手医師等、現在自治医、あるいは県からの派遣も若手医師があって、現在稼働率等も上がっているということで、今後これを維持、継続していく、そして子育て等にも大いに支援ができるそういう体制の中の病院でなければならないと考えております。
○議長（沖田　　守君）　岡田君。
○議員（１１番　岡田　克也君）　従来、津和野共存病院などは島根大学の神経内科や消化器外科などからの派遣が多かったわけでありますが、現在自治医科大学からも派遣をいただいております。これは津和野町の医療に対する取組が評価されるということもありますでしょうし、いろんな医師の間でこの橘井堂というものの評価というものがこういうふうに自治医科大学からの派遣につながったかとも予想いたしますが、自治医科大学の卒業の医師の派遣について、今まで感想といいますか、どのような経緯で派遣になったと考えておられるのかお尋ねをしたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。
○医療対策課長（下森　　定君）　この自治医科大学の派遣、これは前町長時代から、そして今の町長になりまして、始めて十数年、これは津和野町としてどうにかそこに結

び付かないということで、トップ１、県等にもそういうお願いをしながら、やっと昨年そういう形ができて、２年このたび派遣をしていただきました。やはり、自治医の派遣といってもそこは先ほど議員さんにお答えしたように、魅力ある病院でなければならないというような状況でありまして、この自治医の派遣によりまして総合診療の形が全てできるドクターであります。昨日もこのたび３月末をもって退職される派遣の医師に町長とともにお礼の言葉を昨日御挨拶をした中で、やはり今回こういう状況のあるのも、自治医の派遣の先生が中心になって、現在県からの派遣、そして当町の奨学金制度を活用してプログラムに励んでいるお医者さん、そのような中でのやはり自治医派遣はリーダーシップをとっていただいたということで、このたびの派遣はそういう形の中で津和野共存病院理事長を始め、木谷院長もそういうのは大変本当効果があったというか、本当ありがたいということをおっしゃっております。

○議長（沖田　　守君）　岡田君。

○議員（１１番　岡田　克也君）　答弁書で津和野町の人口推移、要介護人口や生産人口などを分析し、将来にわたって必要かつ確保できる施設や人員を明確にし、現状を検証してまいりたいとの答弁でありましたが、津和野町は今後において高齢化と過疎化が一層進むことが想定されています。また、一方では、限られた人的資源の中で、高齢化に対応した新しい医療の提供が求められているものと考えますが、具体的にはどのように思われておるのか、御所見をお尋ねいたします。

○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。

○医療対策課長（下森　　定君）　具体的には、これは医療施設の上昇よりも、在宅医療介護、そして予防医療、健康診断等の充実が今後は求められると考えております。その中で、在宅医療介護の推進には、やはり住まいの環境の充実が必要であります。今後はそのような状況の中で、在宅医療介護充実のために、町内の介護施設の集中と効率化を１点としては考えていかなければならない。そして、圏域内の医療施設の役割分担、先ほど町長の答弁にもありましたように、津和野共存病院の役割分担の部分の中で、後方支援病院として回復期を中心としていくという状況の部分のやはりそれに基づいたやはりこの圏域内の施設の配置、この再検討が必要ではないかというふうに考えています。そこの部分のそういう検討の部分は、今津和野共存病院等の基本構想の中の改訂計画の中で津和野町の医療審議会等の御意見をいただきながら、そういう部分も今後分析をしていきたいと考えております。

○議長（沖田　　守君）　岡田君。

○議員（１１番　岡田　克也君）　先ほどの最初の町長の答弁の中でありました病院関係の交付税措置について、積算根拠、１，１００万円程度の増額の見込みということでありましたが、その積算の根拠を分かればお知らせいただきたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。

○医療対策課長（下森　　定君）　特別交付税におきましては、病床数１床当たり１５４万９，０００円が１３２万円、普通交付税におきましては、これは７４万５，０００円が７３万５，０００円の１万円、それぞれ先ほど答弁にもありましたように下がっていくという中で、その金額にベッド数の津和野町の場合は４９床でありますので、特別交付税と普通交付税の先ほどの金額をかけて、そして乗じてその中でこのたび均等というような状況の中で、１００床未満の病院に２，３７０万円、これが固定費としてつきましたので、現実的には先ほど町長言いました１，１６０万円が令和２年度においては、今財政のほうからはそういう形の計算方法で聞いております。
○議長（沖田　　守君）　岡田君。
○議員（１１番　岡田　克也君）　それと、処遇改善のために、一般財源の投入ということを先ほど町長の答弁でありましたが、どれぐらいの一般財源からの繰り入れを予想しておられるのか。また、有利な財源等も考えられるのか、その点についてお尋ねしたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。
○医療対策課長（下森　　定君）　この処遇改善におきましては、現在橘井堂理事長と医療介護統括管理者の木谷院長が令和３年度に事務的な部分を少し力を入れてという状況がありまして、その辺の部分の体制が整い次第、この圏域内、要するに益田赤十字病院を基本とした給与表等、先ほど町長の答弁にありました退職金等の部分の処遇改善ということでありまして。現在、そういうきちっとした数値等が医療対策課のほうにはまだ来ておりません。そのような状況の中で、大体いくらという部分というのが、現時点ではちょっとお答えの部分ができないことは大変すみませんが、そういうことで御了解をいただきたいと思います。
　財源におきましては、その辺の部分もちゃんとした形で数値が出てということで、それから財政サイドのほうも有利な方法等も副町長等を中心として、またその辺は協議をしていくということで現時点では考えております。
○議長（沖田　　守君）　岡田君。
○議員（１１番　岡田　克也君）　コロナの影響下で首都圏を中心に、病床の逼迫が言われておりますが、地域医療構想の実現のため、２０１９年９月に再編統合の議論が必要だとする全国４００以上の公的病院を名指ししたリストを公表されたことは忘れられないことであります。ここで、公立病院としての津和野共存病院の役割とはどのように考えておられるのか、お尋ねをいたしたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。
○医療対策課長（下森　　定君）　やはりこのたびの公的病院のいわゆる４００近いリストが公表されたことは、議員おっしゃいますように、忘れてはならないと思います。そのような状況の中で、これらの病院は国や自治体がいわゆる認定する感染症、指定医療機関であったり、このたびの新型コロナの受入れの病院であったりということであり

ます。津和野町として、公立病院がどうあるべきかということになりますと、やはり公立病院の改革プランに基づいた形の中のまずはそこの収支の部分が健全なことを守っていかなければならないというふうに考えております。

ただ、法人のほうからもありましたように、医療従事者確保ということになれば、医療法人橘井堂のほうも十数年経って、今後そういう形の中では雇用することで、現在の後方支援病院としての津和野町の役割を果たしていくといことで、魅力ある病院でも先ほどお答えをしたように、津和野共存病院、後方支援病院として急性期の回復期、これをやはり津和野共存病院の役割であるということと。そして、住民として、やっぱり範囲内で負担できるいわゆる税金投入でなければならないというふうに考えております。これはやはり医療を守るために不採算の部分を全て垂れ流しをするかいうことになりますが、やはり島根県の医療計画にもありますように、機能分担の中でうちの津和野共存病院の、いわゆる公立病院の役割ということの部分は、これは公立病院だからこそそういう部分を果たしていかなければならないと思っております。ただ、患者の皆さん、いわゆる住民の皆さんは津和野の中で全てが解決できるという部分を望んでおられると思いますけど。我々町長をはじめとして努力はしております。その中で、今の医療資源、なかなか確保するのが難しい中で、圏域の中でのやはり津和野共存病院の公立病院としての役割というのは、先ほど申しましたような形の中で、今後医療介護、そういう核となる病院であるということで私は思っております。

○議長（沖田　　守君）　岡田君。

○議員（１１番　岡田　克也君）　まねネットを利用するメリットはどのようなことかということをお尋ねしたいわけでありますが、今医療スタッフのほうから漏れ伝え聞くことによると、非常に益田赤十字病院と橘井堂の連携が非常にスムーズに行われているため、入退院や転院等が非常にスムーズであるということをお聞きしております。その中で、またまめネットが利用できれば既往歴や投薬情報等が共有でき、救急搬送したときに、すぐに処置ができる、対応ができるというメリットもあると思います。ただ、聞くところによると、日々の診療記録は見ることができないとのことでありますが、まめネットの内容並びにこれを活用するメリットについて、お尋ねをしたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。

○医療対策課長（下森　　定君）　まめネットは島根県内の医療機関、訪問介護、そして介護事業所と相互に繋げることで、これは機関同士で患者さんの同意の下、診療情報等をいわゆる閲覧できるということで、これを連携カルテと呼んでおります。やはりこの連携カルテの部分で、今後は診療予約、そして画像診断などのさまざまな機能を利用して、１人の患者さんを複数の医療機関が受け持つことで、いつでも、どこでも、安心安全で医療サービスに繋げるということが、このまめネットの目的でありますので、現在津和野共存病院におきましても飯島副院長先生を中心にこのまめネットの加入、今県

下でも５番目というような状況になっておりますので、今後もこのまめネットの利用の部分におきましては、住民の皆さんにまた周知徹底をしていきたいと考えております。
○議長（沖田　　守君）　岡田君。
○議員（１１番　岡田　克也君）　日原診療所もどうもお聞きしてみるところによりますと、カルテの枚数が非常に増えているということで、診療自体はコロナの状況の中で、診療抑制というものもあるのかもしれませんが。しかし、全体的にみると、患者さんが徐々に増えてきて、また今後診療所にレントゲンや検査機器等が入れば、より患者様も増えるのではないかと予想しております。日原診療所の現況、並びに今後の推移予想が分かればお尋ねしたいことと。また、訪問看護ステーションも同じところで、日原診療所に併設しておかれるということでありますけれども。現在の利用状況、また今後どのように推移していくと考えておられるのか、お尋ねをしたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　医療対策課長。
○医療対策課長（下森　　定君）　まず１点目の日原診療所の体制でございますが、令和３年度からは木曜日におきましては呼吸器専門の医師、まあ内科等も全般的にみられる医師が派遣されるということを聞いております。その中で木曜日、月２回は津和野町医療介護統括管理者であります木谷院長のほうの診療に携わるということであります。現状としましては、昨年の９月末、呉屋前院長先生が退職されてからの１日外来平均は須山先生を中心といたしまして、１日約３人、前が２６人から７人ということを聞いておりますが、今３０人と、前後じゃないかということで２月末の状況では、先日のカンファレンスでお聞きしてます。
　カルテ枚数におきましては、今日私のほう、その辺の部分まで調べておりませんので、この部分の御回答はできないということで御了解いただきたいと思います。
　それと、訪問看護の部分でありますが、やはりこれは高齢化とやっぱり高齢者世帯が多くなって、今の訪問看護の中でのやはり経口栄養とかそういう重篤な部分の訪問診療は減っています。その中で、月平均１６０件ぐらいですか。今後におきましては、やはりこの津和野共存病院在宅医療ということで、今後は圏域内においてもそういう情報の部分でお手伝いができるところは。それには当然医療従事者、看護師確保が必要ということで、そういう訪問看護、いわゆる全般的にこの訪問看護は全てがクリアできるナースでないと厳しいのもありますので、その辺もまた難しいとは思いますけど、今後そういう展開を法人としても町としてもそういう形の診療体制を組んでいきたいと考えております。
○議長（沖田　　守君）　岡田君。
○議員（１１番　岡田　克也君）　先般、少し当町のほうに新規就農で来られました方とお話をしておりましたときに、両親とも高齢の方で、医療介護等が必要な方で、それでも医療のたくさん充実しておるそういう場所ではなく、津和野町を選んでいただいて、新規就農に入っていただいて、そして津和野町に住んでいただいている。これは今後定

住ということを考えてもやはり医療介護というものが充実しているということが定住につながってまいると思います。今後、医療統括副管理者を置くということを文教民生委員会においてお聞きをいたしました。この医療統括副管理者の位置づけや今後の医療に対するこの体制等について、町長の所見をお尋ねしたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　町長。
○町長（下森　博之君）　最初に公立公的病院の意義、役割というお話しがありました。私、例えば具体的にいうと、津和野共存病院が存続をする異議でありますが、私、まず大前提に我が国が国民介護保険制度をとっているということだと思います。国民が等しく保険を払う。その代わり権利として平等に全国民がどこにいても医療を受ける権利が保障されているということにほかならないというふうに思っております。そういう観点の中で、万が一、津和野共存病院がいわゆる合理化、効率化という観点からとらえられて、これが統廃合になってなくなるような、万が一の話ですが、そういうことになります。そうすると、津和野町民が医療を格差なく受ける、この権利が失われてしまうということだと思っています。ですから、私としては、これは国の責任として、等しく医療を受ける権利、まさにそこに公立公的病院というのは不採算であってもその町で医療を継続していくということの意義があるんだということです。
　そういう中で、国のほうに意義を訴えていきたいというふうにも思っておりますし、併せて、この高齢化社会というのは実はもう日本全体の問題でもあるわけでございます。そういった中で、いわゆる地方の、津和野町のような小さな町中心には先進的な事例が出ているということでありまして、我々はそういう課題を解決するたびに、医療のほう、あるいは地域包括ケア、そういうものを先進的に取り組んできたわけであります。
　その一つが、総合診療医を育成していこうという取組でもあったわけであります。今後、国に訴える面においては、そういう高齢化社会は日本全体の問題の中で、総合診療医というのは必ず必要とされる。そういう中にこういう公的病院があって、それを全体として医師を育成していく。育成というのは私がいうのは、少々失礼な話かもしれませんが、キャリアアップにつながる取組という面での意義があるというふうにも思っておりまして、そういう訴えもしていく必要があるかと思っております。そういう面で、我々津和野共存病院中心に、橘井堂において取り組んできたさまざまな改革というのは、私は自信をもっていいと思っていますし、今後の医療のあり方というものに対しても見本になるようなものだという思いも持っているわけであります。その中で、医師確保もしっかり努めていく。そして、病院のより改革は当然求められるわけでありますから、自己改革は。それを精神的に自己改革をしていくという中で、このたび副管理者、こうしたものもまた置いて、この橘井堂がより改革が進んでいくようなお手伝いもしていきたいというふうに考えているといったところです。
　あと長くはなってはいけませんが、自治医科大学も先ほど課長も申しましたが、内田先生が２年勤務を終えて、このたびまた別のところへ行かれるということで。本当自治

医科大学、十数年来の念願でありました第１号で来ていただいた先生でありました。心からのお礼もねぎらいを申し上げて、昨日一般質問が終わった後で行ってきたところです。実は、明日、松江で地域医療支援会議がございます。内田先生の後任を派遣いただけるかどうかの発表があるということでありまして。私は合格発表を聞きに行くような、本当明日は緊張した面持ちであります。大丈夫だというふうには思っておりますが。

大事なことは、そうした自治医科大学の派遣の先生は２年や３年で交代をされるわけでありますから、枠としてこの津和野町に継続して医師が派遣いただけるということが大事でもあるということでありまして。また今後においても、継続的な派遣がしていただけるように、あるいは島根大学医学部からもまた派遣がいただけるように、今後努力をしていきたいというふうにも思っております。そういう中で、行政の取組も大事でありますが、橘井堂も一緒になってやっていただくということが大事であります。そういう中でも、橘井堂のいわゆるこの組織体制の強化という面において、新しい管理者にその役割を大いに期待をしているというところでございます。

○議長（沖田　　守君）　岡田君。

○議員（１１番　岡田　克也君）　いろいろ御質問も申し上げましたけれども、やはりこれまでの津和野町の医療に対する非常に真摯で、強い取組というものが自治医科大学においてもそうでありますし、島根大学においてもそうでありますし、県全体の医療の方々に高く評価をしていただいた結果だと思っております。これからも一層力を込めて、医療を守っていただくことを祈念いたしながら、１番目の質問を終わらせていただきまして、二つ目の質問に移らさせていただきます。

二つ目の質問としまして、税収増化対策であります。

コロナウイルスの感染拡大による自粛等の影響により、税収の減少は避けられない中であるが、徴収率は島根県の地方税は全国一であり、津和野町も毎年県下トップクラスの徴収率であります。税務住民課の職員の日ごろからの業務精励の成果だと高く私は思っております。評価しております。また、ふるさと納税も、これまでの努力により、令和２年度には６，０００万円を超えるということで、税収の減少を補うことに加え、町の産業や教育等の振興等にもつながると思います。また、税務徴収並びにふるさと納税のこれまでの取組と今後の構想についてお尋ねをいたします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、税収増化対策について、お答えをさせていただきます。

徴収に係るこれまでの取組としましては、収納対策グループ会議を開催し、税・料連携した滞納整理を行い、滞納状況に応じた折衝と厳正な滞納処分を早期に行うことにより、収納率の向上を図ってまいりました。今後においても、引き続き真摯な姿勢で適正な課税と徴収に努め、公正・公平な税務行政を進めてまいります。

ふるさと納税については２００８年より取り組んでおりますが、この制度を活用し、町財政の貴重な収入源を確保するとともに、津和野の魅力を発信し、地域の活性化につなげる目的で推進してまいりました。開始以来ふるさと納税に関する認知度の向上や返礼品を御出品いただける事業者様も増えたこともあり、寄付金額は増加傾向にあります。

今年度は過去最高の約６，２００万円となっております。いただいた寄付金については、ふるさと津和野基金に繰り入れ、基金を財源としてさまざまな事業に活用しております。また、文京区子ども宅食事業や津和野高校教育魅力化プロジェクトなど特定の事業を目的として実施するガバメントクラウドファンディングを昨年度より実施しております。また、むすぶという名称の寄付を活用した事業のレポート冊子を作成し、年２回の寄付者の皆様に送付するなど、津和野町をより身近に感じていただき、リピーターや観光客の誘致に繋がるような取組も行っております。

今後も引き続き寄付金額の増加に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（沖田　　守君）　岡田君。

○議員（１１番　岡田　克也君）　私、このふるさと納税という本来の目的は決して返礼品目当てということではなく、やはり過疎化やさまざまな財源不足の中からこの田舎というものが成り立たなくなっている、そういう状況を都市に出ていかれた方などが何とか応援したいというそういうことから発しておるものだと思います。その中で、津和野高校なども全国からこうして毎年たくさんの生徒さんが来られるというそういう状況になっております。先ほどの答弁の中でも、津和野高校魅力化プロジェクトなどの特定事業を目的として実施しているということであります。ガバメントクラウドファンディングについても、もう少し詳細をお聞かせいただきながら、津和野高校の魅力化にどのようにこのふるさと納税を活用していこうとされているのか、お尋ねしたいと思いますし、また、県外から来られた方もこのふるさと納税、津和野高校に子供が進学したので、津和野町にふるさと納税をしたいという、そういう方もあるのではないかと思いますが。また、そういう人たちに対するふるさと納税を活用した支援ということも考えられるのではないかと思いますが、所見をお尋ねしたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　まず、津和野高校の支援関連でございますが、ガバメントクラウドファンディング、昨年度実施した実績金額が３２７万３，０００円です。今年も同様に津和野高校教育魅力化プロジェクトと題しましてガバメントクラウドファンディング実施しましたところ、６０２万３，０００円という実績でございます。このいただいた寄付金額を基に、令和３年度の当初予算で２４０万円ほど教育魅力化関連の事業に充当しております。そうした形で、これはなぜ満額じゃないかといいますと、若干手数料等がございますので、そういうのを差し引いて、その目的に合った形で充当してまいりたいというふうに考えております。

なお、議員おっしゃるように、そうした寄付者の皆様、それから、津和野高校、例えば教育魅力化に関して、非常に応援してくださっていらっしゃる方々に対してもリピーターとなっていただけるように、今後大きな仕組みづくりというか、流れにしていきたいというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　岡田君。
○議員（１１番　岡田　克也君）　このふるさと納税は先ほど答弁にありましたように、さまざまな津和野高校の魅力化などにも貢献してまいると思いますし、また地域の産業の活性化にもつながっていくと思います。今現状の中で、地域の旅館やそして飲食業も厳しい状況の中に立たされている中で、またそういう例えば津和野高校の県外からの留学生の親と子供が例えば町家ステイに泊まるとか、例えば町内の旅館に泊まって親子で一緒に過ごすとか、そういうときの宿泊券だとか、町内の飲食店を利用する飲食券とかそういうことも返礼品の中で作って、また親子で津和野町で過ごしていただいて。また、場合によっては、親子留学、母子留学とかそういうことも考えられるのではないかと思いますが、このようなふるさと納税の返礼品の考え方について、現在の人気のある返礼品の内容とともに、お尋ねをしていきたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　最初の質問でございますが、返礼品の中に町家ステイに泊まるですとか、津和野高校留学を目指す方の親子での宿泊券等ができないかというような御質問でしたが、別の形で今津和野高校後援会にそういう津和野高校にオープンキャンパスですとか、それから下見に来たいという方にはそうした補助事業を準備しております。
返礼品に関しましては、今、今年度より地域おこし企業人制度を活用しておりまして、その地域おこし企業人からの提案もありまして、そういうふうな高校魅力化と合わせて、返礼品の中にその町家ステイへの宿泊ですとか、それからそういうことをブラッシュアップした各ポータルサイトへの見せ方など、そうしたことで工夫を重ねているというところでございます。
さらに、返礼品のランキングについてもお聞かせいただきたいということでございますが、ちなみに今年度の返礼品のランキングで申しますと、１番が津和野メロンパークさん、これが実はトップ３を占めておりまして、メロン、それからシャインマスカット、そうしたことがいわゆるセット販売が非常に好評で、返礼品の申し込みが多いという状況にございます。そのほか、わさびですとか、ブルーベリー、それからマツタケとかいろいろやっぱり地域の特産品が非常に好評でございますので、来年度以降、この返礼品に対しても新しい津和野町としての戦略を練り直して、このふるさと納税増額に向けて頑張りたいというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　岡田君。

○議員（１１番　岡田　克也君）　返礼品の人気のある品物についてお聞きしましたら、農産物が非常にたくさんあるということで、これは農業振興につながり、またしいてみれば、農業定住につながっていくものだと思います。ここで、６，２００万円という今年度はこれほど伸びたこのふるさと納税の理由について、課長はどのように分析しておられるのか、お尋ねしたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　昨年度より約２，０００万円伸びておりまして、主な原因についてでございますが、今ポータルサイトをさとふるさん、ＡＮＡ、楽天、それからふるさとチョイスさん、ふるなび、五つのサイトで運営しております。その主たるポータルサイトをさとふるに集約しまして、返礼品の中身をブラッシュアップして、各サイトに同じように載るような環境を今年度で作りました。その中で、先ほど申しましたが、地域おこし企業人の方にも御協力いただき、その写真の見せ方ですとか、その中の記事の内容、こういうのをブラッシュアップしていただきながら、より魅力的な地域の特産品をＰＲしてまいりました。その辺がおそらく寄付者様に届いたんじゃなかろうかというふうに考えております。
　それと、やはりもう一つあるのは、さとふるさんのやっぱり営業力といいますか、広告宣伝力といいますか。６，２００万円のうち１２月ひと月で約２，６００万円の収入でございました。この年末において、やっぱりさとふるさん、親会社がソフトバンクでございますが、そうした中で非常にテレビＣＭ等も活発に行われているのを拝見しますと、そうした効果もあったのではなかろうかというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　岡田君。
○議員（１１番　岡田　克也君）　非常にこうしての伸びているということは、関係各位の努力の成果だと思います。やはり財源の乏しい当町でありますし、また、コロナ禍の中で税収減が見込まれております。その中でこのふるさと納税というのは、また地域のこうした教育、農業定住に結び付いていくものであると思いますので、今後一層の進展を期待をして、３番目の質問に移らさせていただきます。
　津和野高校生と大学等との連携・活動についてであります。
　日原体験ツアー企画研修において、島根県立大学生と津和野高校生が連携しながら、島根県立大学の教員や旅行業者や今春から島根県立大学の講師も務められる平井俊旭さんなどと関わりながら、津和野町の観光の新たな魅力を創出する企画を考えられました。作られた企画もよく考えられたものだと感じますが、それ以上に津和野高校の生徒が大学生等や旅行会社、食で地域の魅力を伝えられた平井さんなどとともに地域振興を考える機会を持たれたことは非常に意味のあることだと感じました。これからは、島根県立大学や他大学等の学生との交流や大学の活動フィールドとして津和野町を使っていただく方途も考えながら、高校生や大学生等の若者が津和野町の魅力を発信していけるように大学などと連携を深めていくべきと考えますが、所見をお尋ねします。

○議長（沖田　　守君）　町長。
○町長（下森　博之君）　それでは、津和野高校生と大学等との連携・活動について、お答えをさせていただきます。

日原体験ツアー企画研修につきましては、総務省の令和２年度過疎地域等自立活性化推進交付金を活用し、日原地域の活性化と地域のまちづくり人材育成、体験プログラムの造成を目指し、令和２年９月より島根県立津和野高等学校の高校生と島根県立大学浜田キャンパスの大学生が企画立案プログラム作成に取組みました。

テーマは日原地区に存在する観光資源を活用した体験ツアーの企画と観光商品のプレゼンテーションとしております。

高校生については、この企画立案・プレゼンテーションにより、県立大学の講師・先生方及び大学生から大変多くの経験と知識を学んだ機会として捉えているようであります。本町としましても、大学生共々、今後の学生生活、卒業後の仕事においても役立てていただきたいと願っております。また、本町には魅力ある資源が多くあり、さまざまな方法で活用することで、地域の活性化、賑わいを創出することが可能と考えております。今後は、今回の体験プログラムの造成を商工観光課の施策の中でも活かしてまいりたいと考えております。具体的には、学生間の連携として、企画提案した体験ツアーについて学生の協力を得て、実証実験等行っていきたいと考えております。

津和野高校魅力化事業におきましては、地域の人材や資源を学習に取り込み、教科学習だけでは学ぶことのできない地域課題解決型の学習等を実践し、生徒が地域にある文化や社会参加のあり方を知り、自分の存在を認識し、自ら学ぶ主体性の育成に取り組んでいます。

島根県立大学総合政策学部と連携した日原市民大学では、高校生が日原地域にある資源を研究し、その資源を基に滞在型の観光を企画立案することをテーマに９月から半年間かけて大学生と交流し研究してきたものでございます。

島根県立大学は、サテライトオフィスを本町に設置していることから、本町をフィールドとして高校生や地域住民と一緒に地域に密着した課題解決型の学習を実践し、大学生の社会参加とキャリア教育を目的としています。津和野高校にとっては、高校生が身近な大学生と一緒に地域課題を解決することにより、大学生の知見を得て深い学びの実現と、社会への関心が拡がり、進路選択においても高い目標を持つ機会になると考えております。

本町では、０歳児からのひとづくりプログラムを実践するため、一般財団法人つわの学びみらいがコンソーシアム構築を目指しているところであり、その構想には、地域内の住民が子ども達と一緒に課題を解決する過程で子ども達を育成するとともに、地域外の大学等と連携することで高等教育の知見を積極的に取り入れ、教育の魅力化の発展と地域の活性化を掲げているところでございます。

議員御質問の大学等との連携・活動につきましては、津和野町高校が進めてきた津和野高校モデルともいえる教育魅力化と既に複数の大学との連携が始まっているところでございます。この連携によって、高校生が大学生とともに学び刺激を受けていることで大学等に進学し、いずれ当町の人材としての活躍や社会全体を牽引する人材育成にも繋がる機会になると期待できることから、町といたしましても津和野高校との連携のもと、津和野高校の高大連携を支援してまいりたいと考えているところでございます。

○議長（沖田　　守君）　岡田君。

○議員（１１番　岡田　克也君）　最近、津和野高校では全国といいますか、あちこちの過疎地や離島の高校からかなり毎週のように津和野高校に視察に来られるという、そういうお話しを聞いております。数年前に東京大学に推薦で入学した生徒の出身校で唯一無名の津和野高校という高校が入っていたということが一躍ニュースになって、有名になりましたが、その後も九州大学など、有名国公立大学や有名私学等への入学も増え、これまで進学を考えている生徒の場合、津和野高校への進学ということを選ばない生徒もおられましたが、今では学力も上がって、津和野高校を進学の上でも考えるという生徒も増えてきているということをお聞きしております。

また、いろいろな大学の推薦枠が津和野高校に次々とできているようでもあります。そして、先般も山梨の大学生なども来られて、交流をしたとも聞いております。一般財団法人つわの学びみらいがコンソーシアム構想を目指しているとのことでありますが、それらの点からこのコンソーシアム構想について、少し御説明をいただけたらと思います。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　コンソーシアム構想についてでありますが、先般の議員さんからの質問がございまして若干重複いたしますが、やはり今議員おっしゃるように、大学との高大接続といいますか、そうしたことが今非常に活発に行われております。ちょっとお話にもありましたが、例えば立教大学からの指定校の推薦を受けたりですとか、あと今、立教大学からは具体的なインターンも受け入れております。３１年度は２名も受け入れておりまして、ＨＡＮ－ＫＯＨ等のお手伝いをしていただいたり、観光事業に携わっていただいております。また、島根県立大学、あと東洋大学、東北芸術工科大学等々、いろいろな津和野町からの出身の学生が行ったところがそうしたことで津和野町に戻ってきていただき、そうした新しい好循環を作りだしていくというような状況でございます。

こういうことを続けていくことが、先ほど町長の答弁でも申しましたが、新しい津和野高校モデルといいますか、地域活性化のための新しい好循環の仕組みづくりになるであろうというふうに考えております。こういう構想を軸にコンソーシアムというものを作り上げ、地域住民の方々を巻き込んで、いろいろな０歳児からのひとづくり構想を作り上げていきたいというふうに考えております。

○議長（沖田　　守君）　岡田君。
○議員（１１番　岡田　克也君）　日原体験ツアーにおいて、先ほど答弁の中で、実証実験を行っていきたいということであります。また、このような発表を活かしていきたいということでありましたが、いろんな発表がありましたが、担当課としては今後どのようにこの企画等が取り入れられていくと考えておられるのか、所見をお尋ねしたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　商工観光課長。
○商工観光課長（藤山　　宏君）　議員御指摘いただいた点でございます。まず、中で出てきたものの中に、我々ではなかなか思いつかないような部分もございまして、例えばいわゆるサバイバルゲーム等地域での体験プログラム、そういうのも楽しみながら地域に貢献できることをしていただいたらどうか。こんなことはなかなか我々では簡単に出てこないところとか。神楽を使って、神楽を教えてもらいながら地域の農家とかも含めて交流すると。その辺りも秋祭りは何かうまく人でいわゆる手間不足で困っているような部分うまく何とかリンクできないかなというようなこともこちらとしても思っているところでございまして。そういった部分、今回の事業主体が、日原にぎわい創出推進協議会、将来的にはＮＰＯにこはらさんのほうがそういう調整ができるような機能を持てないかなということも思っておりますので、ぜひとも新年度の中で学生さんたちと一緒にそういう実証実験もやりながら、津和野地区の観光と連携させて、あと自転車を使ったいろいろなガイドツアーとかいろいろなことも考えておりますので、そういったところをトータルで何か結び付けられないかなということを今後ともそういう積み重ねの中で考えてまいりたいというふうに思っております。
○議長（沖田　　守君）　岡田君。
○議員（１１番　岡田　克也君）　これで私の一般質問を終わらせていただきます。
……

○議長（沖田　　守君）　以上で、１１番、岡田克也君の質問を終わり、ここで１１時１０分まで休憩とします。１０分まで。
午前 11 時 05 分休憩
……

午前 11 時 11 分再開
○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続いて、一般質問を続けます。
　発言順序８、１０番、後山幸次君。
○議員（１０番　後山　幸次君）　議席番号１０番、後山でございます。
　通告をしておりますので、逐次質問をさせていただきたいと思います。
　まず、第１点目であります。建築関連の専門職の雇用について。これは前にも質問をしておりますが、現在、津和野町でも建築関係の事業が大変多くあります。庁舎をはじめ町営住宅、給食センター、駅舎、公民館、この改修等、建築物の年次計画が色々され

ております。まず基本設計をされ実施設計監修業務、監理業務と設計事務処理との事務委託をされるわけでありますが、例えば日原のにぎわい創出拠点かわべについて申し上げますと、これは庵プロデュースが基本設計監修業務をされております。

また、実施設計監理業務が桂設計さんがされております。それで、河田設計さんが実施業務、監理業務、石州測量さんが駐車場の測量設計、これを合わせますと４，０００万ぐらいな設計料に、監理料と一緒になっております。

また、図書館につきましても、中電のコンサルタントが基本設計、基本計画をされ、地質の調査等もされております。これに桂設計さんが実施設計をされておりますが、これも相当な設計料がかかっております。

かわべに係るグラウンドデザインの計画、基本計画策定、そして基本設計監修業務、実施設計監理業務と合わせますと、およそ６，５００万円近い金がこの設計料が含まれておるわけでありますが。これは一例を申し上げただけでございますが、ほかにもいろいろの建築事業が津和野にはあります。

これらについて、有資格者でないと提言をすることはできません。素人では何にもわかりませんので。そうした中で、少しでも行政に監理業務のできるような専門職員を雇用していただきたい。前からのお願いでありますが、これについてどのようにお考えか、お伺いをいたします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、１０番、後山議員の御質問にお答えをさせていただきます。

建築関連の専門職の雇用についてでございます。本町におきましては、令和２年度において、役場本庁舎の改修工事をはじめ、木部さとやま保育園の建設や原木チップヤードの建設等を発注しております。また、令和３年度においても津和野庁舎増築棟の建設や日原保育園の建設など、公共施設の建築が計画されております。加えて、本町の後田地区は伝統的建造物群保存地区に指定されており、津和野町伝統的建造物群保存条例に基づいて策定した保存計画に記載の基準を踏まえて新築する必要があり、専門的な知識が求められております。

こうした状況を踏まえて、令和２年度職員採用試験３次募集として、建築の専門職員の募集を行ったところですが、残念ながら応募がなかったところであります。今後においても、公共施設総合管理計画に基づく施設の改修や解体等が考えられ、また、伝統的建造物群保存地区内での建物の改修が進んでいく状況が考えられますので、建築の専門職員の必要性は認識しているところであり、今後においても、引き続いて職員募集を行ってまいりたいと考えております。

○議長（沖田　　守君）　後山君。

○議員（１０番　後山　幸次君）　御答弁いただきましたが、津和野町には公共施設の総合管理計画もあるわけでありますが、また伝統的建造物群保存地区内の建物の改修、

解体、このような事業もあるわけでございますが、今、この建造物群保存地区内でもいろいろな建築問題で物議をかもし、解決がされていないその件もあるわけでございますが、こういった中で１日も早い建築の専門職員からの採用を待たれるわけでございます。

そして、こういった方によって問題の解決をしていただきたい、このように思っておりますが、なかなか専門的なことでありますので、各担当課長さんにお願いしてもなかなか問題が解決するものではないと思っておりますが、そういったことを踏まえて、本腰を入れてひとつ町長、募集していただきたい、このように思っておりますが、再度、御所見を伺いたい。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　建築関連の専門職の必要性については、既に述べたとおりでありまして、以前からもその必要性は感じておったということでありますけれども、定員管理計画に従って、職員も合理化の中で削減していかなきゃならないという中で、そこまで手が付けてこれなかったということであります。

しかし、本町のいろんな事業を進めていく上では、これはやっぱり必ず必要だということにもなりまして、いよいよ募集に至ったとういうことであります。

ただ、今回はいわゆる３次募集という形でありましたので、少々時遅しという感も否めなかったというところであります。来年度につきましては、最初からの募集に１枠掲げたいという思いはもっております。

そういう中でいろんな学校を、例えば保健師とか保育士とかそういう募集に当たっても、なかなか応募なないということもありましたので、そういう専門学校とか関連する学校を回ってＰＲをしたりということもやってきております。

今後、建築士を募集するに当たっては、ただ募集をするだけではなくて、そういう努力もしながら職員の確保というものに努力をしていきたいというふうに考えているところであります。

○議長（沖田　　守君）　後山君。

○議員（１０番　後山　幸次君）　津和野にはまだ町長、いろいろ建築の計画があるんですよね。まだ津和野庁舎もあるし、いろいろこの庁舎のこともある、いろいろ建物のことについちゃ、これからも随分計画があるわけでございますから、ひとつ早い時期にぜひ、専門職を雇用していただきたい。このように強く要望しておきます。

２点目に入りますが。町勢要覧の発刊についてお尋ねをいたします。町勢要覧とは、町の治政１、町発展の経緯、歳時記、毎年度の変革、人口推移や世帯数や産業構造の推移と各項目ごとに、年度表で変革していく町の形態を周知のために発刊されるのが町勢要覧であろうというふうに私は思っております。

町長さんにこんなことを言うと釈迦に説法かも分かりませんが、やはり下森町政１０年を考えまして、町勢要覧の早期発刊について、お考えをいただきたい。

今、津和野町はまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に取り組まれておりますが、新しい執行体制で町勢要覧の発刊にも取り組んでいただきたい。町勢要覧は津和野町の顔的存在にあるわけでありますが、町長どのようなお考えか、お聞かせをいただきたい。
○議長（沖田　　守君）　町長。
○町長（下森　博之君）　それでは、町勢要覧の発刊についてお答えをさせていただきます。本町の町勢要覧につきましては、平成２３年以降発行しておりません。津和野町民憲章、町の花、木、鳥、人口動態など、町の状況については町の最上位計画である津和野町総合振興計画などの各計画に記載しており、町勢要覧としての発行をしておりませんでした。
町の最新情報をまとめ町勢要覧として発行することは、町内外の方へ情報を発信し、町の状況を周知するための有効な手段であると考えております。
今後、発行についてはその時期を考慮しながら、検討してまいりたいと考えております。
○議長（沖田　　守君）　後山君。
○議員（１０番　後山　幸次君）　津和野町の最上位計画であります津和野町の総合振興計画など、各計画に記載してある町勢要覧としての発行はしないと、このような答弁をされましたが。町勢要覧とは津和野町の現状を町外の方に示し、津和野町を訪れてくださる多くの皆さんに津和野町の姿を紹介する、大きな目的があると私は思っております。
下森町政１２年を締めにひとつ、この段階で町勢要覧を発行されるお考えがないか、再度お聞かせをいただきたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　町長。
○町長（下森　博之君）　再度というと、なかなかお答えに窮するところも出てくるわけでありますが、御指摘のように町内外への情報発信というものでございます。町勢要覧ということになりますから、私の最初に答弁で申し上げたように、時期を考慮しながら言葉を申し上げております。と申しますもの、この１０月で私自身任期を迎えるということになりますので、また可能性としては１１月以降、町長が交代している場合も考えられるということでもありまして。
そうした中で、町内外発信するものとして、今の任期内に作るということは、どう言いましょうか、場合によっては作ったものが無駄になってしまう可能性もあるわけでありますから、そうしたことを踏まえながら、じゃあどうするかというのは検討していくべきものだというふうに認識しているところであります。
○議長（沖田　　守君）　後山君。
○議員（１０番　後山　幸次君）　町長、１１月まで云々言われましたが、私は早い時期で、町長のこの体制の中で１回、町長の思いをこういった町勢要覧に発刊していただきたい、このような強い思いがあったんですが、実現の可能性がないように思いますが、

大変残念でありますが、今後はまた考えていただきたい。このように強く要望しておきます。

津和野町の３番目に、津和野町の事業概要書の発刊について、お尋ねをいたします。町長が１期目の就任１年目でありました平成２３年度にたしか、平成２４年度３月３１日まで１年間の、２３年度からです、２４年度の１年間の間に町が行う事業と予算について、各課ごとの事業内容が分かる概要書を発刊されました。全戸にこれが配付されております。ページ数も１２０ページにもわたる資料収録には、当時の営業課が担当されたんで大変御苦労があったというふうに思っておりますが、地方分権の時代に町民と行政が役割を分担しながら、まず行政側が積極的に情報を開示し、町民と情報を共有することが大切であるというふうに考えておられるようでありますが、事業概要書が配付されたと理解しております。

そのような考えで私は思っておりますが、これを一部ちょっと紹介したいと思いますが、この中で仮に消防防災国民保護、これに対して、予算が２億３，６２９万計上されております。これの主な経費です。これは消防団員の人件費が幾ら、消防団員の出動手当が幾ら、そして消防積載車を購入するんが幾ら、それでインフルエンザの対策事業、これにも幾らと。自主防災組織に災害備蓄物資を幾らほど購入するというふうに記載されております。

また、この中で広域市町村圏事務組合の消防費の負担金でも、これは１億９，３００万が計上されておるんですが、この財源の内訳が国庫負担金が何ぼ、町の負担額が幾ら、地方債が幾ら、その他の財源が幾らというふうに、本当に町民にも分かりやすく記載してあるわけでございますが。これが、年間事業が各課ごとに本当に分かりやすく財源のことも、この事業概要書を見られたら、町民の方も一目瞭然でありますが、これだけ製本されると相当の時間と経費も必要であったというふうに思っております。

大変な努力であったろうと思いますが、津和野町にはこういった町の資料を３，４５８戸の町民がおられるんですから、この概要書が各戸に配布されるわけでございます。そうすると、津和野町の財政状況、工事内容のいろいろなことが手に取るようにわかるわけでございますが、町民は私だけでなし、この概要書の発行を本当に待っておられるんじゃないかというふうに思っておりますが、今後はどういうふうにお考えか、発刊されるお気持ちがあるのか、伺いをいたします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、津和野町事業概要書の発刊について、お答えをさせていただきます。「見える分かることしの仕事」は、町民の皆様と行政が協働のまちづくりを進めていく上で、町の事業を町民の皆様へ知っていただくことが重要であることから、発行したものでございますが、平成２５年６月発行後、町広報誌に当初予算及び新規事業を掲載することとし、それ以来発行しておりません。

一方で広報誌では、紙面の都合上、掲載できる事業数が制約されることを課題として認識しております。

今後、町事業について、町民の皆様に知っていただくために、広報誌での掲載の方法の検討、津和野町事業概要書の発行の検討を踏まえ、有効な情報発信の在り方について検討してまいりたいと考えております。

○議長（沖田　　守君）　後山君。

○議員（１０番　後山　幸次君）　町の広報誌に当初予算が先ほども申しましたとおり、新規事業、こういったものがいろいろ掲載されておりまして、広報誌では紙面の都合上、事業等が制約されるわけであります。何もかも広報誌に上げるわけにはいきませんから。そこで、見える分かることしの仕事の事業概要書は、町民にとっても本当分かりやすい本でありました、概要書でありました。これを作るのに相当な御苦労と、時間も相当かかったと思います。各課の課長さんも大変であったろうと思います。

また、これを作られる財政も相当な、３，５００戸の戸数に全戸配布ということになりますと、財政的にも相当な金額がいったというふうに思っておりますが、町報の広報誌では有力な情報発信は大変難しいというふうに私は思っておりますが、町民の方も一目でわかるような、この事業概要書発行について、再度、発行されるお考えはないか、御検討していただくことはできないか、御所見を伺いたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　事業概要書でございますけれども、私が就任して始めたものでございまして、私はこの協働のまちづくりを進めていく上で、町の仕組みや予算、毎年のものをまずは町民の皆さんに分かりやすいものを提供して、そして行政について理解をいただく。それが協働のまちづくりというものの出発点じゃないかと、そんな強い思いがあって始めさせていただいたところでございます。

そんな中で、何年か続けてやってまいりまして、例えばどこかの地域に町政座談会に行きますと、その概要書を持ってきていただいておりまして、それをもとに御質問を受けたりとか、そういうこともあったりして、非常にそういうときに私自身も嬉しかったわけでありますが、ただやはり、熱心に見ていただいておったというのが、そう多数という状況では当時なかったというふうに、私の感触としても受けとめておったところでありまして、そういうものを続けて行く中で全戸に配布するほど作成することが、本当に予算も含めてこれが費用対効果がどこまで高いのかどうかということも、当時議論にあったのも事実でありまして、後山議員ではなかったと思いますが、一般質問でもどなかたの議員から、今後これをどう活用していくのかとか続けて行くのかとか、そういう質問を受けたような記憶も、以前の話でありますが、思っております。

そういう中で、いろいろ当時、判断をいたしまして、私としてはこれは続けたいという思いを持っておりましたけれども、諸所を検討した結果、私としては残念ながらこの発行を中止したというような思いでございます。

そして、現時点において、また後山議員からそういう前向きな評価をいただきますと、私としてはまたやりたいという気持ちがふつふつとわいてくるわけでございますけれども、また当時の状況等ももう一回振り返りながら、再検証させていただきたいというふうに思っておりまして、また、発行を再開するそのための、当然、職員も、今、職員数減の中で一人一人の業務量の負担が相当増えてきているのも事実でありまして、その上にこれをもう一回発行できる、今、力があるかどうかということ、検討の一つにはしていかなきゃならないと思っております。

ただそれは、対町民という面においては二の次の話でありまして、本当にこの概要書を発行することで、当初の目的である町民の皆さんへの理解というものが進むのかどうか。あるいは、発行したときにどういう活用の方法をするのかというのも当時の課題であったと思っておりまして、ただ配っただけではあまり効果が上がらないんじゃないかという議論もしたところであります。もう一回、そういうことも振り返りながら再検討をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（沖田　　守君）　後山君。

○議員（１０番　後山　幸次君）　私は、これが発刊されたときに、町長、本当、町民の方がこれを持ってこられて、後山さん、本当これがあると議員さんにいちいち聞かなくても、行政に行っていろいろなことを聞かなくても、これで一目で分かる、これはすばらしい本を町民に配っていただいたというふうに、何人かの人から聞いたわけであります。本当、町長、最高の事業概要書を発行されたと、本当私たちも喜んでおりましたが、人間いろいろおられるんで、賛否両論があるとは思いますが、私はこれだけのものを発行されると、町民は全部が全部これを見られるとは限らないかもしれませんが、大方の人はやはり関心があろうと思います。

そういった意味において、町長、もう一回その事業概要書を発刊を考えていただけるかということでありますが、財政的にもさっき言われました職員のこともありますんで、そのことを考慮して即答というのは大変でございましょうが、やはりこういったものがいいものであれば、積極的に発刊していただきたい、このように強い気持ちを持っております。もう一度、町長の考えを。何回でも聞くようになりますが、強い決意をお聞かせいただきたい。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　強い決意ということにはなりませんけれども、やはり私だけでこれがトップダウンで進められることでもないと思っておりまして、業務負担のこともございます。一度、庁議のほうで諮ってみながら、町として今後このことをどうしていくのか、検討していきたいと思っております。

○議長（沖田　　守君）　後山君。

○議員（１０番　後山　幸次君）　町長、これ何回も諄いこと言いますが、私は町民がいいものはいいもの、悪いものは悪いもので判断してくれますんで、ひとつそうした意

見も多くあったということも、常に頭に入れておいていただきたい。そして今後、もしか機会がありましたら、この概要書の発行をひとつ強く希望しておきます。

次に、公共施設の総合管理計画について、お尋ねをいたします。津和野町では平成２９年に公共施設等の総合管理計画をされております。町の保有公共施設が８０施設あるようでありますが、これの総延べ床面積が８万３，８００平米あるようであります。これを１０年間で約１０％縮減を目標にされておるようでありますが、現在の状況はどのようになっておるのでしょうか。

また、直近５年間の公共施設の投資的経費が、年平均約９億の試算結果が出されておりますが、この建物についても町民一人あたりの床面積が１０．６平米というふうになっております。町の公共施設の全体が、４６．３％が整備されて約３０年以上が経過しておりますが、今後、４０年間保有した場合には、維持費が総額３６０億円以上かかると、このような試算もされておりますが、町の公共施設の現状は、先ほど申しましたが８万３，８３３平米あるようであります。

この中でどのようなパーセントで配分してあるかといいますと、まず学校教育系の施設、これが１番でありまして２３％、平米は申し上げませんが、２番目に公営住宅、これが１７．１％、３番目がスポーツ施設１２．２％、４番目に社会教育系施設、これが１１．８％、その他が９．０％でありますが、６番目に町民の文化系の施設が６．７％、行政系の施設が５．４％、医療施設が５．３％、保健福祉施設が４．８％、産業系施設が２．５％、子育て支援施設が２．１％、以上が公共施設の現状であります。公共施設の集約や更新も必要でありますが、現在、少子高齢化の時代を迎えております。医療施設、保健福祉施設、子育て支援施設等は適正な整備計画を立てられて、施設の維持管理に全力を傾注していただきたい、このような思いがあるわけでございますが、これに伴う財源について、どのようにお考えか、お考えを伺いたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、公共施設総合管理計画について、お答えをさせていただきます。津和野町公共施設総合管理計画における８０施設につきまして、計画策定以降、日原山村開発センターの解体やシルクの里交流館の一部解体等により減少した一方で、日原図書館の新築等による増加の影響もあり、令和３年２月末時点の総延べ床面積は８万２，２６８平方メートルとなり、削減効果は１．９％となっております。

引き続き、地域活性化の観点は意識しつつも、公共施設の集約や廃止等を検討し、公共施設の適正化に取り組んでまいりたいと考えております。

また、耐用年数を迎えた施設の建て替えなど、将来の公共施設等の更新に必要な財源の確保が困難になることが見込まれますので、施設整備の目的に即した事業債や社会資本整備交付金事業の活用を検討するとともに、民間活力の活用の可能性が考えられる施設については、ＰＦＩ等のＰＰＰの検討を行い、財源の確保に努めてまいりたいと考え

ております。併せて公共施設の総量自体の見直しを進めるとともに、施設の維持管理経費の縮減に取り組んでまいりたいと考えております。
○議長（沖田　　守君）　後山君。
○議員（１０番　後山　幸次君）　公共施設の統廃合管理でありますが、これは建築物だけではなく、道路、橋梁、下水道等のインフラ整備も引き続き整備が必要なわけであります。これの維持費も今後４０年間で現状の２．２倍となるような、年平均で８億円ぐらいかかるんじゃないかというふうな見込まれております。そうしまして、これが総額３４３億円、このぐらいかかるんじゃないかというような見込みをされておりますが、計画では施設の統廃合のほか、計画的な点検、修繕による長寿命化など盛り込んだ町民説明会や計画内容の趣旨を実践的に報告し、情報を共有しながら実行していくというふうなお考えであるようでありますが、これについて再度、お聞かせいただきたい。
○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。
○総務財政課長（岩本　要二君）　公共施設の総合管理計画ということでございまして、平成２９年度に策定をしております。今、議員のほうからその計画内容について、るる御説明をいただいております。そうした中で、これ今後、こういう公共施設８０施設ありますけども、どう維持管理していくのかということであります。
　そうした中で今、町といたしましては、この公共施設総合管理計画を元に、それぞれの施設、個別施設計画といいますか、それぞれの施設につきましてどういったことで進めていくかというふうな方針の策定をしております。一つが長寿命化計画というふうなもので、建設課のほうでもそういった橋梁、道路等の長寿命化計画を立てられておりますし、教育委員会施設におきましてもそういった計画策定に今、取り組んでいるというところであります。
　それ以外につきましても、総務財政課のほうにおきまして個別管理施設計画というものを今、策定している段階でございますので、そういった計画がまとめ上げられまして、そういった方針の中で今後は維持管理、施設の維持管理等に努めてまいりたいというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　後山君。
○議員（１０番　後山　幸次君）　ありがとうございました。今、公共施設の集約や更新もそれは必要でありますが、今、先ほども申しましたとおり、現在、少子高齢化の時代が来ております。我々も相当な年齢になっておるんで、医療関係の所のお世話にならんにゃならんようなことが再々あるわけでございますが、そういった関係で医療施設、保健福祉施設、また子育て支援施設等の、これについては適正な整備計画を立てられて、それで施設の維持管理等についても今後、全力をこれに傾注していただきたい。特に、こういった医療体制問題についてはお願いしておきたい。このように思っておりますが、これについて再度、御所見を伺いたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　数多くの公共施設を有しているわけでございます。財源の問題もございますので、やはりその中では優先順位を付けてそうした更新、あるいは改修等々をしていく必要があるというふうに思っております。

その中で、やはり優先順位が高いというのは議員御指摘のような医療、福祉、子育て関係のそうした施設というのは、私も同感でございます。やはり、特に病院等々もやっぱり順次というか早い段階で、私としても改修等も必要だというふうにも思っていますし、そういうことがまず働きやすさ、働き方改革にもつながって、医療スタッフのそういう確保というものにも繋がっていくというふうにも受けとめているところでもございます。

また、今日の御指摘も踏まえた中で、優先順位を付けた上でのこの公共施設の管理というものをしっかりやっていきたいと考えているところであります。

○議長（沖田　　守君）　後山君。

○議員（１０番　後山　幸次君）　くどいことを申しますが、やはり今、少子高齢化の時代が本当どんどん押し寄せてきておるわけでございますから、医療体制について、またそういう保健福祉施設ですね、それからまた子育ての支援、こういった施設に対して、いろいろな財政が苦しいことは分かりますが、特にこれに関しては特別に配慮をしていただくようなお願いをして、財源確保が町長、大変であろうとは思います。それは百も承知しておりますが、やはり老人を大切にしていただくというお考えのもとにそういう施設の充実を図って、今後いただきたい。このことを強くお願いを申し上げて、一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

……

○議長（沖田　　守君）　以上で、１０番、後山幸次君の質問を終わり、ここで１３時まで休憩といたします。

午前 11 時 52 分休憩

……

午後１時 00 分再開

○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、一般質問を続けます。

発言順序９、１番、草田吉丸君。

○議員（１番　草田　吉丸君）　１番、草田吉丸であります。通告に従いまして、一般質問をいたします。よろしくお願いいたします。

私は、今回４項目について、通告をいたしております。

早速入らせていただきますが、まず、津和野町の財政状況についてであります。

平成２年度は、コロナウイルス対策に追われた１年であったと思います。津和野町においても、積極的な対策を打ち出されて、関係各課で取り組まれた対策は、４０項目以上であったというふうに思います。今までに経験したことのない緊急事態に対しまして、

特に商工観光課が主体ではあったかと思いますけども、非常によく頑張って、私は対応されたというふうに思っております。

令和２年度の当初予算では、９１億７，７００万円でありました。そして、今回の補正で、１４回でありますが、１１７億４，９２３万円という２６億円弱の増額でありました。これ、全てコロナ対策で増額ではないと思いますが、ほとんどコロナ対策でそういった増額になってきたんではないかというふうに思っております。

そこで、質問でありますが、令和２年度末時点と令和３年度当初予算におけるコロナウイルス関連の事業費とその財源内訳についてお聞きをいたします。

２点目でありますが、町全体の財政についてでありますが、中期財政計画、令和３年から令和７年による基金の状況でありますが、財政調整基金、減債基金ともに減少傾向であります。この主な要因と今後の基金積立計画についてお聞きをします。

併せて、特定目的基金の津和野町まちづくり基金、これ合併特例債を積立てとった基金でありますが、特定目的基金では、令和２年度、まず９億６，０００万程度の非常に大きな基金であります。新町建設計画のソフト事業に充てる基金というふうに思いますが、これの主な使途についてお聞きをいたします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、１番、草田議員の御質問にお答えをさせていただきます。津和野町の財政状況についてでございます。

令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１４号）補正後予算額のうち、新型コロナウイルス関連の事業費につきましては、歳出総額で１２億３，１０４万８，０００円となっております。内訳としましては、１、特別定額給付金給付事業費７億２，５４２万１，０００円、２、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業費４億７，０３８万３，０００円、３、ひとり親世帯臨時特別給付金給付事業費８２６万８，０００円、４、他６事業で２，６９７万６，０００円となっております。財源内訳としましては、国費が１１億３，４８５万２，０００円、県費３，４５０万２，０００円、その他５０万円、一般財源６，１１９万４，０００円となっております。令和３年度事業につきましては、国から示されました本町への第３次交付限度額１億３，７６７万８，０００円を財源として、現在、新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金（第３次補正予算）に係る事業の計画を進めているところであります。

次に、中期財政計画における財政調整基金及び減債基金の残高推計についてですが、令和７年度末で財政調整基金残高５億９，５７４万１，０００円、減債基金残高１億２，３８３万８，０００円となっております。財政調整基金につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、町税等の税収回復に相当の期間を要すること、普通交付税の合併算定替特例措置の終了に伴う減収等を見込み、財源不足を補うため基金繰入れを行うことにしております。

また、減債基金につきましては、令和７年度実質公債費比率が１２．０％と上昇傾向の見込みにあることから、財政健全化の取組として、令和３年度以降も引き続き公債費繰上償還を実施する計画とし、繰上償還の財源として基金繰入れを予定しております。

以上のことから、令和７年度までの期間において新たに基金積立を行うことは困難な状況にありますが、行財政改革大綱に基づき町税等の歳入強化に取り組むとともに、事務事業の見直しを含めた歳出削減を図ることが必要と考えます。

次に、まちづくり基金についてですが、令和２年度につきましては、ＩＴ人材育成事業等の企業誘致対策事業に１，４５０万円、災害廃棄物処理計画策定事業に３８０万円、森鴎外記念館開館２５周年事業として３４０万円の基金繰入れを予定しており、年度末残高見込みが９億５，８５６万６，０００円となっております。令和３年度につきましても、空き家対策に係る定住対策事業に１５０万円、安野光雅美術館及び森鴎外記念館に１，４３０万円、東京事務所管理費に４００万円、道路愛護団事業ほか道路維持費に２，０００万円等、１億円の繰入れを予定しております。

また、令和４年度以降につきましても、合併後の均衡ある発展に資する事業に各年度５，０００万円の基金繰入れを行うことにしております。

○議長（沖田　　守君）　草田君。

○議員（１番　草田　吉丸君）　それでは、少し再質問をさせていただきます。

２年度のコロナ措置の関係の総事業費の関係をお聞きしましたが、総事業費が１２億３，０００万円ということでありました。そのうちの国費が１１億３，４００万、県費が３，４００万、それで一般財源が６，１００万円ということでありましたが、ここらあたりが、私、９月議会のときにこの総事業費について伺ったときには、一般財源はほとんど投入しなくて、コロナ対策ができるというふうにお聞きしておりました。それで今確認しましたら、これ６，１００万円は一般財源ということで載ってきておりますが、これについては、実際にもう使われた財源というよりか、この事業費の中にこれだけの今一般財源部分が残っているというようなことで思っていいのか。コロナウイルス対策については、最終的には、国県、そういった交付金等でほとんど賄われるというふうに思っていいのか、まだ最終資料がないですからわかりませんが、その辺は、そういう考えで見ていいですか。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　今議員おっしゃいましたように、当初、新型コロナウイルスのこの地方創生臨時交付金につきましては、９月時点におきましては予算において一般財源の持ち出しはないというふうな、しないという考え方の中で予算のほうの整理をさせていただいておりました。その後、やはり、ああして長引くコロナ禍というふうな状況の中で、各種経済対策を引き続いて実施していく、いろんな状況等がございましたので、そういった中で、新型コロナウイルス地方創生臨時交付金を活用した事業ということで、業績悪化緩和運転資金補助等や商業サービス感染症対応支援事業、そう

いった事業の継続、あるいは学校における情報機器整備事業、学校施設の衛生環境保全事業、そういった事業や病院のほうに共存病院におきます空調設備の改修等、そういった事業をその後展開していった結果、総体として今総事業費で一般財源が６，１１９万４，０００円となっているということでありまして、先ほど議員おっしゃいましたけども、まだ確定ではないというところでございますので、今からまた３月最終補正等でこの辺の補正予算も出さされていただきますし、最終的には、繰越事業もございますので、そういった部分を見て、なるべく一般財源の持ち出しがないような形で整理していきたいと思いますけども、一応今議員が先ほどおっしゃいましたように、事業費の中で今取り組んでいる事業の中の一般財源枠というところで御理解いただけたらというふうに思います。

○議長（沖田　　守君）　草田君。

○議員（１番　草田　吉丸君）　財政、非常にわかりにくいところがあるんですが、最終的にはどうなるかわかりませんけども、何とか国の補助金で２年度は対策できたということになるかもしれんということですね。わかりました。

　次に、３年度の関係でありますが、３次補正で１億３，７００万ですか、これを計画をしていくということでありますが、これについては、まだ当初予算には載ってきていないと思いますが、やはり２年度にやられたいろんな対策を継続してやれる部分もあるかと思いますし、また、新たな対策を考えておられるかというふうに思いますが、その辺、まだ発表の段階ではないかもしれませんが、何かそういったところの考えがあればお聞かせ願いたいと思いますが。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　今議員おっしゃいましたように、令和３年度事業につきましては、昨日も町長答弁させていただいておりますが、この３月中旬を目処に各課に事業整理を依頼しておりまして、今現在のところその事業のほうは総務財政課において整理がまだできていないという段階でございますので、具体的な事業等についてはまだ、これからまたお願いさせていただくというふうな形になろうかともいますけども、各課のほうで、これまでの事業の取組等を整理した中で、継続してやっていくと、また新たなものをいろいろ事業展開がされているものだろうというふうに思っておりますけども、最終的には、この今各課から上がってきた事業を事業計画として整理をしていきたいという段階であるということで御理解いただけたらというふうに思います。

○議長（沖田　　守君）　草田君。

○議員（１番　草田　吉丸君）　それは、今後出されると思いますので、それを見させていただきたいというふうに思います。

　あとワクチンの関係ですが、これについては、当初予算に載ってきておりますが、ワクチン関係は全て、これは国費等で払える、消費負担等はほとんどなく、全部やれるというふうに思っていいんでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。
○健康福祉課長（土井　泰一君）　ちょっと詳細な数字を覚えておりませんが、令和２年度予算の補正で５００万円ばかりと、あと当初予算で５，５００万円ばかりだったかなと思いますが、合わせて６，０００万円ぐらいだと思います。これ１００％国の交付金でありまして、今のところの予定では、本町の持ち出しはないというところで考えております。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　わかりました。それで、中期財政計画のほうにちょっと進ませていただきますが、中期財政計画によりますと、財政調整基金が、これ、総務経済のほうで所管事務調査をやったときの資料に基づいて、ちょっと私も質問しておりますけども、令和２年度の財政調整基金が１０億７，０００万のところを、令和７年度におきましては、５億９，０００万に減少します。減債基金についても、令和２年が２億８，０００万ですが、令和７年において１億２，０００万、７年度末合計しますと、この二つの基金が７億２，０００万円ということになるという今中期財政計画であります。少しそれ基金のことについて、私、調べてみましたけども、これは財政調整基金と減債基金、合計したもんでありますが、津和野町の場合、少し１，０００万円以下四捨五入でわかりやすく、億単位でちょっと申してみますが、平成１７年時点が１１億、それから平成２１年に１５億、それから平成２５年が２５億、平成２７年が２９億、これが一番最高の積立額と思いますが、それから平成３０年になって１７億、それから令和２年１０億、そして今さっき言いました令和７年では、７億ということになるようでありますが、この基金というのは、いざというときのために積み立てて、必要であれば当然それを崩して、財政に充てていくというもんでありますから、減っていったり増えていったり当然あるというふうに思うんですが、非常に下がりがずっと続いているようなところ、少し心配な部分があるということで、今回質問させてもらっておりますけども、この基金のどれぐらいが津和野町にとってこの基金が妥当なもんかというところなんですけど、以前、私、町長にどうだろうかという質問したとき、標準財政規模の大体２割ぐらいが非常に、そういったところが、じゃないかなという話があったというふうに思うんです。そうすると、今、津和野町の標準財政規模が大体４６億から４７億というふうに思います。それの２割というと、大体１０億、こういったとこじゃないかと思うんですよ。そういうとこから言っても、令和７年ではそれ以下になってくるようなところもありますので、これからがどうかなという気がしております。回答の中でも、減債基金も償還があるんで、これも減ってくるんだということで、なかなか今この基金を積み立ててくるということは難しいという回答でありました。減ってくる時期も当然あると思いますけども、災害等が起きれば、非常にこの基金というのが必要になってくるというふうに思うんです。恐らく先ほど言いました基金の動向を見ますと、平成２５年が津和野町の災害が起きました。その後、２７年が増えておるんですけど、平成３０年で１

７億ぐらいに減ってきております。多分災害に充てたためにこういうふうに減ってきたんじゃないかと思いますが、そういった不測の事態が生じたときには、やはり基金は必要であるというふうに思うんですが、その辺がどうかなというふうに思います。そこで、これらの中期財政計画を見ていただいて、今基金の状況、これら、そしてまた収入、将来に当たっての収入、あるいは支出、気になる部分もいろいろあるかというふうに思いますが、今のこの財政状況をどのように今考えておられるか、その辺を非常に財政にはお詳しい、副町長にひとつちょっと私、お聞きしたいと思いますが、どうでございましょう。

○議長（沖田　　守君）　副町長。

○副町長（島田　賢司君）　将来的な財政ということでございますが、現在のコロナ禍、あるいは国の動向が不透明な中で、非常に難しい質問だと思います。現状の財政状況で言いますと、決して余裕があるような財政状況ではございません。どちらかというと厳しい、本当に厳しい財政状況だと思っています。人口減少、あるいは景気低迷によりまして、税収、あるいは地方交付税が大きく伸びる見込みがないという中で、これまで繰上償還、含みました行財政改革、行ってまいってきております。そして、財源の捻出に取り組んで、何とか今財政運営をやっている状況でございます。現行の津和野町のこれまでの事業量からいいますと、地方債残高は当然のごとく上がってきております。ただ、もともと有利な地方債を当てておりますので、財政指標場から見ても、ぎりぎりのところで厳しいながらもなんとか健全な財政を保っているんではないかと私自身は思っています。

　ただ、今後におきましては、このコロナの影響が本当にどうなるかわかりません。ただ、当町のここ数年来大型事業を行ってきております。そして現在庁舎建設を行ってきておりますが、その償還が本格的に始まれば、今よりも必ず厳しくなってくると思います。財政指標で一番大事な実質公債費比率、これはある程度上昇することは仕方がないと思っておりますが、危険領域までは行くことはない、そういうふうにも思っているところでございますが、やはり人口減少、そして昨年行われました国勢調査、これの交付税の算定がまだできるような状況ではございませんが、これが必ず減少してくると思います。そうした中で、歳入の真水部分、必ず減ってきますので、これまでの歳出削減をしていかないと、先ほど議員言われましたように、経済情勢の変化、あるいは災害等に対応するための基金に影響してくるものと思っておりますので、持続ある財政運営するためにも、今後は国県、そして午前中に御質問のありましたふるさと納税等を確保をしっかりしていき、将来にわたる事業、これをより精査していくことと、これまで行ってまいりました財政改革、これを一層継続していかないといけないと思っているところでございます。

○議長（沖田　　守君）　草田君。

○議員（１番　草田　吉丸君）　ただいま副町長の答弁の中で、財政的には余裕はないんだと、厳しい状況であるということでございました。いろんなことが起きる時代であります。ある程度の余裕を持った財政運営というのはやっていく必要があるというふうに思いますので、どうか今後も健全な財政運営に努力されることをお願いして、次の質問に移ります。

次の質問になりますが、本庁舎の改修状況であります。

本庁舎の改修工事については、令和２年６月に着工し、完成を令和３年３月末として工事が進められてきました。新しい本庁舎の施設概要と業務開始までのスケジュールについてお聞きをします。

済いません、もう１点ありました。津和野庁舎の改修計画でありますが、津和野庁舎の改修については、当初計画では、令和２年度末完成の予定でありましたが、遅れているというふうに思います。この遅れた理由と今後の改修計画についてお聞きをします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、庁舎の改修状況について答えさせていただきます。

まず本庁舎の関連でありますが、本庁舎の改修工事につきましては、監理業務を石川建築設計事務所、工事施工を堀建設株式会社に請け負っていただき、昨年の６月から今月末までの工期で、現在、最後の追い込みの段階に入っているところであります。

新しい庁舎の床面積は３，０９７．１７平方メートルとなり、現在の本庁舎と第２庁舎を合わせた床面積の２，７８８．９９平方メートルに比べて３０８．１８平方メートルほど広くなる予定です。

なお、新しい本庁舎に入る課は、現本庁舎から総務財政課、つわの暮らし推進課、税務住民課、出納室、第２庁舎からは、建設課、議会事務局、議会になります。

また、新しいエリアとして、専用の防災無線室、町民が滞留できるロビー、エントランスを設け、事務室の面積を５７７．０８平方メートル、相談室を含めた会議室を７室で３１２．９５平方メートル、書庫及び倉庫を６室で２８２．２平方メートル設け、その他、町長、議長応接室、男女別更衣室、多機能トイレ、授乳室等を配置しており、議会関係では、議場を１７９．７６平方メートル、議員控室を大小２室、委員会室、監査委員室を設けております。さらに、建物１階には西中国信用金庫津和野支店日原出張所が入り、営業を行う予定となっております。

今後のスケジュールとして、３月末で建築工事が終わりますが、並行して、電話工事、ＬＡＮ工事、庁舎セキュリティー工事、防災行政無線工事を行いつつ、今後、電算サーバーの移設、住基ネット機器移設作業等を行う予定としております。

また、引っ越しについては、使用できるものは利用することとして、現在使用している机、キャビネット等を徐々に差し替えながら約１か月をかけて移すこととし、最終的には５月７日の夜に電話の切替え後の土日に、ＰＣなどの事務用品を移動することにより引っ越しを完了したいと考えております。

今後、工事及び引っ越しを進める中で、大変期間の短い中ではありますが、４月中旬ごろに竣工式、新庁舎での業務開始を５月１０日予定として進めております。

次に、津和野庁舎の改修につきましては、基本構想時のスケジュールは、既存建物の耐震診断業務を平成３０年６月から１０月まで、基本設計を平成３０年１２月から令和元年５月まで、実施設計を令和元年６月から１１月まで、改修工事を令和２年４月から令和３年２月までとし、増築部分については、基本実施設計を平成３０年１０月から令和元年６月まで、増築工事を令和元年７月から令和２年２月までの間に行うこととしておりました。

これに対して、実際には耐震診断業務を平成３０年１０月から平成３１年３月まで、耐震補強、改修設計業務を令和元年７月から令和２年６月まで行い、増築部分の基本・実施設計業務を令和２年９月から行っているところです。

基本設計時のスケジュールは、当時、建設費用の財源である合併特例債の期限が令和２年度までであり、本庁舎も含め、それに合わせる形でスケジュールを作成したものになっております。そのため、この計画では、本庁舎も同時期に工事を行うことになっており、非常に短い期間の中で事業を実施する必要がありました。

また、当初のスケジュールを計画した段階では、整備内容に不明な部分が多いため想定で設定を行うしかなく、診断後の実施設計を行い始めた段階で、建物の状態がよくないことが判明し、実施設計に時間がかかったことや改修するための材料の納期に時間がかかることも判明し、徐々にそれぞれの作業が遅れ、全体スケジュールに影響が出てきたところであります。

当初の見込みを短く設定したこと及び、建物の状態での不確定な要素が影響したため、スケジュールが遅れてしまいましたが、合併特例債が令和７年度まで延長されたことにより、当初のスケジュールを変更して事業を実施しているところです。

現在のスケジュールでは、増築部分について基本・実施設計を終わらせた後、令和３年度に伝統的建造物群保存地区保存審議会、文化財保護審議会並びにその他関係機関との協議を行い、既存部分も含めて、令和５年度中の完成を目指すこととしております。

○議長（沖田　　守君）　草田君。

○議員（１番　草田　吉丸君）　まず、本庁舎の関係でありますが、５月１０日を業務開始を予定されているということであります。３月末には、工事が大体の部分が完了するということであろうと思います。非常に内部のことは、なかなかどうなっているかわかりませんけども、周辺も整備も駐車場等も非常に広い駐車場を取っていただいたというふうに思っております。そこで、今、この庁舎の改修については、町民の皆さんも非常に関心は持っておられるというふうに思うんです。中一体どうなるんだろうかというようなことで思われている人も随分おられると思いますが、これを町民の皆さんに来てもらって、内覧会ということで見てもらうというような、そういう計画はされていないのかどうか、その辺はどうでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。
○総務財政課長（岩本　要二君）　今町長の答弁にもありましたように、３月末で今の本体工事、いわゆる建築工事、外構工事が終了するというスケジュールになっております。３月末ということで、ほぼ本当にぎりぎりの３月末になるのかなというふうに見込んでおりますけども、その後、今ここに書いてありますような、いわゆる電話工事、内装内部におきます電話工事や電算関係というのがＬＡＮ工事、セキュリティー工事等を４月に入って行うということで、今スケジュール組みをしているところでございます。そういったスケジュールの調整をしていく中で、そういった内覧会等の時間、あるいは現場調整などでそういったことが取れるのであればまたそういったところの検討していきたいと思いますけども、まずはこういった工事をやらさせていただいて、なるべく早めに完成するようなスケジュール組を考えていきたいというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　確かにスケジュール、非常に厳しいと思います。できるだけそういったことも取り入れて、町民の皆さんにも庁舎をちゃんと見てもらう、そういうことも大事と思いますので、お願いをいたします。
　それから、エントランス広場、入ったところの広場ですけども、ここは今後いろいろ町民の方も入られたら、少し休んだりできるスペースじゃないかと思いますが、そのあたりはしっかりと椅子とかも配置もされているんだろうと思いますが、椅子とか、当然自動販売機、こういったものは設置される予定でしょうか。
○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。
○総務財政課長（岩本　要二君）　エントランスホールにつきましては、入り口部分に設ける予定にしておりまして、以前、この本庁舎の関係でいろいろ一般質問いただいておったときも、いわゆるバスの待合場所としても利用できるようにというふうな御意見もいただいておりましたので、そういった部分も、そのエントランスホールの中にそういった場所を設けながら、町民の方が当然椅子等も配置していく中で、休んでいただくといいますか、滞留できるような場所は設置していきたいというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　ぜひ、そういった休めるような場所にしていただきたいと思いますが、今バス停の話が出ましたが、バス停は今仮につくっておられますよね。それで、今度はこの本庁舎と、前には診療所もできますが、バス停というものは、どういうふうな位置に今度なりますか。この本庁舎の前に、前はぐっと回ってバスが停まったりしちょりましたが、本庁舎の前は、バスが停まるようになるんですか。それと、診療所ができますが、診療所を使った、そのバス停とかっちゅうのは、どういうふうになるか今考えておられるんですか。
○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　今、もともとは入り口のほうに診療所の入り口にバス停を設置させていただいておりましたけども、今の役場の入り口、大衆の今工事ということで、その入り口部分、東棟のほうにちょっとずらさせていただいたところにバス停を設けております。今から今言われるように、本庁舎ができ、あるいはその対面側に診療所ができていくということになりますので、その周辺にバス停は設けたいと考えておりますけども、具体的にこの場所にというのは、そういったいろんな状況を見ながら、またつわの暮らし推進課が担当課になりますので、そういった担当課と協議をさせていただきながら、場所については決めていきたいと考えています。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　その辺、よろしく。それから、今、まだこの後第２庁舎の話も出るんですけども、町民の皆さん、いろいろ会議室とか、いろんなところに分かれてやっておられると思いますが、この本庁舎にできる会議室とか、そういったものは一般の町民の皆さんは、例えば夜とか、利用しようと思えばできるんですか。
○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。
○総務財政課長（岩本　要二君）　どうしても施設のセキュリティーの関係等もございますので、その辺については、現在のところそういう形で使用できる想定はしておりません。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　想定されていないっちゅうことですが、宿直の方もおられるというふうに思いますが、今のこの後の出ておる第２庁舎の改修等が進めば、いろんなところ、そこを使えるけえいいんですけども、それまでのところがなかなか皆さん、いろんなクラスの公民館行ったりとかいうようなことがあると思いますので、使えるようにしてもらえばいいかなと、その辺の検討をよろしくお願いしたいと思います。
　それから、昨日の同僚議員の質問の中で、３階部分、これを避難所として検討するということは言われましたが、私も以前からこの３階部分、非常にいい避難場所になるんじゃないかというふうに思っておりまして、まず、積載荷重の関係も言われましたが、１８０キロという制約があるんでどうかというような話がありましたが、その辺は大丈夫なんですね。避難所としては十分活用できるということでいいんですか。
○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。
○総務財政課長（岩本　要二君）　もともとその３階については以前からそういった避難所として利用していきたいという考え方の中で進めておりますので、避難所という形で使えるようにしていきたいというふうに思います。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　３階部分、非常に、今避難所がいろんな避難所で課題があるっちゅうことは出ておって、１番が、プライバシーが守れるようにしてほしいというようなこと、それから段ボールのベッド、それからトイレとかがしっかりしたとこ

が、そういった避難所をやっぱり設置してほしいというような、いろんな意見があるというふうに思いますが、あの場所は非常にそういった面では、利用によっては、プライバシーが守れる、そういう場所になるというふうに思います。ぜひ、その辺は検討いただきたいと思いますが、それと東棟の３階、これもあるんですが、あれも含めてそういうことを考えているかどうかわかりませんけども、あそこもそういった避難所とすれば非常にいいというふうに思います。含めて、また、これは全く検討されていないでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　東棟の３階ということですけど、今の診療所が入っている棟になろうかと思いますけども、その３階につきましては、今、避難所として利用するという計画は、今現在は想定はしておりませんけども、今議員言われますように、そういったスペースがございますので、そういった部分を今後検討していきたいと考えております。

○議長（沖田　　守君）　草田君。

○議員（１番　草田　吉丸君）　ぜひその辺の検討もお願いをしたいと思います。あと津和野庁舎の関係ですが、新しく増築をするということであります。最初は、仮設を建てて、そこに移動して、それから工事をしてそこに戻るというような計画でもあったかと思いますが、増築棟にされたという理由をできれば、お願いします。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　もともと当初計画では、今既存棟の改修につきましては、耐震診断の結果で、そこまで補修工事等は必要ないだろうという判断もしておりまして、平成の初め頃だったと思いますけども、津和野庁舎、旧津和野町のとき改修をやっております。そのときにどういった改修の仕方をしたかといいますと、いわゆる、棟を半分に分けて、執務室、執務ゾーンと、こっちが工事ゾーンというふうな形で工事施工をしておりましたので、今回もそういったことを想定しながら、半分は施工場所、半分は執務スペースということ、あるいはその中で設置できない課については、また周辺の施設のほうに移動していただくようなことも考えておりましたけども、ここにも答弁の中にも書いてありますけども、耐震の改修の実施計画、実施設計、そういった部分に取り掛かった段階で、今の既存棟の屋根が非常に状態が悪いと、老朽化が著しいというようなことも判明しまして、屋根をもうやり替えなくてはならないというふうなことが判明してきまして、今の工法の仕方はちょっとできないだろうというふうな考えに至りました。

　それから、増築棟につきましては、基本構想の時からいわゆる津和野庁舎は執務面積が不足すると。所謂これは総務省の中に、庁舎の建設基準といいますか、そういったものがあるんですけども、それに照らし合わせた場合に、面積が不足する部分がありますので、そういったところを増築棟で補いたいというところで、当初から、基本構想時か

ら増築棟という計画は上げておりました。ただ、配置場所につきましては、今の庁舎のいわゆる高岡通り沿い、裏側になるんですけども、職員寮と車庫を解体してそこに設置するという考え方でおりましたけども、今回、ああして隣の駐車場を町が購入したという経過の中で、併設型で設置をという流れになったということであります。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　わかりました。増築棟も建てられるというふうに思いますけど、やはり、歴史の町の中心的な位置に立つ建物でありますので、景観に配慮した、やっぱりそういったものをぜひ建てていただきたい、そういうふうに思います。一応、本庁舎が完了して業務が始まるということでありますが、これについて、今の町長の気持ちを一言お聞きしたいと思いますが、本庁舎が完成するわけですが、それに対する町長の一つの気持ちをお聞きしたいと。
○議長（沖田　　守君）　町長。
○町長（下森　博之君）　こうしていよいよ新庁舎が完成をするということであります。県内の自治体を見回しましても、今一番津和野町の役場の庁舎が老朽化をしておったという状況でございます。それは、いろんな町民生活優先で庁舎の改修よりも様々な事業を優先的に行ってきた裏返しでもあるというふうに思っておりますが、やはり昨今の時代は、特に防災面から、いわゆる庁舎というのはその拠点になるものでありますから、特に耐震化ができていなかったというのは、本当に重要なことでありまして、そういう面から今回たまたまこの日原診療所が耐震診断上は耐震の能力を有しているということでありまして、そういう観点からも含めてそちらも選ばせてもらったということであります。一定程度の防災力の強化にもつながったというふうにも思っておるところであります。
　併せて、やはり公共施設でありますから、本来ならば授乳室でありますとか、それから多目的トイレでありますとか、そういうものも兼ね備えていなければならなかったわけでありますが、そうした中で庁舎も老朽化してそれができていなかったという状況もございます。今回、これが改善できたということもこれは町民の皆さんにとってもよかったことだというふうに思っておるところであります。
　そのほか、いろんなプライバシーを伴う相談業務等もあったわけでありますが、なかなか今までの庁舎ではその相談室を取るスペースもなかったということでありますが、今回はプライバシーを配慮した、そういう相談室も兼ね備えているというようなところでありまして、総合的にも町民の皆さんのお役に立てるような、そういう庁舎ができ上ったというふうに思っております。本来なら、新庁舎を新築で建てるというのが理想ではありましたけれども、今の財政状況では、それが許されないことでもありますし、総工費６億ちょっとということを、その財源でできたということも、本当、県内の市町村、本当に立派なものを、本当に大きな予算をつけて、新庁舎をつくっておられます。しかし、我々は我々の一つの身の丈の中で、財政にも配慮しながら、そして町民の皆様に配

慮をする、そういう庁舎でき上ったのではないかというふうにも思っております。また、それに、庁舎にふさわしい、我々入るスタッフも研鑽を積みまして、町民の負託に応えられるように、努力をしていきたいと、そういうふうに思っておるところでございます。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　それでは、次の質問に移ります。
　日原山村開発センターの代替施設として計画されている日原第２庁舎の改修計画の進捗状況についてお聞きをします。
○議長（沖田　　守君）　教育長。
○教育長（世良　清美君）　それでは、日原第２庁舎改修計画についてお答えをいたします。
　日原第２庁舎につきましては、日原山村開発センターの代替施設として考えていることから、今年度耐震診断を実施いたしましたが、大地震に対する耐震性能は基準値以下であるとの診断報告を受けたところであります。
　このため、耐震診断を行った業者より、耐震改修工事費及び同程度の面積で新築する場合の概算工事費を積算してもらった結果、実施設計業務を含めた工事費は、耐震改修工事が約１億７，３００万円、同規模、これは約７００平方メートルでありますが、同規模の新築工事が約２億８，５００万円の工事費との試算になりました。
　耐震改修に予想以上の費用がかかることがわかり、新築した場合との比較で従来からの方針どおり改修を行うのか、新築とするほうが将来的なメリットが高いのか、それぞれにメリット、デメリットがあり、現在比較検討している段階であります。
　なお、耐震改修によるメリットとしては、工事費が新築より安価であること、デメリットとしては、部屋の構造や規格変更が難しいことや、多額の費用を要する割には、躯体自体は古い建物のままであるため、耐用年数は延長されないこと等が上げられます。
　新築によるメリットとしては、用途に合わせた設計ができることや、耐用年数が長いことなどが上げられ、デメリットとしては、建築コストが改修より高額となることが上げられます。また、新築規模を必要最小限の施設をつくることで抑え、耐震改修との建設コストの差を少なくすることも考えられることから、今後、他の要素も含めこれらの諸条件を総合的に検討し、方向性を決定していきたいと考えております。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　診断結果、改修でいくか、あるいは新築にするかという今検討中だというふうに思います。そこで、計画されている、中の内容どういったものを今の段階では計画されているんですか。
○議長（沖田　　守君）　教育長。
○教育長（世良　清美君）　耐震改修でこの施設をそのまま利用しようという想定の中では、大きく部屋の構造を変えるというよりも、このいわゆる議場として使っている広

場は、これを生かした形で、ほかの部屋については、その部屋の形状を生かした形で会議室等にしていこうという計画であります。
　それと、ここにないのが、調理室がございませんので、その部分については、増設をするという中で検討をさせていただいております。
　新築につきましては、同じような規模で同等の７００平方メートルぐらいの規模でもし同じような構造で建て替えたとしたら、どういう形になるかということで試算をしていただいております。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　それで、７００平米ということが言われましたけども、建物ですよね。それで、今、あれですか、ここをそういう改修をするということになれば、敷地的には、今、この敷地全体でいうと、シルバー人材センターもありますよね。その隣に元の官舎もあります。そういったとこも含めて一体的にここを整備されようとしているのか、駐車場等も当然こういった施設になると要るわけなんですが、その辺をどれぐらいの範囲で考えている。
○議長（沖田　　守君）　教育長。
○教育長（世良　清美君）　実質を言うと、それも含めて検討をさせていただいているというのが本音のところでありまして、基本的には増築をする部分は調理室部分だけを考えますので、あとはこの部屋の形状をどういう形で生かすとか、そういうことを検討しようとしていた矢先ではありますが、結果的に想定以上の耐震工事費がかかるということで、新築をしたときに同じ規模で新築しても１億円ぐらいの差で、将来的なことを考えたときに、はてどっちがいいのかなという、そういうところで今悩んでいるところであります。ただ、費用的にそれだけの１億円とは言いながら大金でございますので、そこをできるだけ圧縮する、つまりはこの部屋を全て７００平米の面積にする必要があるかどうかというのも含めて検討したいという、例えば、５００平米に抑えて、部屋数等も抑えて、最低限の設計で、耐震改修をした金額とそう違わない、例えば２億円なら２億円程度の金額でどんなものが建てられるか、そういうことも考えたほうが、将来的なメリットのほうが高くなるのかなというふうな思いもあって、そういうところも一応視野の中に入れて、最終的な判断をしていきたいなというふうに思っております。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　それから、開発センターの場合は、公民館も一緒に中に入って当然そこの管理もやられていたわけですが、ここについては、今公民館上ですよね。この建物については公民館もやっぱり一緒に中に入るというようなことで考えておられる。
○議長（沖田　　守君）　教育長。
○教育長（世良　清美君）　教育委員会としては、そのほうが望ましいというふうに思っております。ただ、いざ入る現場の公民館の意思としては、今ある事務室のほうが執

務がしやすいというふうに言っておられるようでございます。それは地域の方もそういう意見があるというふうにも伺っております。そこら辺で、基本的にはこっち入ってもらうことが、我々は全体的なバランスからするといいというふうには思っておりますが、そこら辺の意見調整は今から必要になってこようというふうに思います。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　私もどっちかというと一緒に入ってやられるほうが非常にいいんじゃないかなという思いはします。山村開発センターが使用できなくなって、町民の皆さんも非常に不便な思いもされています。やっぱりこの施設も今津和野町にある町民センター、そしてまたここに新しく計画される施設共に私は大変重要な文化施設だろうというふうに思います。これから将来にわたって、多くの人が使う施設でありますので、今日のいろいろ回答を私聞いてみて、何か改修でやると、非常に中途半端な建物になるような気がするし、非常に効率的にも使い勝手がどうかなという気がします。確かに、財源的なものがありますけども、私は思い切って新築というようなことを向いて検討していただきたいなというふうには考えます。ここは今避難所にもなっているんですね。そして、新しくなっても恐らく避難所には指定されるんじゃないかと思いますし、そういったことを考えても、きちんとしたものにしていく必要があるんじゃないかなというふうに思うんです。財源的なことなんですけども、１点、この新築の場合、２億８，５００万ということありましたけども、それは、これを解体をする費用も入っているんですか。
　それから、この改修、あるいは新築になる場合の財源は、これは合併特例債を充てられるのかどうか、その辺はどうですか。
○議長（沖田　　守君）　教育長。
○教育長（世良　清美君）　今の解体工事については、設計と解体工事費合わせて約およそ１，５００万程度を見込んだ数字で考えております。財源内訳については、総務財政課長のほうからお願いします。
○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。
○総務財政課長（岩本　要二君）　第２庁舎改修に当たっての税源ということでありますけども、今から具体的にはつめてまいりますけれども合併特例債なり、有利な起債のほうを充てていきたいというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　それから、もうちょっと聞きたいんですけど、今ここの施設についてで、町民の皆さんもいろいろ関心を持っておられますが、いろんな場所でも、こういうことはぜひ取り入れてほしいとかという意見もあります。そういった町民の意見というのは、どういうふうにまとめられますか。
○議長（沖田　　守君）　教育長。

○教育長（世良　清美君）　まずは、どちらでやるかという方向性が決まらないと、意見集約にもなかなかならないのかなというふうにも思いますが、その後に、あらましの基本設計を作らないといけないと思いますので、この基本設計の設計図が平面図等ができた段階で、町民に対してのそういう公聴会を開こうかなというふうに思っております。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　ぜひ、そういったことで進めていただきたいと思いますが、もう一つ、スケジュールですが、完成期日、これはいつを予定されてますか。
○議長（沖田　　守君）　教育長。
○教育長（世良　清美君）　なかなかその想定が難しいのが現実でございまして、できるだけ次年度のうちには、方向性を固めて、設計には入っていきたいなというふうには思っております。
○議長（沖田　　守君）　草田君。
○議員（１番　草田　吉丸君）　本当に町民の皆様も待っておられますから、一時も早い完成を目指してがんばっていただきたい、そういうふうに思います。
　それでは、最後の質問に移ります。日原診療所は、発熱外来施設を利用して、移転、増築する計画は示されました。地域医療の厳しい現実の中で、明るい取組であると考えます。新しい診療所の施設概要と診療科目や診療体制及び津和野共存病院との連携等についてお聞きをします。訪問介護ステーションの現状と、日原診療所に配置することで得られる効果について、また現在発熱外来施設で行われているあぽろ診療は継続されるのでしょうか。お聞きします。
○議長（沖田　　守君）　町長。
○町長（下森　博之君）　それでは、移転増築される日原診療所についてお答えさせていただきます。
　平成３０年に民間の医療機関が閉院したことに伴い、日原診療所は日原地域で唯一の医療機関となりました。日原診療所は、津和野町全体で考えたときに津和野共存病院のサテライト施設として位置づけています。少子・高齢・過疎化が進む津和野町においては、津和野共存病院が地域医療拠点病院となることが望ましく、サテライト施設としての日原診療所への医師応援や訪問・巡回診療などの地域における役割をさらに明確にして貢献することが重要であると考えております。
　現在の診療体制につきましては、令和２年１０月から須山医師が院長を務められ、内科の一般外来診療と訪問診療を行い、必要に応じて津和野共存病院に検査依頼や入院紹介をされております。
　近年におきましては、地域の高齢化と人口減少等に伴い、受診者数の減少に歯どめがかからない状況であるため、医療を守り町民が安心して生活できる環境を整えるためには診療所の機能を充実させる必要があります。

日原診療所の現状として、１、検査機器・レントゲン撮影装置が整備されていない、２、津和野共存病院間でカルテの閲覧はできるが共有はできていない、３、場所が２階のため利用者にとって不便であり、併せて入り口がわかりにくい等の課題があります。これらの課題解決に向け、令和３年度において、日原診療所を現在の発熱外来施設へ移転することとしております。移転に際しては、およそ１６５平方メートルを増設し、レントゲン機器を導入することで検査も可能となる予定です。

また、まめネットを導入することで、津和野共存病院や益田赤十字病院等との連携により病院間でカルテの情報等を共有できますので、より安心できる医療を提供できると考えております。

訪問看護についても、高齢化、人口減少、特養入所待機期間の短縮、施設利用のため町外流出等により利用される方は減少傾向です。しかし、町内に夜間救急受入れ施設がないことや受診に必要な交通機関が不十分な現状において、２４時間相談を受け付け、自宅に訪問して看護を受けることができる訪問看護ステーションの存在は町民の生活に欠かすことのできない安心を提供しております。同一施設内に設置することで、情報の共有や連携を強化することができ、在宅療養や様々なサービスについての相談などよりきめ細かい対応を行い、引き続き日原地域の住民の医療を守る核として運営していきたいと考えております。

また、発熱外来施設で月２回の診療をしておられる、かのあしあぽろ診療所につきましては、現在の日原診療所である東棟２階に移転し、引き続き診療される予定となっております。

○議長（沖田　　守君）　草田君。

○議員（１番　草田　吉丸君）　済いません。時間が来ましたが、一言だけ済いません。本当にこの利用期間が減少傾向である中で、移転して増築、そこまで考えて、そしてまた検査機器も整備されるということは、地域医療に私は大変希望の灯をともしてもらった、そんな気がいたします。よく頑張っていただいたと思っております。

以上で、私の一般質問を終わります。

……

○議長（沖田　　守君）　以上で、１番、草田吉丸君の質問を終わり、ここで２時１５分まで休憩といたします。

午後２時02分休憩

……

午後２時12分再開

○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、一般質問を続けます。

発言順序１０、７番、御手洗剛君。

○議員（７番　御手洗　剛君）　発言順序１０番、御手洗剛でございます。本定例会最後の質問者となりました。今回、３項目を質問することになっておりますが、これまで

の議員が質問されましたことと重複する項目でございます。ひとつよろしくお願い申し上げます。

町長の令和３年度施政方針を受けまして、３項目質問をいたします。

１点目であります。新型コロナウイルス感染症の影響に関する経済支援対策についてであります。昨日現在、国内の新型コロナウイルス感染者は、４４万９，６６７人が感染者であり、８，７０２人がお亡くなりになったということが確認されております。我々津和野町においては、幸いにも感染者を出しておりません。このことについては、大変うれしく思っておりますが、町内経済は、全国的な新型コロナウイルス感染症拡大に伴いまして、観光、飲食、商工業を初め、産業全般に悪影響を及ぼし、倒産、廃業を余儀なくされるところ、売上げ減少が長期化し、先行き不透明で商店の悲鳴が聞こえております。まさに、深刻と言わざるを得ない状況にございます。本町においても、国のコロナウイルス感染症対策の臨時交付金を活用し、各種経済対策を講じてきているものの、昨今の全国的な感染症拡大から、町外からの入込客が期待できず、経済低迷の長期化を余儀なくされております。そこで、今後における経済対策への支援方法について、考え方について、また具体策についてお尋ねをいたします。

一つとして、更なる経済支援についての具体策は。

２番目に、財政支出の考え方について、お聞きいたします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、７番、御手洗議員の御質問にお答えさせていただきます。新型コロナウイルス感染症等の影響に関する経済支援対策についてでございます。

まず、コロナウイルス感染症緊急経済対策につきましては、昨年３月より、第７次にわたる様々な支援策を継続的に実施してきたところです。

一方で、議員御指摘のようにコロナウイルス感染症の収束はなかなか見込まれない状況にあり、今後も急速に入込客数、宿泊者数の改善が図られる状況にはないものと認識をいたしております。

こうした中で、今後、次年度における国の第３次臨時交付金を活用した経済対策に関する詳細を詰めていくことになります。ついては３月１２日、経済３団体長・事務局コロナ経済対策会議を開催するなど、関係機関とともに状況を分析し、より効果的な対策を目指して、４月早々には御提示をしてまいりたいと考えております。

次年度の施策となりますので、現在の段階で詳細な施策について答弁のできる状況にないことをお許しいただきたいと思いますが、実施済みの経済施策において、事業者ごとに業績の悪化の割合に応じて給付をいたしました業績悪化緩和運転資金給付や事業者の意欲ある営業の取組を支援する事業者独自キャンペーン、新商品開発支援、得々ドライブショッピング券などは特に皆様からの評価も高く、関係する機関からも一定程度

の効果があったとの分析を得ております。こうした状況も踏まえながら、次年度の本町の経済対策を講じてまいりたい考えであります。

次に、新型コロナウイルス感染症経済対策についての財政支出につきましては、現在、新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金（第３次補正予算）に係る事業計画書の作成を進めているところであります。国から示されました本町への第３次交付限度額１億３，７６７万８，０００円を財源として、有効に活用してまいりたいと考えております。

○議長（沖田　　守君）　御手洗君。

○議員（７番　御手洗　剛君）　昨年３月より、第７次にわたる経済支援対策については、事業者を初め、町民の方からもおおむね高い評価を得ていると考えております。次年度においても、引き続き経済支援対策を講じる必要があるとの認識の中で、国の第３次臨時交付金限度額１億３，７６７万８，０００円を財源とした経済対策を実施するとのことでございますが、感染症地方創生臨時交付金については、今後、事業計画をつくると、その上で、今、事業計画書を作成中ということでございます。今後におけるワクチン接種で、コロナウイルス感染症が収束した場合においても、冷え切った経済を町外からの入込客数を増加させ、観光の町津和野に向けていくためには、長期的な経済支援対策が必要であります。このような国の財源だけでなく、一般財源投入をも講じて対処する用意があるかについて町長にお尋ねいたします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　これまで様々な経済支援対策を行ってまいりました。本町におきまして、私は三つ特徴があるというふうに思っております。まずは、いち早くこの事業を着手できたということ、それから、長期に、約１年以上にわたっておりますが、業績悪化の緩和の給付とか、そういう事業等については、長期にわたって、現時点でもやれているということ、それから、様々な事業を展開してきたところでございまして、細やかな経済支援対策というのを打ってきたというところであります。これらは、特に本町としてやっぱりよかったのは、行政だけでなく、この商工会、あるいは観光協会、そうした方々、団体長、私も当然でありますが、事務局レベルでも、毎月１回のように、１回以上と言ってもいいかと思いますが、何度も話し合いを重ね合いながら、こうした経済支援対策を打ち出してきたというところにあるんじゃないかと思っておりまして、今後もこうした合同会議というのは繰り返し行いながら、いわゆる経済界の現場のいろんな厳しい状況というものをお聞きした上で政策に生かしてまいりたいと、そのように考えているところでございます。現時点まで、それから今後についても、第３次の国の給付金がございます。それを有効に活用させていただいているというところでもあります。国もだんだん経過するごとに国債も発行し、非常に財政力が厳しくなってきておりますので、この交付金が４次、５次とあるかどうかというのはわかりませんが、私の立場としては、やはり４次、さらには５次というようなことを見据えながら、給付金が出していただけるように、交付金と言ったほうがいいですか、どちらにしても第３次の臨

時の、交付金ですね、国からの交付金が継続していけるように、またしっかり働きかけをしていきたいというふうに考えておるところであります。ただ、そうした中で、４次以降が見込めないということになったときにということでありますが、またそれは３団体長等々の会議も経た上で、やはり厳しいと、やはり町としてさらなる経済支援が必要であるということになるならば、これは一般財源を投じてでもやるという覚悟は決めていかなければならないと、そのように思っておるところでございます。ただ、合同会議もしてきた中で、現在、先日の会議でもこれは議題に乗ったところでありますが、例えば今回コロナの経済支援対策で多くの事業者がいわゆるこれまでの借入れの借換えをされております。これについては、基本的には３年間償還の猶予があって、４年目から返済がまた始まっていくというような状況になっております。この３年の間の利子等は無利息というような有利な条件にもなっているわけでありますが、これが実際に利息等が、あるいは償還が関わってくる４年目以降でございます。既にこれが始まったときに、自分たちの商売はどうなるんだろうかというような厳しい声が上がっているというような状況でございまして、私としては、そうした声も踏まえながら、３年後のことなれど、やはり働きかけというものをまた始めていかなければならないんじゃないかというふうに考えております。

そういう意味では、金融機関でありますとか、あるいは信用保証協会、そうしたところへのそうした制度のさらなる支援のお願いというようなこともできるんではないかと思っておりまして、また今後も現場の声というものをしっかりお聞きしながら、我々行政の立場で、また町長としてできる役割というものをしっかり果たしていきたいと、そのように考えておるところでございます。

○議長（沖田　　守君）　御手洗君。

○議員（７番　御手洗　剛君）　御回答いただきました。今までの財政の関係で、町税等の収納についても同じような質問もあったわけでありますが、特に一番心配をしておりますのが、一番地方税としての大きい固定資産税についての支払い猶予された方があると。こういった方が果たして次年度において支払いがなされるかどうか、またしても猶予をお願いするような事態になっては、なかなか実質的な環境が改善したと言えないのではなかろうかなという思いもしております。町の財政指標も大変厳しいものがございますが、極力国への支援要請、これによって、経済が再生できますように、ひとつ今後とも御努力をお願いしたいと思います。

それでは、２番目に移ります。

新型コロナウイルス感染症予防のためのワクチン接種についてであります。我が国においては、今のところ、国産の新型コロナ感染症対応のワクチンはない中で、欧米のワクチンに頼らざるを得ない状況があります。供給は、供給を受ける契約はできているものの、確実な入手日が定かでないと聞きます。高齢者を中心として、接種が急がれますが、これらの対応について、お尋ねをいたします。

一つとして、想定されるワクチン接種のスケジュールはどのようになるでしょうか。

２番目に、接種の優先順位は。

三つ目に、接種の場所、体制は。

四つ目に、接種をするために必要なクーポン券等の配送について、どのようにされるのか。

五つ目に、その他、接種を受けるために、注意すべき事項については、このことについてお尋ねをいたします。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、新型コロナウイルス感染症予防のためのワクチン接種について、お答えをさせていただきます。

まず、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種につきましては、国の方針に基づき４月初旬から開始することで準備を進めてまいりましたが、報道でもありますとおり、本町への高齢者数分のワクチンの供給量と配送時期については、明確に示されていない状況にあります。現時点での国や県からの情報では、４月１９日の週にワクチン１箱、接種回数９７５回分が本町へ配分されるということになっていますが、その後の状況は未確定であります。

そのため、現在のところは４月下旬以降でワクチン接種を開始するスケジュールに変更し、準備を進めておりますが、今後の国からのワクチン供給量等によって更に開始時期がずれる可能性も考えられる状況となっております。

次に、ワクチン接種の順位といたしましては、まず６５歳以上の高齢者の方への２回接種を約３カ月程度かけて実施します。その後、６４歳以下の基礎疾患を有する方、及び高齢者施設等の従事者への接種となります。それ以外の６４歳以下の方への接種は、これらの方々が全て終わった後に実施することとなっております。

次に、本町における接種方法は、集団接種及び個別接種での実施を計画しております。

集団接種につきましては、津和野共存病院に御協力いただき、会場は、日原地域が役場第２庁舎、津和野地域は津和野体育館で実施することとしております。

個別接種につきましては、開業医である和崎医院との協議により、かかりつけの患者さんのみは実施していただけることで調整しているところであります。

次に、クーポン券の配送については、接種スケジュールの案内と合わせての発送を予定しておりますが、最初に申し上げましたとおり、本町へのワクチンの供給量と配送時期が明確に示されていないため、接種スケジュールを確定できない状況にあります。

今後の国からのワクチン供給スケジュール等の情報にもよりますが、４月下旬に接種を開始するためには、３月末までには発送しなければならないと考えております。

今回のワクチン接種をするかどうかは、本人の希望によるもので強制するものではありませんが、このたびのワクチン接種は、新型コロナウイルス感染症の拡大の防止と、

万が一感染をした場合の重症化を予防し、国民の生命と健康を守るために国が主導して取り組むものです。

町民の皆様におかれましても、御自身の健康を守り、一日でも早く日常を取り戻すために主旨を御理解いただき、ワクチン接種の御協力をいただきますようお願いしたいと思います。

また、ワクチンの接種に当たり、その接種部位は肩先となりますので、接種を円滑に進めていくためにも、接種の際には肩先をすぐに出せるよう脱ぎやすい服装で臨んでいただきますようお願いいたします。

なお、集団接種に当たっては、かかりつけ医がある方は、事前に主治医の先生と御相談をいただき、新型コロナウイルスワクチンの接種が可能かどうかを確認した上で会場へお越しをいただきたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　御手洗君。

○議員（７番　御手洗　剛君）　御説明もいただきました。本町における接種方法は、集団接種と個別接種での実施をするということであります。集団接種においては、津和野共存病院に協力いただき、会場は日原地域が役場第２庁舎、津和野地域は津和野体育館、個別接種は、和崎医院とし、かかりつけ患者さんのみの実施をしていただくとされております。集団接種、個別接種対応の人数なり、接種の終了時点をいつ頃と想定されておるか、また、介護施設入所者への対応については、どのようにされるのか、これについて確認をさせていただきます。

○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　まず、予定の人数でありますが、本町の場合、６５歳以上の方が約３，５００名ということで今予定をしております。そういう中で、大体８割程度の方が接種をされるんではないかというところでありますので、約３，０００名弱を基本的に計算の根拠とした数字として割り振っております。この今来る予定のワクチンというのが、ファイザー製というところのメーカーのワクチンでありまして、このワクチンは、１回目の接種した後、３週間後に２１日間隔で打つということが一番効果があるということになっておりますので、１回目を摂取された方が２回目を接種するのに当たって、きちんと３週間後にできるような形で今組んでいます。そういう中で、本町の場合約３，０００人を３週間で打つということの逆算の中で、１週間で１，０００人、１日で２００人程度の接種を今のところ予定をしておるというようなところであります。まだ、介護施設の入所者の方については、それぞれ嘱託医、それから協力医療機関というのがありますので、そちらのほう、こちらも結局のところ橘井堂の関係の日原診療所もしくは津和野共存病院ということになるわけでありますが、こちらに御協力をいただいて、入所施設におきましては、そちらの施設へ赴いて、接種ができるような形を今検討している段階であります。

○議長（沖田　　守君）　御手洗君。

○議員（７番　御手洗　剛君）　集団接種、特に６５歳以上の方々への対応でありますが、クーポン券の発送等計画されるということでありますが、これは、最初の段階で、２回目の接種日等についても同時にわかるように案内をされるのかどうか、これについてお聞きします。
○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。
○健康福祉課長（土井　泰一君）　クーポン券自体には、予約機能はありません。そこには、１回目に接種した、２回目に接種した、もしくは１回目接種ができなかった、２回目に接種ができなかったというようなシールみたいなものがついておりまして、それを予診表のほうに接種をしたら貼るというようなことで、その貼った予診票を回収して、うちがデータ入力をするというような流れになります。併せて、当然クーポンを送る時には、接種の日にちがきちっと確定をしていなければいけないわけでありまして、その時点で、クーポンを送った時点で、いつからいつまでの間に接種ができますので、あなたの接種をしたい日時を予約をしてくださいということで、クーポンの封筒の中に返信用の封筒を入れた用紙でありますとか、もしくは専用電話、それからメール、それから来庁いただいて予約いただくこともできますが、何らかの形で御予約をしていただきたいと思います。
　その後予約をしていただきました後に、私どもの課の中で調整をいたしまして、先ほども言いましたが、基本的に１日マックス２００人を予定しております。大体７時間ぐらい接種時間を設けようと思っていますので、例えば午前中に集中されても困りますので、それをまた細分化、７分割しまして、大体１時間に２０人から３０人ということで割り振りを作っていきたいと思いまして、それに合わせて予約をしていただく、最終的にはその予約が確定した段階で、あなたの１回目は何月何日の例えば月曜日ですということを記載した書類を町のほうからその当事者の方へ全員にお配りをするということにしております。その用紙の中に、先ほども言いましたが、３週間後にきちっと打つのが一番いいわけでありますので、何月何日の月曜日でしたら３週間後の月曜日に同じ場所、同じ時間帯で同じ会場に来てほしいということも合わせて、その中に折り込んだようなものの用紙を作りまして、そちらを、予約された方、全ての方に送付させていただいて、お間違いのないように御来場いただくというようなことを今のところ考えておるところであります。
○議長（沖田　　守君）　御手洗君。
○議員（７番　御手洗　剛君）　そうしますと、クーポン券の配送時点で、希望日を、配送されますと接種されたい人については、事務所の方へ連絡をして、日にちを決め、また同時に時間も決めるということでしょうか。わかりました。
　それから、集団接種においては、地域ごとに会場までのシャトルバスを運行されるということでありますが、これについての周知方法といいますか、これはどのような形で

やるのでしょうか、それとも、それと同時に、それぞれの方が希望する時間帯といいますか、これについては、わかるような形になるものでしょうか。
○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。
○健康福祉課長（土井　泰一君）　現在のところ、集団接種につきましては、例えば３週間今実施する、１回目を３週間、２回目を３週間、トータル的に６週間の予定で終わらすようにしようと考えておりますが、例えば１週目を日原地域、この第２庁舎で月曜日から金曜日まで、第２週目を例えば津和野地域、これちょっと入れ替わる可能性もありますが、津和野、日原は、第２週目は例えば津和野地域、津和野体育館で月曜から金曜まで、３週目は津和野地域と日原地域を半分ずつとか、そういう形で今のところ予定をしております。
　そういう中で例えば１周目の月曜日はできるだけ地域を分割をさせていただきたいと思っておりまして、例えば１週目の月曜日は日原地域、２週目は青原の方面、３週目は枕瀬、滝元方面と、例えばこういう形に分割をして、津和野側も１週目の月曜日は津和野地域、２日目は木部、畑迫地域、３週目は小川地域というような形で分割をさせていただきながら、一応その日のメインの地域の方の住まれておられる地域へ向けて、シャトルバスを何台かピストンでいきたいと思っております。ですから、例えば木部、畑迫の地域のときに、どうしてもその日でないとやれんという方がおられたときにはその日に、小川の方が来られるときには小川の方にはちょっとバスが小川地域には出せないけれども、その代わり畑迫、木部地域には、できるだけ多く、１時間に１本とか、もしくはその後は枝分かれした地域にも小さいバスが、例えばメインは２８人乗りだけど、枝分かれしたところにはちょっと１０人乗りぐらいのちっちゃいので、その代わり半日に、昼までに１回、昼から１回とか、その辺の今バスのスケジュールをつくっているところであります。
　そういうことはどこで周知をするかと言いますと、先ほど言いましたクーポン券を配送するときに、できるだけ、クーポン当然一人一人にあるわけでありますので、その方の地域に関係するバスのスケジュールの表を町独自で作りまして、それを例えば封入する、もしくは違う広報なんかででもお知らせをどんどんしていきたいということで今のところ考えております。ただ、これがなかなか今議員さん言われますように、ちょうど、実質予防接種、ワクチン接種を実施する時間としたら、来て接種して３０分休んでもらってて、１時間あれば大体確実に終わるとこなんですが、じゃあ着いて１時間後に帰るバスがちょうどあるかと言われますと、ちょっとそのことがうまくいくかどうかは全員の方が全てうまくそれでできるかどうかというのは今のところは難しいかなと。人によってはちょうどいいときもあるし、人によってはちょっと終わってから二、三時間待ってもらわんと自分のところへ帰るバスがないというようなこともそれは想定をされております。
○議長（沖田　　守君）　御手洗君。

○議員（７番　御手洗　剛君）　いろいろきめ細やかな接種者に対する対応が必要であろうというふうに想定がされます。そういった関係で、シャトルバスもそうでありますが、集団接種においては、会場での誘導といいますか、これについて、共存病院の医師、看護師さんも業務をしながらこの集団接種をされるということでもありますし、そのためには、職員等のお世話といいますか、また別な方法での対応を考えておられるのか、体制についてお聞きいたします。
○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。
○健康福祉課長（土井　泰一君）　共存病院のほうに委託をしております人員につきましては、基本的にはドクター１名、それから看護師が１名、それから事務方の方が１名、３名を現場に来ていただくようにしておりまして、残りのいろんな業務の業務担当をしていただくものにつきましては、町のほうで全部用意をするというふうに今のとこ考えております。そういう中で、どういう担当が要るかといいますと、例えば第２庁舎におきましても、御自分の車で来られる方もたくさんおられると思いますので、当然駐車場係が要ったり、まず入ってくるのに検温の係、それから受付をする方、それから記録を取る方、それからさっき議員さん言われますように、それぞれの方を誘導する方、高齢者がいますんで、本当、例えば車椅子で誘導しなければならない方も出てくるかなということも考えております。それから、予診票を確認する係、それから、接種済み証を予診票に貼る係、それから、先ほども言いましたが、終了した後に、３０分間そこで待機をしてもらう、その３０分を計測する係、こういう方々が、たくさんの方が事務員等が要るわけなんですが、当然本課からも保健師なり、それからまた雇い上げる看護師さん等も用意はしますが、それ以外の事務方を当初役場の職員の方でと考えておりましたが、結構な人数になりますので、これをちょっと役場のほうから毎日出すということはちょっと難しいということ、それで、あとは臨時職員を急遽集めるかと言いましても、恐らく１０人程度は必要かなと思っております。その１０人臨時職員で集めるというのもなかなか大変だということで、今現在考えておりますのが、民生委員さんが地域の方々をよく御存じでありますので、今、今月入りまして、津和野地域につきましては、民生委員の支部会というのが各地区４回それぞれあるわけでありますが、それと先日日原支部の支部会、これは日原地区全部一括で行われておりますが、それが定例会が毎月１回ある所へ私が出向きまして、５回全てに出向きまして、民生委員の皆様に空いている時間で空いている日にこういうワクチン接種についてのお手伝いをいただけないかというところでお願いをしてきたところです。これについて、日原側で１０人、津和野側で１０人程度の民生委員さんのお手伝いがしていただけると非常に助かるなというところで、今のところはそこをちょっと頼りにしているというところがあります。
○議長（沖田　　守君）　御手洗君。
○議員（７番　御手洗　剛君）　１０人程度もやはり必要になろうかということであります。民生委員さん等またそれ以外でもお手伝いできる方に対応が必要ではなかろうか

なというふうに思っておりますので、万全な対応がないと、高齢者を中心とするものでありますので、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

１２日でありましたが、行政改革担当大臣であります河野太郎氏の弁が出ておりまして、ファイザー製のワクチン、６月末までに約１億回分、５，０００万人分とかの調達、それから、全高齢者約３，６００万人分を６月末までに市区町村に届ける方針が示されております。７月以降が本格化するというふうに想定もされております。一般向け接種への移行は、高齢者なり、６５歳未満で基礎疾患のある人が終わってからの対応になると、このようにコメントされておるものであります。このことが現実的になるかどうかは今の段階ではわからないと思いますが、見解があればお願いをしたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　町長の答弁にもありましたとおり、現段階で確定をしていますのは、４月１９日の週に１箱、９７５回分が本町に届くということでありまして、今議員さん言われましたように、河野大臣、６月末には高齢者全員打てる分の６月末までには高齢者分のワクチンを送ると言っております。これが４月の例えば１９日の週に１，０００個、２６日の週に１，０００個、その次の週に１，０００個と、本町の場合は、先ほども言いましたように高齢者３，０００人くらいで計算しますと、６，０００回分あればいいわけです。２回接種するのに。ということは６箱あれば、大体足りるということなんで、毎週１箱が６週間来てくれれば一番いいんですが、河野大臣の言われますのは、６月末までには全員分を届けるということなんで、４月１９日の週に１箱来て、次が５月の半ばとか、例えば６月になって５箱いきなり届くとか、そういう形なのかという、そこが一番見通せないとこでありまして、非常に困っていると。これにつきましては、本町だけではなく、全国の市町村が非常にそこでどうしたらいいかということで困っておられるというところであります。国のほうも一生懸命対応していただいておるということは十分わかっておりますので、待つしかないというところで、いろんな形の想定をしながら、対応が瞬時にできるように、今準備を進めているところであります。

○議長（沖田　　守君）　御手洗君。

○議員（７番　御手洗　剛君）　今までにない、全国的といいますか全世界的な対応になるものでございます。なかなかワクチンの取り合いというふうな話まで放送されたりしているような状況の中で、我が国においてもスムーズな接種が進行するようにひとつ万全の対応がなされますように、御努力いただきたいというふうに思っております。

それでは、次に移ります。

高齢者の見守り及び買い物支援サービスについてであります。

津和野町総合戦略に位置づけております地域と連携し、住みよいまちをつくるという基本目標の中で、安心して住み続けられるまちづくりを推進するために、ＩＴを活用した高齢者等の見守りと、買い物不便者対策は、平成３０年１１月から、津和野町買い物

支援センターを拠点として行われております。このような形の中で、これまでの実績が十分に地域課題を解決するには至っていないと思わざるを得ません。このような状況を踏まえ、今後の展開について、お伺いをいたします。

一つ目といたしまして、センター開設後における年度別実績について、どのようになっておるでしょうか。

それから２番目に、実績が低迷していることについての分析と課題解決への道筋は。

三つ目に、誰しも自分で商品を見、選んで買い物をしたいという欲望を持つことは、当然のことであり、そのことが何よりの楽しみでもございます。しかし、高齢により、免許返納で交通手段がない方や、体力的にも買い物が困難な人が増加してきております。そのためにも、集落支援員を十分活用する中で、今日までのセンター活動を継続しながらも、移動販売を軸とする方向への転換は考えられないでしょうか。高齢者への移動販売を行うことで、町内食料品店が商品の仕入れ先として、また、遠隔地における小売店からの注文に対応するため、移動販売車が商品納入の対応を担えると、既存商品支援にもつながる一助ではなかろうかなと考えるものであります。今以上に取扱量を増やすことが、地域課題解決につながるのではないでしょうか。

○議長（沖田　　守君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、高齢者等見守り及び買い物支援サービスについてお答えをさせていただきます。

まず、高齢者等の見守り及び買い物支援サービスにつきましては、津和野町買い物支援センターを拠点として平成３０年１１月から実施しております。センター開設後における年度別実績といたしましては、平成３０年度の加入件数が見守り７件、買い物２２件、平成３１年度が見守り８件、買い物３８件、令和２年度３月１日時点で見守り６件、買い物６６件となっております。買い物の売上額では、平成３０年度が３７万９，３０７円、平成３１年度が１０９万７，３２９円、令和２年度の２月分までのところで２８１万６，７７８円となっております。

次に、買い物支援センターの現状についてでありますが、議員御指摘のとおり、見守りサービスにつきましては、加入件数が伸び悩んでいるところです。要因といたしましては、サービスの利用に当たっては、インターネットへの加入が必須となり、利用料５００円に加え、インターネット代の負担が大きいことが考えられます。一方で、買い物支援サービスにつきましては、センター開設当初に比べ、徐々に加入件数及び利用件数が増えてきている状況であります。その要因としましては、ここ数年の町内店舗の閉店による影響が大きいと考えられます。また、配達回数を増やしたことによる利便性の向上も利用者拡大につながっていると考えているところであります。今後は、さらに利用者拡大に向けた周知活動とニーズの把握に努めてまいりたいと考えております。

また、見守りサービスの課題解決といたしましては、買い物支援サービスを利用していただくことで、見守りの効果もあるというふうに考えており、今後のサービスの在り方について見直していく必要があると考えているところであります。

次に、買い物支援サービスを行う上で、実際の商品を見て買いたいという高齢者等の要望については把握しているところでございます。買い物支援センターでは、今後、公民館等と連携をして、生鮮食品以外の日用品等を各公民館においてもらえないかなど、サービスの拡充について検討していく予定であります。議員御指摘の移動販売につきましては、平成２６から２７年度に買い物空白地域での移動販売による社会実験を実施し、その過程で新規事業者が見つかり、実験終了後に事業を引き継いでいるという経過がございます。年数の経過とともに状況も変わってきていることから、民間事業者の移動販売の実態など、再度現状把握が必要であると考えております。昨年１２月には、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して冷蔵車２台を購入したところでもあり、利用者のニーズの把握を踏まえたサービスの在り方も含め、より有効性の高い制度になるよう検討してまいりたいと考えております。

次に、移動販売についてでありますが、現在行っている買い物支援サービスにおける参加商店は１９店舗で、年々利用件数も増えてきており、町内商品の売上げ向上にもつながっていると認識しております。買い物支援サービスは注文を受けた商品を集落支援員がピッキングし、利用者宅へ配達する仕組みでありますが、移動販売は売れ残った場合の在庫管理といった課題もあり、買い物支援サービスとは異なる商店との提携が必要になってくると思われるため、今後、慎重に検討してまいりたいと考えているところでございます。

○議長（沖田　　守君）　御手洗君。

○議員（７番　御手洗　剛君）　確かに、令和２年度においては、買い物の実績については、前年度に比べて大幅に上がっておるわけでありますが、これで、この２８１万、これは２月分までではありますが、２８０万程度の取扱量、売上げが十分であるかというと、やはりもう一つまだまだ足らないというふうに実感をするものであります。この延びた要因として想定されますのは、いろいろあろうかと思いますが、やはり集落支援員さんの努力も大きいんではなかろうかなというふうに思っておるものであります。この集落支援員さんなりの対応というのは、今後も重要な位置づけになるというふうに思っております。

買い物不便者は、人口減少や高齢化の進展、町内食料品販売店の急減により、遠隔地の高齢者はもとより、町中心部の住民にも及んでおり、まさに社会問題化している実態がございます。高齢者への買い物支援サービスは、福祉施策としての位置づけが必要ではないでしょうか。これは、合併後において、生活バスの運行が現在なされており、多額の経費はあるものの、到底採算性は望めない対応の中で、住民に安心を与えているところであります。この買い物支援サービスも同じように、つわの暮らし推進課、健康福

祉課、医療対策課等の連携の中で、今後もしっかりとして対応していく、まさに福祉の事業だということの位置づけが必要であろうかというふうにも思っております。

先ほどありましたように、幸いにもふるさと納税の寄付金が６，０００万を超えるほどの状況にもなっております。移動販売等の対応の中で、このふるさと納税の寄付金を充当するなど、今後の検討の必要があろうかと思いますが、これについてお聞きいたします。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　議員御提案のふるさと納税等も財源としながらの、移動販売等の検討という部分でありますが、今、町長が先ほど答弁で答えましたとおり、在庫管理の面から、今の集落支援員さんに移動販売していただくというのは、ちょっと現在のところではもうちょっと検討が必要かなというふうに考えております。

それと、今町内のほうで、移動販売をやっていらっしゃる方が、直近で調べましたところ、約５社ございます。これは町内だけでなく、益田市や萩市からも来ておられるというふうに調査結果が出ております。こうした方々も民間としてやっていらっしゃるという現実もございますので、民業圧迫とは申しませんが、買い物支援対策をする以上は、そうした民間の方々とも連携をしながら、移動販売をもしやるのであれば、しっかり協議をしていかなければならないというふうに感じております。また、福祉部門といいますか、そうした位置づけも必要であろうということは、我々も重々承知をしておりまして、健康福祉課、医療対策課等と協議をしながら、本当の意味での買い物不便者対策には、どういった形が有効であるかということも含めて検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（沖田　　守君）　御手洗君。

○議員（７番　御手洗　剛君）　前々から私、この買い物支援対策について質問をさせていただいております。島根県農協においても、西いわみ地区本部でありますが、民間産業の中で、この移動販売をされる方を募集をしておったわけでありますが、なかなか担う方がおられないというのが最近の状況であります。これについての問題点を見たときに、やはり移動販売を行う上での問題点としては、人件費と燃料経費、これがかなりの固定費につながる、これで民間参入が期待できていないというふうな現状があるようであります。そういった中で、近隣のあぶらんど萩店は、福祉施策として、特に燃料費への対応として当初予算で１台３００万程度の予算立てをしながら、どうにか遠隔地への対応をしておるという実態を見ております。このことについて、移動販売で、やはり商品を見て買っていただくということが一つ今まで以上に増やすことが、ただ、こんなもの要りませんかというふうな形の中で電話対応での注文というのは、限度があるんではなかろうかなというふうな思いがしております。

委託先であります株式会社津和野開発におかれまして、行政との移動販売についての協議ということもされておるのか、また、今後されるのか、こういったことについてお聞きしたいと思います。
○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。
○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　現在は、今委託先の津和野開発とはまた移動販売についての協議は行っておりません。ただ、先ほど町長の答弁の中にもありましたとおり、新型コロナ対策の関連で、今年度冷蔵車を２台購入しております。これは、普通の軽トラックぐらいのサイズで、運転席、助手席の後ろが冷蔵車になっておるわけですが、それを購入して、今配達しておるんですけど、非常に効率がよくなっております。これは、先々、移動販売もあるのではなかろうかということも含めて、コロナ対策関連という観点からでございますが、そうしたことも視野に入れて、購入したものです。今のところでは、委託先の株式会社津和野開発とは協議が進んでおりませんが、そういう冷蔵自動車も入手しましたので、今後の有効活用も含めて、検討する中で、この本当に移動販売が議員おっしゃるように目で見て買っていただくという環境ができるのであれば、検討してまいりたい、一方で、議員のいらっしゃる木部地区では、まちづくり委員会等で実際の配達業務をまちづくり委員会の地域提案型支援事業等行っていただいております。そういうやっぱり高齢者の方々が目で見て注文して、買っていただける環境というのができるようであれば、今後、当課でも考えていきたいなというふうに考えております。
○議長（沖田　　守君）　御手洗君。
○議員（７番　御手洗　剛君）　委託先が一応津和野開発になっております。やはり、買い物支援に対して、今後どのようにするかについては、定期的といいますか、やはり当然ながら検討を続けていかれるということが大事ではなかろうかなというふうに思っております。
それから、先ほど移動販売について、５社程度この管内にあるというふうなことでありましたが、全てがいろんな商品を持って歩いておられるわけではないというふうに思っております。乾物であったり、そういったことで萩のほうから来られている方もあります。そういったことの中で、この大きな課題となっております買い物難民対策、公民館等の活用も考えておられるようでありますが、いろんな社協等にいろんな支援をしながら、仕事を担っていただいておる中で、触れ合いの場とか、健康を守る会とか、そういった活動が公民館で開催されております。そういった時点にわざわざ集まられた高齢者が、介護の一環の中で、そういった行政を中心とした施策の中で、商品を見ていただいて買っていただくといいますか、そういったことの対応がそういった機会になされれば、多少でも波及効果があるんじゃなかろうかなと。人が集まる場所に対応すれば、それぞれのお年寄りが私もほしいな、これいいねというふうな格好の中で、徐々に拡大していくんではなかろうかなというふうな思いがいたします。地域と連携して取り組むと

いうことがやはり必要でもございますので、その一番の拠点であります公民館、これも十分に御理解いただきながら、対応ができないかなという思いでおります。

なお、買い物不便者の対策については、町内周辺部だけの問題ではございません。最近では、先ほどありましたような町中心部で食料品販売店、やめられたとか、本当数少ないものになってまいりました。このような現状の中で、今残られている食料品店さんをこれ以上減らさない、これに支援できる対応というのは、やはり命題であろうかというふうに思っております。ひとつ今後ともこういった対応について、各課連携の中、また委託先とも協議を続けながら、対応していただきますようにお願いしておきます。コメントがありましたら。

○議長（沖田　　守君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　おっしゃるように、今、旧津和野地区では、キヌヤさん、それから旧日原地区ではニチマルさんが一番多い注文件数になっています。ですから、議員おっしゃるように、町の中心部でも、買い物不便者の方がやっぱりいらっしゃるのが実態でございます。実際、買い物不便者の登録していらっしゃる方で、町場の方もいらっしゃいます。そういう意味でいうと、町内の業者の方々の飲食店を使った、御利用させていただいた中で、この買い物支援サービスをしっかり構築していかなきゃならないと思っていますので、もちろん、今の公民館との連携ですとか、当然委託先の津和野開発との協議は、これは定期的に重ねてはおるわけですが、そうした中しっかり問題点を共有して、改善を重ねて、尚且つ議員おっしゃるような町内のいわゆる食料品店さんとの連携を深めて、きちんと買い物不便者対策になり得るよう、スキームを作り上げていきたいというふうに考えております。

○議長（沖田　　守君）　御手洗君。

○議員（７番　御手洗　剛君）　以上で、質問を終わります。

○議長（沖田　　守君）　以上で、７番、御手洗剛君の質問を終わります。

以上で、本日までで一般質問を全て終結をいたしました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（沖田　　守君）　以上で、本日の日程全て終了いたしました。

本日はこれで散会といたします。

午後３時 12 分散会

―――――――――――――――――――――――――――――――――――

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

年　　月　　日

議　　長

署名議員

署名議員

令和３年　第３回（定例）津　和　野　町　議　会　会　議　録（第５日）

令和３年３月 23 日（火曜日）

議事日程（第５号）

令和３年３月 23 日　午前９時 00 分開議

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　町長提出第 51 号議案　令和２年度津和野城山整備事業ライトアップ整備工事請負変更契約の締結について

日程第３　町長提出第 52 号議案　令和２年度原木・チップヤード建設工事請負契約の締結について

日程第４　町長提出第 53 号議案　令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１５号）

日程第５　町長提出第 54 号議案　令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第５号）

日程第６　町長提出第 55 号議案　令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第５号）

日程第７　町長提出第 56 号議案　令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第４号）

日程第８　町長提出第 57 号議案　令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第５号)

日程第９　町長提出第 40 号議案　令和３年度津和野町一般会計予算

日程第 10　町長提出第 41 号議案　令和３年度津和野町国民健康保険特別会計予算

日程第 11　町長提出第 42 号議案　令和３年度津和野町介護保険特別会計予算

日程第 12　町長提出第 43 号議案　令和３年度津和野町後期高齢者医療特別会計予算

日程第 13　町長提出第 44 号議案　令和３年度津和野町下水道事業特別会計予算

日程第 14　町長提出第 45 号議案　令和３年度津和野町農業集落排水事業特別会計予算

日程第 15　町長提出第 46 号議案　令和３年度津和野町奨学基金特別会計予算

日程第 16　町長提出第 47 号議案　令和３年度津和野町診療所特別会計予算

日程第 17　町長提出第 48 号議案　令和３年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計予算

日程第 18　町長提出第 49 号議案　令和３年度津和野町病院事業会計予算

日程第 19　町長提出第 50 号議案　令和３年度津和野町水道事業会計予算

日程第 20　発委第１号　津和野町議会会議規則の一部改正について

日程第 21　請願第７号　浸水害等の避難収容施設設置に関する請願について

日程第 22　請願第１号　「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める請願について

日程第 23　総務経済常任委員会の所管事務調査報告について

日程第 24　文教民生常任委員会の所管事務調査報告について

日程第 25　議員派遣の件

日程第 26　各委員会からの閉会中の継続調査の申出について

追加日程第１　発議第１号　最低賃金の改善と中小企業支援策の拡充を求める意見書（案）の提出について

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　町長提出第 51 号議案　令和２年度津和野城山整備事業ライトアップ整備工事請負変更契約の締結について

日程第３　町長提出第 52 号議案　令和２年度原木・チップヤード建設工事請負契約の締結について

日程第４　町長提出第 53 号議案　令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１５号）

日程第５　町長提出第 54 号議案　令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第５号）

日程第６　町長提出第 55 号議案　令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第５号）
日程第７　町長提出第 56 号議案　令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第４号）
日程第８　町長提出第 57 号議案　令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第５号）
日程第９　町長提出第 40 号議案　令和３年度津和野町一般会計予算
日程第 10　町長提出第 41 号議案　令和３年度津和野町国民健康保険特別会計予算
日程第 11　町長提出第 42 号議案　令和３年度津和野町介護保険特別会計予算
日程第 12　町長提出第 43 号議案　令和３年度津和野町後期高齢者医療特別会計予算
日程第 13　町長提出第 44 号議案　令和３年度津和野町下水道事業特別会計予算
日程第 14　町長提出第 45 号議案　令和３年度津和野町農業集落排水事業特別会計予算
日程第 15　町長提出第 46 号議案　令和３年度津和野町奨学基金特別会計予算
日程第 16　町長提出第 47 号議案　令和３年度津和野町診療所特別会計予算
日程第 17　町長提出第 48 号議案　令和３年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計予算
日程第 18　町長提出第 49 号議案　令和３年度津和野町病院事業会計予算
日程第 19　町長提出第 50 号議案　令和３年度津和野町水道事業会計予算
日程第 20　発委第１号　津和野町議会会議規則の一部改正について
日程第 21　請願第７号　浸水害等の避難収容施設設置に関する請願について
日程第 22　請願第１号　「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める請願について
日程第 23　総務経済常任委員会の所管事務調査報告について
日程第 24　文教民生常任委員会の所管事務調査報告について
日程第 25　議員派遣の件
日程第 26　各委員会からの閉会中の継続調査の申出について
追加日程第１　発議第１号　最低賃金の改善と中小企業支援策の拡充を求める意見書（案）の提出について

出席議員（12 名）

１番　草田　吉丸君	２番　米澤　宏文君
３番　川田　　剛君	４番　道信　俊昭君
５番　板垣　敬司君	６番　丁　　泰仁君
７番　御手洗　剛君	８番　三浦　英治君
９番　寺戸　昌子君	10 番　後山　幸次君

11番　岡田　克也君　　12番　沖田　　守君

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名
局長　福田　浩文君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	下森　博之君	副町長 ……	島田　賢司君
教育長 ……	世良　清美君	総務財政課長 ……	岩本　要二君
税務住民課長 ……	山本　慎吾君		
つわの暮らし推進課長 ……			宮内　秀和君
健康福祉課長 ……	土井　泰一君	医療対策課長 ……	下森　　定君
農林課長 ……	桑原　正勝君	商工観光課長 ……	藤山　　宏君
環境生活課長 ……	清水　浩志君	建設課長 ……	益井　仁志君
教育次長 ……	齋藤　道夫君		

午前９時00分開議

○議長（沖田　　守君）　おはようございます。

引き続きのお出かけ、ありがとうございます。

ただいまより、令和３年第３回定例会５日目の会議を始めたいと思います。

ただいまの出席議員数は１２名の全員であります。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

――――――――――・――――・――――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（沖田　　守君）　日程第１、会議録署名議員の指名。

会議録署名議員は、会議規則第１２６条の規定により、５番、板垣敬司君、６番、丁泰仁君を指名します。

――――――――――・――――・――――――――――

日程第２．議案第５１号

○議長（沖田　　守君）　日程第２、議案第５１号令和２年度津和野城山整備事業ライトアップ整備工事請負変更契約の締結についてを議題といたします。

執行部より提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　それでは皆さん、おはようございます。
　今定例会に追加でお願いをいたします案件は、契約案件２件、一般会計を初め、各会計補正予算案件５件でございます。いずれも重要な案件でございますので、慎重審議を賜り、可決賜りますようよろしくお願い申し上げます。
　議案第５１号でございますが、令和２年度津和野城山整備事業ライトアップ整備工事請負変更契約の締結について、議会の議決を求めるものでございます。
　詳細につきましては、教育次長より御説明を申し上げます。
○議長（沖田　　守君）　教育次長。
○教育次長（齋藤　道夫君）　おはようございます。
　それでは、議案第５１号について御説明申し上げます。
　工事請負契約の変更をしたいので、地方自治法第９６条第１項第５号の規定により、議会の議決を求めるものでございます。
　まず、契約の目的でございますが、令和２年度津和野城山整備事業ライトアップ整備工事でございます。
　契約の方法でございますが、随意契約でございます。
　契約の金額につきましては、変更の金額が９，４９３万３，３００円でありまして、変更前の金額が１億３，２００万円で３，７０６万６，７００円の減額変更をさせていただくものでございます。
　契約の相手方でございますが、住所、島根県益田市遠田町１９１６番地４。
　氏名　北陽電気工事株式会社代表取締役岡﨑　寛でございます。
　裏面に、資料といたしまして、工事請負変更仮契約書をつけておりますので、御覧いただきたいと思います。
　それから、次のページに、参考資料１をつけております。
　当初契約の概要につきましては、御覧のとおりでございます。
　変更の概要のほうを御覧ください。
　変更契約額でございますが、９，４９３万３，３００円で、３，７０６万６，７００円の減額でございます。
　変更の理由についてでございますが、まず、当初設計で予定をしておりましたＥＭエコケーブルにつきましてメーカーに確認をしましたところ、新型コロナウイルスの関係で在庫の確保に時間がかかるということが判明し、納期が確定できないということでございましたので、資材の納期の遅れにつきましては、全体の工程にも影響が出ることから、同等品に変更したものでございます。
　このＥＭエコケーブルといいますのは、環境にやさしい材料、あるいは環境への影響を低減した材料を用いた電源ケーブルのことでございます。この変更によりまして、ケーブルの単価が大きく下がったものでございます。

二つ目の変更理由ですけども、ＬＥＤの投光器の設置個所につきまして、当初計画で予定しておりました場所よりも照射に適した場所が確保できましたので、投光器の数を減らしても、石垣を照らすのに必要な光量を確保できるということが判明したため、ＬＥＤ投光器の数と、それに伴う器材の数を減らすことができました。

ＬＥＤ投光器の数としましては、当初、４９．５ワットのものを２６台計画をしておりましたが、これが１９台になりました。それから、１１６ワットのものを６台計画をしておりましたが、これが不要になりました。合計で１３台のＬＥＤ投光器を減らしております。

以下の２点により、全体工事費に変更が生じたものでございます。

次のページに、参考資料２というのをおつけをしております。

この図面上にバツ印がつけてありますが、これが今回、減らした投光器の場所でございます。全体の投光器の数としましては、表が３つありますけども、この下の表の照明器具凡例という表２を御覧ください。

この表で示してありますとおり、４９．５ワットのものが、スパイク付と置基礎と２種類ございますけども、この照明が合計で１９台、それから、１１６ワットのものにつきましては、先ほど説明しましたように６台が０台、２５４ワットのものにつきましては、これは変更なしで１３台ということで、設置をすることとしております。

なお、本工事の仮契約は、津和野町議会の議決を得たとき、何らの手続することなく、本契約となるものでございます。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。ありませんか。６番、丁泰仁君。

○議員（６番　丁　　泰仁君）　昨日、６時過ぎぐらいですかね、ライトアップされてました。本当幻想的でね。１つの夜間の名勝ができたような、そんな感じを受けました。すばらしいものです。

それで、ちょっと二、三、関連してお伺いしますが、これはライトアップの期間、要するに、季節的に冬期もやるのか、それから今度は、曜日的にね、毎日やるのか、そこら辺が１点。

それから２点目ね。やはり、あれだけのライトアップしますと、水光熱費という問題で、財源負担が出てくるんじゃないかと思うんですが、財政に、どこから何を使って、どれぐらい年間水光熱費というか、そういうところを予定しているのか、そういうところをちょっとお聞かせください。

○議長（沖田　　守君）　教育次長。

○教育次長（齋藤　道夫君）　昨日は、点灯しましたのは、皆さん、御覧になられた方も多いかと思いますが、照明器具の調整でして、角度調整とか、そういった形で点灯させていただきました。

期間につきましては、まだ正直なところ、いつからやるというのは、これから協議をして決めることになろうかと思っております。

光熱費については、副町長のほうから。

○議長（沖田　　守君）　副町長。

○副町長（島田　賢司君）　昨日、傾斜の確認に私も同席をさせてもらいまして、見させていただきました。今、期間等につきましては、次長が言いましたように、これから協議していくと。

光熱水費が、昨日、電気屋さんもいましたんで、大体、１日当たりどのくらいかかるかというのをちょっと質問してみたんですけど、大体、１万円弱になるんじゃないかと。そうすると、３６５日だと相当の金額が要りますんで、これから、どのくらいの期間、それとか時間的なもの、そういうのを今から、本格的に協議して決めていきたいと思います。

財源につきましては、寄付がちょっと残りますんで、それでお願いできるか、一般財源で見なければいけないかというのを、これも同じように、これから協議になってくると思います。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第５１号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第５１号令和２年度津和野城山整備事業ライトアップ整備工事請負変更契約の締結については、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３．議案第５２号

○議長（沖田　　守君）　日程第３、議案第５２号令和２年度原木・チップヤード建設工事請負契約の締結についてを議題といたします。

執行部より、提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　議案第５２号でございますが、令和２年度原木・チップヤード建設工事請負契約の締結について、議会の議決を求めるものでございます。
　詳細につきましては、担当課長より御説明を申し上げます。
○議長（沖田　　守君）　農林課長。
○農林課長（桑原　正勝君）　おはようございます。
　それでは、ただいま、議案第５２号で提出いたしました令和２年度原木・チップヤード建設工事請負契約の締結について御説明をいたします。
　これにつきましては、地方自治法の第９６条第１項第５号の規定により、議会の議決を求めるものでございます。
　工事名は、令和２年度原木・チップヤード建設工事でございます。
　契約の方法は一般競争入札でございます。
　契約の金額は２億６，０７０万円で、このうち、取引に係る消費税及び地方消費税の額は２，３７０万円でございます。
　契約の工期につきましては、着工については、津和野町議会の議決のあった日の翌日、完成につきましては、令和３年３月３１日となっております。
　契約の相手方ですが、島根県鹿足郡津和野町瀧元５８番地１、株式会社日成建設代表取締役坂﨑和義でございます。
　１枚めくっていただきますと、裏面に資料の１を添付してございます。
　建設工事請負の仮契約書でございます。工事名以下につきましては、先ほど御説明したものと重複するところがございますので、御覧いただけたらと思います。
　なお、この仮契約につきましては、津和野町議会の議決を得たとき、何らの手続をすることなく、本契約となるものでございます。
　その隣のページから、参考資料として１、２、３、４を添付しておりますので、順番に説明をさせていただきます。
　まずは、参考資料の１を御覧ください。
　この図面は造成計画の平面図であります。津和野町枕瀬地内の元砕石場があった場所のところを開発して行う形の平面図であります。
　今回の工事の敷地は図面の中の薄い黒色と濃い黒色及び濃い黒色の左端にあります小さな仕出し部分がございますが、こちらのほうも該当になっておりますので、この面積は合計で７，３９４平米であります。
　国道１８７号線が左上から中央の下部に向かって走っておりますが、左上付近が日原方面、中央の下部のほうが左鐙の方面であります。国道の左上、倉谷橋付近が敷地への入口となっておりまして、敷地に入りまして、右側へ曲がって約１８０メートルほど奥まで、細長く伸びている敷地が対象の地域でございます。
　なお、濃いめの黒い部分につきましては、チップヤードの建屋建設と重機が作業をするために強度が必要であるため、ここの部分はコンクリート舗装を行うという形で進め

ていくもので、その他の部分については、アスファルト舗装というふうに形になっております。

右側の奥部のアスファルト舗装２，８０９平米と書いてある部分が、ここにつきましては、森林から伐採搬出された木材を積み上げ、チップ加工するまでの間、一時的に保管をするための原木のストックヤードとしての使用する部分であります。

採石場跡地があったため、深さが約３０メートルの沈砂池があったのはここの部分で、原木ヤードとしての使用する大半の部分がここに当たっておりまして、ここが調査をした結果、軟弱地盤であるということが判明しまして、地盤の改良工事も行うこととなったという箇所でございます。

コンクリート舗装部分の左端に、小さな白い白地がございますが、ここもコンクリート舗装をする部分ではありますが、電源用のキュービクルが設置される部分ですので、このような表示となっております。

敷地内の雨水を排水処理するために、周囲に道路用の側溝を設置し、右側の原木ヤードの予定をしておりますコンクリートの舗装に設置しておりますところと、アスファルト舗装のところとコンクリート舗装との境目のところにつきましては、自由勾配側溝も設置する形に計画をしております。

なお、国道側に白地で発電所計画区域というところが、ちょっと大きめの白地がございますが、こちらにつきましては、来年の３月までのところで、東京のほうに、今、登記されております津和野フォレストエナジー合同会社様が木質バイオマスガス化発電所を建設をする予定地でありますので、今回のこの工事には含まれてありません。

次に、参考資料の２を御覧ください。

この図は配置図であります。中央部分にチップヤードの建屋建設の計画位置が示してあります。一番外側の小さな点線で書かれている部分につきましては、上空から見た際の屋根の端の範囲に当たる部分が示されております。少し内側に、実線で示されておりまして、少しくぼんだＬ字型みたいな形にはなっておりますが、こちらの部分につきましては、建屋の柱が立つ部分を線で結んだものとなっております。

実線と点線の間の部分につきましては、屋根はついておりますが、屋根が張り出しをしておるという状況であります。

図面の中の県条例第４条、崖地にかかる部分（建築物無し）と（建築物有り）という表示がございますが、この建設予定地につきましては、崖地がありましたので、建築物を建設する際には、これに該当するところは建設ができないという区域を示したものであります。

建築物無しの区域については問題ありませんでしたので、右側からのエリアにつきましては問題がございませんが、建築物有りの部分については該当をしておりますが、これにつきましては、倉谷川を挟んで、対岸の山の部分が高いということがありまして、対象に、まずは第１段階でなったものでありますが、その後、測量調査を行いまして、

規定以上の川幅があり、水面から建設敷地までの間に、土砂崩れ防止となる堤防、あるいは土塁状のものがあるということが認められたので、ここの部分に建屋を建設してもよいという許可が下りておるものでございます。

また、図面の中には、旧事務所撤去という表示がございますが、ここの部分につきましては、発電所の計画区域内でございますので、今回の事業には含まれておりません。

続きまして、参考資料の３を御覧ください。

この図はチップヤードの図面であります。最上部に平面図がございます。その下に、４方向からの立体図という形になっております。建屋は基礎部分が厚みが３０センチ厚、高さ５メートルのＲＣ構造で、その上に鉄骨の柱が立ち上がり、屋根については、ガルバリューム鋼板仕上げとなります。建屋の床面積は６４６．６７５平米となっております。

最上部の平面図では、右端に篩機という形で、チップを選別して送り出す機械が設置をされ、その隣にある破砕機というものでチップをつくって、篩機へ投入されると。それで、選別されたチップについてはベルトコンベアーによりダスト、ピンチップ、ピンチップ、切削チップ、切削チップという５つの部屋が分かれておるところがございますが、この５種類のところへ運ばれていくという仕組みになっております。

ダストというのは、１センチ角未満の小さなチップ、ごみというような表現も当たるのではないかと思いますが、余り利用できないような細かなものがここに入ってくるという形で、発電用には使用できないものであるために、取り除かれるというものでございます。

発電所で使用するものについては、１センチ角以上６センチ角未満というものを使います。チップにはピンチップ、切削チップの２種類があり、粉砕機でハンマーのようなもので叩きめいでつくるチップの破砕型と、丁能という形で、くわのようなもので削るというような形のイメージですが、ここの削り取ってチップにする切削型という２種類がありますので、まず、ピンチップと切削チップの２種類に部屋が分かれております。

尚且つ、チップにする樹木の種類が、杉とヒノキの針葉樹と、それ以外の広葉樹という形で分かれますので、ここでも２つに分けるという形になりますので、最終的に、チップを保管するための場所については４か所が必要という形になりますので、４つの部屋が設けてある形になります。

左端に斜めに表示されているのは、搬出された木材の重量を計測するためのトラックスケールと呼ばれる計量器を設置する部分であります。そのすぐ横のところに計量室を設置をしております。

次に、下に表示してあります立体図のほうですが、中央の横長の図面で見ていただきますと、ベルトコンベヤーを設置をして、チップを指定した５つの箇所へそれぞれ運んでいき、保管をするという仕組みを御確認いただけるのではないかと思います。反転を

したり正転をしながらという形でチップが流れていき、指定された箇所に落ちていくという形の図になっております。
チップを保管する５つのヤードにつきましては、先ほど申しましたように、厚さが３０センチ、高さ５メートルのコンクリート壁で仕切られておりまして、発電所へチップを運搬をするという形になりますので、発電所側のみが入口が開放されているという形の構造になっております。
先ほど説明いたしました電源用のキュービクルの位置あるいは屋根の張り出しの部分につきましても、この図のほうで御確認がいただけると思います。
最後に、参考資料の４を御覧ください。
この図はチップの搬送ラインの計画図であります。
右端のところに、中央に横長のものが２つ、上からの平面図、横からの立体図がございますが、いずれも右端のところに破砕機が付くという形になります。そのすぐ横にチップを選別する篩機がございます。篩機で選別をしたチップにつきましては、ベルトコンベヤーに乗って、それぞれ指定されたところへ、保管場所のほうへ搬送されていくという形になります。
一番右端のところで、参考資料の３では表示ができなかった部分がございますが、篩機で選別をした際に、６センチ角以上のチップが発生することがございます。これにつきましては、破砕機に再度チップが戻っていくためのラインが１つ設けてあります。ですので、ここに表示としてベルトコンベヤーが戻っていくというラインがもう１つ加わってあります。
少し長い説明となりましたが、以上が今回の事業の説明となります。
○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。
以上で提案理由の説明を終わり、これより質疑に入ります。ありませんか。
１０番、後山君。
○議員（１０番　後山　幸次君）　課長さんに今、懇切丁寧に説明をいただきましたが、まず、この入札に何社参加されて、落札率は何％でありましたか。そして、この完成工期が令和３年３月３１日とありますが、これで工事ができるんですか。この日程の設定は、完成日程の設定をどういうふうにしてされたのか。一回それだけ、先に聞きましょう。
○議長（沖田　　守君）　農林課長。
○農林課長（桑原　正勝君）　ただいまの御質問ですが、入札に応じられた会社は３社でございます。落札率は９８．７８％であります。
もう１点の御質問ですが、工事の工期の完成が３月３１日となってございますが、当初の計画では、このような形で契約をさせていただいておりますが、議会のほうの御承認をいただいた後に、この後、工期の変更の契約を交わしていきたいと考えておりまし

て、県の方を通じましても、国の方と繰り越しをさせていただきたいという形の今、協議がまとまっておるという状況にはなっております。
○議長（沖田　　守君）　１０番、後山君。
○議員（１０番　後山　幸次君）　ということは、今年度中にもう一回、この工期の変更契約をするということになろうと思う。そのような考えでいいんですね。3回しか言われんけえ、しっかり言うときますんで。
　先ほど説明がありました、前からも私も質問しておりますが、この場所が当初、砕石場でありました。それで、ここは相当深い砕石をとって、３０メートルから恐らく４０メートルぐらいの深さがあったんじゃないかというふうに、私は思っておりますが、これを一散に埋め戻しをされております。そうした場合、路体盛土、路床盛土のこの転圧はどのような方法でやられたのか、その説明をいただきたい。
　そして、建物を建てられるわけですが、沈砂池が出るのか出ないのか、地盤沈下を起こす恐れはないか、私は大いにあるというふうに思っておりますが、そのことを、この前も予算のときに質問しましたら、周りに側溝、排水溝を設けるというふうなことで、今日、排水溝の図面がつけてあります。排水溝をつけても、表面水は取れるかもしれませんが、山に浸透した水は地盤沈下を起こすように、路体の中で入って来るんですから、絶対に地盤沈下が起こる恐れがあるわけであります。そのために、路体盛土、路床盛土というのは、段階を踏んで、転圧をしてこにゃならんようになっとるんです。それが、今までにこの埋め戻しをやられた段階で、そういう手段でやられておるのかないのか、それをお伺いいたします。
　課長さん、その当時おってないので大変、これを質問するのは失礼かもしれませんが、わかる範囲でお答えいただきたい。
○議長（沖田　　守君）　農林課長。
○農林課長（桑原　正勝君）　それでは、最初の御質問ですが、繰越しの事業として行うということの考え方になりますので、大変申し上げにくいですが、臨時議会のほうを開催をさせていただくという形になろうかと考えております。
　それから、砕石場のところに沈砂池がありまして、約３０メートルというふうな形で聞いております。これにつきましては、２５年の激甚災害が起こった際の残土処理をする際に、こちらのほうに埋めていったということを伺っております。その際には、下から順番に固めるための剤を添加しながら混ぜて、上まで上げていったというふうには聞いておりますが、その量と厚みについては、詳しい詳細は私のほうではちょっとまだ聞いておりませんが、方法とすれば、渦巻き状に車で降りていって、順番に土砂を下ろしていって、添加剤を混ぜながら上に積み上げていったというふうには伺っております。
○議長（沖田　　守君）　町長、あの繰越しの案件は町長のほうから再度、臨時会の案件も含めて。町長。
○町長（下森　博之君）　工期が変更ということでございます。

このたびの入札でありますので、３月３１日ということでさせていただいておりますが、当然、これは繰越しをさせていただかないと工事の完成ができないという状況でもあります。議会のほうには大変恐縮、異例のことではありますが、３月２６日の日に臨時議会をお願いをしているところでございます。この中で、工期の変更について、議会の御承認をいただくようにしていくような予定にしておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げたいと思います。

○議長（沖田　　守君）　後山さん、よろしゅうございますか。

ほかにありますか。４番、道信俊昭君。

○議員（４番　道信　俊昭君）　入札に参加したところの後２社の名前をちょっと言うてください。

○議長（沖田　　守君）　農林課長。

○農林課長（桑原　正勝君）　堀建設様とナガヨシ技建様であります。

○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。１０番、後山幸次君。

○議員（１０番　後山　幸次君）　私は本案件につき、反対の立場で討論をいたします。

木質バイオマスガス化発電については、議会でも平成２８年３月２９日に、調査特別委員会を設置して、平成２９年５月１４日まで、実に１４回の委員会を開催し、調査をしてまいりました。

地域再生計画の１つの手段として、バイオマスガス化発電所の建設運営は民間主体で進むことになる。町としては、資金調達に対する債務保証、経営による損失補償はしない。附帯設備に対しては町が行うが、山林境界など、地籍調査が進んでいないことで、作業道の開設や木材の伐採搬出に困難が予測されるので、もろもろの条件整備を進める必要があると。本委員会は、この報告をもって解散をされたわけであります。

そして、令和元年１２月１８日に議会全員協議会が開かれました。木質バイオマスガス化発電に関する附帯施設建設の説明があったわけでありますが、それに、平成３０年７月５日、東京で開催されました地方創生バイオマスサミットに下森町長がプレゼンで参加をされたこと、そして、翌年の平成３１年４月１０日、東京で開催されました経済産業省の新エネルギー課での勉強会に当時の農林課長が出席、これは２０２０年の補助事業にエントリーするためであります。

そして、チップのストックヤードを先行するレイアウトの資料や今後の想定スケジュール表が配付されまして、そして、建設場所を旧津和野跡地の旧砕石場の跡地に設定をされたわけであります。

この場所は、先ほども申しましたが、３０メートルを超える場所に一気に埋め戻しをされておりまして、路体、路床の転圧手順も踏まれておらず、路盤沈下の危険性が大いにあるわけであります。この現状を設計士はどのように考えておられたのか、私は不思議でなりません。また、一番の懸念事項であります燃料の調達計画でありますが、調達は４業者と自伐林家の町内外の方で９，５００トンの供給量の計画が出されております。

今回、吉賀町の木の駅プロジェクトが地域通過券、１枚１，０００円で、１トン当たり６枚で、年間１，４００立方メートルを計画され、出荷者も６０人と目標を設定されて進んだ木の道プロジェクトでありますが、それが、平均８００立方メートル、出荷者が１６人、このような結果になり、８年間のこの計画が休止されております。

私はこの現実を本事業の弊習と重く受け止めて、本案件に対して反対の討論といたします。

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に反対者の発言を許します。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしとみとめます。

ないようでありますから、討論を終結し、これより議案第５２号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立多数であります。したがって、議案第５２号令和２年度原木・チップヤード建設工事請負契約の締結については、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第４．議案第５３号

日程第５．議案第５４号

日程第６．議案第５５号

日程第７．議案第５６号

日程第８．議案第５７号

○議長（沖田　　守君）　日程第４、議案第５３号令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１５号）より、日程第８、議案第５７号令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第５号）まで、以上５案件につきましては、会議規則第３７条の規定により、一括議題とします。

執行部より提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、議案第５３号でございますが、令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１５号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ１億４，１５８万円を減額し、歳入歳出予算総額それぞれ１１６億７６４万５，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長より御説明を申し上げます。

議案第５４号でございますが、令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第５号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ２，５６０万円を追加し、歳入歳出予算総額それぞれ１１億９２万４，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長より御説明を申し上げます。

議案第５５号でございますが、令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第５号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ１２９万３，０００円を減額し、歳入歳出予算総額それぞれ１３億６，８７３万２，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第５６号でございますが、令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第４号）についてでございます。

歳入歳出それぞれ２，０００円を減額し、歳入歳出予算総額それぞれ３億１，６０５万９，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長より御説明を申し上げます。

議案第５７号でございますが、令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第５号）についてでございます。

収益的収入を８２万３，０００円減額し、予算総額３億５，６１８万５，０００円に、収益的支出を８２万３，０００円減額し、予算総額３億２，４９４万９，０００円にするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

○議長（沖田　　守君）　総務財政課長。

○総務財政課長（岩本　要二君）　それでは、議案第５３号を御説明いたします。５ページをお開きください。

繰越明許費でございます。総務費の津和野町庁舎耐震補強改修事業でございますが、本庁舎本体工事の外構工事が３月末見込み完了となったため、本庁舎ＬＡＮ工事等の津和野町庁舎改修関連工事１億８４１万５，０００円を繰り越すものです。終期は５月末を予定しております。

続いて、ＰＣＢ含有安定期処理事業でございますが、町有施設内の調査に不測の日数を要したため、５８７万４，０００円を繰り越すものです。終期は９月末を予定しております。

津和野城山整備事業でございますが、他の関連工事との施工調整に不測の日数を要したため、作業道舗装新設工事ほか関連工事１億３，２０５万６，０００円を繰り越すものです。終期は６月末を予定しております。

執務室における飛沫感染防止事業でございますが、コロナ禍の影響により、ＯＡ機器等の調達に不測の日数を要したため、６９４万８，０００円を繰り越すものです。終期は６月末を予定しております。

城跡観光リフト整備事業でございますが、コロナ禍の影響により、資材等の確保に不測の日数を要したため、１，５３２万５，０００円を繰り越すものです。終期は４年３月末を予定しております。

町内消費拡大支援事業でございますが、緊急事態宣言が継続となったこと等の影響により、事業の推進に不測の日数を要したため、１９８万円を繰り越すものです。終期は４年３月末を予定しております。

ｗｉｔｈコロナ観光誘客キャンペーン委託料でございますが、緊急事態宣言が継続となったこと等の影響により、事業の推進に不測の日数を要したため、７２６万円を繰り越すものです。終期は４年３月末を予定しております。

地域の１店１商品づくりサポート事業でございますが、コロナ禍の影響により、機材等の確保に不測の日数を要したため、３９５万円を繰り越すものです。終期は１２月末を予定しております。

道路環境整備事業でございますが、機材調達に不測の日数を要したため、５５０万円を繰り越すものです。終期は４年３月末を予定しております。

学校保健感染症対策備品整備事業でございますが、滅菌機の調達に不測の日数を要したため、５４万６，０００円を繰り越すものです。終期は１２月末を予定しております。

学校施設衛生環境保全事業でございますが、資材等の調達に不測の日数を要したため、１，２２７万６，０００円を繰り越すものです。終期は８月末を予定しております。

農林水産業の原木・チップヤード建設事業でございますが、地盤調査に不測の日数を要したため、２億６，９４３万４，０００円を繰り越すものです。終期は８月末を予定しております。

商工費の歴史的風致維持向上事業でございますが、他機関との計画調整に不測の日数を要したため、４億６，６１８万９，０００円を繰り越すものです。終期は１２月末を予定しております。

土木費の知的調査事業費でございますが、一筆地測量実施地区内の境界調整に不測の日数を要したため、７８６万円を繰り越すものです。終期は４年３月末を予定しております。

教育費の給食センター建設実施設計業務委託でございますが、保護者等への説明が、コロナ禍の影響で不測の日数を要したため、１，７０５万円を繰り越すものです。終期は９月末を予定しております。

日原小学校駐車場整備工事でございますが、工事施工に当たり、安全対策の調整に不測の日数を要したため、９４８万８，０００円を繰り越すものです。終期は８月末を予定しております。

災害復旧費の現年林道災害復旧費でございますが、工事着手後、当初想定していた土出と異なることが判明し、工法の検討、選択に不測の日数を要したため、９８８万５，０００円を繰り越すものです。終期は７月末を予定しております。

１枚めくっていただきまして、第３表地方債補正の変更でございます。総額で４，９００万円の減額補正をしております。詳細につきましては、事項別明細書の中で御説明をいたします。

それでは、歳出の主なものから御説明いたしますので、２８ページをお開きください。また、お手元に補正予算の概要資料を用意しておりますので、併せて御覧いただけたらと思います。

総務費では、財産管理費の需用費として、本庁舎エレベーター制御盤内インバーター取替えによる修繕料２６４万９，０００円を増額。

１枚めくっていただきまして、積立金として、ふるさと津和野基金等３０９万９，０００円を減額をしております。

企画費の需用費として、ふるさと納税特産品精算等に伴い、消耗品費２５９万４，０００円を減額、役務費として、通信運搬費１４３万円を減額、ふるさと納税ポータルサイト手数料等２６５万９，０００円を増額をしております。

１枚めくっていただきまして、企業誘致対策費の負担金補助及び交付金として、実績に伴い、企業誘致促進補助金２１２万円を減額をしております。

１枚めくっていただきまして、生活バス対策費の委託料として、実績に伴い、町営バス時刻表改正に伴うバス停表示再構築委託料２８１万円を減額をしております。

津和野城山整備事業費の工事請負費として、ライトアップ整備事業等１，９６０万２，０００円を減額をしております。

１枚めくっていただきまして、新型コロナ感染症対応地方創生推進事業費の総務財政課分では、避難所の衛生物品調達に係る入札減に伴い、消耗品費１５０万４，０００円を減額、つわの暮らし推進課分では、負担金補助及び交付金として実績に伴い、地域公共交通事業特別支援事業２４０万円を減額、健康福祉課分の負担金補助及び交付金として、実績見込みに伴い、新型コロナウイルス感染症対策支援事業補助金３１０万５，０００円を減額、農林課分の負担金補助及び交付金として、実績見込みに伴い、農林業者業績悪化支援事業補助金７８０万２，０００円を減額。

１枚めくっていただきまして、商工観光課分の委託料として、実績見込みに伴い、町内消費拡大支援事業委託料１９８万円を増額、ｗｉｔｈコロナ観光誘客キャンペーン委託料２９７万円を増額、負担金補助及び交付金として、実績見込みに伴い、業績悪化緩和運転資金補助金７６０万円を減額、商業・サービス業感染症対応支援事業補助金４２

３万３，０００円を減額、商業・サービス業感染症対策小設備導入支援事業補助金４０２万５，０００円を増額、事業者独自キャンペーン実施支援事業補助金２０６万１，０００円を減額、教育委員会分の工事請負費として、入札減に伴い、学校施設衛生環境保全事業１５２万４，０００円を減額、備品購入費として、タブレット端末整備事業の実績に伴い、一般備品費２２４万１，０００円を減額をしております。

続いて、４６ページをお開きください。

民生費では、社会福祉総務費の扶助費として、福祉医療助成金の実績見込みにより、２３０万２，０００円を減額をしております。

続いて、５８ページをお開きください。

衛生費では、保健衛生総務費の扶助費として、実績見込みによる乳幼児等医療費助成金１，１３１万２，０００円を減額をしております。

続いて、７２ページをお開きください。

農林水産業費では、林業振興費の負担金補助及び交付金として、実績による林地残材搬出に伴う自伐林家等支援事業補助金１５１万８，０００円を減額をしております。

町行造林事業費の委託料として、実績による下刈り等委託料４５０万６，０００円を減額をしております。

続いて、７６ページをお開きください。

商工費では、商工振興費の負担金補助及び交付金として、実績見込みに伴い、空き店舗活用基盤整備補助金２５０万円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、観光費の負担金補助及び交付金として、コロナ禍による事業縮小に伴い、観光協会補助金１４２万６，０００円を減額をしております。

１枚めくっていただきまして、土木費では、地籍調査事業費の委託料として、実績に伴い、一筆調査委託料３１７万５，０００円を減額をしております。

１枚めくっていただきまして、道路維持費の委託料として、実績に伴い、除雪作業委託料２６２万５，０００円を増額をしております。

続いて、９６ページをお開きください。

教育費では、社会教育総務費の工事請負費として、実績に伴い、山村開発センター解体工事費１６９万４，０００円を減額をしております。

それでは、歳入の主なものから御説明いたしますので、１２ページにお戻りください。

町税では、決算見込みにより、市町村民税１，６０８万５，０００円を増額、固定資産税２，１１４万２，０００円を減額をしております。

１枚めくっていただきまして、地方消費税交付金では、交付金確定に伴い９１０万７，０００円を計上をしております。

地方交付税では、特別交付税１億７，７８５万円を計上しております。

続いて、１８ページをお開きください。

国庫支出金では、国庫補助金の民生費国庫補助金として、国庫オンライン資格確認等システム整備事業に伴い、社会保障・税番号制度システム整備費補助金３０５万３，０００円を増額をしております。

土木費国庫補助金として、除雪費の確定に伴い、道路交通安全対策事業補助金３００万円を増額。

１枚めくっていただきまして、商工費国庫補助金として、国の３次補正予算による津和野駅周辺整備事業に伴い、社会資本整備総合交付金１，０００万円を増額をしております。

県補助金の民生費県補助金として、実績見込みにより、福祉医療費補助金１１３万５，０００円を減額、衛生費県補助金として、実績見込みによる乳幼児等医療助成事業補助金１６７万９，０００円を減額、農林水産業費県補助金として、実績による合板・製材生産性強化対策事業費補助金３６６万６，０００円を減額。

１枚めくっていただきまして、商工費県補助金として、実績に伴い、商業・サービス業感染症対応支援事業費補助金３２９万３，０００円を減額。教育費県補助金として、山村開発センター解体事業費の確定に伴い、空き家対策総合支援事業費補助金２５８万６，０００円を増額。災害復旧費補助金として、林道火の谷・分谷線の現年発生林道災害復旧事業補助金の増額に伴い、災害復旧費補助金３６９万９，０００円を増額をしております。

寄付金では、総務費寄付金として、城山整備事業の実績に伴い、総務寄付金１，９７２万５，０００円を減額、ふるさと納税の実績に伴い、ふるさと納税４００万円を減額をしております。

繰入金では、財政調整基金繰入金２億４，６００万円を減額。

１枚めくっていただきまして、ふるさと津和野基金繰入金１８９万８，０００円を減額。津和野町まちづくり基金繰入金１５０万円を減額をしております。

１枚めくっていただきまして、町債では、総務債の一般単独事業債として、本庁舎改修工事の事業費確定に伴い、合併特例３００万円を減額、過疎対策事業債として、協働のまちづくり推進事業等の実績に伴い、過疎地域自立促進特別事業３１０万円を減額。

衛生費では、過疎対策事業債として、子ども等医療費助成事業費の確定に伴い、過疎地域自立促進特別事業１，４１０万円を減額。

民生費では、過疎対策事業債として、木部保育園整備事業の事業費の確定に伴い、児童福祉施設整備事業１３０万円を減額。

農林業債の過疎対策事業債として、地産地消推進事業費の発行限度額調整として、過疎地域自立促進特別事業２００万円を減額。町行造林事業費の実績による公有林整備事業３００万円を減額。

商工債の過疎対策事業債として、国の３次補正予算による津和野駅周辺整備事業に伴い、観光施設整備事業１，０００万円を減額。コロナ禍による観光協会補助金の減額に伴い、過疎地域自立促進特別事業１４０万円を減額。

土木債の一般単独事業債として、町道一ノ谷線道路改良事業の財源振替に伴い、合併特例１，２１０万円、辺地対策事業債の道路橋梁整備事業１，２８０万円を減額。

教育債の一般単独事業債として、津和野小学校プール改修事業等の財源振替に伴い、合併特例６３０万円を増額。

過疎対策事業債として、スクールソーシャルワーカー事業等の発行限度額調整として、過疎地域自立促進特別事業３００万円を減額。

山村開発センター解体事業等の事業費確定に伴い、教育の振興事業９８０万円を減額をしております。

災害復旧債の農林水産業施設災害復旧債として、林道火の谷・分谷線の現年発生林道災害復旧事業補助金の増額に伴い、農林水産業施設災害復旧事業３９０万円を減額をしております。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　それでは、令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第５号）、議案第５４号を御説明いたします。

歳出より御説明いたしますので、１２ページを御覧ください。

総務費の一般管理費４２万２，０００円減は職員の時間外勤務手当及び旅費の減額によるものであります。

１枚めくっていただいて、１４ページ、運営協議会費１３万７，０００円減は、本年度運営協議会が１回の開催であったため、減額するものであります。

１枚めくっていただいて、１６ページ、保険給付費の一般保険者療養給付費５２０万８，０００円増。退職被保険者等療養給付費４万９，０００円増、一般被保険者療養費４４万５，０００円増、退職被保険者等療養費１，０００円減、審査支払手数料２２万７，０００円減。

次のページ、一般被保険者高額療養費７３９万６，０００円増、退職被保険者等高額療養費１，０００円減、一般被保険者高額介護合算療養費８万４，０００円増、退職被保険者等高額介護合算療養費１，０００円減。

次のページ、一般被保険者移送費１，０００円減。

次のページ、出産育児一時期４２万円減、審査支払手数料１，０００円減。

次のページ、傷病手当金５０万円減は、全て実績見込みによるものであります。

２枚めくっていただいて２８ページ、保険事業費の特定健康診査等事業費７７万６，０００円減。

次のページ、疾病予防費６２万円減。

次のページ、公債費の利子１，０００円減は実績見込みによるものであります。

１枚めくっていただいて、３４ページ、諸支出金の保険税還付加算金４２万６，０００円減は、過年度分還付金等の実績見込みによるものであります。

続いて、歳入を御説明いたしますので、８ページを御覧ください。

一般被保険者国民健康保険税２万２，０００円増、退職被保険者等国民保険税３万８，０００円増は、税の実績見込みによるものであります。

その下、使用料及び手数料の督促手数料４万円減。

次のページ、県支出金の保険給費等交付金２，４９２万３，０００円増は、確定もしくは確定見込みによるものであります。

その下、繰入金の一般会計繰入金７７万３，０００円減は、歳出の総務費及び保険給付費の出産育児一時金の減額分であります。

その下、諸収入の雑入３万５，０００円増は、過誤調整による返納金等によるものであります。

その下、国庫支出金の災害臨時特例補助金１３９万５，０００円増は、令和２年度分のコロナウイルス減免に対する補助金であります。

以上であります。

続きまして、議案第５５号令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第５号）について御説明をいたします。

歳出より御説明いたしますので、１０ページを御覧ください。

総務費の一般管理費１２万１，０００円減は、職員手当等旅費及び役務費の減額によるものであります。

その下、連合会負担金２，０００円減は確定によるものであります。

１ページめくりまして１２ページ。保険給付費の居宅介護福祉用具購入費１３万円減。

次のページ、特定入所者介護サービス費９０万円減、特定入所者介護予防サービス費１０万円減は、全て実績見込みによるものであります。

１ページめくりまして１６ページ、地域支援事業費の一般介護予防事業費４万円減は実績見込みによるものであります。

続いて、歳入に移りますので、８ページを御覧ください。

国庫支出金の介護予防日常生活支援総合事業交付金１万円減。

その下、支払基金交付金の介護予防日常生活支援総合事業交付金１万１，０００円減。

その下、県支出金の介護予防日常生活支援総合事業交付金５，０００円減。

その下、一般会計繰入金の介護予防日常生活支援総合事業繰入金５，０００円減は、歳出の地域支援事業費に係るもの。

その他、一般会計繰入金の介護給付費繰入金１４万１，０００円減は、歳出の保険給付費に係るもの。職員給与費等繰入金８万７，０００円減、事務費繰入金３万６，０００円減は歳出の総務費に係るものであります。

その下、介護保険準備基金繰入金９９万８，０００円減は、保険給付費等の減額により、基金繰入れを減額するものであります。

以上であります。

続きまして、議案第５６号令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第４号）について御説明いたします。

歳出より御説明いたしますので、１０ページを御覧ください。

総務費の一般管理費５万５，０００円減は旅費の減額によるものであります。

１枚めくりまして、諸支出金の他会計繰出金１２万６，０００円増は、後期高齢者健康診査負担金の実績見込みによるもの。

次のページ、還付加算金７万３，０００円減は、過年度分還付金の実績見込みによるものであります。

続いて、歳入に移りますので、８ページを御覧ください。

繰入金の事務費繰入金４万８，０００円減は、歳出の総務費に係るもの。

その下、諸収入の保険料還付金６万３，０００円減、還付加算金１万円減は、歳出の還付加算金に係るもの。

その下、衛生費受託事業収入１１万９，０００円増は、歳出で説明しました後期高齢者健康診査事業の実績見込みによるものであります。

以上であります。

○議長（沖田　　守君）　環境生活課長。

○環境生活課長（清水　浩志君）　それでは、議案第５７号を御説明いたします。

令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第５号）でございます。

８ページ下段、収益的収入及び支出を御覧ください。

水道事業費用、営業費用の配水及び給水費でございます。

修繕費につきまして、凍結に伴います瀬戸橋漏水修繕等１９６万５，０００円を増額しております。

続きまして、総係費でございます。

食料品として２，０００円を計上しております。

続きまして、営業外費用の消費税及び地方消費税でございます。令和２年度分の消費税及び地方消費税の申告予定額により２７９万円を減額しております。

上段の収入を御覧ください。営業外収益の一般会計補助金につきましては、事業費の減により８２万３，０００円を減額しております。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。

以上で、提案理由の説明を終わります。

議案第５３号令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１５号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第５３号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第５３号令和２年度津和野町一般会計補正予算（第１５号）は、原案のとおり可決されました。
　続きまして、議案第５４号令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第５号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第５４号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第５４号令和２年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第５号）は、原案のとおり可決されました。
　続きまして、議案第５５号令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第５号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようでありますので、質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第５５号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第５５号令和２年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第５号）は、原案のとおり可決されました。
　続きまして、議案第５６号令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第４号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第５６号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第５６号令和２年度津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算（第４号）は、原案のとおり可決されました。
　続きまして、議案第５７号令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第５号）について、これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第５７号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第５７号令和２年度津和野町水道事業会計補正予算（第５号）は、原案のとおり可決されました。

ここで１０時半まで休憩といたします。

午前 10 時 15 分休憩

……

午前 10 時 30 分再開

○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、会議を再開します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第９．議案第４０号

日程第１０．議案第４１号

日程第１１．議案第４２号

日程第１２．議案第４３号

日程第１３．議案第４４号

日程第１４．議案第４５号

日程第１５．議案第４６号

日程第１６．議案第４７号

日程第１７．議案第４８号

日程第１８．議案第４９号

日程第１９．議案第５０号

○議長（沖田　　守君）　日程第９、議案第４０号令和３年度津和野町一般会計予算より、日程第１９、議案第５０号令和３年度津和野町水道事業会計予算まで、以上１１案件につきましては、予算審査特別委員長の審査報告を求めます。

１番、草田吉丸君。

○予算審査特別委員会委員長（草田　吉丸君）　それでは、予算審査報告をいたします。

予算審査報告書。令和３年３月５日、今定例会において、本委員会に付託を受けました令和３年度津和野町一般会計を初めとする各会計予算１１議案について審査いたしましたので、会議規則第７７条の規定により、その結果を報告いたします。

１．審査日、令和３年３月５日、１０日、１１日、１２日、１５日机上審査。

２．出席者：予算審査特別委員会、委員長ほか１０名、議長。説明員：町長ほか執行部１２名。

３．審査事項及び結果。

議案第４０号令和３年度津和野町一般会計予算。

予算の総額は８４億２，１００万円である。前年度に比して７億５，６００万円、８．２４％の減である。

歳出の主なものは、津和野庁舎増築工事、ひとづくりによる地域の好循環形成事業、民間賃貸住宅建設（改修）支援事業、新型コロナウイルスワクチン接種事業、日原診療所移転増築事業、中座団地整備事業、見晴らし広場整備事業等である。

＜審査意見＞

予算執行に当たっては、国庫補助金や有利な起債獲得に努め、町財政の負担軽減を図られたい。

機構改革をして臨む０歳児からのひとづくり事業については、今後のまちづくりにも通じる重要な取組である。関係各課・団体との連携を密にして、事業効果を高めるための努力をされたい。

令和２年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者の方や町民の方を支援するための各種対策に努力をされたい。

＜審査結果＞

本案件は、賛成多数で原案のとおり可決すべきであると決した。

議案第４１号令和３年度津和野町国民健康保険特別会計予算。

予算総額は１１億２００万３，０００円である。前年度に比し３，００７万５，０００円、２．８１％の増である。本案件は全員賛成で、原案のとおり可決すべきであると決した。

議案第４２号令和３年度津和野町介護保険特別会計予算。

予算総額は１３億５，１７７万４，０００円である。前年度に比し、３，９３６万１，０００円、２．８％の減である。

本案件は、全員賛成で原案のとおり可決すべきであると決した。

議案第４３号令和３年度津和野町後期高齢者医療特別会計予算。

予算総額は３億１，８１１万７，０００円である。前年度に比し１５７万５，０００円、０．５％の増である。

本案件は、賛成多数で原案のとおり可決すべきであると決した。

議案第４４号令和３年度津和野町下水道事業特別会計予算。

予算総額は３億２，７８２万９，０００円である。前年度に比し６，３７４万４，０００円、１６．２８％の減である。本案件は、全員賛成で原案のとおり可決すべきであると決した。

議案第４５号令和３年度津和野町農業集落排水事業特別会計予算。

予算総額は４０７万８，０００円である。前年度に比し２５万６，０００円、６．７％の増である。本案件は、全員賛成で原案のとおり可決すべきであると決した。

議案第４６号令和３年度津和野町奨学基金特別会計予算。

予算総額は１，３２２万７，０００円である。前年度に比し２１万８，０００円、１．６２％の減である。本案件は、全員賛成で原案のとおり可決すべきであると決した。

議案第４７号令和３年度津和野町診療所特別会計予算。

予算総額は６億７０万円である。前年度に比し７２９万４，０００円、１３．６６％の増である。本案件は、全員賛成で原案のとおり可決すべきであると決した。

議案第４８号令和３年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計予算。

予算総額は２億９，１２８万９，０００円である。前年度に比し１３５万２，０００円、０．４７％の増である。本案件は、全員賛成で原案のとおり可決すべきであると決した。

議案第４９号令和３年度津和野町病院事業会計予算。

収益的予算総額は７億７，９９８万１，０００円である。前年度に比し１，３３８万９，０００円、１．７５％の増である。本案件は、全員賛成で原案のとおり可決すべきであると決した。

議案第５０号令和３年度津和野町水道事業会計予算。

収益的予算総額は３億２，７９１万２，０００円である。前年度に比し３０４万円、０．９４％の増である。本案件は、全員賛成で原案のとおり可決すべきであると決した。

令和３年３月２３日、津和野町議会議長沖田守様、予算審査特別委員会委員長草田吉丸。

以上であります。

○議長（沖田　　守君）　ちょっと委員長ね、議案第４７号予算総額がちょっと訂正してください。６，０７０万円、診療所会計ね。いいです。予算総額が６，０７０万円です。

○予算審査特別委員会委員長（草田　吉丸君）　失礼しました。

議案第４７号の予算総額は６億７０万円と報告しましたが、６，０７０万円でありますので、訂正のほうをよろしくお願いいたします。済いませんでした。

○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。

ただいまの審査報告に対する委員長への質疑につきましては、議長を除く全議員による委員構成でありますので、これを省略をいたします。ありがとうございました。

これより、議案第４０号令和３年度津和野町一般会計予算について討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。９番、寺戸昌子君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　委員長報告に反対の立場で討論させていただきます。

住民協働推進事業費についてです。まちづくり組織交付金が、自治会の現状を考慮して見直しされたことは評価いたしますが、自治組織が独立して運営してきた部分にまで入り込み、組織を弱体化する可能性があることには変わりありません。財政的補助にはなりますが、自治組織の将来を見据えての地域活性化につなげられるとは考えられません。延命的対策ではなく、人的支援など、抜本的な対策を行うべきです。

地域提案型助成事業は、先進的取組を、みらいづくり協働会議を通して、他地域に波及させていくような仕組みづくりが必要と考えます。現状のみらいづくり協働会議は、報告の場から津和野町の未来を創造していく場に変えていくべきと考えます。

町の将来を担う子供たちの教育費についてです。

学校が必要な備品の購入計画を年度初めに立てられなくなる教育予算の削減は避けるべきと考えます。

以上の立場から、令和３年度津和野町一般会計予算に反対します。

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようでありますので、討論を終結します。

これより、議案第４０号を採決します。

本案件について、委員長報告は原案のとおり可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立多数であります。したがって、議案第４０号令和３年度津和野町一般会計予算につきましては、原案のとおり可決されました。

続きまして、議案第４１号令和３年度津和野町国民健康保険特別会計予算について討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第４１号を採決します。

本案件についての委員長報告は、原案のとおり可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第４１号令和３年度津和野町国民健康保険特別会計予算につきましては、原案のとおり可決されました。

続きまして、議案第４２号令和３年度津和野町介護保険特別会計予算について討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、議案第４２号を採決します。
本案件についての委員長報告は、原案のとおり可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第４２号令和３年度津和野町介護保険特別会計予算については、原案のとおり可決されました。
続きまして、議案第４３号令和３年度津和野町後期高齢者医療特別会計予算について討論に入ります。
まず、原案に反対者の発言を許します。９番、寺戸昌子君。
○議員（９番　寺戸　昌子君）　委員長報告に反対の立場で討論させていただきます。
後期高齢者医療制度は、国民を年齢で区切り、高齢者を別枠の医療保険に強制的に囲い込んで、負担増と差別医療を押し付ける悪法です。後期高齢者医療制度そのものに反対しています。
以上の立場から、後期高齢者医療特別会計予算に反対します。
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。討論を終結します。
これより、議案第４３号を採決します。
本案件についての委員長報告は、原案のとおり可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立多数であります。したがって、議案第４３号令和３年度津和野町後期高齢者医療特別会計予算については、原案のとおり可決されました。
続きまして、議案第４４号令和３年度津和野町下水道事業特別会計予算について討論に入ります。
まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
これより、議案第４４号を採決します。

本案件についての委員長報告は、原案のとおり可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第４４号令和３年度津和野町下水道事業特別会計予算につきましては、原案のとおり可決されました。
続きまして、議案第４５号令和３年度津和野町農業集落排水事業特別会計予算について討論に入ります。
まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
これより、議案第４５号を採決します。
本案件についての委員長報告は、原案のとおり可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第４５号令和３年度津和野町農業集落排水事業特別会計予算については、原案のとおり可決されました。
続きまして、議案第４６号令和３年度津和野町奨学基金特別会計予算について討論に入ります。
まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
これより、議案第４６号を採決します。
本案件について、委員長報告は原案のとおり可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第４６号令和３年度津和野町奨学基金特別会計予算については、原案のとおり可決されました。
続きまして、議案第４７号令和３年度津和野町診療所特別会計予算について討論に入ります。
まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第４７号を採決します。
　本案件についての委員長報告は、原案のとおり可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第４７号令和３年度津和野町診療所特別会計予算については、原案のとおり可決されました。
　続きまして、議案第４８号令和３年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計予算について討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第４８号を採決します。
　本案件についての委員長報告は、原案のとおり可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第４８号令和３年度津和野町介護老人保健施設事業特別会計予算については、原案のとおり可決されました。
　続きまして、議案第４９号令和３年度津和野町病院事業会計予算について討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、議案第４９号を採決します。
　本案件についての委員長報告は、原案のとおり可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第４９号令和３年度津和野町病院事業会計予算については、原案のとおり可決されました。
　続きまして、議案第５０号令和３年度津和野町水道事業会計予算について討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
これより、議案第５０号を採決します。
本案件についての委員長報告は、原案のとおり可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、議案第５０号令和３年度津和野町水道事業会計予算については、原案のとおり可決されました。
――――――――――――・――――・――――――――――――

日程第２０．発委第１号

○議長（沖田　　守君）　日程第２０、発委第１号津和野町議会会議規則の一部改正についてを議題とします。
これより、本案件について、議会運営委員長より提案趣旨説明を求めます。
１０番、後山幸次君、議席にてお願いをいたします。
○議会運営委員会委員長（後山　幸次君）　それでは、発委第１号について御説明をいたします。
津和野町議会会議規則の一部を改正する規則について、上記の議案を別紙のとおり、地方自治法第１０９条第６項及び津和野町議会会議規則第１４条第２項の規定により提出いたします。
提案理由でありますが、標準町村議会会議規則の一部改正に伴い、所要の改正をするものであります。
１枚めくっていただきまして、別紙及び新旧対照表を御覧ください。
第２条第１項中、「事故」を「公務、傷病、出産、育児、看護、介護、配偶者の出産補助その他のやむを得ない事由」に改め、同条第２項中「議員」を「前項の規定にかかわらず、議員」に「日数を定めて」を「出産予定日の６週間（多胎妊娠の場合にあっては１４週間）前の日から、当該出産の日後８週間を経過する日までの範囲内において、その期間を明らかにして」に改めるものであります。
第８９条第１項中に「請願者の住所及び氏名（法人の場合にはその名称及び代表者の氏名）を記載し、押印しなければ」を「及び請願者の住所（法人の場合にはその所在地）を記載し、請願者（法人の場合にはその名称を記載し、代表者）が署名又は記名押印しなければ」に改めるものであります。
附則として、この規則は、公布の日から施行するものであります。
以上で説明を終わりにします。

○議長（沖田　　守君）　以上で説明を終わります。
　これより質疑に入ります。ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。
　これより、発委第１号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、発委第１号津和野町議会会議規則の一部改正については、原案のとおり可決されました。
――――――――――――――・――――・――――――――――――

日程第２１．請願第７号

○議長（沖田　　守君）　日程第２１、請願第７号浸水害等の避難収容施設設置に関する請願についてを議題とします。
　文教民生常任委員会委員長の報告を求めます。５番、板垣敬司君。
○文教民生常任委員会委員長（板垣　敬司君）　文教民生常任委員会請願審査報告書。
　令和２年１２月定例会において、本委員会に付託された請願を審査した結果、次のとおり決定したので、津和野町議会会議規則第９４条第１項及び第２項の規定により報告いたします。
　受理番号第７号、付託年月日、令和２年１２月１１日、件名、浸水害等の避難収容施設設置に関する請願、審査の結果、採択。審査内容については裏面に掲げておりますが、審査の経過については割愛させていただいて、審査意見に移ります。
　地球温暖化が起因する気候変動によって、近年、毎年のように、全国各地で想定外の豪雨災害が頻発している。現在の施設は洪水浸水想定区域（平成３０年指定）にあって、平屋建てである。現状の町指定避難所である津和野町民センターへは２５０メートル。夜間、豪雨、強風下での避難行動は極めて厳しいことが考えられる。
　このようなことから、今後の支援体制を考慮した結果、人命優先の観点から、垂直避難を前提とした２階建ての施設整備が必要との結論に達した。この際、建設場所として、社会福祉法人つわの福祉会所有の土地４１４平方メートル（現状職員駐車場：津和野町デイサービスセンター北側に隣接）が最有力候補地と考えられる。建設時期、施設の構造等については、町の福祉計画を鑑みて、適切な対応を望むものである。

令和３年３月２３日、津和野町議会議長沖田守様、文教民生常任委員会委員長板垣敬司。

以上でございます。

○議長（沖田　　守君）　ありがとうございました。

それでは、ちょっと待ってください。

委員長の報告について質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。ありがとうございました。

これより討論に入ります。

まず、本案件に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、本案件に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようでありますので、討論を終結します。

本請願に対する委員長報告は採択であります。本請願は、委員長報告のとおり採択とすることに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立全員であります。したがって、請願第７号浸水害等の避難収容施設設置に関する請願については、委員長報告のとおり採択とすることに決定いたしました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２２．請願第１号

○議長（沖田　　守君）　日程第２２、請願第１号最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書の採択を求める請願についてを議題とします。

本請願につきましては、お手元に配付の請願文書表のとおりであります。

お諮りをいたします。本請願につきましては、会議規則第９２条第２項の規定により委員会付託を省略したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　御異議なしと認めます。よって、本請願は委員会付託を省略することに決定しました。

これより、本請願について、紹介議員より説明の必要があれば、これを許可いたします。９番、寺戸昌子君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書の採択を求める請願の趣旨説明をさせていただきます。

低迷が続き、厳しい日本経済に新型コロナウイルス感染症の拡大が追い打ちをかけ、日本経済は深刻な状態です。このコロナ禍で、コンビニや物流など、ライフラインを支える労働者の多くが非正規雇用労働者や社会的に独立した個人事業主のフリーランス労働者で、最低賃金近くの低賃金で働いており、失業や労働時間の削減に追い込まれています。

また、最低賃金が低い地域ほど中小零細企業が多く、経済的ダメージは深刻です。コロナ禍を乗り越え、日本経済の回復を進めるためには、ＧＤＰの６割を占める国民全体の消費購買力を引き上げることが必要であり、そのための賃金の底上げが必要です。格差と貧困を縮小するためには、最低賃金の大幅な引き上げと地域間格差をなくすことがこれまで以上に重要になっています。

２０２０年の地域別最低賃金改定では、最高の東京で自給１，０１３円なのに、島根県など最も低い７県は７９２円にしかなりません。毎日８時間働いても、月１１万から１４万円の手取りにしかならず、年収では１３０万円から１７０万円です。

最低賃金法第９条３項の労働者の健康で文化的な生活を確保することはできません。その上、地域別の最低賃金であるがゆえに、島根県と東京では、同じ仕事でも、時給で２２１円もの格差があり、若い労働者の都市部への流出が、地域の労働力不足を招き、地域経済の疲弊につながっています。このことは自治体の税収減少、税収の減少も引き起こし、行政運営にも影響が出ています。

労働者の生活と労働力の質、消費購買力を確保しつつ、地域経済と中小企業を支える循環型地域経済の確立によって、だれもが安心して暮らせる社会をつくりたいと考えます。そのために、最低賃金を抜本的に引き上げるとともに、全国一律性を目指し、地域間格差の是正を図ることを要望します。

また、最低賃金を引き上げるためには、政府による中小や零細企業への支援が不可欠です。政府による中小や零細企業への最大限の支援の拡充を要望します。

以上の趣旨から、国・関係機関に対し、意見書を提出していただきますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（沖田　　守君）　以上で説明を終わります。

これより質疑に入ります。ありませんか。２番、米澤宏文君。

○議員（２番　米澤　宏文君）　まず、Ｃ、Ｄランク、これはこの文章を読むと東京はＡランク、島根県は最低のＤランクと思われますが、この中国の、島根県の隣接地域のランクが分かれば発表してほしいんですよ。わかればですが。

○議長（沖田　　守君）　寺戸君。

○議員（９番　寺戸　昌子君）　済いません。わかりません。

○議長（沖田　　守君）　２番、米澤君。

○議員（２番　米澤　宏文君）　最低賃金を大体１，５００円ということですが、なかなか、最低賃金というより時間給ですが、いいことですが、可能となるような可能性があるんでしょうか。
○議長（沖田　　守君）　寺戸君。
○議員（９番　寺戸　昌子君）　急激に１，５００円に上げるというのは難しいと思われますが、いつになるかはわかりませんが、将来的には上がっていけばと考えますが。
○議長（沖田　　守君）　ほかにありますか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑を終結します。
　これより討論に入ります。
　まず、原案に反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、賛成者の発言を許します。２番、米澤宏文君。
○議員（２番　米澤　宏文君）　賛成といたします。
　最低賃金近傍の方の低賃金を上げるということで、現在でもコロナ等、大変な時期であります。そして、全国一律に時間給をするということは、都会地への労働力の集中を分散する効果、住みやすい地方に帰ってくる。また、Ｉターンが増えるのではないかと思われますので、賛成といたします。
○議長（沖田　　守君）　次に、原案に反対者の発言を許します。４番、道信俊昭君。
○議員（４番　道信　俊昭君）　この地域の零細企業、ほとんど零細企業ですけども、従業員を雇う身としては、最低賃金が今、この１，５００円というのは鳥肌が立つような数字ですけども、これでやったら、ほとんど潰れるんだろうなというふうに私は考えております。ですから、この請願に関しては反対をいたします。
○議長（沖田　　守君）　次に、賛成者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　次に、反対者の発言を許します。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（沖田　　守君）　ないようであります。討論を終結します。
　これより、請願第１号を採択をいたします。
　本請願を採択することに賛成の方の起立を求めます。
〔賛成者起立〕
○議長（沖田　　守君）　起立多数であります。したがって、請願第１号最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書の採択を求める請願については、採択と決定いたしました。
　５番、板垣君。
○議員（５番　板垣　敬司君）　議長、ちょっと暫時休憩をお願いします。

○議長（沖田　　守君）　暫時休憩を求める意見がありますので、ここで暫時休憩といたします。時間はちょっと設定しませんので、できるだけ早く帰ってきてください。
午前 11 時 09 分休憩
……
午前 11 時 27 分再開
○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、会議を再開いたします。
――――――――――――――・――――・――――――――――――

日程第２３．総務経済常任委員会の所管事務調査報告について

○議長（沖田　　守君）　日程第２３、総務経済常任委員会の所管事務調査報告についてを議題とします。

総務経済常任委員会委員長の報告を求めます。１番、草田吉丸君。

○総務経済常任委員会委員長（草田　吉丸君）　それでは、総務経済常任委員会から所管事務調査について報告をいたします。

令和２年１２月定例会において、閉会中の調査の決定をいただきました所管事務調査について、会議規則第７７条の規定に基づき、以下のとおり報告します。

調査事項ですが、津和野町議会広聴会に係る調査、審査について。

目的は、現状を調査し、議会活動に資するため。

調査日でありますが、令和２年１２月１６日であります。出席者、総務経済常任委員会委員６人、つわの暮らし推進課長宮内秀和、建設課長益井仁志、農林課長桑原正勝、内容は机上調査取りまとめであります。

これにつきましては、広聴会の意見の取りまとめということでありまして、もう、議会広報においては、報告をしているところであります。質問と担当課の説明、そして、総務経済常任委員会としての調査意見ということで、まとめさせてもらいました。

最初に、道の駅グラウンドゴルフ場について、年末年始使用できないということでありましたが、これについては要望もあるので、規則の改正を検討しているという担当課からの回答でありました。ただし、１２月３１日から１月１日までの２日間は、施設のメンテナンスのため使用不可であるということであります。

委員会としての意見としては、規則改正を行い、使用できるよう努められたい。

次に、野口改修住宅の入居について、Ｉターンの方が、抽選の結果、入居できなかった。Ｉターン者を優先すべきではないかという質問でありましたが、これにつきましては、担当課のほうから、公募２戸に対し、県外１、町外１、町内３、合計５世帯から応募があった。５世帯とも、条例に定める入居資格を満たしていたため、厳正なる抽選により決定したということでありました。

調査意見として、ＵＩターン者向け住宅と併せ、町内に住んでいる人が引き続き、定住できるための住宅、どちらも重要である。多様な希望者が、状況に併せて入居できる住宅政策を求める。

次に、４０年、５０年たった古民家改修に補助金はないかということでありましたが、これは担当課のほう、建設課と農林課のほうから、そこに書いてありますような補助制度があるということの説明を受けました。内容については、御覧ください。

意見としましては、古民家等を改修して保存活用することは重要である。現状ある補助事業の有効活用と併せ、新たな補助制度の検討をされたい。

次に、少し大きめで、賃貸料も高めの物件は空き家バンクに登録できないかということでありますが、空き家バンク実施要綱では、明確に賃貸の明記はしてないということであります。空き家バンクに登録する場合は、所有者に対し、概ね３万円くらいでお願いをしてきている。高額家賃の物件については、空き家情報バンクではなく、民間賃貸物件として町のホームページに掲載するよう検討していきたいということでありました。

今回の意見を契機に、要綱の見直しと町内外の不動産業をどのようにして取り組んでいけるか検討したいということ。

それから、後は、空き家の調査については、平成２６年に行って５年を経過しているので、再調査も行いたい。水回りの改修もできるように、空き家改修補助金制度を策定して、登録物件を増やしていきたいということでありました。

意見として、空き家が増加傾向にある中、放置しておけば、危険家屋になるおそれもある。改修補助金制度の拡充と併せ、空き家バンク登録件数が増えるような制度改正について検討されたい。

次に、バイオマスガス化発電について、木材調達の方法と環境への影響はということでありました。これについては、担当課、農林課のほうから、ガス化発電の様子をここに掲載しております。

搬出量については６，０００トンを予定していると。その中で、環境への影響について、そこにずっと書いてありますが、少し目を通しておいてください。これについては、特に今、農林課のほうで、いろんな研究機関等へ依頼してのそういった調査を行っていないということでありました。

調査意見としましては、環境アセスメントについては、バイオマスガス化発電に伴う森林伐採が大規模開発事業等に匹敵するようであれば、当然検討すべきと考える。今後の研究課題とされたい。

個人所有の山の伐採に制限がかけられるか等についても検討が必要である。

参加事業体と森林の伐採計画とを協議できる体制の構築を図られたいということであります。

あと、アンケートに対する回答については、まず、空き家の実態、それから店舗の実態、人口増についてありましたが、そこにあるような、一応、回答をしているところであります。

令和２年１２月２８日津和野町議会議長沖田守様、津和野町議会総務経済常任委員会委員長草田吉丸。

以上であります。

○議長（沖田　　守君）　もう１件あるでしょう。

○総務経済常任委員会委員長（草田　吉丸君）　もう１点ございますので。

所管事務調査報告書。令和２年１２月定例会において、閉会中の調査の決定をいただきました所管事務調査について、会議規則第７７条の規定に基づき、以下のとおり報告します。

調査事項、津和野町の事業計画と財政について。目的、現状を調査し、議会活動に資するため。

第１回、令和３年１月２２日、出席者、総務経済常任委員会委員６人、総務財政課長岩本要二、係長樋口和宏。内容は机上調査。

第２回、調査日令和３年２月１７日、出席者、総務経済常任委員会委員６人、取りまとめであります。

最初の中期財政計画につきましては、そこに表で一応示しておりますので、御覧をください。

まず、中期財政計画でありますが、令和２年８月より行った各課のヒヤリングを元に作成。今後、県ヒヤリングの結果では変更の可能性もある。

総合振興計画に沿ったまちづくり等を基本に、中長期的視点を持った健全な財政運営を目的として、平成３１年度決算額及び令和２年度決算を、見込み額をベースに、５年間の収支見込みを立て、歳入歳出について計画したものである。

国勢調査については、コロナ対策のため、集計が遅れているため利用していない。これまでの人口減少を見込んで推計している。

歳入でありますが、地方税の中の個人町民税、現行税制をもとに、納税義務者数の減等を考慮し、１．８％減と推計をしている。令和３年度のみ、新型コロナウイルス関連の影響として、対前年度比４．３％減で推計している。

法人町民税。納税義務者数の減等を考慮し２．０％減で推計、令和３年度のみ４％減で推計をしているということであります。

固定資産税につきましては、令和３年度の固定資産税評価替えによる影響を見込み、それ以降の年度については、新増築家屋分による増を０．５％、償却資産評価替えによる減を１．９％で推計をしているということであります。

地方交付税でありますが、人口減少等考慮して、現行制度を継続されるものとして推計をしている。特別交付税は、過去の実績から同程度の額を推計している。

国の財源不足による交付税対応については、臨時財政対策債の発行が認められる償還時全額交付税が措置される。

令和３年度より合併算定替えが終了し一本算定に切り替わる。これまでの加算が段階的に縮減され、縮減額は総額で２億円程度である。

国県支出金ですが、事業執行年度の歳出事業費に見合う特定財源として、現行の補助率で推計をしている。

繰入金。財政調整基金については、不測の事態への対応及び年度間の財源の不均衡を調整するため、一定程度の残高確保に向けて計画的に調整する見込みで推計をしている。

地方債。現行の地方債制度に基づき、対象となる事業の施行年度に相当額を見込んで推計をしている。

主な地方債については、そこの表に記載しております。

歳出ですが、委員報酬、特別職報酬については、現行の法令に基づいて推計をしている。

職員給与費は前年度末の退職予定者と新規採用者の給与差により生じる減額相当額と再任用者の雇用に伴う所要見込額を考慮した上で推計をしている。

物件費ですが、平成３１年度決算額及び令和２年度決算見込額をベースに、削減努力も考慮して推計している。

扶助費。少子高齢化の進展を踏まえ、医療費無料制度等、本町が単独で実施している事業等については、対象者数等の精査し推計をしている。

普通建設事業費。新町建設計画及び津和野町総合振興計画における事業や喫緊の課題等への対応について、緊急性、必要性の観点により事業の取捨選択を行う中で、事業費を精査、推計をしている。

基金であります。財政調整基金、中期財政計画で財源不足が発生した部分には、全て財政調整基金から繰り入れている。財政調整基金は令和３年度１０億７，０００万円から、令和７年度には５億９，０００万円減少見込みである。

公有林整備における起債の償還が令和９年度終了するため、それ以降は積み立てに向けたい。

減債基金。令和３年度２億８，０００万円から令和７年度１億２，０００万円と減少見込みである。

繰上償還については、臨時財政対策債の償還について、有利な条件となるタイミングを見て繰上償還をする予定である。

特定目的基金。合併特例債で積み立てている津和野町まちづくり基金が９億６，０００万円程度あり、特定目的基金としては最も大きな金額である。償還後または借り入れ後１０年経過すれば、基金取り崩しにより新町建設計画に掲載されたソフト事業に充当できるものである。

財政指標。

経常収支比率。令和２年度より減少傾向にある。人件費で職員定数の現状維持を目指した調整、また物件費については、対前年比２％減で推計しているということが要因と思われる。

実質公債費比率。令和２年度から緩やかな上昇傾向である。普通建設事業において事業の年度平準化、先延ばし、中止するなどの作業を行っていることや、計画的な繰上償還の実施等が要因と思われる。

事業計画につきましては、普通建設事業費でありますが、年度ごとに、一応そこに、３年から７年まで、主なものを挙げておりますので、御覧ください。

学校教育施設等の老朽化に伴う解体整備事業については、令和３年度公共施設の総合管理計画の見直しを予定しているので、その結果を受けて、計画の予定である。

津和野庁舎の今後の計画につきましては、調査段階では、令和３年度増築等を建設、令和４年度津和野庁舎本体の改修、増築場所や駐車場場所については協議中ということであります。

調査意見でありますが、少子高齢化の進む中で発生した新型コロナウイルスにより、津和野町の経済も大きな影響を受けている。

コロナ対策のための財政支出や税収減は今後の財政運営上、厳しい状況が予想される。併せて、今後も庁舎改修を初めとした大型事業も計画されている。

増加する行政需要に対応するためにも、中期財政計画の年度ごとの検証により、優先すべき事業の積み上げと既存事業の見直し等を行い、計画的な財政運営を求めるものである。

基金については、財政調整基金、減債基金の積み立てが減少傾向にある。災害など非常時の備えとして、本町に適した規模の基金確保に努められたい。

今後も行財政改革を進めながら、健全な財政運営に努められたい。

令和３年３月２３日、津和野町議会議長沖田守様、津和野町議会総務経済常任委員会委員長草田吉丸。

以上であります。

○議長（沖田　　守君）　ただいまから、委員長報告に対する質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようであります。ありがとうございました。

以上で、総務経済常任委員会の所管事務調査報告を終了します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２４．文教民生常任委員会の所管事務調査報告について

○議長（沖田　　守君）　日程第２４、文教民生常任委員会の所管事務調査報告についてを議題とします。

文教民生常任委員会委員長の報告を求めます。５番、板垣敬司君。

〇文教民生常任委員会委員長（板垣　敬司君）　所管事務調査報告書。令和２年第８回定例会において、閉会中の許可をいただきました所管事務調査について、会議規則第７７条の規定に基づき報告いたします。

１.調査事件:津和野町議会広聴会における文教民生常任委員会に係る事項について。

２．調査目的：現状を調査して議会活動に資するため。

３．調査方法：机上調査。

４．調査の経過：第１回机上調査。

調査日、令和２年１２月１６日水曜日午後３時３０分。

調査場所、津和野町役場第２庁舎会議室。

出席者、文教民生常任委員会委員６名、教育委員会、世良清美教育長、齋藤道夫教育次長。

５．調査項目：１．文化ホールの建設について。要望として、山村開発センターが取り壊されて、集うところがない。文化活動の発表のできるステージ付の文化ホールを要望される。

現状として、山村開発センターの代替施設として、津和野町役場第２庁舎の跡地活用が計画されている。

回答として、津和野町役場第２庁舎が耐震診断で相当の改修費が伴うことが予測される。

２．新設予定の学校給食センターの運用について。

要望として、町内の農産物を給食材料として取り扱ってほしい。品質にばらつきがあっても、地産地消や食育の視点で大切であると思う。学校給食会と生産者との連絡調整する体制を明確にしてほしい。

現状として、津和野地区、日原地区でも、給食野菜をできるだけ使っている。生産者の中に、給食会との連絡調整をしている世話人もおられる。

回答として、旧施設を解体した後、冷蔵保冷庫を設置する。これによって、ストックも可能となり、地産地消に繋げたい。まるごと津和野マルシェ等に働きかけて、カット野菜やＣＡＳの活用も進めてみたい。

３．文化施設の活用をもっと考えるべき。

要望として、文化施設の利活用について、ＰＲが不足している。町広報誌やＣＡＴＶ等を通じて、広く町民に周知すべきだ。

回答として、養老館や旧畑迫病院等の活用事例もある。

調査意見としまして、１.津和野町役場第２庁舎改修については、慎重に検討をする必要がある。要望として上がっている文化ホールの建設は、関係団体や有識者による検討委員会での検証が必要と考える。

２．学校給食センターへの地場野菜の供給をスムーズに行えるよう、生産者と行政、関係機関が一体となった相談窓口を確立されたい。

３．文化施設や観光関連施設についても、町民使用については減免措置を講じられたい。

令和２年１２月２３日、津和野町議会議長沖田守様、文教民生常任委員会委員長板垣敬司。

以上です。

○議長（沖田　　守君）　これより、委員長報告に対する質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　質疑を終結いたします。

以上で、文教民生常任委員会の所管事務調査報告を終了いたします。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２５．議員派遣の件

○議長（沖田　　守君）　日程第２５、議員派遣の件を議題とします。

お諮りをします。議員派遣の件につきましては、お手元に配付しましたとおり、派遣することにしたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　御異議なしと認め、したがって、議員派遣の件は派遣することに決定しました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２６．各委員会からの閉会中の継続調査の申出について

○議長（沖田　　守君）　日程第２６、各委員会からの閉会中の継続調査の申出についてを議題とします。

各委員会から、会議規則第７５条の規定により、お手元に配付のとおり、閉会中の継続調査の申し出があります。

委員会	目　的	事　項	期　限
総務経済	議会活動に資するための所管事務調査	入札及び請負契約に関する事項について	６月定例会まで
文教民生	〃	介護福祉事業の統合化に向けて	６月定例会まで
議会運営	所掌事務調査	議会の運営に関する事項	６月定例会まで

田　　守君）　お諮りをします。

申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　御異議なしと認めます。したがって、各委員会からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

追加日程第１．発議第１号

○議長（沖田　　守君）　先ほど、請願第１号最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書の採択を求める請願についてが採択をされました。この請願は、意見書の提出を求める請願であります。つきましては、発議第１号最低賃金の改善と中小企業支援策の拡充を求める意見書（案）の提出についてを日程に追加し、追加日程第１、発議第１号としたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　異議なしと認めます。したがって、発議第１号を日程に追加し、議題とすることに決定しました。

日程の追加をお願いしたいと思います。

暫時休憩といたします。

午前 11 時 50 分休憩

……

午前 11 時 52 分再開

○議長（沖田　　守君）　休憩前に引き続き、本会議を再開いたします。

追加日程第１、発議第１号最低賃金の改善と中小企業支援策の拡充を求める意見書（案）の提出についてを議題とします。

本意見書につきましては、お手元に配付のとおりであります。

お諮りをします。本案件につきましては、会議規則第３９条第２項の規定により趣旨説明は省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　御異議なしと認めます。したがって、発議第１号は趣旨説明を省略することに決定しました。

これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　ないようであります。質疑は終結します。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（沖田　　守君）　討論なしと認めます。

これより、発議第１号を採決します。

本案件を原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（沖田　　守君）　起立多数であります。したがって、発議第１号最低賃金の改善と中小企業支援策の拡充を求める意見書（案）の提出については、原案のとおり可決されました。したがって、各関係機関に、（案）を取り除いて、津和野町議会の意見書として提出をいたします。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（沖田　　守君）　以上で、本日の日程、全て終了させていただきました。

会議を閉じたいと思います。

３月の５日に初日を迎えた令和３年の第３回津和野町議会定例会を閉会いたします。

大変御苦労さまでございました。

午前 11 時 53 分閉会

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

年　　月　　日

議　　長

署名議員

署名議員